松山市文化財調査報告書93

久米高畑遺跡

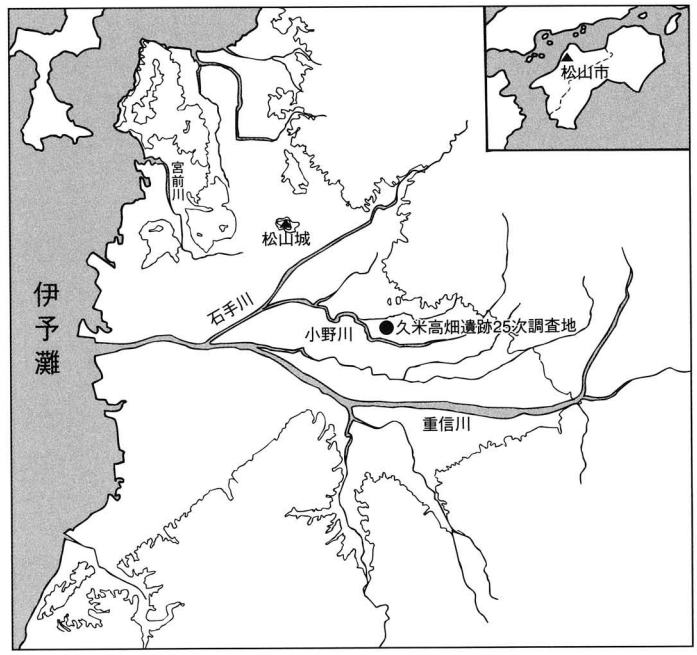
－25次調査－

2003

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

久米高畑遺跡（クメタカバタケ）

－25次調査－



2003

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版１　完掘状況（東より）

巻頭図版 2　貝殻文土器

序

本書は、平成７年度に松山平野東部に所在する久米高畑遺跡群内で実施した国庫補助事業による発掘調査の報告書です。

この久米高畑遺跡群が位置する来住台地上には、国指定史跡「来住廃寺跡」や、近年の調査で明確になってきた久米官衙遺跡群があります。ここは、古代において割拠した久米豪族の拠点であり、古代役所の中枢施設が存在する重要地域として、全国的に知られているところです。

今回報告します久米高畑遺跡25次調査からは、弥生時代前期末から中期初頭の集落を区画する環壕とみられる大溝２条等が検出され、溝の規模から推測して来住台地上にも古代以前の弥生時代から、ひとつの大きな拠点集落があったことが確認されました。

こうした多大な成果をあげることができましたのも、ひとえに埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力を賜った関係各位のお陰と、心より感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご援助を賜れますようお願いいたします。

また、本書が埋蔵文化財調査研究の一助となり、今後各方面においてご活用いただければ幸いに存じます。

平成15年３月31日

松山市教育委員会
教育長　中　矢　陽　三

例　言

1．本書は、松山市教育委員会が平成７年７月～平成７年８月に、松山市南久米町で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．遺構は、呼称を略号で記述した。溝：ＳＤ、土坑：ＳＫ、柱穴：ＳＰ、性格不明遺構：ＳＸ、掘立柱建物址：掘立である。

3．遺物の実測・製図、遺構の作図・製図は、高尾和長と宮内慎一の指示のもと田崎真理、中村紫、宮内真弓が行った。

4．写真図版は高尾と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。

5．遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に作成した。

6．本書に使用した方位はすべて真北である。

7．本書に関わる遺物や記録物は、松山市埋蔵文化財センターで保管している。

8．本書の執筆と編集は高尾和長が行った。作成に際しては宮内慎一・梅木謙一・加島次郎・水口あをいの協力を得た。

9．製版　カラー写真、写真図版ー175線
　印刷　オフセット印刷
　用紙　マットコート
　製本　アジロ綴り

本　文　目　次

1．調査の経緯 …… 1
（1）調査に至る経緯
（2）調査の経過

2．層　位 …… 4

3．弥生時代の遺構と遺物 …… 11
（1）溝　1）調査行程
2）概略
3）出土遺物
（2）土坑　1）弥生時代前期末～中期初頭 …… 67
①長方形土坑
②楕円形土坑
③方形土坑
2）弥生時代中期後半 …… 75
（3）柱穴出土遺物
（4）第Ⅳ層出土遺物

4．古墳時代～古代の遺構と遺物 …… 82
（1）性格不明遺構
（2）第Ⅲ層出土遺物

5．時期不明遺構と遺物 …… 85
（1）掘立柱建物址

6．まとめ …… 87

挿　図　目　次

第１図　松山平野南部の主要遺跡分布図　（縮尺1/25,000）…… 2
第２図　調査地周辺遺跡分布図　（縮尺1/1,000）…… 3
第３図　調査地測量図　（縮尺1/500）…… 4
第４図　調査区南壁土層測量図　（縮尺1/60）…… 5
第５図　調査地北壁・西壁土層測量図　（縮尺1/60）…… 7
第６図　遺構配置図　（縮尺1/100）…… 9
第７図　SD1土層図　（縮尺1/60）…… 12
第８図　SD1測量図　（縮尺1/50）…… 13
第９図　SD1①層出土遺物実測図（１）（縮尺1/4）…… 16
第10図　SD1①層出土遺物実測図（２）（縮尺1/4）…… 17
第11図　SD1①層出土遺物実測図（３）（縮尺1/3、1/4）…… 18
第12図　SD1②層出土遺物実測図（１）（縮尺1/4）…… 19
第13図　SD1②層出土遺物実測図（２）（縮尺1/4）…… 21
第14図　SD1②層出土遺物実測図（３）（縮尺1/4）…… 22
第15図　SD1②層出土遺物実測図（４）（縮尺1/3）…… 23
第16図　SD1③層出土遺物実測図（１）（縮尺1/4）…… 24
第17図　SD1③層出土遺物実測図（２）（縮尺1/4）…… 25
第18図　SD1③層出土遺物実測図（３）（縮尺1/4）…… 27
第19図　SD1③層出土遺物実測図（４）（縮尺1/4）…… 28
第20図　SD1③層出土遺物実測図（５）（縮尺1/3）…… 29
第21図　SD1④層出土遺物実測図（１）（縮尺1/4）…… 30
第22図　SD1④層出土遺物実測図（２）（縮尺1/4）…… 32
第23図　SD1④層出土遺物実測図（３）（縮尺1/4）…… 33
第24図　SD1④層出土遺物実測図（４）（縮尺1/4）…… 34
第25図　SD1④層出土遺物実測図（５）（縮尺1/4）…… 35
第26図　SD1④層出土遺物実測図（６）（縮尺1/4）…… 36
第27図　SD1④層出土遺物実測図（７）（縮尺1/4）…… 38
第28図　SD1④層出土遺物実測図（８）（縮尺1/4）…… 39
第29図　SD1④層出土遺物実測図（９）（縮尺1/3）…… 40
第30図　SD1④層出土遺物実測図（10）（縮尺1/3）…… 41
第31図　SD1⑤層出土遺物実測図（１）（縮尺1/4）…… 42
第32図　SD1⑤層出土遺物実測図（２）（縮尺1/4）…… 43
第33図　SD1⑤層出土遺物実測図（３）（縮尺1/4）…… 45
第34図　SD1⑤層出土遺物実測図（４）（縮尺1/4）…… 46
第35図　SD1⑤層出土遺物実測図（５）（縮尺1/4）…… 48
第36図　SD1⑤層出土遺物実測図（６）（縮尺1/4）…… 49

第37図　SD1⑤層出土遺物実測図（7）（縮尺1/4）…… 50
第38図　SD1⑤層出土遺物実測図（8）（縮尺1/4）…… 51
第39図　SD1⑤層出土遺物実測図（9）（縮尺1/4）…… 52
第40図　SD1⑤層出土遺物実測図（10）（縮尺1/3）…… 53
第41図　SD1⑦層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）…… 54
第42図　SD1⑦層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3、1/4）…… 55
第43図　SD1⑧層出土遺物実測図　（縮尺1/4）…… 56
第44図　SD1層位不明出土遺物　（縮尺1/3）…… 56
第45図　SD2測量図　（縮尺1/50）…… 57
第46図　SD2土層図（1）（縮尺1/40）…… 58
第47図　SD2土層図（2）（縮尺1/40）…… 59
第48図　SD2①層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）…… 60
第49図　SD2①層出土遺物実測図（2）（縮尺1/1、1/3、1/4）…… 61
第50図　SD2②層出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）…… 63
第51図　SD2④層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）…… 64
第52図　SD2④層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3、1/4）…… 65
第53図　SD2⑤層出土遺物実測図　（縮尺1/3、1/4）…… 66
第54図　SD2⑦層・層位不明出土遺物実測図　（縮尺1/3、1/4）…… 66
第55図　SK2測量図・出土遺物実測図　（縮尺1/4、1/40）…… 67
第56図　SK3測量図　（縮尺1/40）…… 68
第57図　SK11測量図　（縮尺1/40）…… 70
第58図　SK10測量図　（縮尺1/40）…… 70
第59図　SK14測量図　（縮尺1/40）…… 70
第60図　SK1測量図・出土遺物実測図　（縮尺1/3、1/40）…… 71
第61図　SK12測量図　（縮尺1/40）…… 71
第62図　SK13測量図・出土遺物実測図　（縮尺1/3、1/4、1/40）…… 73
第63図　SK7測量図　（縮尺1/40）…… 74
第64図　SK9測量図　（縮尺1/40）…… 74
第65図　SK15測量図　（縮尺1/40）…… 75
第66図　SK5測量図　（縮尺1/40）…… 75
第67図　SK5出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）…… 76
第68図　SK4測量図　（縮尺1/40）…… 77
第69図　SK16測量図　（縮尺1/40）…… 78
第70図　SK6測量図　（縮尺1/40）…… 79
第71図　SK8測量図　（縮尺1/40）…… 79
第72図　柱穴出土遺物実測図　（縮尺1/3、1/4）…… 80
第73図　第Ⅳ層出土遺物実測図　（縮尺1/4）…… 81
第74図　SX1測量図　（縮尺1/40）…… 82

第75図　SX1出土遺物実測図　（縮尺1/3、1/4）…… 83
第76図　第Ⅲ層出土遺物実測図（1）（縮尺1/3、1/4）…… 84
第77図　第Ⅲ層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）…… 85
第78図　掘立１測量図　（縮尺1/60）…… 86
第79図　掘立２測量図　（縮尺1/60）…… 86
第80図　掘立３測量図　（縮尺1/60）…… 87

表　目　次

表１　甕形土器の施文一覧 …… 89
表２　壺形土器の口縁部施文一覧 …… 90
表３　壺形土器の頸・肩・胴部施文一覧 …… 90
表４　SD1出土土器の沈線文技法一覧 …… 91
表５　SD2出土土器の沈線文技法一覧 …… 91
表６　SD1出土石器一覧 …… 92
表７　SD2出土石器一覧 …… 92
表８　溝一覧 …… 94
表９　掘立柱建物址一覧 …… 94
表10　土坑一覧 …… 94
表11　性格不明遺構一覧 …… 94
表12　SD1①層出土遺物観察表　土製品 …… 95
表13　SD1①層出土遺物観察表　石製品 …… 97
表14　SD1②層出土遺物観察表　土製品 …… 97
表15　SD1②層出土遺物観察表　石製品 …… 100
表16　SD1③層出土遺物観察表　土製品 …… 100
表17　SD1③層出土遺物観察表　石製品 …… 103
表18　SD1④層出土遺物観察表　土製品 …… 104
表19　SD1④層出土遺物観察表　石製品 …… 110
表20　SD1⑤層出土遺物観察表　土製品 …… 110
表21　SD1⑤層出土遺物観察表　石製品 …… 117
表22　SD1⑦層出土遺物観察表　土製品 …… 117
表23　SD1⑦層出土遺物観察表　石製品 …… 119
表24　SD1⑧層出土遺物観察表　土製品 …… 119
表25　SD1地点不明出土遺物観察表　石製品 …… 120
表26　SD2①層出土遺物観察表　土製品 …… 120
表27　SD2①層出土遺物観察表　石製品 …… 122
表28　SD2①層出土遺物観察表　金属製品 …… 122

表29　SD2①層出土遺物観察表　装身具 …… 122
表30　SD2②層出土遺物観察表　土製品 …… 122
表31　SD2②層出土遺物観察表　石製品 …… 123
表32　SD2③層出土遺物観察表　土製品 …… 123
表33　SD2③層出土遺物観察表　石製品 …… 124
表34　SD2④層出土遺物観察表　土製品 …… 124
表35　SD2④層出土遺物観察表　石製品 …… 125
表36　SD2⑤層出土遺物観察表　土製品 …… 125
表37　SD2⑤層出土遺物観察表　石製品 …… 125
表38　SD2地点不明出土遺物観察表　石製品 …… 126
表39　SK2出土遺物観察表　土製品 …… 126
表40　SK1出土遺物観察表　石製品 …… 126
表41　SK13出土遺物観察表　土製品 …… 126
表42　SK13出土遺物観察表　石製品 …… 126
表43　SK5出土遺物観察表　土製品 …… 126
表44　SK5出土遺物観察表　石製品 …… 126
表45　柱穴出土遺物観察表　土製品 …… 127
表46　柱穴出土遺物観察表　石製品 …… 127
表47　第Ⅳ層出土遺物観察表　土製品 …… 127
表48　SX1出土遺物観察表　土製品 …… 129
表49　第Ⅲ層出土遺物観察表　土製品 …… 129
表50　第Ⅲ層出土遺物観察表　石製品 …… 130

図　版　目　次

巻頭図版　1．完掘状況（東より）
　　2．貝殻文土器
図 版 1　1．遺構検出状況（東より）
図 版 2　1．SD1検出状況（東より）
　　2．SD１遺物出土状況（1）（南東より）
図 版 3　1．SD1遺物出土状況（2）（北より）
　　2．SD１遺物出土状況（3）（北より）
図 版 4　1．SD1ベルト土層（1）（北西より）
　　2．SD1ベルト土層（2）（北より）
図 版 5　1．SD1ベルト土層（3）（北東より）
　　2．SD1完掘状況（北より）

図 版 6　1．SD2検出状況（東より）
　　2．SD2遺物出土状況（西より）
図 版 7　1．SD2ベルト土層（1）（南西より）
　　2．SD2ベルト土層（2）（南東より）
図 版 8　1．SD2ベルト土層（3）（北より）
　　2．SD2完掘状況（北西より）
図 版 9　1．SK完掘状況（北より）
　　2．掘立２完掘状況（西より）
図 版 10　1．遺構完掘状況（東より）
図 版 11　1．SD1①層出土遺物
図 版 12　1．SD1②層出土遺物
図 版 13　1．SD1③層出土遺物
図 版 14　1．SD1④層出土遺物
図 版 15　1．SD1⑤層出土遺物
図 版 16　1．SD1⑤・⑦層出土遺物
図 版 17　1．SD2①・②・④層出土遺物
図 版 18　1．第Ⅳ層・SX1・第Ⅲ層・SD2出土遺物

1．調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

調査地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『№.127 来住廃寺跡』内に所在する。同包蔵地がある来住舌状台地には、近年の調査で古代の寺院や官衙施設の存在が明らかになっている。調査地の南方300mの地点には、国指定史跡の「来住廃寺」があり、調査により塔基壇や僧坊、白鳳期の瓦が確認されている。調査地周辺でも多数の調査が行われており、久米高畑遺跡は古代の官衙遺跡である可能性が高くなってきている。このうち、『久米評』線刻須恵器が出土した久米高畑遺跡７次調査地は注目されるところである。また、調査に隣接する久米高畑遺跡23･24次調査地からは、古代の集落址以外に、弥生時代の住居址、土坑、溝など弥生集落に関連する遺構・遺物が多数検出されている。

よって、当該地における埋蔵文化財の有無と、遺跡の範囲やその性格を確認するため、国補事業として、原因者の協力のもと、1995(平成７)年７月17日より発掘調査を開始した。

(2) 調査の経緯

重機により表土を地表下１mまで掘削し、排土はすべて搬出した。調査地は、調査以前は既存宅地であったため近現代坑が残存している箇所が一部あるが、遺構の遺存状況は良好であった。表土掘削後、遺構検出作業を行い、掘立柱建物址３棟、土坑16基、溝2条、ピット100基、性格不明遺構1基を確認した。遺構検出状況写真を撮影後、各遺構の掘り下げと測量を行った。８月31日、完掘状況写真を撮影し、調査を終了する。

(3) 調査・刊行組織　平成15年３月31日現在

調 査 地	松山市南久米町723		
調査面積	843.28㎡		
調査期間	1995(平成７)年７月17日～同年８月31日		
調査協力	医療法人 敬愛会 久米病院		
刊行組織	松山市教育委員会	教育長	中矢　陽三
	事務局	局　長	武井　正浩
		企画官	川口　岸雄
			石丸　　修
	文化財課	課　長	馬場　　洋
		主　幹	八木　方人
		副主幹	田城　武志
	(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター	担　当	高尾　和長
			宮内　慎一
			大西　朋子

(S＝1:25,000)

①久米高畑遺跡25次調査地　②来住廃寺　③平井谷１号墳　④駄場姥ヶ懐窯址
⑤北梅本悪社谷遺跡　⑥葉佐池古墳　⑦播磨塚天神山古墳　⑧波賀部神社古墳
⑨開遺跡１・２次調査地　⑩上野遺跡　⑪南久米片廻り遺跡２次調査地　⑫福音小学校構内遺跡
⑬南中学校構内遺跡　⑭石井幼稚園遺跡　⑮久米窪田森元遺跡

第１図　松山平野南部の主要遺跡分布図

Ⓐ久米高畑遺跡25次調査地　①久米高畑遺跡23次調査地　②久米高畑遺跡24次調査地　③久米高畑遺跡15次調査地
④久米高畑遺跡16次調査地　⑤久米高畑遺跡17次調査地　⑥久米高畑遺跡28次調査地　⑦久米高畑遺跡29次調査地
⑧久米高畑遺跡30次調査地　⑨久米高畑遺跡33次調査地　⑩久米高畑遺跡34次調査地　⑪久米高畑遺跡37次調査地
⑫久米高畑遺跡44次調査地　⑬久米高畑遺跡45次調査地　⑭久米高畑遺跡48次調査地　⑮久米高畑遺跡55次調査地
⑯来住廃寺16次調査地　⑰来住廃寺25次調査地

第２図　調査地周辺遺跡分布図

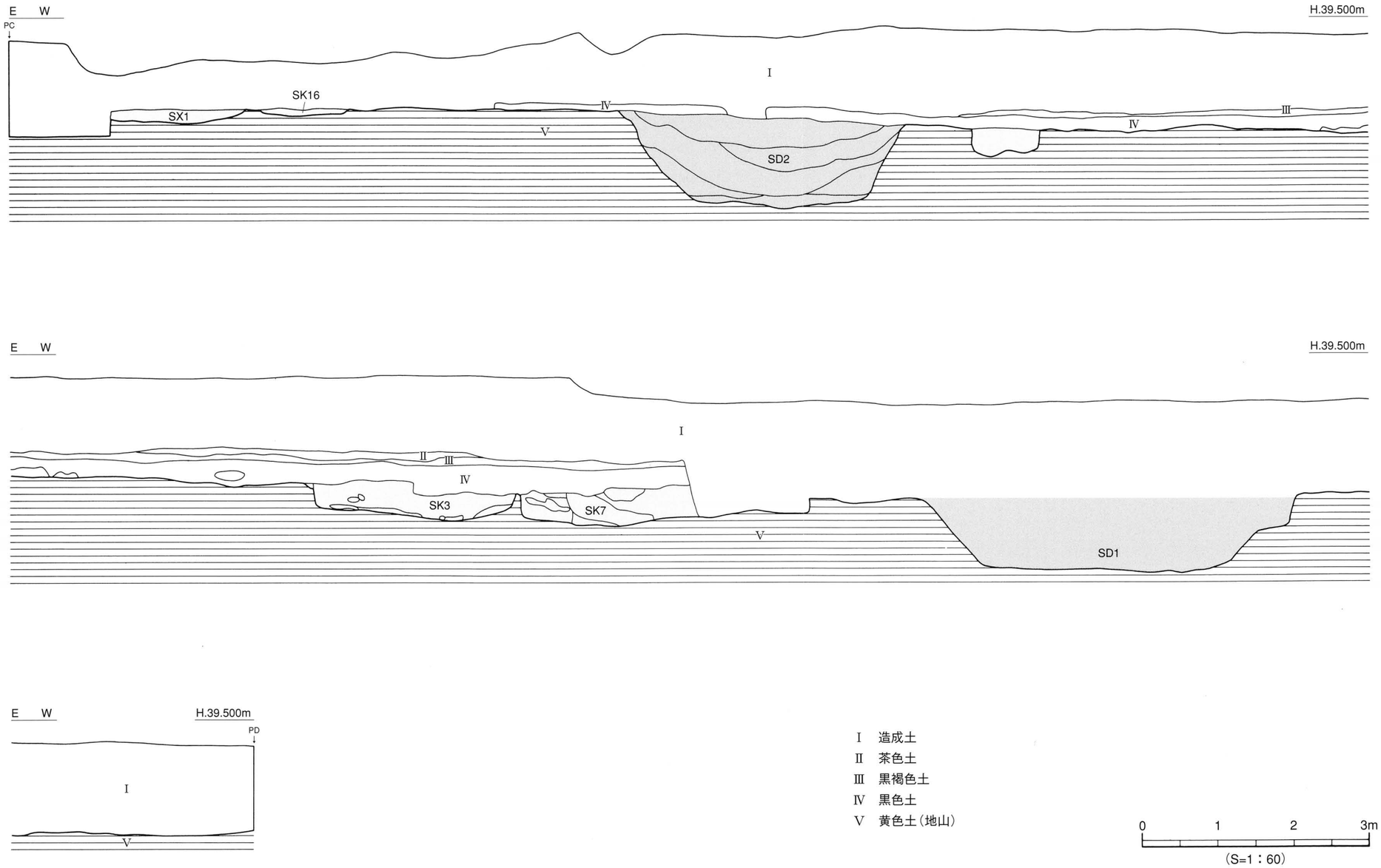
2．層　位（第４・５図）

調査地は、松山平野東部に広がる来住舌状台地の北部域、標高39.2mに立地する。

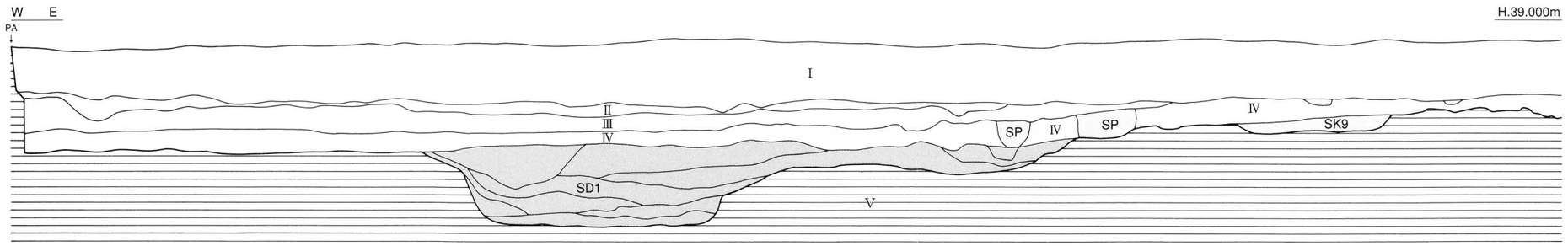
基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層茶色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層黒色土、第Ⅴ層黄色土である。第Ⅰ層は層厚80～90cmを測る。第Ⅱ層は調査区西側で確認され、層厚10～20cmを測る。第Ⅲ層は層厚10～20cmを測り、土師器と須恵器を包含する。第Ⅳ層は層厚10～30cmを測り、弥生土器を包含する。第Ⅲ層と第Ⅳ層は、共に調査区中央西半部のみで検出した。第Ⅴ層は無遺物層であり、地山と呼ばれるものである。

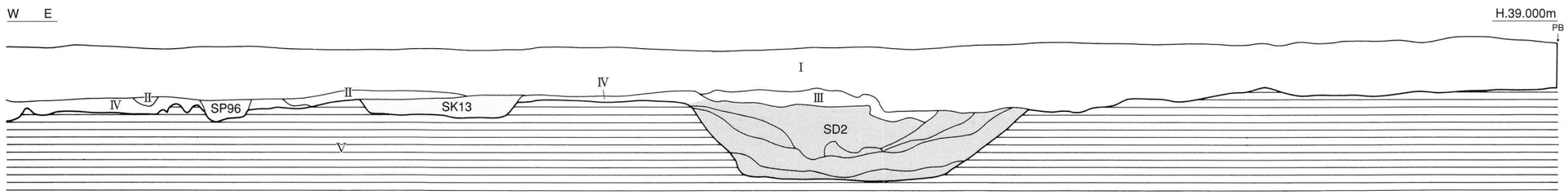
遺構は第Ⅴ層上面での検出である。検出した遺構は掘立柱建物址３棟、土坑16基、溝２条、柱穴100基、性格不明遺構１基である。第Ⅴ層上面の標高を測量すると、調査地東側が高く、西側に向けて傾斜をなしている(比高差60cm)。

第３図　調査地測量図　（S＝1：500）

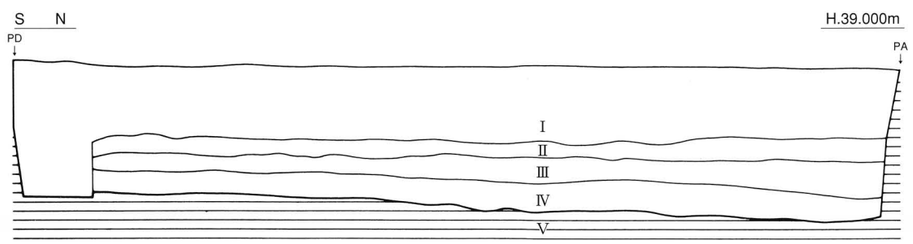


第４図　調査区南壁土層測量図



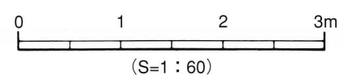


〔北壁〕



〔西壁〕

Ⅰ　造成土
Ⅱ　茶色土
Ⅲ　黒褐色土
Ⅳ　黒色土
Ⅴ　黄色土（地山）



第５図　調査区北壁・西壁土層測量図

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
A
B
C
D
PA
PB
PC
PD
37.400m
37.500m
37.600m
37.700m
37.800m
37.900m
38.000m
38.100m
38.200m
SD1
SD2
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SK15
SK16
SX1
掘立1
掘立2
掘立3
攪乱
攪乱
0
5m
(S=1：100)

第6図　遺構配置図

3．弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、溝２条と土坑16基である。また、第Ⅳ層中より当該期の遺物が出土している。

(1) 溝（SD）

ＳＤ1（第７・８図、図版２）

ＳＤ1は調査区西側、Ａ3～Ｄ4区に位置する。第Ｖ層上面での検出であり、第Ⅳ層が覆う。ここでは、発掘調査時の工程をふまえて、溝の構造と溝内から出土した遺物の説明を行う。

1）調査工程

まず、調査区北壁沿い(Ａ－Ａ′地点)と溝中央部(Ｂ－Ｂ′地点)、及び溝南側(Ｃ－Ｃ′地点)に幅50cmのトレンチを設定した（第８図)。トレンチの土層観察により、溝の埋土を9層(①～⑨層)に分層した。その後、①層から順に掘り下げをし、遺物の取り上げを行った。掘り下げでは、Ｂ－Ｂ′地点とＣ－Ｃ′地点に幅50cmのベルトを設定し、土層を観察しながら調査を進めた。

2）概　略

ＳＤ1の平面形状は、北東から南東方向に緩やかなカーブを描く。溝東側には、最大幅3.1m、検出長8.7mのテラス状の平坦面が広がっている。溝検出面とテラス面との比高差は20～35cmを測る。

溝の規模は、最大幅9.0m(テラス部分を含む)、最小幅3.7m、深さは検出面下0.9～1.0mを測る。溝西側壁体は2基のピット(ＳＰ44･50)に切られている。テラス部分は2基の土坑(ＳＫ5･8)とＳＰ14に切られ、ＳＫ15を切っている。また、テラス基底面にてＳＫ6とピット2基(ＳＰ15･20)を検出したが、溝との切り合いは判断できなかった。

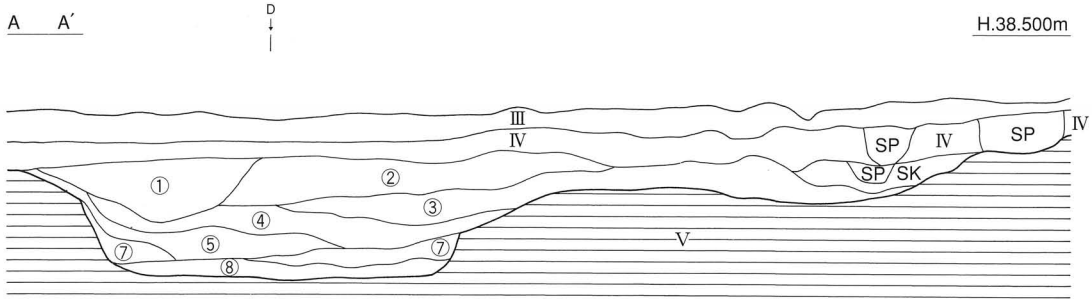
溝の断面形態は、逆台形状を呈する。壁体の傾斜は、東西壁共にほぼ同じであるが、溝北側が南側に比べ緩やかになる。溝北側では傾斜角40°、溝南側では55°となる。溝基底面は南側から北側に向けて傾斜し、比高差10cmを測る。なお、溝基底面と壁体は第Ｖ層である。

遺物は土器と石器が出土した。土器は大半が弥生時代前期末から中期前葉に時期比定されるものであるが、中期後半の土器も数点出土している。そのほか、縄文土器が2点出土している。

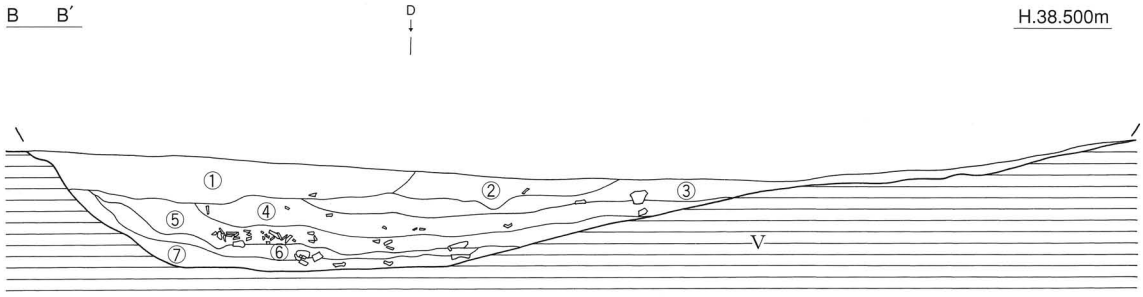
溝の埋土は前述したとおり、９層に細分される。①層は黒色土に黄色土がブロック状に混入するもので、溝北側では検出幅1.8m、層厚45cm、溝南側では検出幅3.5m、層厚30cmを測る。発掘調査時は、①層をＳＤ1埋土として掘り下げたが、整理作業の段階で、①層からのみ時期の異なる土器(弥生中期後半)が比較的数多く出土した。また、底部のみを欠損した甕形土器が、発掘調査時に溝中央部から出土していることなどから、①層は本来、ＳＤ1とは異なる遺構の埋土と考えられる。

②層は黒褐色土に黄色土が混入するもので、層厚15～35cmを測る。③層は暗褐色土に黄色土が混入するもので、層厚15～30cmを測る。②・③層は溝中央部から東側にのみ堆積している。なお、テラス部分は③層で埋没している。④層は褐色土で、層厚10～20cmを測る。⑤層は黒褐色土で、粘性の強い土壌である。層厚10～20cmを測る。⑥層は暗褐色土で、溝南半部のみに堆積し、層厚5～10cmを測る。⑥層中からは遺物はほどんど出土していない。⑦層は黄褐色土で礫を含む。層厚10～30cmを測る。⑧層は黒褐色土で、砂礫を含む。溝北側の基底面付近のみに堆積し、層厚10cmを測る。⑨層は黒褐色粘質土で、溝南側の基底面付近のみに堆積し、層厚10～15cmを測る。⑨層中からは遺物はほとんど出土していない。

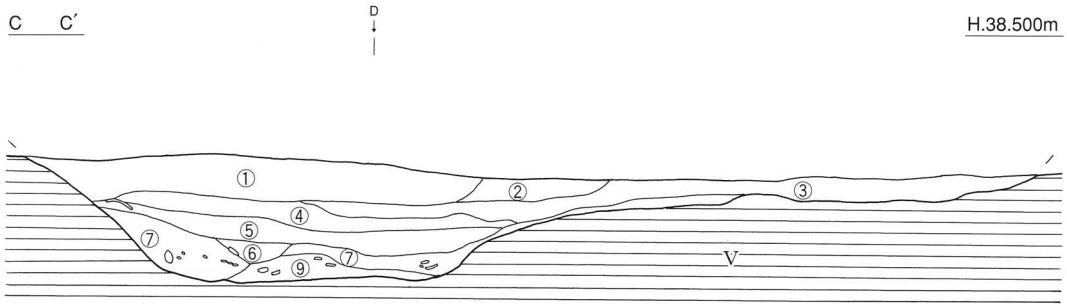
次に、各土層からの遺物の出土状況をみることにする。埋土中位の③・④・⑤層中からは多量の遺物が出土したが、埋土下位の⑦・⑧層中からは少量の出土量であった。



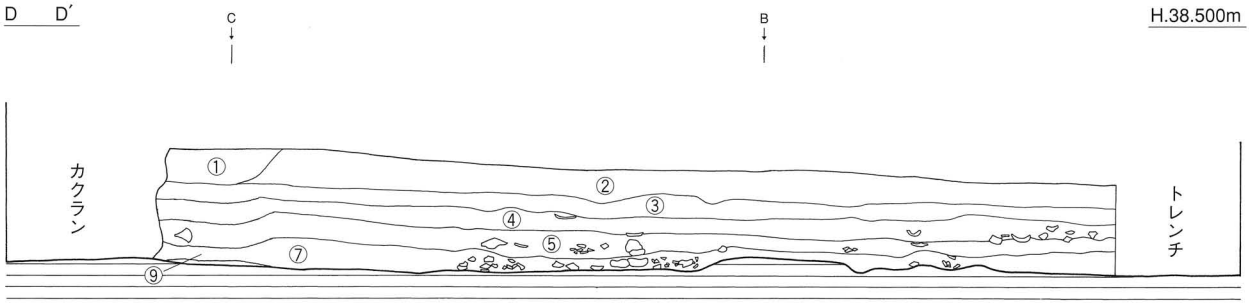
〔北壁〕



〔B—B′ベルト〕



〔C—C′ベルト〕



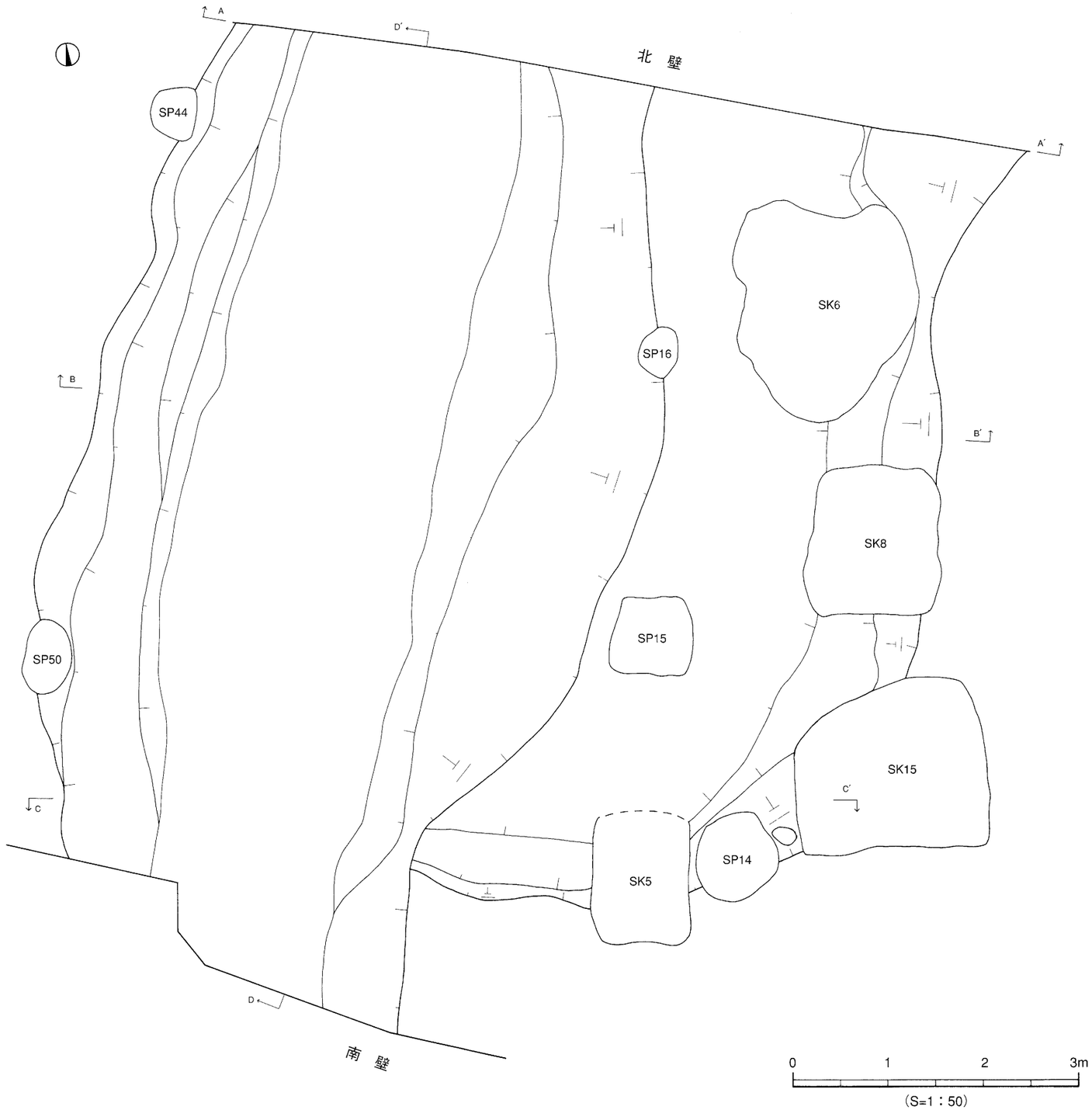
〔D—D′ベルト〕

0 1 2 3m

(S=1：60)

①黒色土（黄色土混入）
②黒褐色土（黄色土混入）
③暗褐色土（黄色土ブロック状に混入）
④褐色土
⑤黒褐色土（粘性強）
⑥黄褐色砂礫
⑦黒褐色土（砂礫混じり）
⑧黒褐色粘質土
⑨暗褐色土

第７図　SD1土層図


北 壁
南 壁
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
SP44
SP50
SP16
SP15
SP14
SK6
SK8
SK15
SK5
0
1
2
3m
(S=1：50)

第8図　SD1 測量図

ここで、各層ごとに出土した遺物の説明を行う。

3) ＳＤ1出土遺物（第９～44図、図版11～16）

①層出土遺物（第９～11図、１～53）

①層中からは、縄文土器１点と弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器の器種構成では、甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。石器は石鏃、石庖丁、扁平片刃石斧、砥石がある。

甕形土器(１～27)　１～10は貼付口縁。１・２は無文、３・４・９は胴部に沈線文、５～７・10は沈線文と刺突文を施す。８～10は口縁端面に刻目を施す。11～20は折り曲げ口縁。11は口径38cmを測る大型品。胴部に２条１組の工具による沈線文と刺突文を施す。16は胴部にクシ描きによる沈線文と刺突文2列を施す。12～16は口縁端面に刻目を施す。17～20は口縁部が「く」の字状を呈する。17は口縁端部をわずかにつまみ上げ、頸部に刻目凸帯文を施す。18・19は口縁端面に凹線文を施す。20の口縁端面は強いナデにより凹む（17～20は弥生中期後半）。21・22は胴部片。21は沈線文と刺突文を施す。22は沈線文と刺突文、山形文(２条１組)が組み合う。23～27は底部片。24は上げ底、23・25・26はわずかに上げ底、その他は平底となる。

壺形土器(28～39)　28は内傾する頸部に短く外反する口縁部をもつ。29は口縁部は大きく外反し、口縁端面にヘラ描き沈線文と刻目を施す。30・31は口縁部が短く外傾し、30は口縁端面下端部に刻目、頸部に沈線文を施す。31は口縁端面に斜格子目文、頸部に沈線文を施す。32は口縁部が水平近くに開き、口縁端部は上下方に拡張し、口縁端面に凹線文４条を施す（弥生中期後半）。33は直口口縁。口縁端面に山形文、口縁下に沈線文と波状文を施す。34は直立する頸部に沈線文と刻目凸帯文を施す。35は頸部に刻目凸帯文を1条施す。36は長頸壷の頸部片で、刺突文と沈線文を施す。37・38は胴部片。37は沈線文間に山形文(２条１組)を施す。38は沈線文と刺突文を施す。39は突出した厚みのある底部で、わずかに上げ底となる。

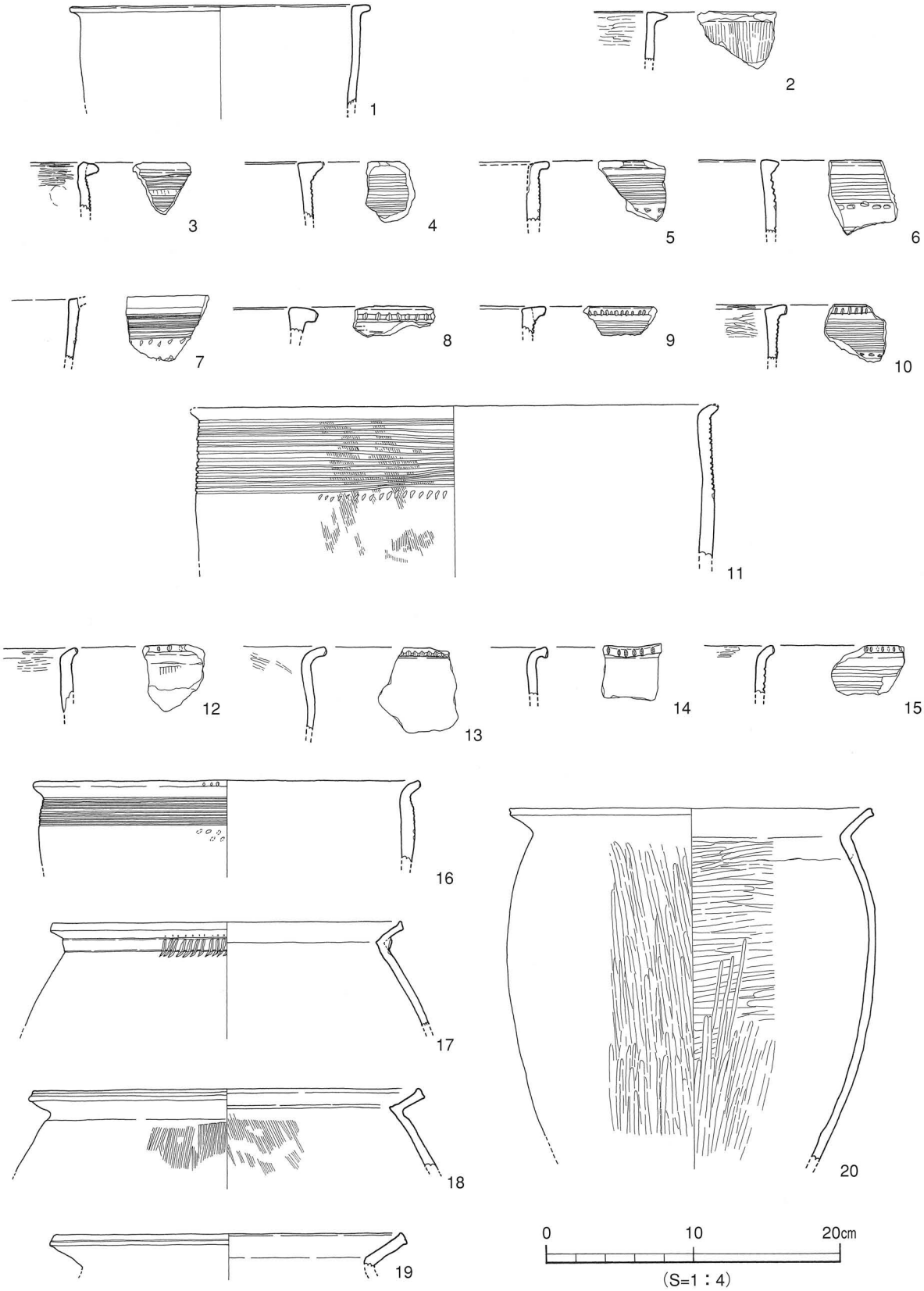
鉢形土器(40～48)　40は直口口縁。口縁端部は「コ」字状で、胴部に沈線文を施す。41～47は貼付口縁。41～44は無文。45は胴部に沈線文と山形文(２条１組)を施すもので、甕の可能性がある。46は口縁端面に刺突文、47は刻目を施す。48は縄文土器の口縁部片。

石　器(49～53)　49はサヌカイト製の凹基無茎式石鏃の完形品。法量は長さ2.50cm、幅1.85cm、厚さ0.30cm、重さ1.168gを測る。50は結晶片岩製のほぼ完形の扁平片刃石斧である。法量は長さ4.20cm、幅2.50cm、厚さ0.60cm、重さ13.745gを測る。鎬は明瞭だが全体的に丸味をもつ。51・52は結晶片岩製の石庖丁である。51は約1/3の残存である。穿孔は両面から鋭利な工具で2ヶ所に施す。52は両面から穿孔を施す。片面にごく甘い鎬がある。53は砥石である。両面に使用痕が有り、片面には線状使用痕が見られる。

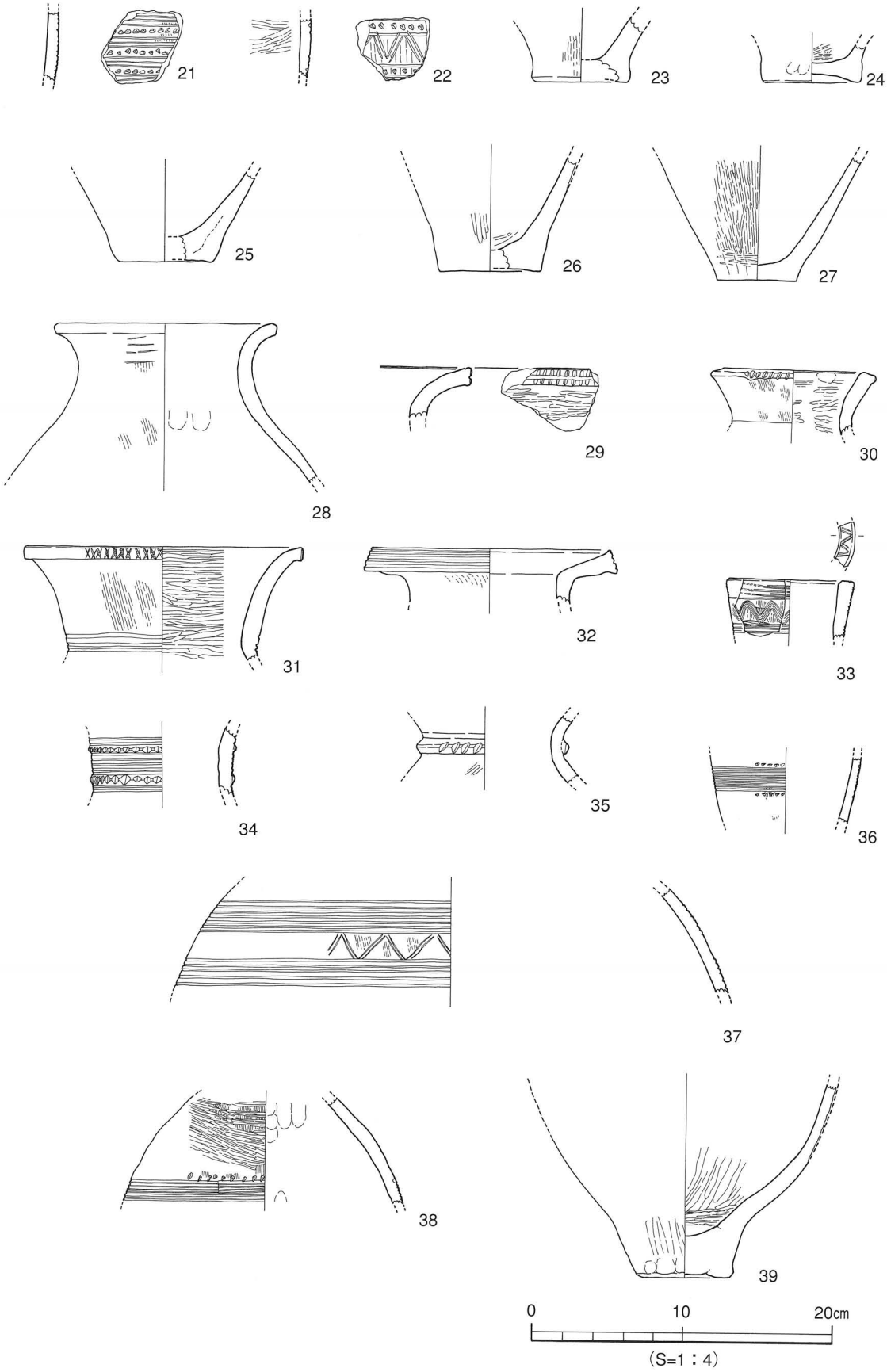
②層出土遺物（第12～15図、54～117）

②層中からは、弥生時代前期末から中期前葉までに時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。石器は、扁平片刃石斧、砥石、台石、スクレイパーがある。

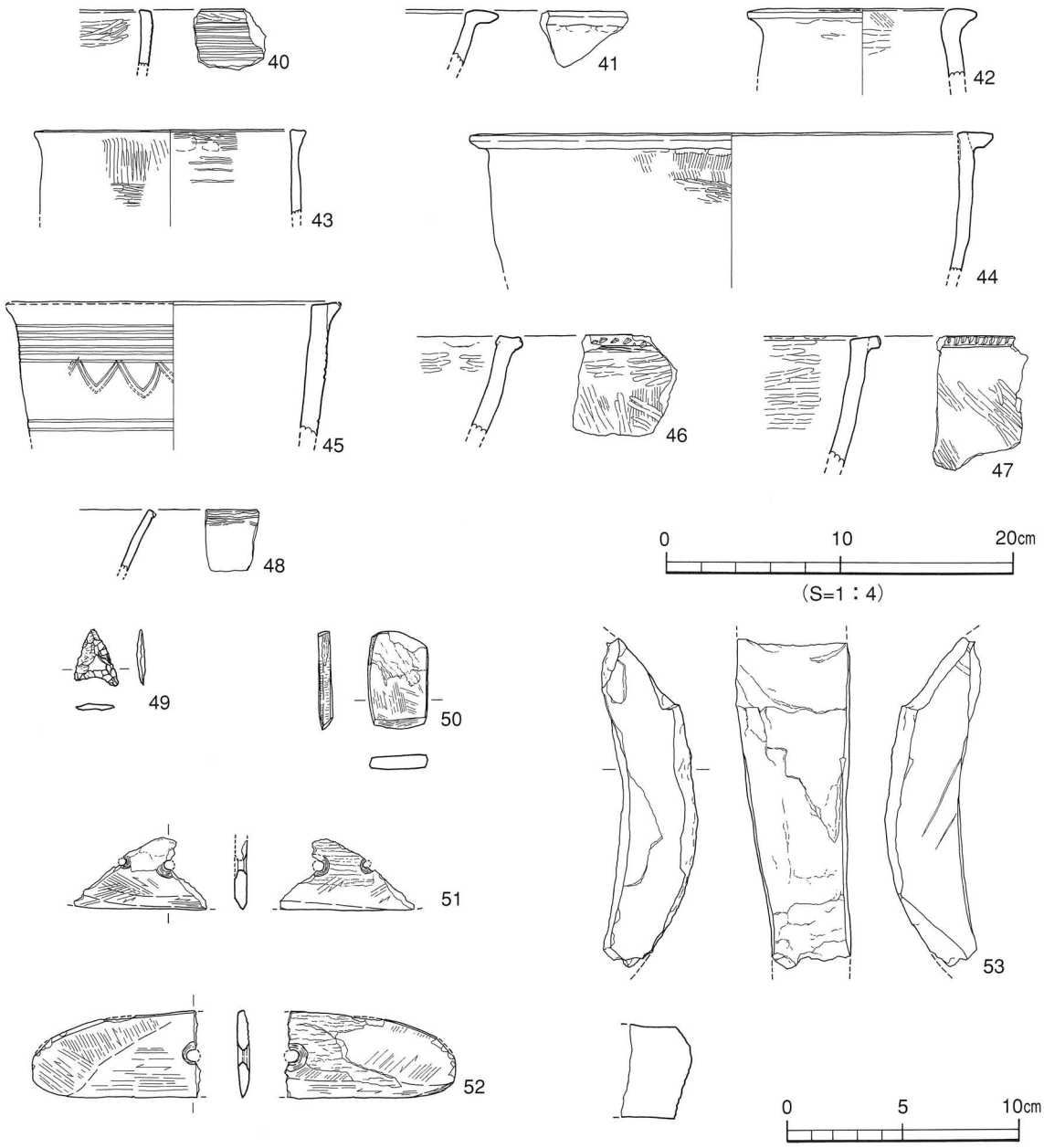
甕形土器(54～75)　54～61は貼付口縁。口縁端面には刻目を施すもの(56・57・61)と施さないもの(54・55・58～60)とがある。胴部文様は、無文のもの(54～56)、沈線文を施すもの(57・58)、沈線文と



第９図　SD1①層出土遺物実測図（１）



第10図　SD1①層出土遺物実測図(２)

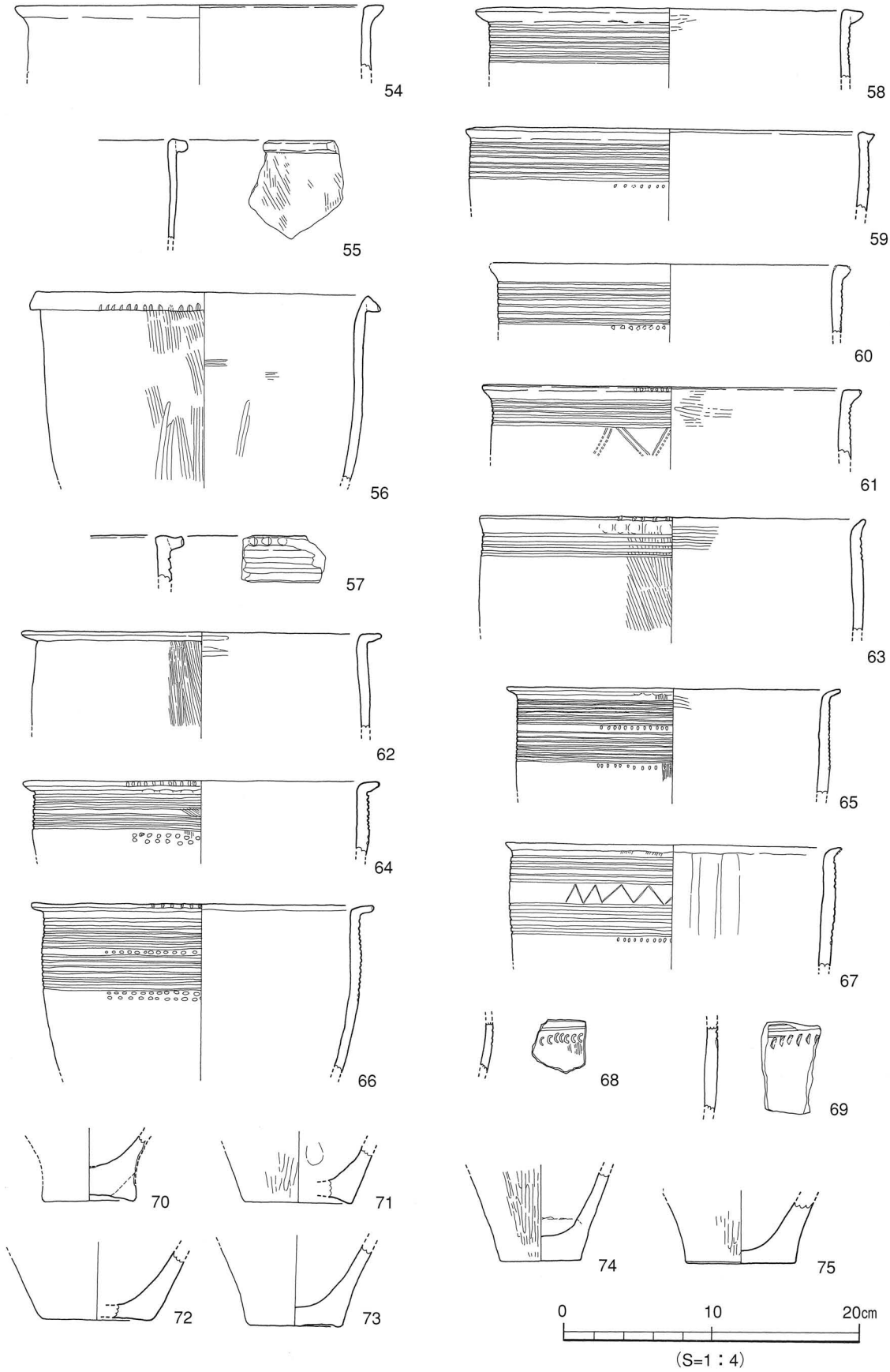


第11図　SD1①層出土遺物実測図(３)

刺突文が組み合うもの(59・60)、沈線文と山形文が組み合うもの(61)の4種類がある。58・60・61の沈線文と61の山形文は２条１組の工具により施文される。

62～67は折り曲げ口縁。折り曲げが弱いもの(63・65・67)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(62・64・66)とがある。口縁端面には刻目を施すもの(63・64・66)と施さないもの(62・65・67)とがある。胴部文様は無文のもの(62)、ヘラ描き沈線文を施すもの(63)、沈線文と刺突文が組み合うもの(64～66)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの(67)の4種類がある。なお、沈線文は64はクシ状工具(4条1組)、66は２条１組の工具により施される。調整方法は胴部外面に刷毛目調整を施すもの(55・62～65・67)、ヘラミガキ調整を施すもの(56)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(56～63・65)がある。

68・69は胴部小片。68は沈線文と半截竹管文、69は沈線文と刺突文を施す。70～75は底部片。70～73はわずかに上げ底、74・75は平底となる。



第12図　SD1②層出土遺物実測図（1）

壺形土器(76～109)　76・77は内傾する頸部に短く外反する口縁部をもつ。76は口縁端面上下端部に刻目を施し、77は口縁端面がくぼむ。78・79は太くてやや長い口頸部をもつ。78は口縁端面に斜格子目文、79は頸部に扁平な凸帯文を貼り付ける。78の口頸部外面には刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施す。80～84は筒状の長い口頸部をもつ。80・81は口縁端面上端部、82は上下端部に刻目を施す。83は口縁端に刻目、84は口縁端面に山形文、口縁部内面に凸帯文を貼り付ける。85～87は頸部片。85はヘラ描き沈線文、86は沈線文と凸帯文(押圧)、87は刺突文と刻目凸帯文を施す。88～91は肩部片。88はヘラ描き沈線文と刺突文、89は刺突文、90は沈線文と竹管文を施す。91はクシ状工具による波状文を施す。92～97は胴部片。92は沈線文(２条１組)、93・94は沈線文と刺突文を施す。95は沈線文と刺突文、斜格子目文、96は沈線文と刺突文、山形文が組み合うもので、斜格子目文、山形文は２条１組の工具により施される。97は沈線文と刻目凸帯文を施す。98～109は底部片。99～109は平底となる。

鉢形土器(110)　110は折り曲げ口縁。無文で外面には刷毛目調整、内面はヘラミガキ調整を施す。

転用品(111)　111は所謂「コシキ」への転用品である。甕形土器の底部を焼成後に穿孔したものである(推定孔径2.0cm)。

石　器(112～117)　112はほぼ完形の扁平片刃石斧。両側面及び基端面は入念に研磨が施されている。鎬は丸味を帯び甘い。結晶片岩製。113～115はスクレイパーである。113・114はほぼ完形品。石材はアズキ色を呈する安山岩である。115は風化が著しく、石材は泥岩と思われる。116は手持ちの砥石か。117は台石で、片面のみ機能面として使用し、側面に押打の痕跡が残る。

③層出土遺物（第16～20図、118～193）

③層中からは、弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器のほか、縄文土器１点と石器が出土した。土器には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器、蓋形土器がある。石器は扁平片刃石斧(未製品)、台石と剥片がある。

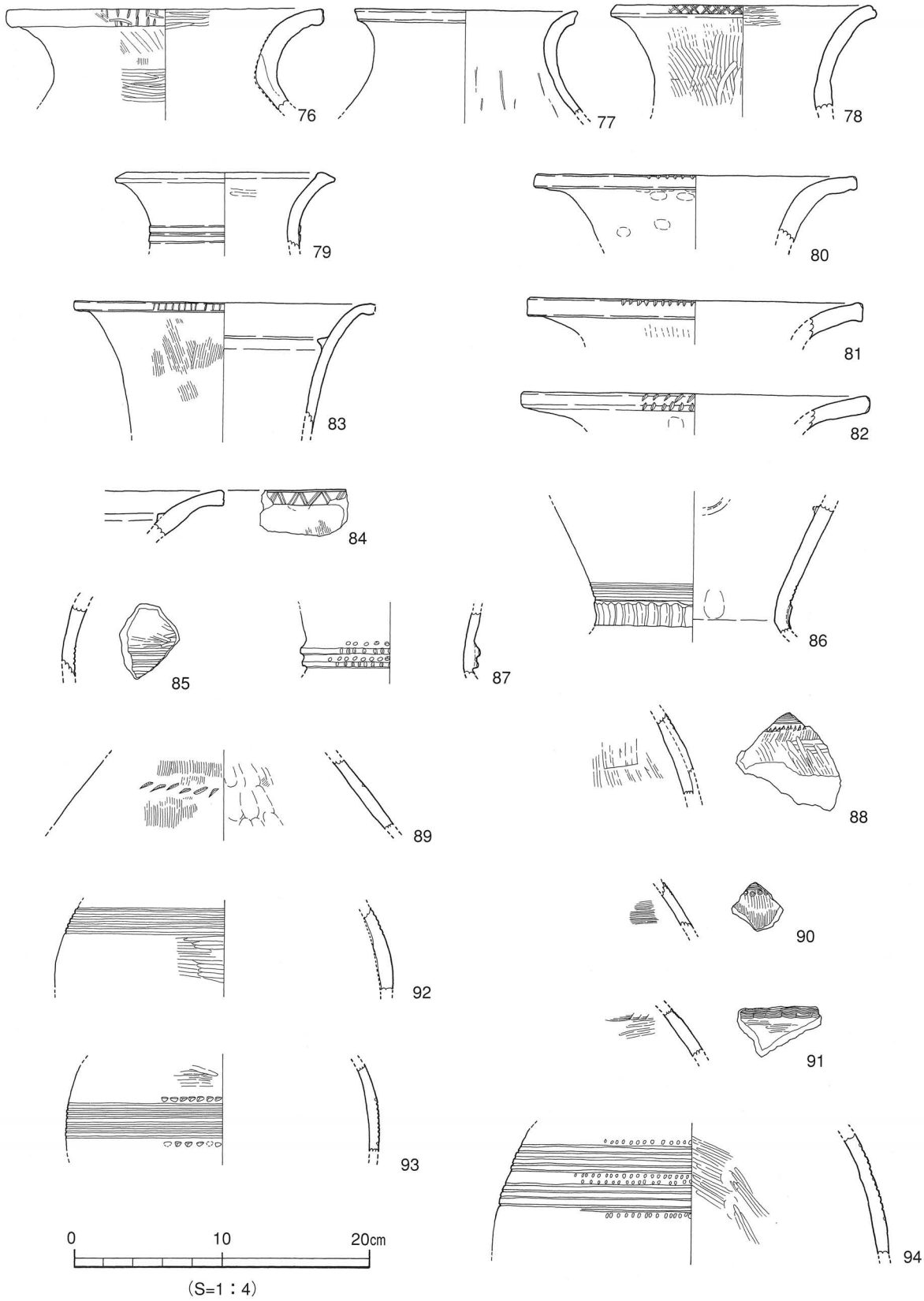
甕形土器(118～150)　118～130は貼付口縁。118は無文。119～121・126～130は口縁端面に刻目、122・123は刺突文を施す。124～128は胴部に沈線文を施す。125の沈線文はクシ状工具により施文される。129・130は胴部に沈線文と刺突文を施す。沈線文は129はヘラ、130は２条１組の工具により施されている。

131～139は折り曲げ口縁。折り曲げの弱いもの(131～137)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(138・139)とがある。口縁端面には刻目を施すもの(131・132・133・136・138・139)と施さないもの(134・135・137)とがある。胴部文様は無文のもの(131・132)、沈線文を施すもの(133)、沈線文と刺突文が組み合うもの(134～138)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの(139)の４種類がある。沈線文は133はヘラ、134・135・138は２条１組、136はクシ状工具により施文されている。

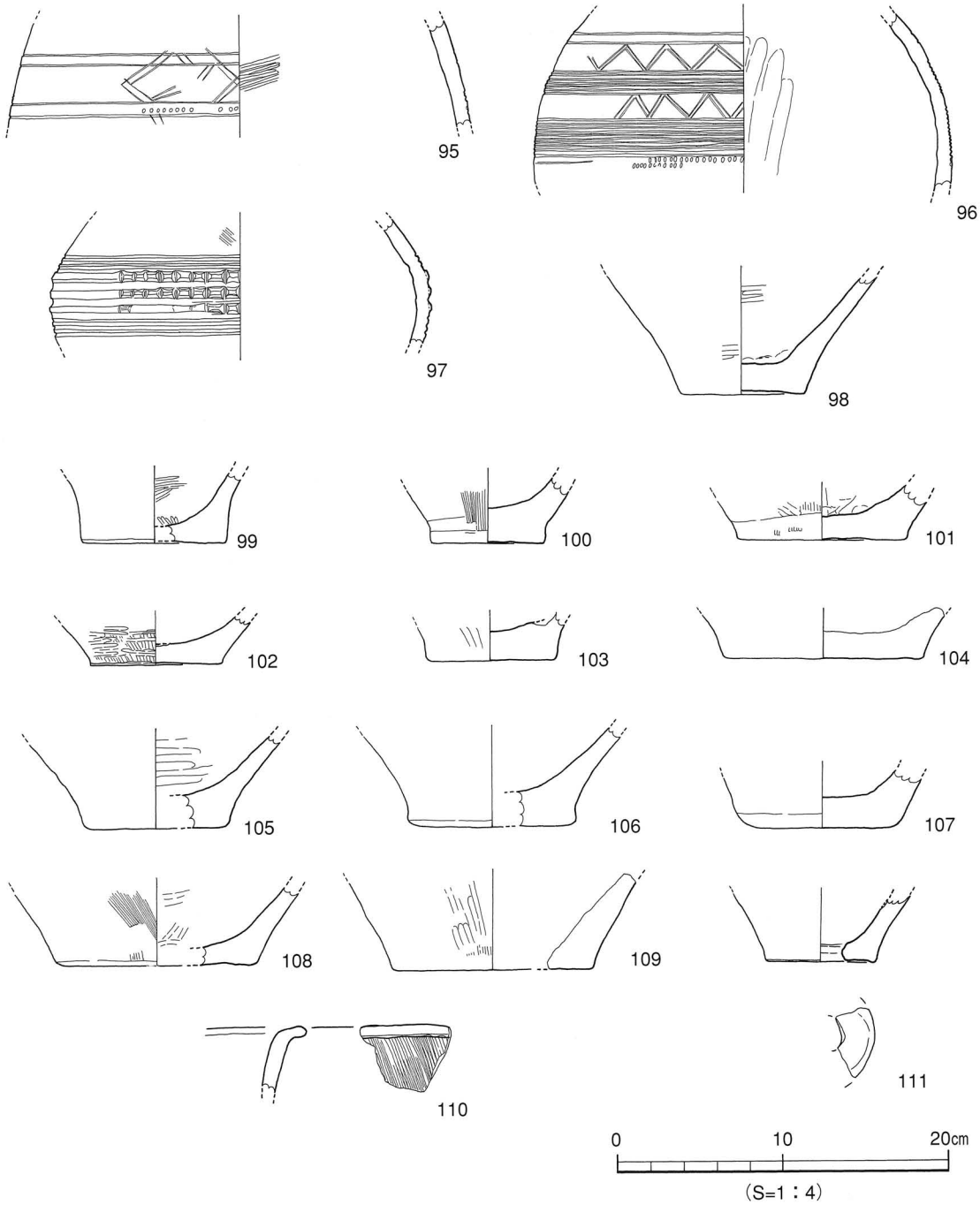
調整方法は、外面に刷毛目調整を施すもの(119・124・133・137・139)、ヘラミガキ調整を施すもの(123・126・130・136)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(120・121・127・128・131)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(119～121・123・125～128・130・131・136～138)、ナデ調整を施すもの(132・133)がある。

140～142は胴部片。140・141は沈線文と刺突文、142は沈線文と山形文を施す。143は「く」の字状口縁で口縁端面に不明瞭な凹線が1条巡る（弥生中期後半)。

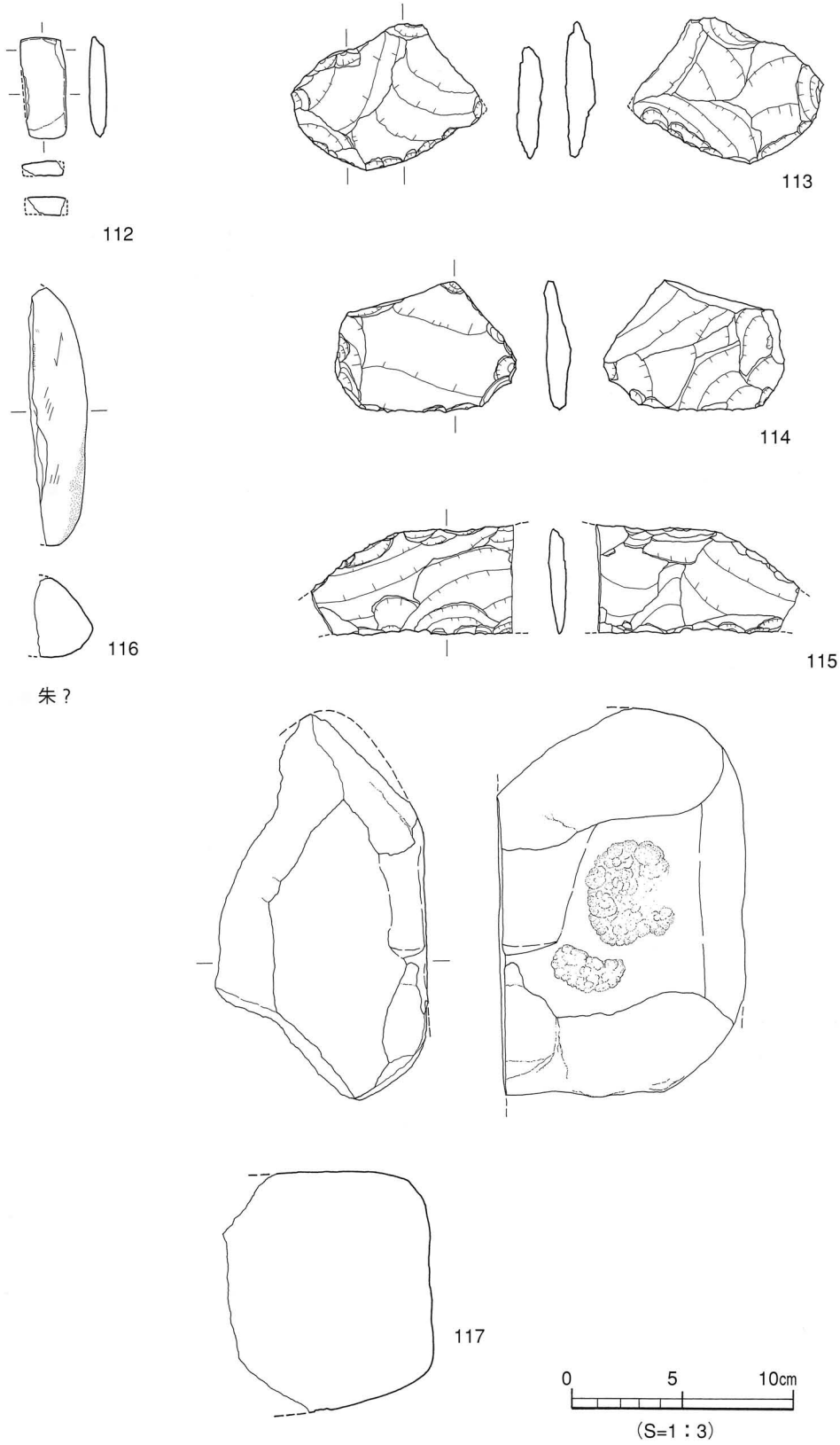
144～150は底部片。144～148はわずかに上げ底、149・150は平底となる。



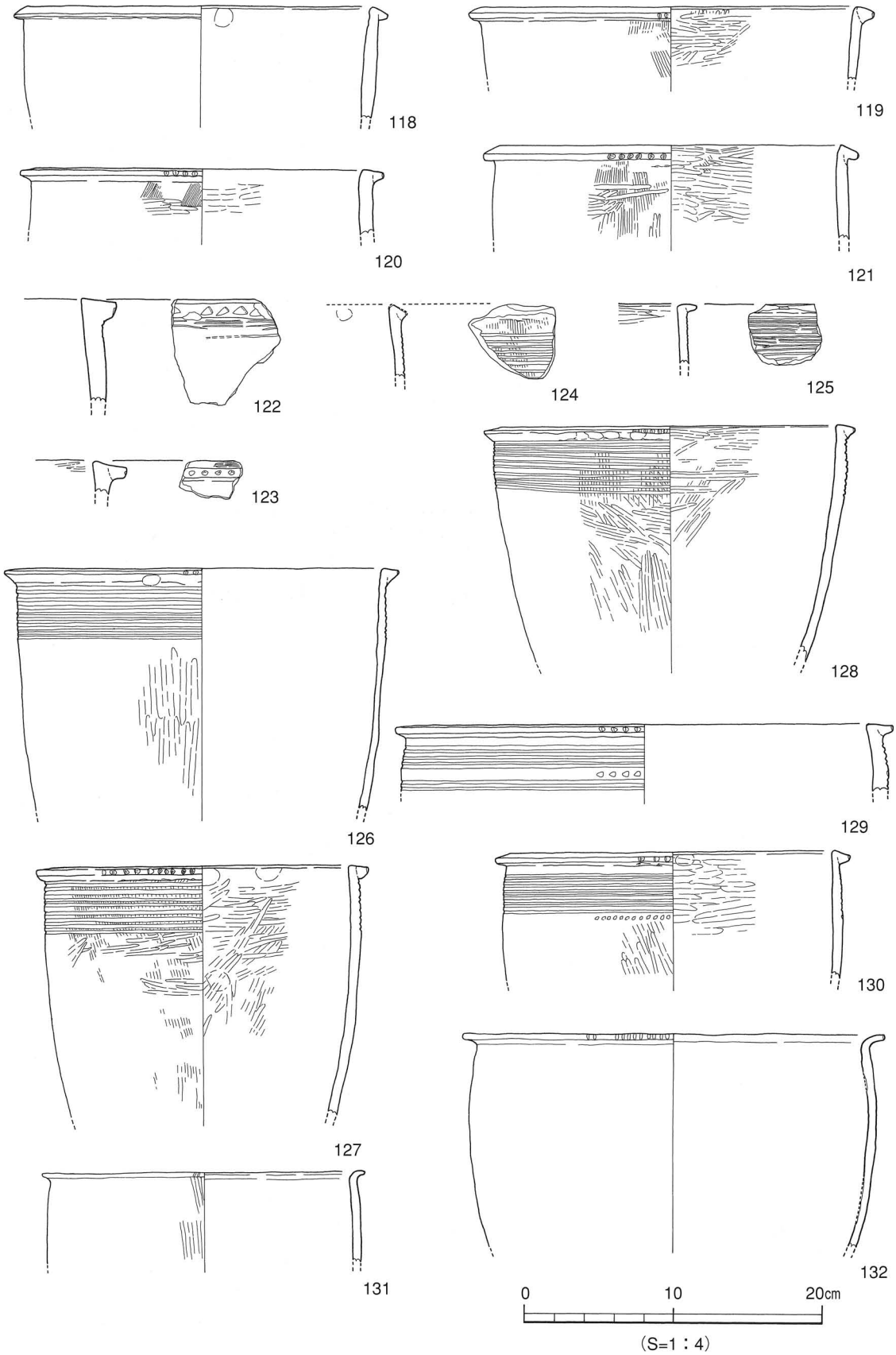
第13図　SD1②層出土遺物実測図(２)



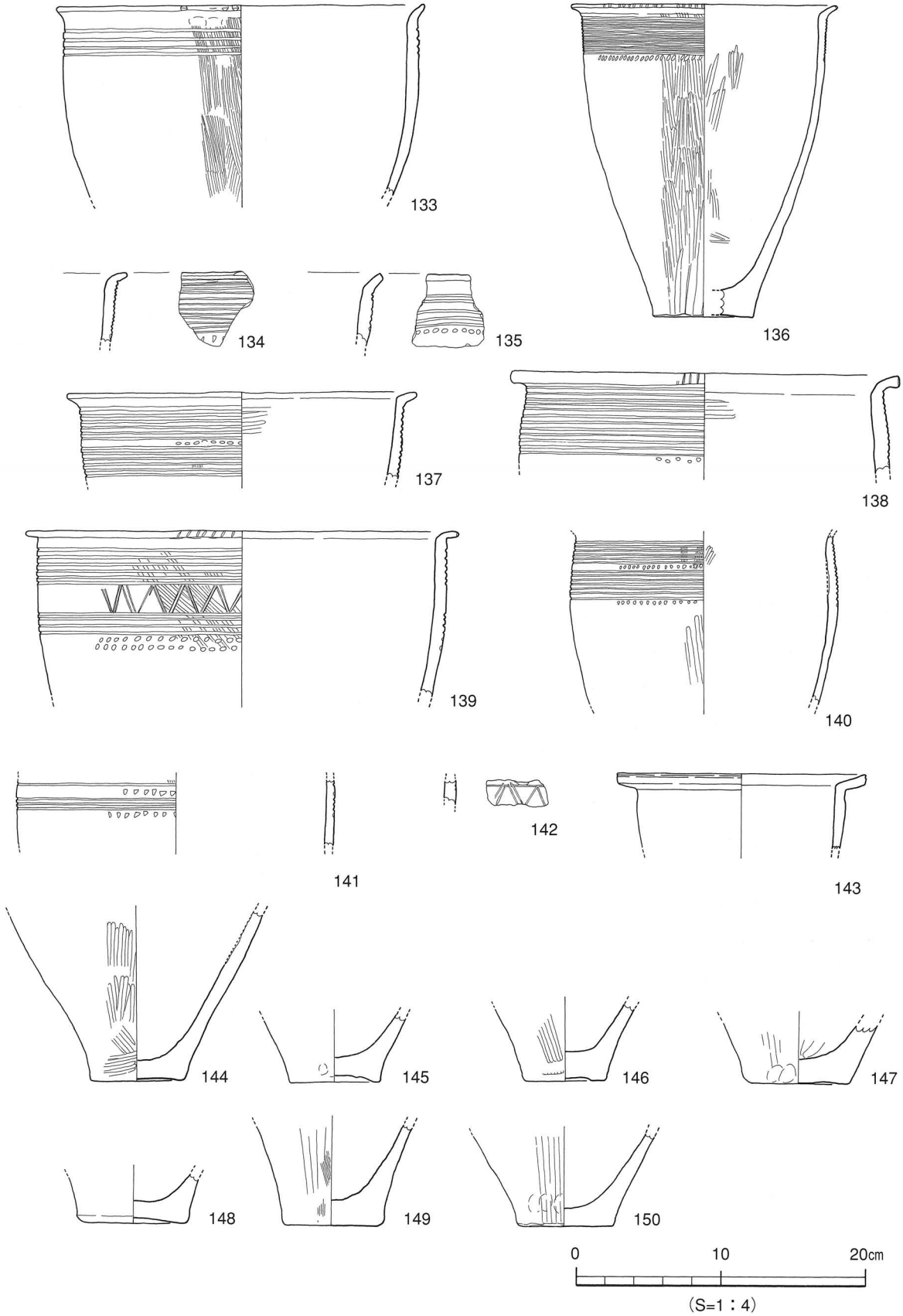
第14図　SD1②層出土遺物実測図(３)



第15図　SD1②層出土遺物実測図（４）



第16図　SD1③層出土遺物実測図（1）



第17図　SD1③層出土遺物実測図(２)

壺形土器(151～176)　151は大型品。口縁部は短く外反し、口縁部内面に凸帯文をもつ。口縁端面にはヘラ描き沈線文と刻目を施す。152は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。153～157は直立ないし、外傾する口頸部をもつ。154は頸部に刻目凸帯文、155は沈線文を施す。157は凸帯文5条をもつ。154は内外面共にヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。158～161は長い口頸部をもつもので、158・159は口縁端面上端部、160は下端部、161は口縁端面に刻目を施す。160・161は口縁部内面に刻目凸帯文をもつ。

162・163は口頸部片。口縁部内面に刻目凸帯文をもち、162は頸部に沈線文(２条１組)と刺突文を施す。164～166は頸部片。164は沈線文(２条１組)と凸帯文を施し、凸帯上に押圧を加える。162・163の外面はヘラミガキ調整、164は刷毛目調整を施す。165は沈線文と竹管文、166は刻目凸帯文をもつ。167は頸胴部片。口縁部内面と頸部に凸帯文をもつ。

168～176は底部片。168～174はわずかに上げ底、175・176は平底となる。169・171～174は外面にヘラミガキ調整を施す。

鉢形土器(177～179)　177・178は折り曲げ口縁、179は直口口縁。無文。177の外面は刷毛目調整、内面はヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

転用品(180・181)　180・181は所謂「コシキ」への転用品である。甕形土器の底部を、焼成後に穿孔したものである。

蓋形土器(182・183)　天井部は、182は中央部がくぼみ、183はほぼ平坦である。182は外面、183は内外面共に刷毛目調整を施す。

縄文土器(184)　184は縄文時代晩期の浅鉢の口縁部片である。

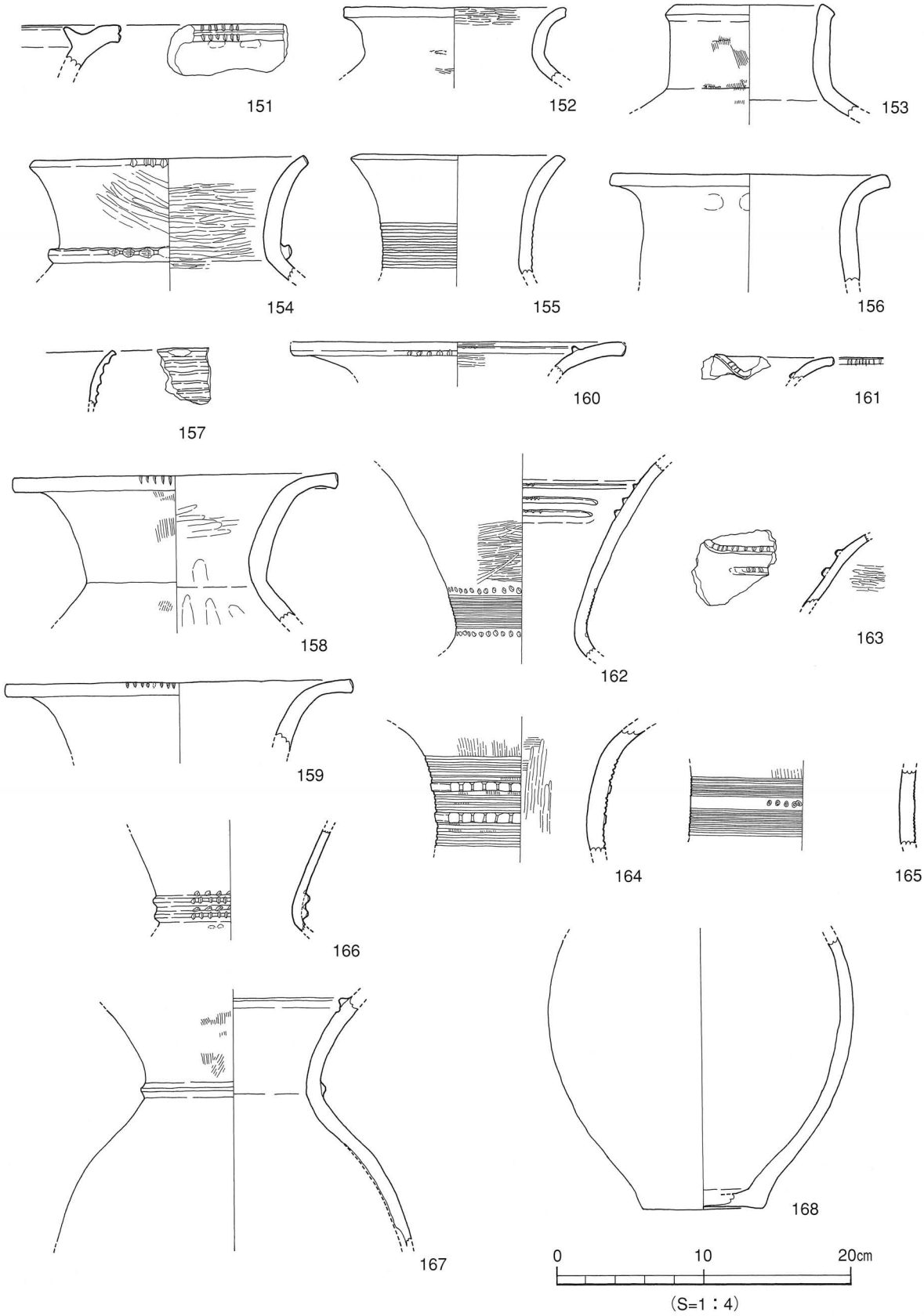
石　器(185～193)　185は扁平片刃石斧の未製品である。両側縁には打裂調整が行われているが、刃部は施されていない。結晶片岩製。186～188はサヌカイトの剥片。189～192は台石で、部分的に使用痕が認められる。193は安山岩製の剥片石器の母岩である。

④層出土遺物（第21～30図、194～345）

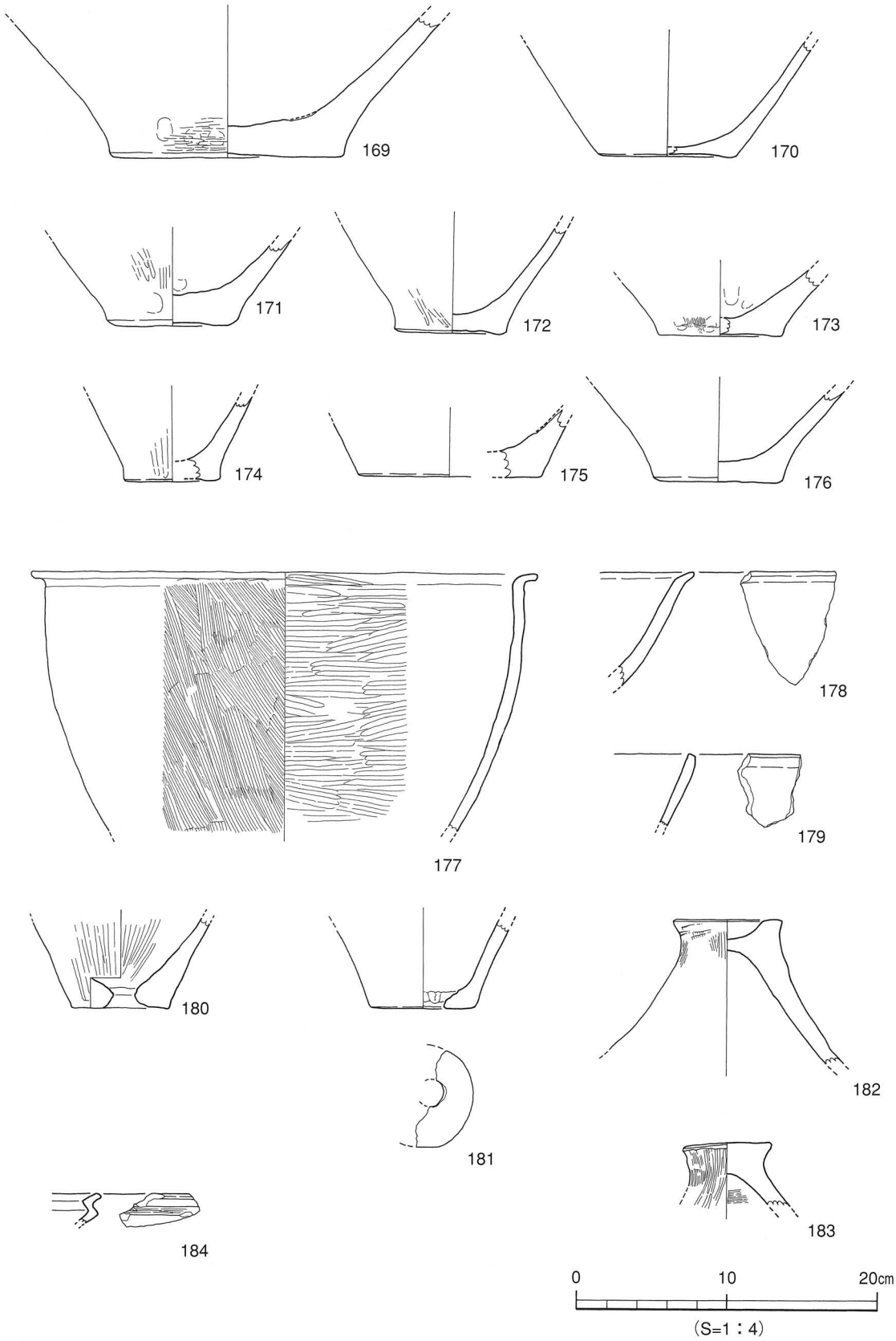
④層中からは、土器と石器が出土した。土器は大半が、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定されるものであるが、中期後半のものが数点含まれている。前者の土器構成は、甕形土器、壺形土器、鉢形土器のほか、円盤状の土製品１点がある。このうち、外来的要素の強い土器が１点(273)出土している。また、壺形土器の中に、貝殻により施文されたものが２点(294・295)含まれている。

石器は、石庖丁、伐採斧、砥石、敲石、石核、剥片がある。なお、石庖丁の中には、未製品が含まれている。

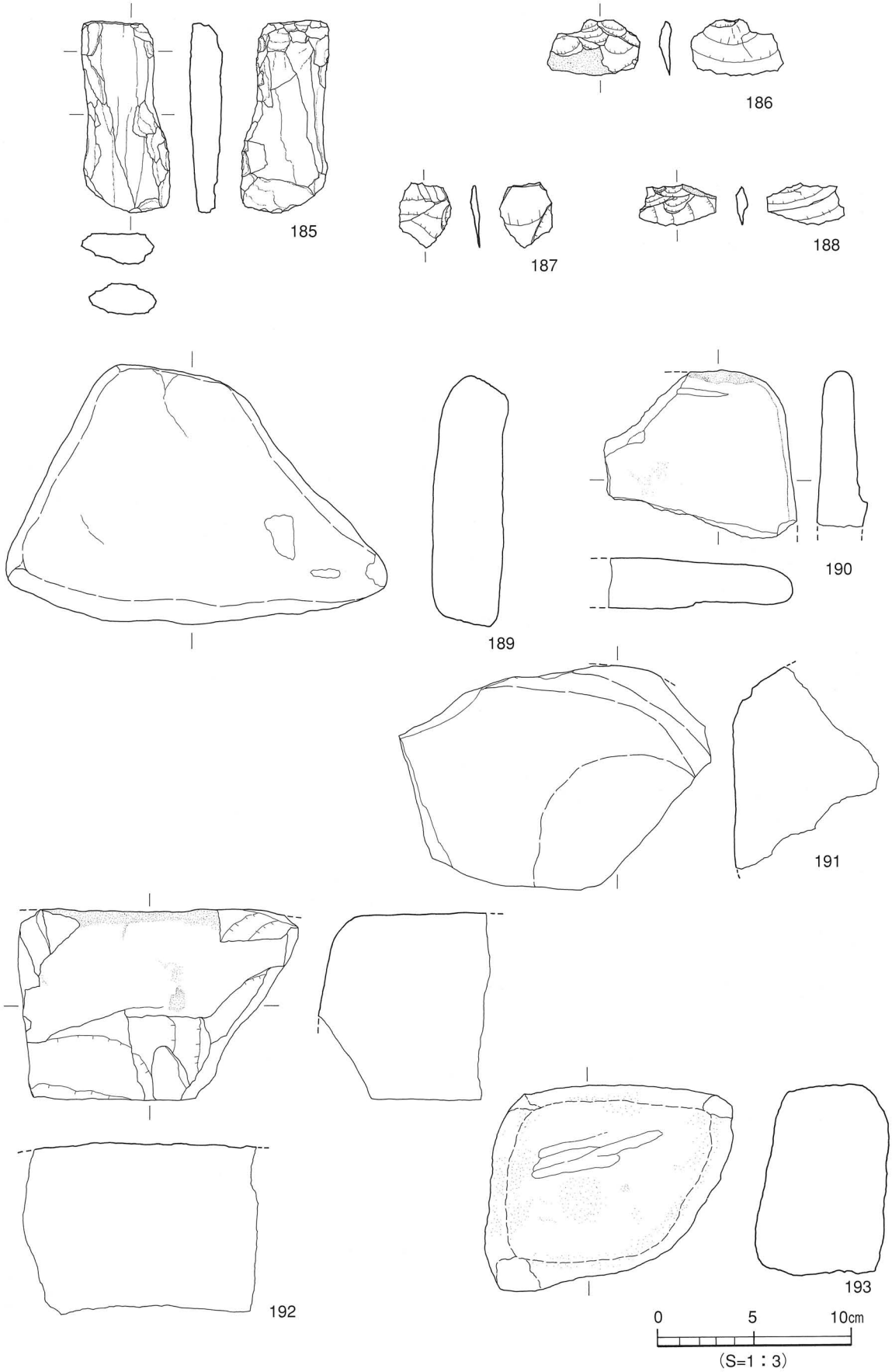
甕形土器(194～248)　194～212は貼付口縁。口縁端面に刻目を施すもの(201・205・206・208～210・212)と施さないもの(194～200・202・204・207・211)とがある。なお、203は刺突文を施すものである。胴部文様は、無文のもの(194・195)、沈線文を施すもの(196～202)、沈線文と刺突文が組み合うもの(203～211)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの(212)の４種類がある。沈線文はクシ描きによるもの(199・211)、2条1組の工具によるもの(202・203・205・208・210・212)、工具の不明なもの(196～198・200・201・204・206・207・209)がある。なお、212の山形文は２条１組の工具により施されている。調整方法は、外面はヘラミガキ調整を施すもの(202・206)、刷毛目調整を施すもの(197・200・203・204・207・208・211)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(205)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(197・198・201・203～207・209・212)がある。



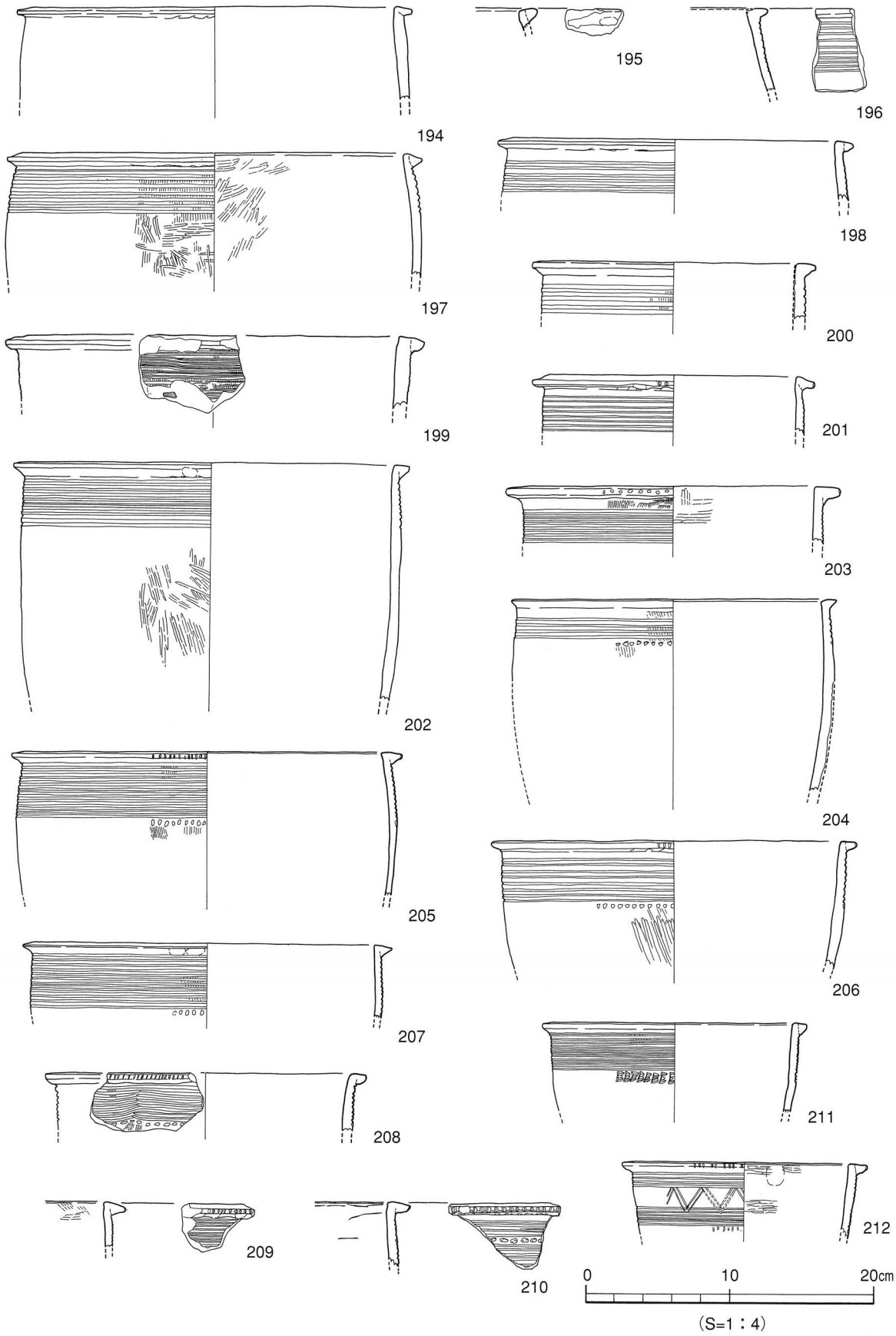
第18図　SD1③層出土遺物実測図(３)



第19図　SD1③層出土遺物実測図(４)



第20図　SD1③層出土遺物実測図（５）



第21図　SD1④層出土遺物実測図(1)

213～228は折り曲げ口縁。折り曲げの弱いもの(213～221)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(222～228)とがある。口縁端面には刻目を施すもの(213・217・218・221・223～226)と、刻目を施さないもの(214～216・219・220・222・227・228)とがある。胴部文様は無文のもの(213)、沈線文を施すもの(214～218・222～224)、沈線文と刺突文が組み合うもの(219～221・225～228)の3種類がある。沈線文はヘラ描きによるもの(214～217)、2条1組の工具によるもの(220・222～224・228)、3条1組の工具によるもの(225)、クシ描きによるもの(219・221)、工具の不明なもの(218・226・228)がある。調整方法は、外面は刷毛目調整を施すもの(214～216・222～224・226・228)、ヘラミガキ調整を施すもの(219・227)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(213・217・221)がある。内面は、214は刷毛目調整、220はナデ調整を施し、その他はヘラミガキ調整を施す。

229～234は胴部片。229～232は沈線文と刺突文を施す。232の沈線文はクシ状工具により施されている。231は内外面共に、ヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。234は沈線文と刺突文、山形文を施す。

235～248は底部片。235～244はわずかに上げ底、245～248は平底となる。

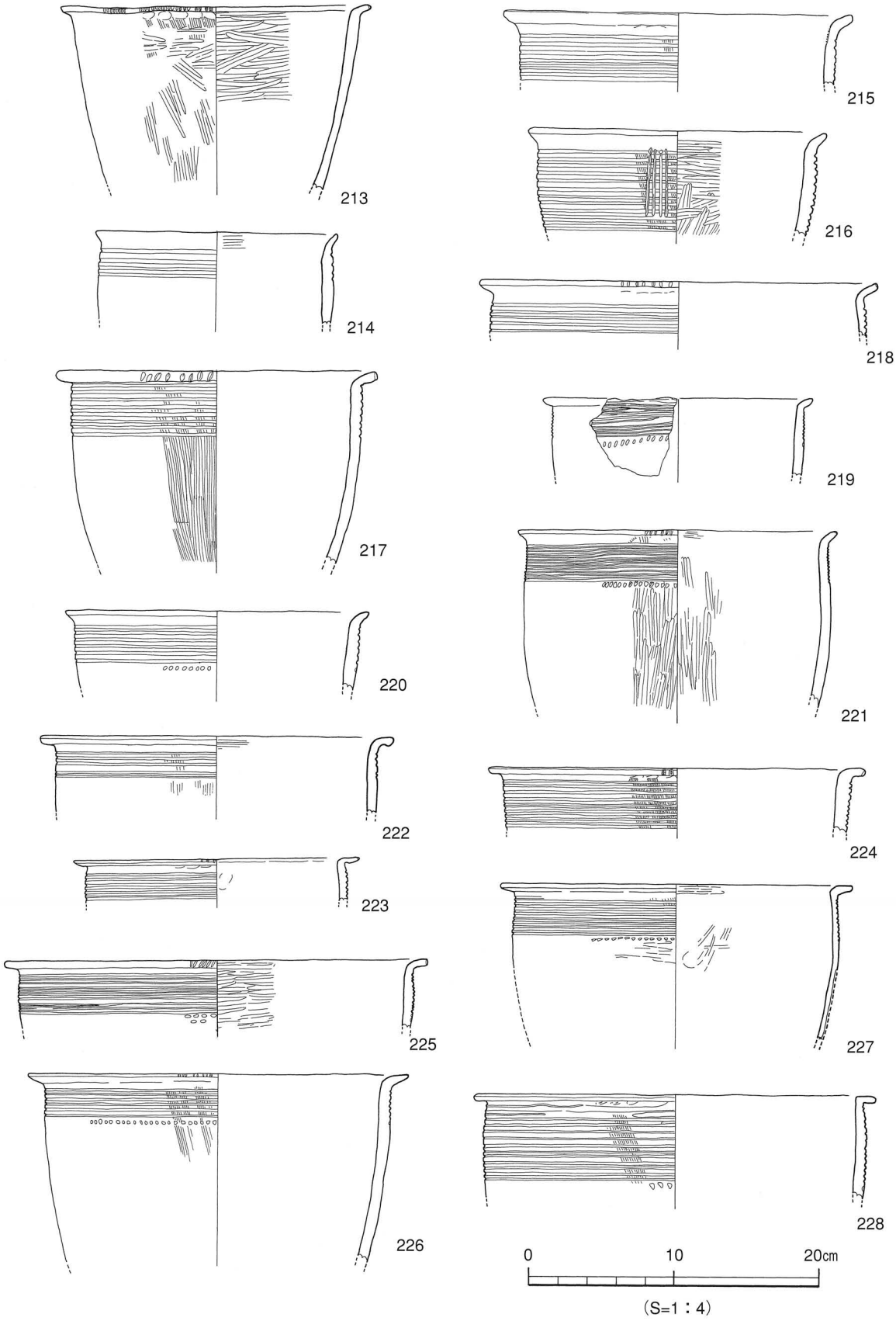
壺形土器(249～312)　249～259は、内傾する頸部に短く外反する口縁部をもつ。250は口縁端面下端部、254は上下端部、255は上端部に刻目を施す。256は口縁端面全体に刻目、258は斜格子目文を施す。260～264は直立ないし外傾する口頸部をもつ。261・262・264は口縁端面に刻目を施す。262～264は頸部に凸帯文をもち、262は凸帯上に刻目、264は連鎖状刻目文2列を施す。口頸部外面には刷毛目調整を施すもの(249・250・252・254・261・263・264)、ヘラミガキ調整を施すもの(256・261)がある。内面にはヘラミガキ調整を施すもの(249・250・256・261・263)がある。265～275は筒状の長い口頸部をもつ。口縁端面には沈線文を施すもの(266)、刻目を施すもの(269・270)、沈線文と刻目を施すもの(268・273)、斜格子目文を施すもの(267)、無文のもの(265・271・272・274・275)がある。口縁部内面には凸帯文をもつもの(269～273・275)と、もたないもの(265～268・274)とがある。凸帯は272・273は全周せず、一部が注口状となる。273は頸部に沈線文と凸帯文及び棒状浮文を施し、凸帯上に押圧を加える。外来系。274は頸部に沈線文と刻目凸帯文を施す。調整方法は、口頸部外面に刷毛目調整を施すもの(267・268・273)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(272)がある。

276～282は口頸部片。279を除き、口縁部内面に凸帯文をもつ。頸部には、278・279はヘラ描き沈線文、280はヘラ描き沈線文と刺突文、281・282は凸帯文を施す。279・281・282の外面には刷毛目調整を施す。

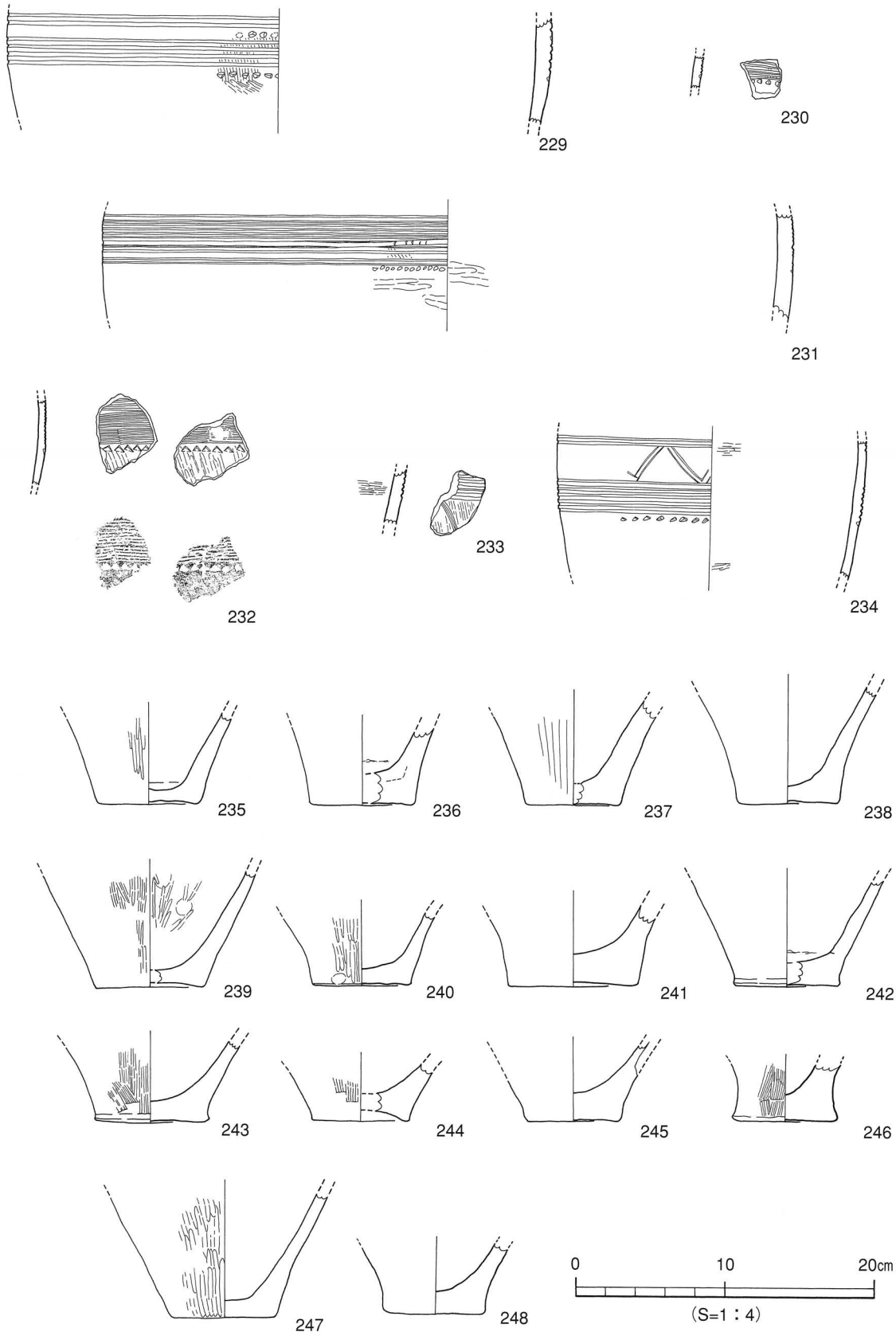
283～286は頸部片。283は沈線文と凸帯文、284～286は凸帯文をもつ。なお、284は凸帯上に押圧、285は連鎖状刻目文2列、286は連鎖状刻目文１列を施す。287～291は頸～肩部片。287は頸部にヘラ描き沈線文と刺突文、288は凸帯文、289・290は沈線文と凸帯文を施す。288・289は凸帯上に連鎖状刻目文2列、290は１列を施す。291は２条１組の工具による沈線文と刺突文を施す。287・291は内外面共にヘラミガキ調整を施す。

292～304は胴部片。292・293はヘラ描き沈線文と刺突文を施す。294・295は貝殻腹縁による弧文を施す。296は乳頭状の浮文を貼り付ける。297はヘラ描き沈線文、298～301は沈線文と山形文を施す。山形文は2条1組の工具により施文される。302は断面台形状の扁平な凸帯文を貼り付ける。303・304は沈線文と刻目凸帯文を施す。304の外面と293の内面にはヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

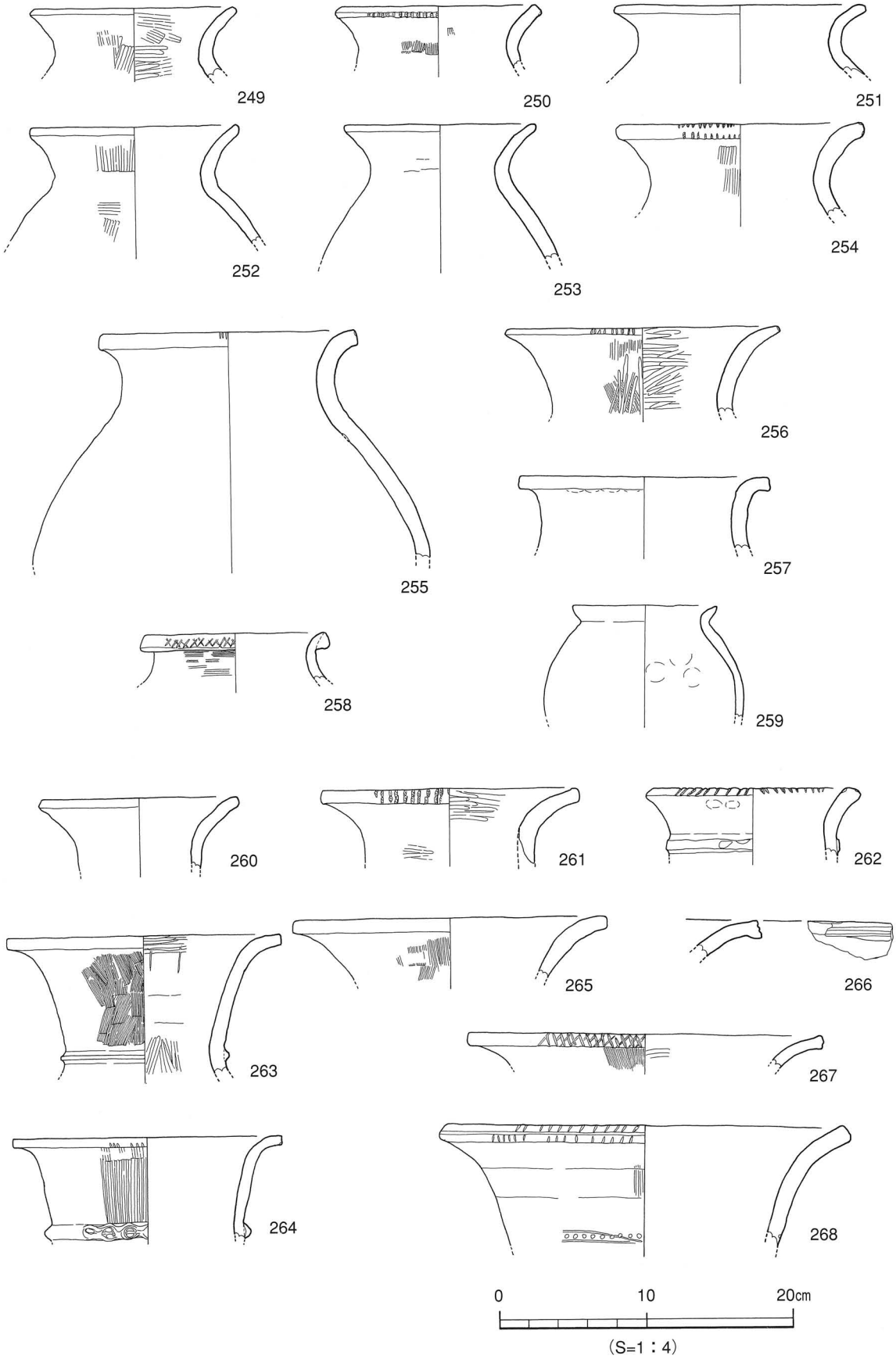
305～312は底部片。305・309・310はわずかに上げ底、その他は平底となる。



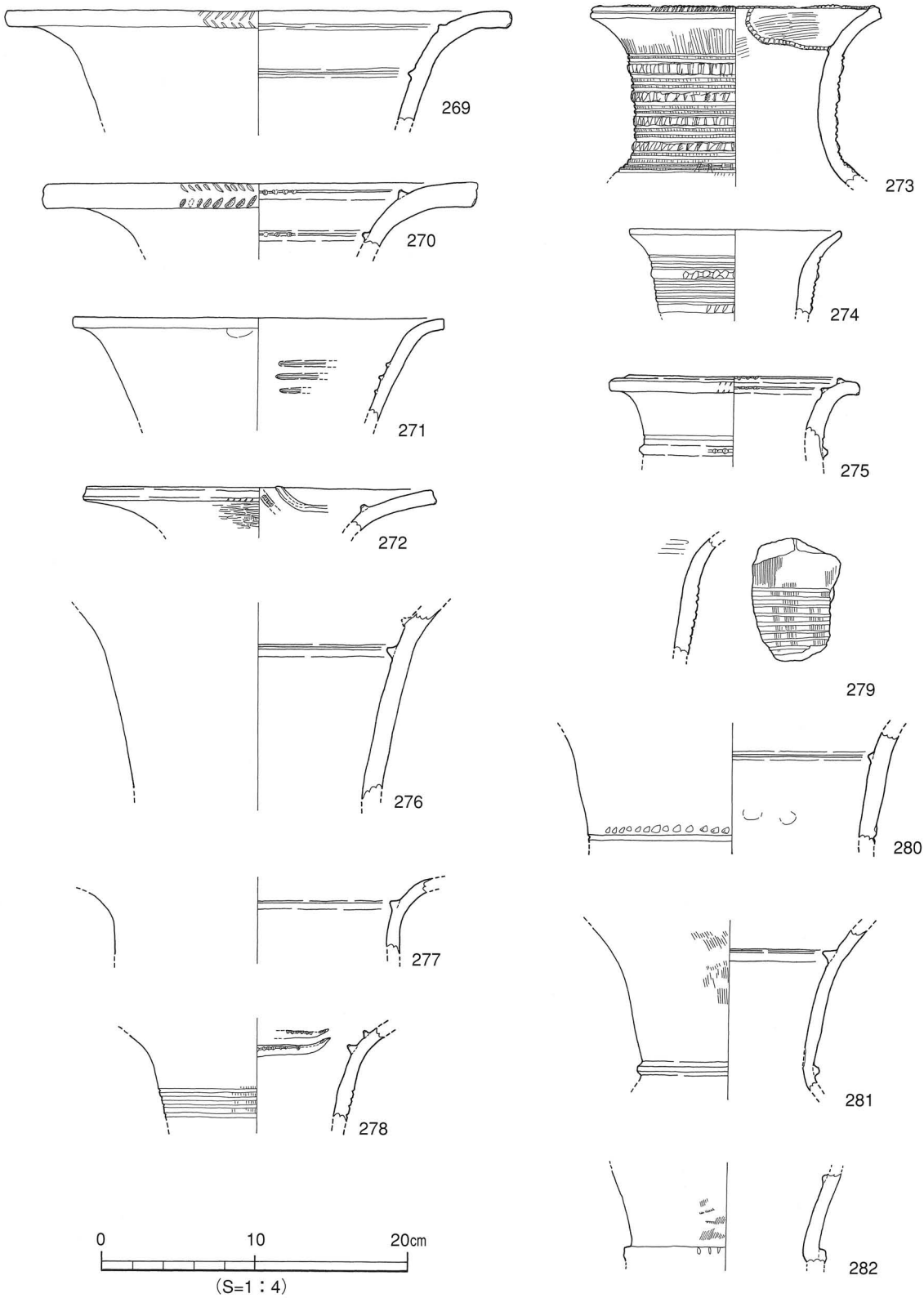
第22図　SD1④層出土遺物実測図(２)



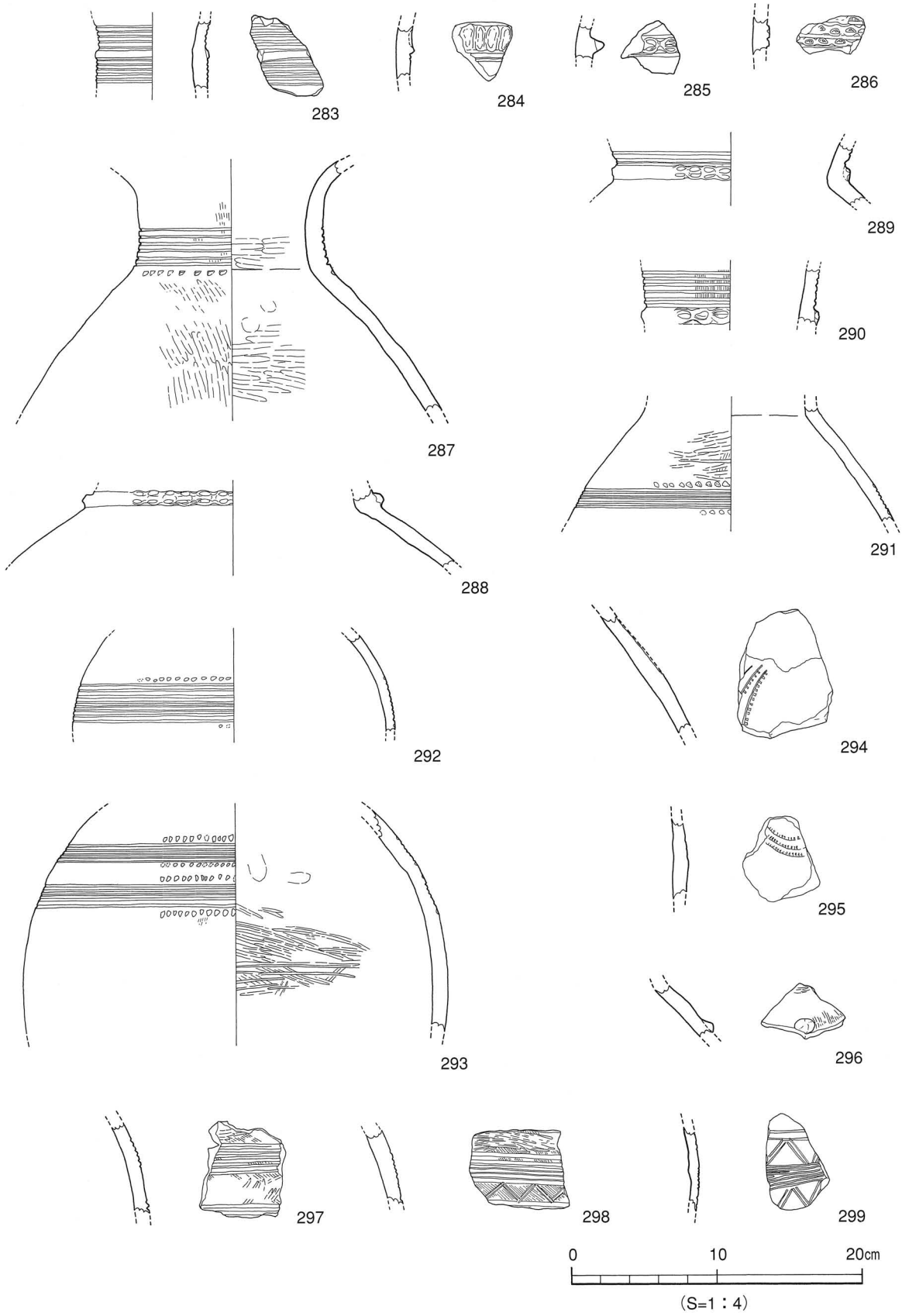
第23図　SD1④層出土遺物実測図（３）



第24図　SD1④層出土遺物実測図(４)



第25図　SD1④層出土遺物実測図(５)



第26図　SD1④層出土遺物実測図(６)

鉢形土器(313～325)　313～316は貼付口縁、317～324は折り曲げ口縁で、すべて無文である。胴部調整は、外面にヘラミガキ調整を施すもの(313・315・316・318・323・324)、刷毛目調整を施すもの(314・317・319・320・322)がある。内面にはヘラミガキ調整を施すもの(313・315・317・322・324)がある。325は底部片で、突出部をもつ平底となる。

転用品(326)　326は所謂「コシキ」への転用品。壺形土器の底部を焼成後に穿孔したものである。

高坏形土器(327)　327は高坏形土器の脚部片。裾部に凹線文3条が巡る（弥生中期後半)。

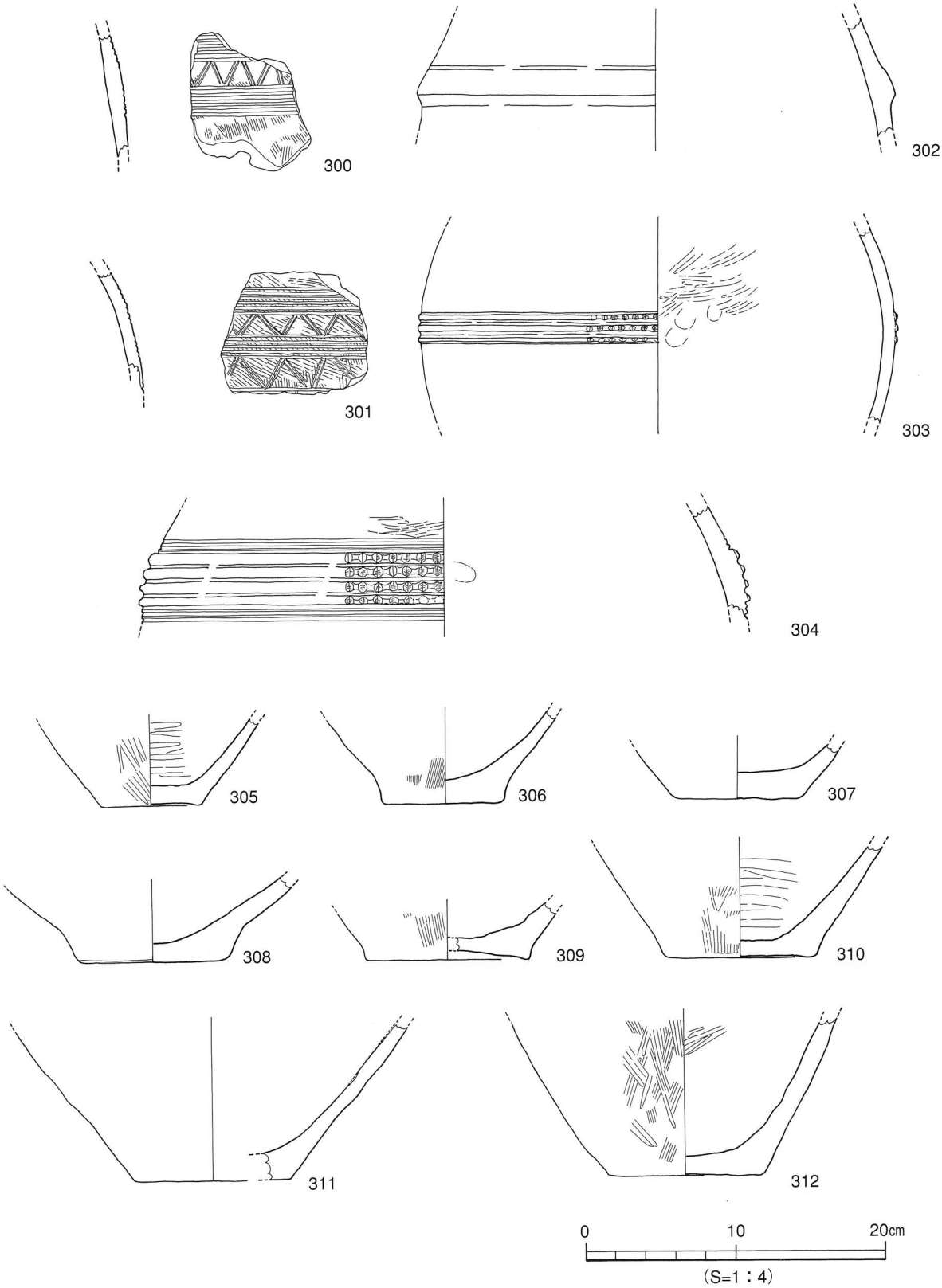
円盤状土製品(328)　土器片の再加工品。周縁を打ち欠き、円盤状に仕上げる。外面にヘラ描き沈線文が残る。

石　器(329～345)　329～331は結晶片岩製の石庖丁である。329は約1/2の残存で、平面形態は外湾刃半月形を呈する。両面より刃を付けており、ｂ面の鎬は明瞭である。ａ面には入念な研磨が施されている。330・331は未製品。330の平面形態は長方形を呈し、両端に抉りをもつものと思われる。背部に入念な研磨を施す。331は穿孔、敲打中に破損したものと思われる。332・333は結晶片岩製の石斧である。332は伐採斧で、刃部は欠損している。断面形態は楕円形で、入念な研磨が施されている。基部端部には敲打痕が見られる。333は扁平片刃石斧の再加工品と思われる。334はサヌカイト製のスクレイパー、335～337は剥片である。338・339は安山岩製の大型剥片刃器である。340はサヌカイトの石核である。341・342は敲石である。341の片面に使用痕が認められる。342は５ヶ所の面で使用痕が認められる。343・344は砥石である。343は2ヶ所の面に使用痕があり、主として横方向と右上がりの方向の微細線状痕が観察される。344は片面が大きく凹んでおり、横方向の線状痕が認められる。345は台石、または砥石である。破損面は赤く焼けたように見え、受熱による破損したものと思われる。安山岩製。

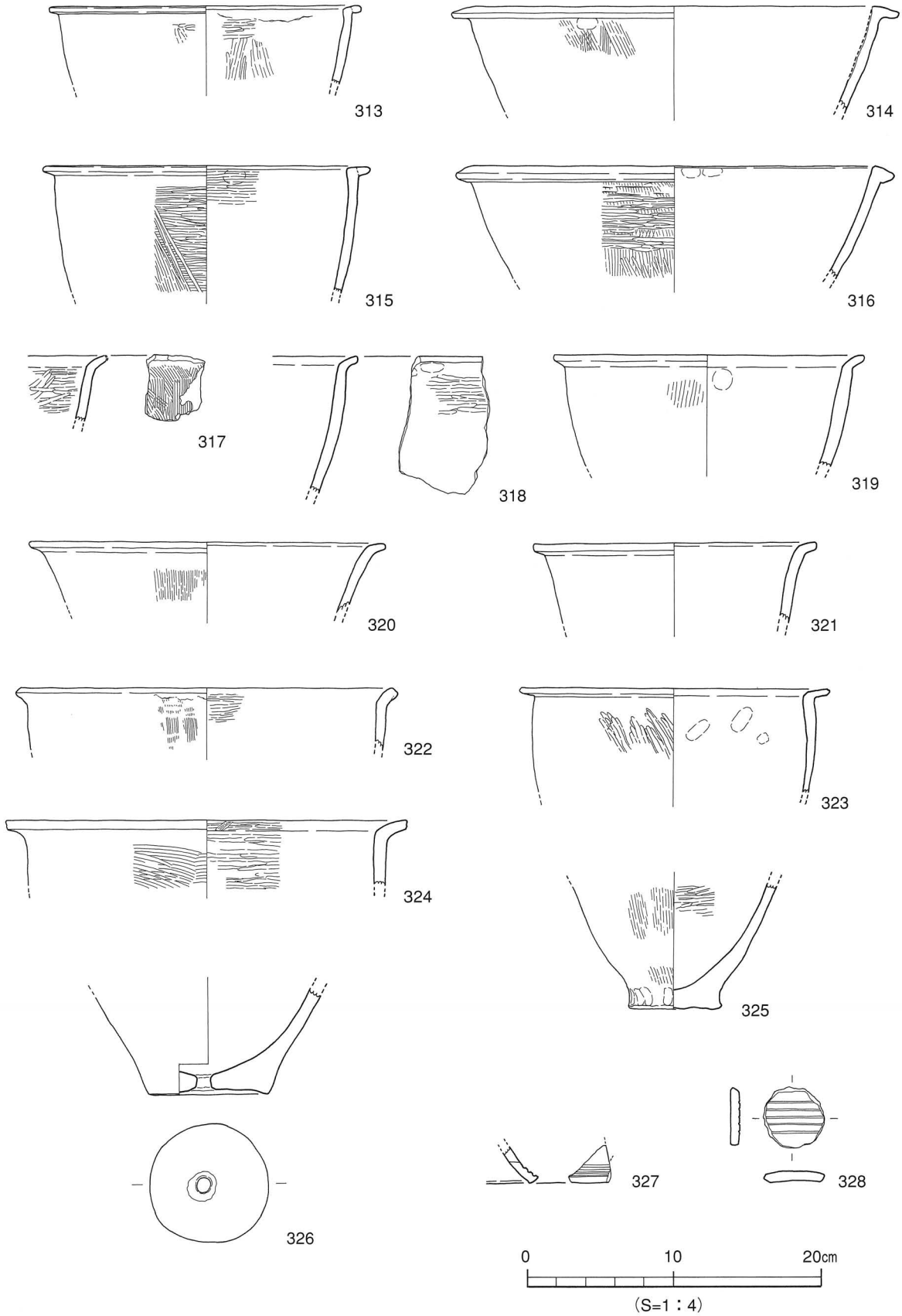
⑤層出土遺物（第31～40図、346～490)

⑤層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器の器種構成には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。壺形土器のうち、貝殻文を施したものが１点(442)ある。石器は石庖丁、伐採斧、砥石、石核、スクレイパーがある。石庖丁の中には、未製品が含まれている。

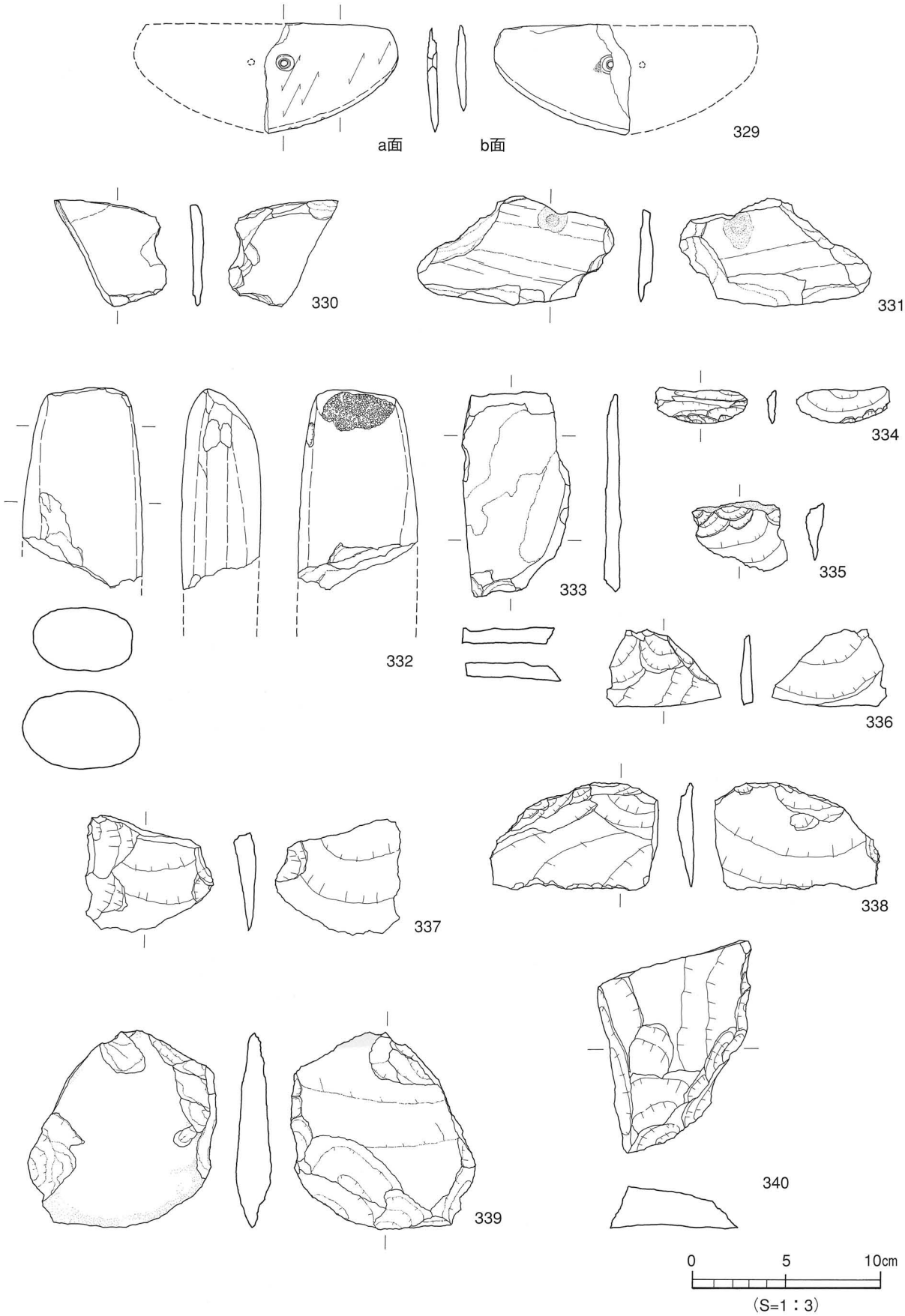
甕形土器(346～400)　346～369は貼付口縁。346・347は口径38cmを越える大型品。346は口縁端面に刻目、胴部に沈線文を施す。347は胴部にヘラ描き沈線文と刺突文2列を施す。348～368は中型品。口縁端面には刻目を施すもの(355・357～365・368)がある。胴部文様は無文のもの(348～350)、沈線文を施すもの(351～358)、沈線文と刺突文が組み合うもの(359～368)の3種類がある。沈線文はヘラ描きのもの(352・360・361・363)、２条１組の工具によるもの(355・358・359・368)、３条１組の工具によるもの(364)、工具の不明のもの(351・353・354・356・357・362・365～367)がある。調整方法は、胴部外面にヘラミガキ調整を施すもの(359・360・363～365)と、刷毛目調整を施すもの(348・353・355・358・362・366)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(352・353・357・358・361・365・366)と、ナデ調整を施すもの(348・349・354・355・364)とがある。369は口径15cmを測る小型品。無文で、胴部外面にヘラミガキ調整を施す。



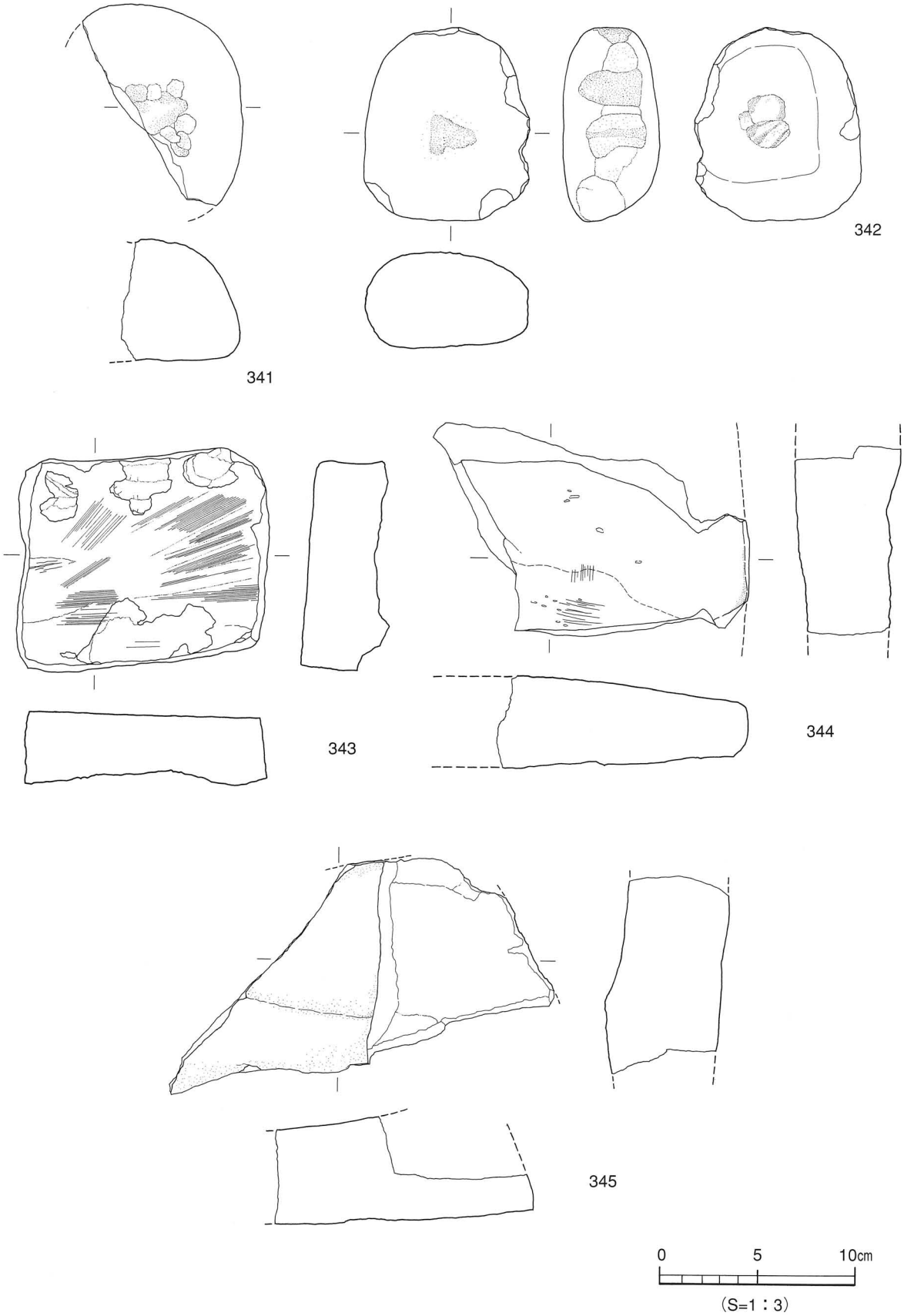
第27図　SD1④層出土遺物実測図(７)



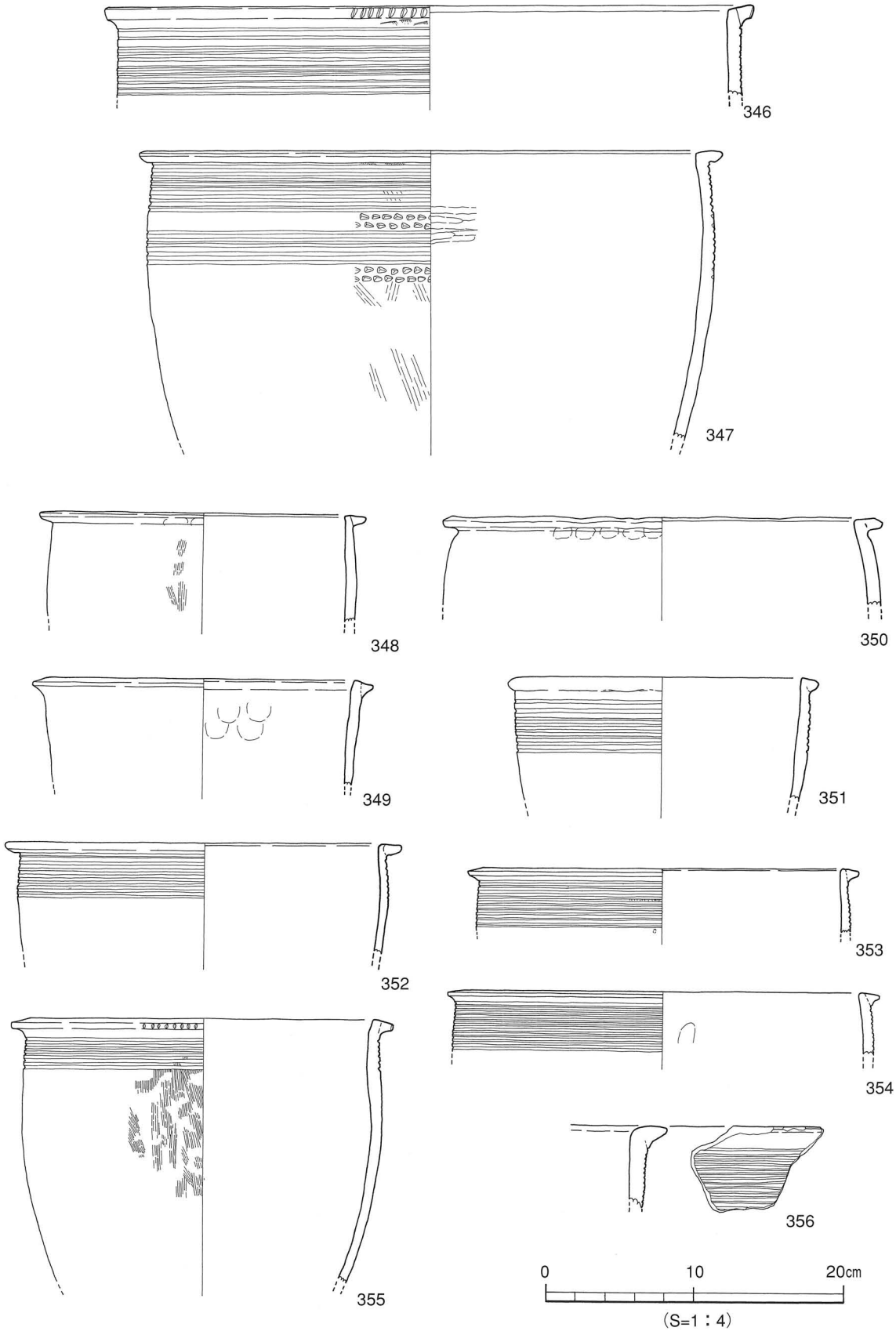
第28図　SD1④層出土遺物実測図(８)



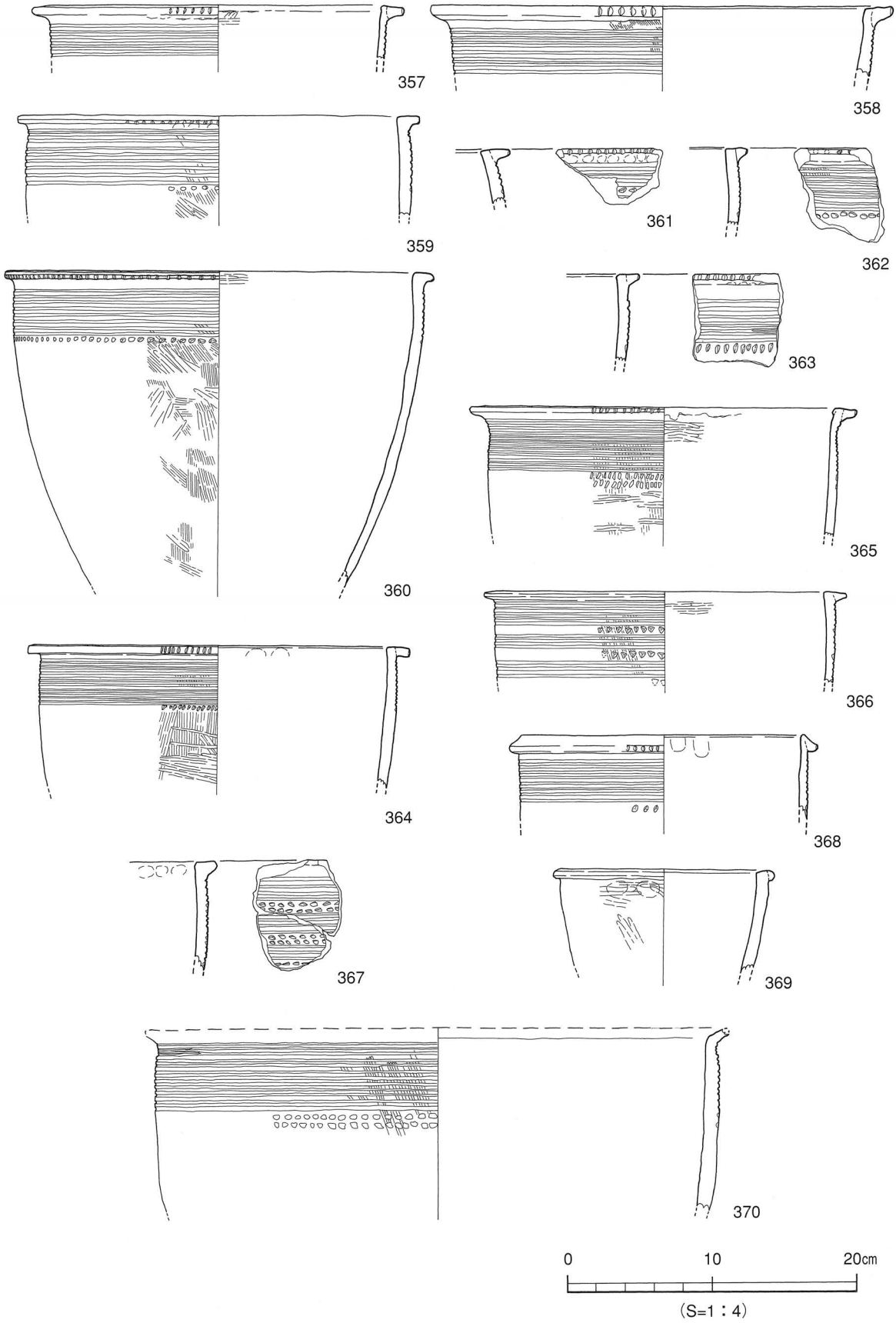
第29図　SD1④層出土遺物実測図(９)



第30図　SD1④層出土遺物実測図(10)



第31図　SD1⑤層出土遺物実測図(1)



第32図　SD1⑤層出土遺物実測図（２）

370～385は折り曲げ口縁。370は口径40cmを越える大型品。胴部にヘラ描き沈線文と刺突文２列を施す。371～385は中型品。折り曲げが弱いもの(371～377)と折り曲げが強く、逆「L」字状を呈するもの(378～385)とがある。口縁端面には刻目を施すもの(371・375～378・382～385)、沈線文と刻目を施すもの(380)がある。胴部文様は無文のもの(371・372・378・379)、沈線文を施すもの(380)、沈線文と刺突文が組み合うもの(373～376・381～385)、沈線文と竹管文が組み合うもの(377)の4種類がある。381には縦方向の沈線文を施す。沈線文にはヘラ描きのもの(374・376・380・382・385)、２条１組の工具によるもの(381・383)、クシ状工具によるもの(377)、工具の不明なもの(373・375・384)がある。調整方法は、胴部外面はヘラミガキ調整を施すもの(371・375・379)、刷毛目調整を施すもの(376・377・382・383)がある。

386～394は胴部片。386～389は沈線文と刺突文を施す。386・387・389の沈線文はヘラ、388は２条１組の工具により施されている。390・391は沈線文と山形文、392～394は沈線文と刺突文、山形文を施す。山形文は２条１組の工具により施されている。

395～400は底部片。395・396は上げ底、399はわずかに上げ底、その他は平底となる。外面にはヘラミガキ調整を施すもの(395・396・399・400)がある。

壺形土器(401～471)　401は大型品。口縁部は短く外反し、口縁端面には刻目を施す。口縁部内面には凸帯文をもつ。調整方法は口縁部外面に刷毛目調整、頸部外面にミガキ調整を施す。

402～404は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。402は口縁端面にヘラ描き沈線文、404は刻目を施す。405～412は太くて、直立ないし外傾する口頸部をもつ。口縁端面は刻目を施すもの(405)、沈線文と刻目を施すもの(406・407・411)、斜格子目文を施すもの(412)がある。407は頸部にヘラ描き沈線文、412は頸部と肩部に沈線文と刺突文、口縁部内面に注口状の凸帯文を施す。

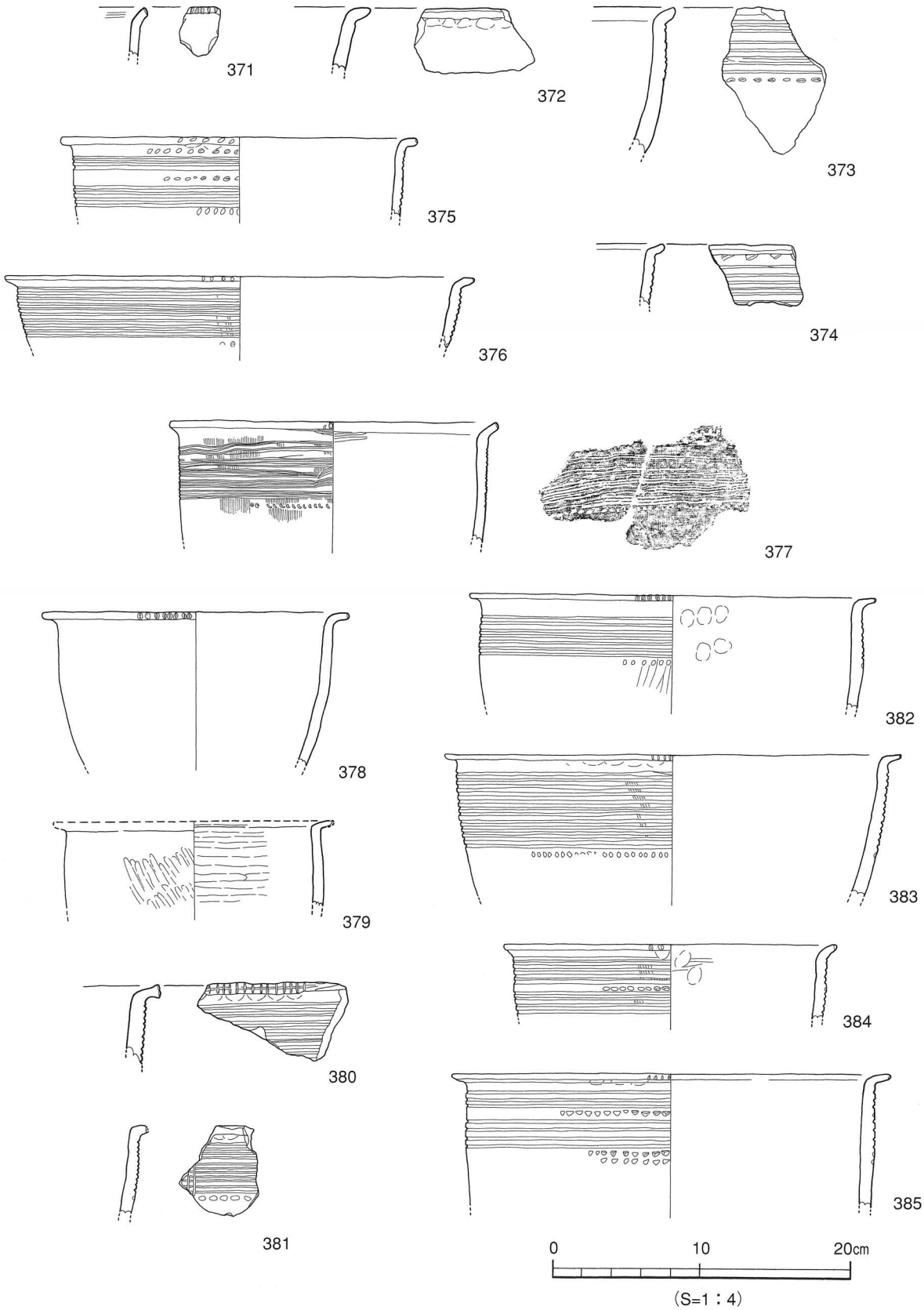
413～430は筒状の長い口頸部をもつ。413～417は口縁部がわずかに外反するもので、413～415は口縁部内面に凸帯文をもち、415は凸帯上に押圧を加える。頸部には、413はヘラ描き沈線文、414・417は凸帯文、415は沈線文と刻目凸帯文、416は沈線文と刺突文を施す。414は口縁端面に斜格子目文を施す。

418～430は口縁部が強く外反するもので、口縁端面には刻目を施すもの(423～425・429)、沈線文と刻目を施すもの(419～421・426・428)、斜格子目文を施すもの(418)がある。422～430は口縁部内面に凸帯文をもつ。424～427・429・430は凸帯上に刻目を施す。428・430は凸帯は全周せず、一部が注口状となる。頸部にはヘラ描き沈線文を施すもの(427)と、沈線文と刺突文を施すもの(428・429)がある。

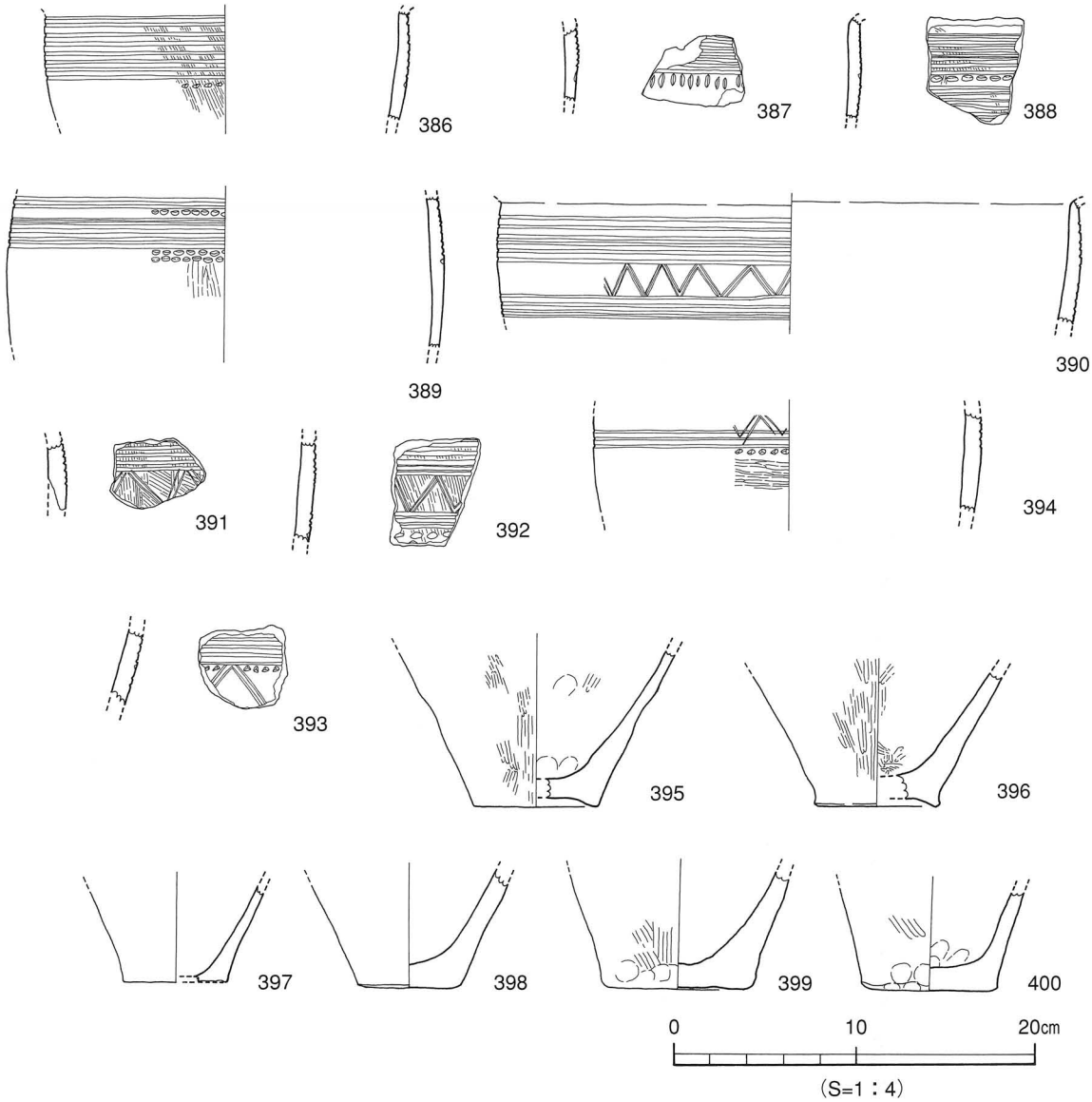
調整方法は、口頸部外面は刷毛目調整を施すもの(404・407・408・426～428)、ヘラミガキ調整を施すもの(410・415・425)、刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すもの(409・419・429・430)がある。内面はヘラミガキ調整を施すもの(404・408～410・416・417・424・425・427～430)がある。

431～436は口頸部片。口縁部内面には凸帯文をもち、435・436は凸帯上に刻目を施す。431・432は頸部にヘラ描き沈線文、433は沈線文と刺突文を施す。437・438は頸部片。437は沈線文(2条1組)と刻目凸帯文、438はヘラ描き沈線文と凸帯文(連鎖状刻目文1列)を施す。435・436は内外面共にヘラミガキ調整を施す。

439～446は頸～肩部片。439は頸部にヘラ描き沈線文、440～443は凸帯文を施す。442は肩部に貝殻腹縁による弧文を1条施す。443は凸帯下に竹管文を施す。446は頸部に刻目をもつ棒状浮文、胴部にヘラ描き沈線文を施す。441・442・446は外面にヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。



第33図　SD1⑤層出土遺物実測図(３)



第34図　SD1⑤層出土遺物実測図(４)

447～460は胴部片。447は沈線文(２条１組)、448・449は沈線文と刺突文、450～452は沈線文と山形文、453は沈線文と山形文、円形浮文を施す。454は沈線文と斜格子目文を施す。455～460は「M」字状の凸帯文をもち、456～459は凸帯上に刻目、460は連鎖状刻目文１列を施す。なお、457～459は胴部外面に沈線文１条を巡らし、凸帯を貼り付ける位置を設定している(写真)。調整方法は、447の外面にヘラミガキ調整、451・452は刷毛目調整を施す。461は直口口縁の細長頸壺。口頸部に沈線文(２条１組)と刺突文を施す。内面にヘラミガキ調整を施す。

462～471は底部片。467・468・471はわずかに上げ底、その他は平底となる。462・463を除き、外面にヘラミガキ調整を施す。

鉢形土器(472～475)　折り曲げ口縁で、無文である。475は胴部外面に刷毛目調整、内面にナナメ方向のヘラミガキ調整を施す。

高坏形土器(476・477)　476は中実の短い柱部に「ハ」の字状に広がる厚みのある脚部をもつ。坏部と脚部との接合部には断面三角形状の刻目凸帯文が1条巡る。坏部外面にはヘラミガキ調整を施す。

転用品(478～481)　478～481は所謂「コシキ」への転用品である。甕形土器の底部を、焼成後に穿孔している。孔は楕円形を呈し、径0.7～2.0cmを測る。

ミニチュア品（482）482はミニチュア品。直口口縁。

石　器(483～490)　483～485は結晶片岩製の石庖丁である。483は平面形態が楕円形を呈するものとみられ、穿孔はａ面は回転、ｂ面は敲打と回転とで施されている。刃付けは片刃である。484は平面形態が直線刃半月形を呈するものとみられる。485は未製品である。486は結晶片岩製の伐採斧の欠損品である。487は安山岩製のスクレイパーの完形品である。488・489は安山岩製の石核である。490は砥石の欠損品である。

⑦層出土遺物（第41・42図、491～534）

⑦層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器の器種構成には甕形土器、壺形土器、鉢形土器がある。石器は石鏃、扁平片刃石斧(未製品)、伐採斧がある。

甕形土器(491～500)　491・492は貼付口縁。491は胴部にヘラ描き沈線文、492は口縁端面に連鎖状刻目文1列と胴部にヘラ描き沈線文を施す。493・494は折り曲げ口縁。494は口縁端面に刻目、胴部にヘラ描き沈線文を施す。495・496は胴部片。495はヘラ描き沈線文、496は沈線文と刺突文を施す。497～500は底部片。497は平底、他はわずかに上げ底となる。

壺形土器(501～527)　501は口縁部が短く外反し、口縁端部は面をなす。502・503は直立する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。504～506は外反する長い口頸部をもつもので、505は口縁端面にヘラ描き沈線文1条と刻目を施す。506は頸部にヘラ描き沈線文と刻目凸帯文、口縁部内面に刻目凸帯文をもつ。507～512は頸部片。507・508は内面に凸帯文をもつ。512は断面方形状の凸帯文を貼り付け、凸帯上に格子目文を施す。513・514は胴部片。513はクシ描き沈線文と刺突文を施す。514は胴部中位に刻目凸帯文3条を貼り付ける。515～527は底部片。515～525は平底、526・527はやや上げ底となる。

鉢形土器(528～531)　528・529は折り曲げ口縁。無文。530・531は底部片で、530は中央部がややくぼむ上げ底、531は平底となる。

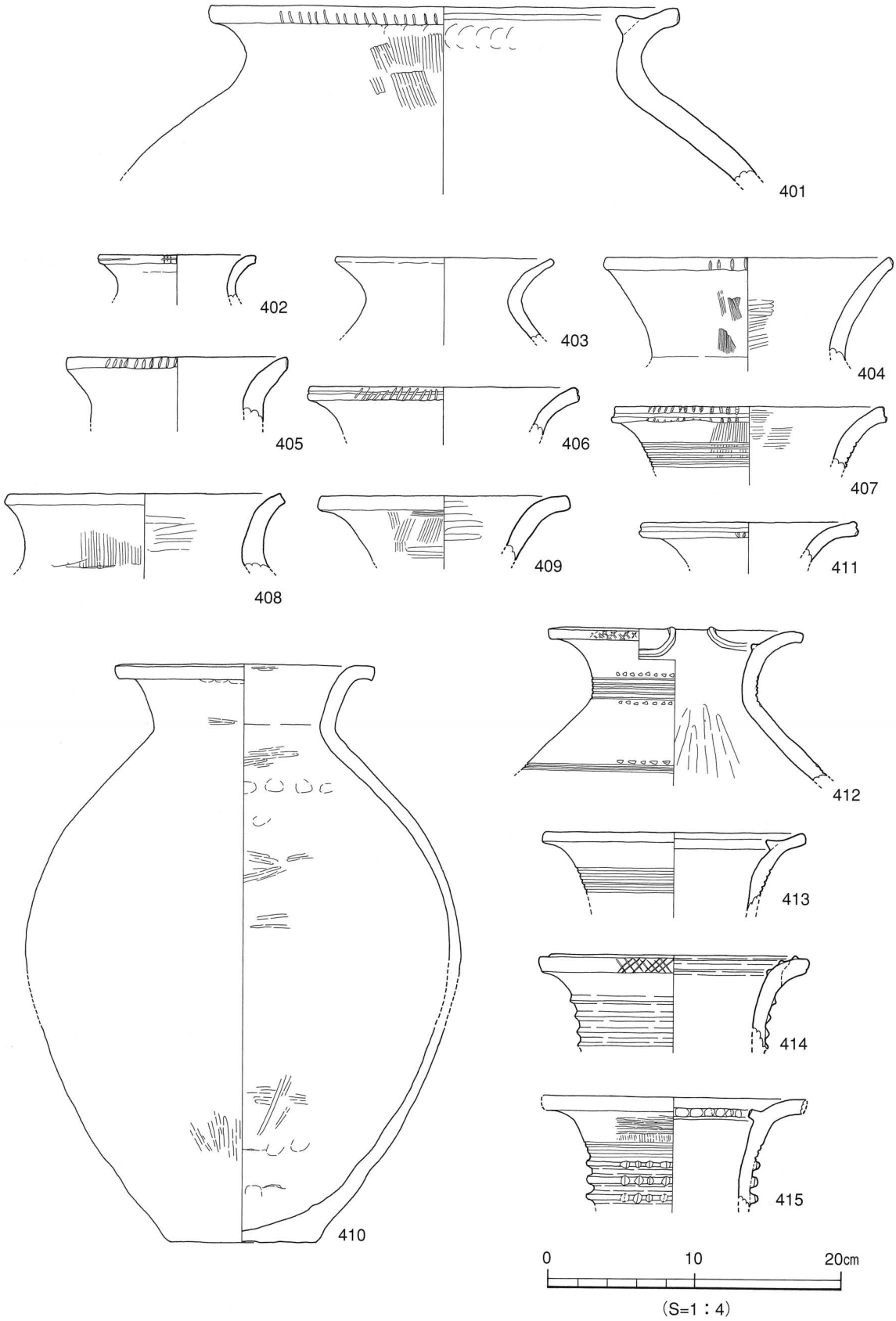
石　器(532～534)　532は赤色チャート製の平基無茎式石鏃である。完形品で、両面に初剥離面を残す。533・534は結晶片岩製の石斧である。533は加工斧の未製品で、刃部を欠損している。534は伐採斧の欠損品で、部分的に研磨痕が認められる。

⑧層出土遺物（第43図、535～540）

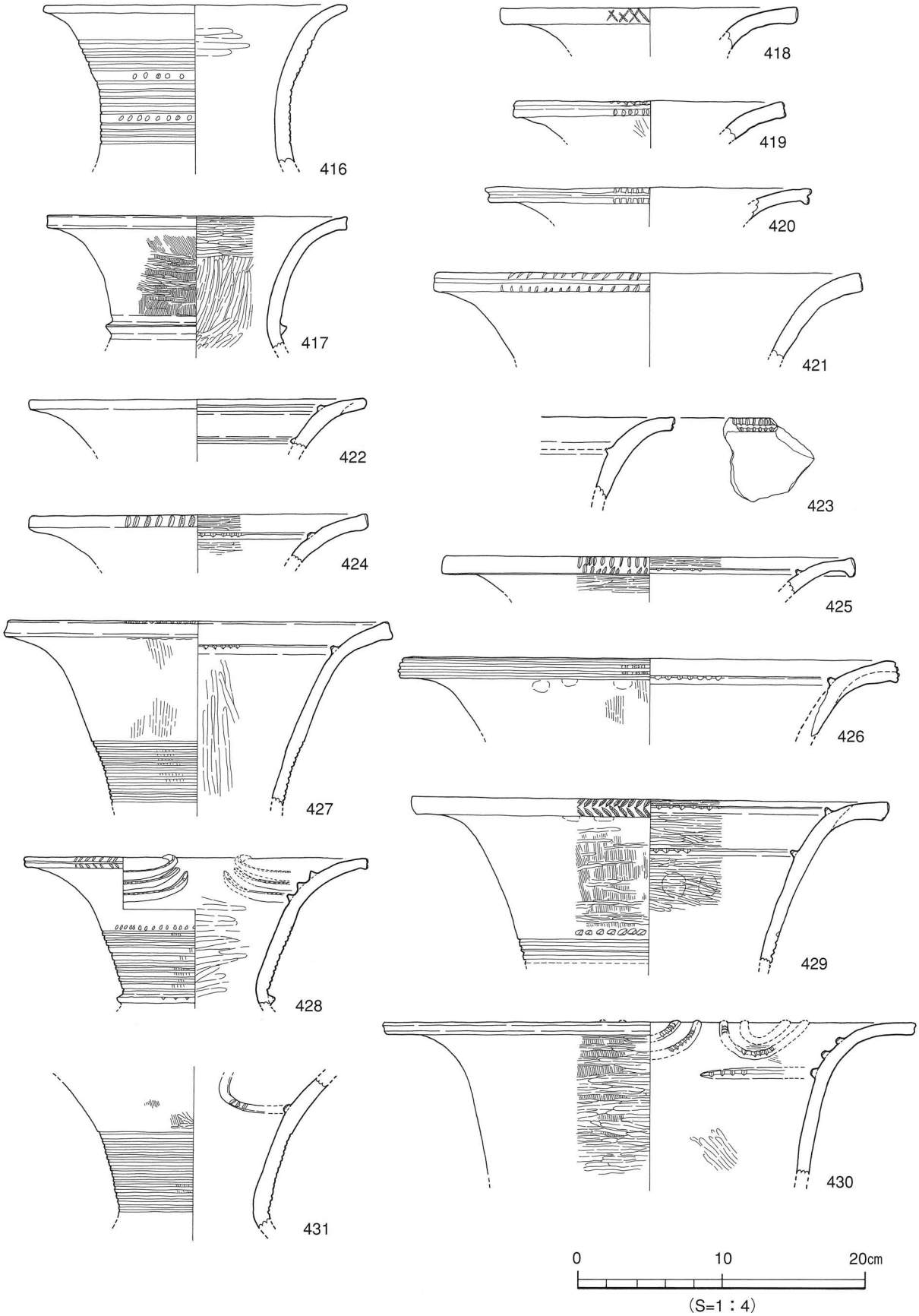
⑧層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される甕形土器と壺形土器が出土した。

甕形土器(535・536)　535は折り曲げ口縁で、胴部に沈線文7条を施す。536は底部片で、わずかにくびれる丸味をもつ平底となる。

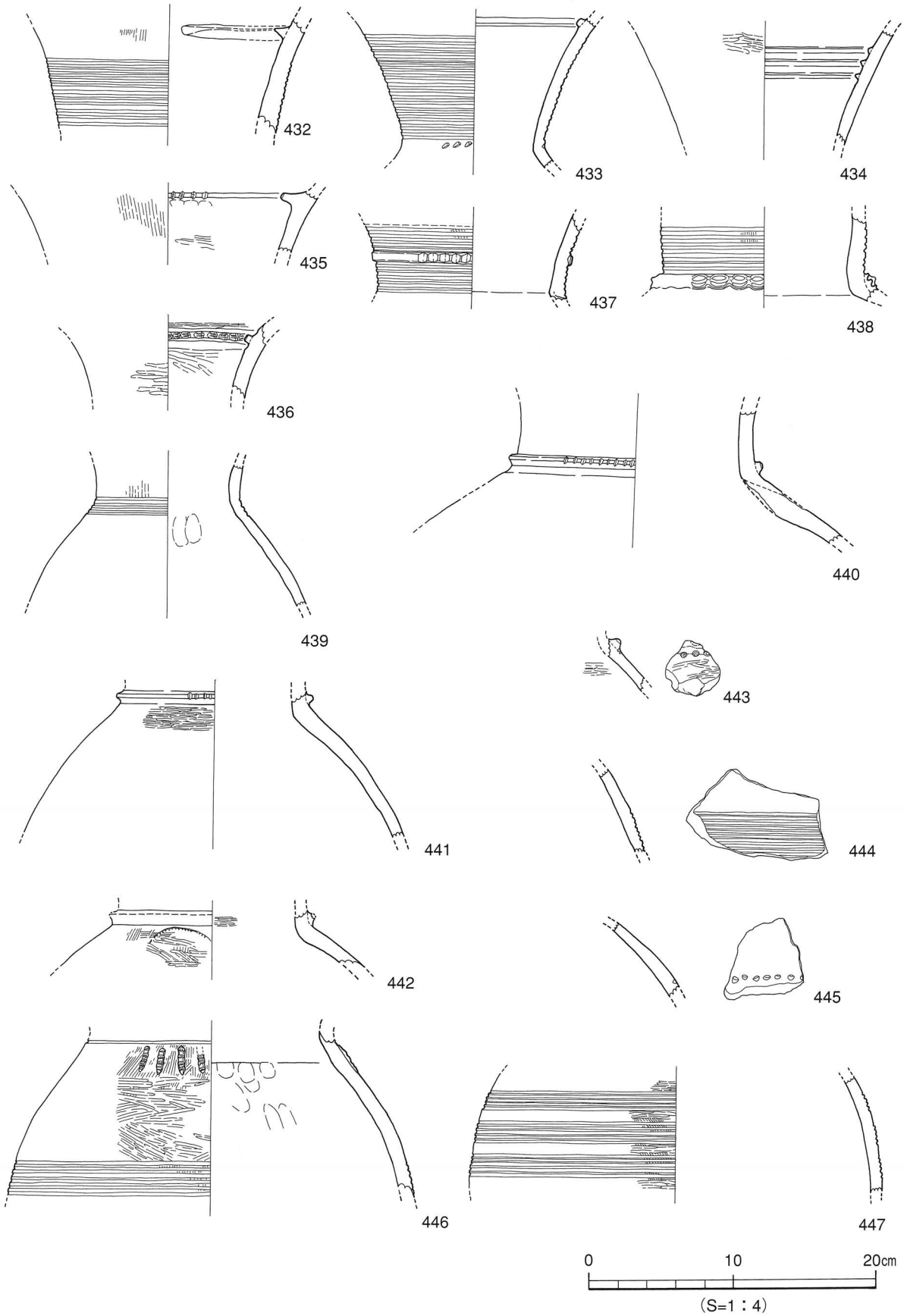
壺形土器(537～540)　537は外傾する頸部に大きく外反する口縁部をもつ。頸部外面に沈線文、内面に凸帯文の痕跡を残す。538は直立する頸部片で、刻目凸帯文を１条施す。539・540は底部片で、平底となる。



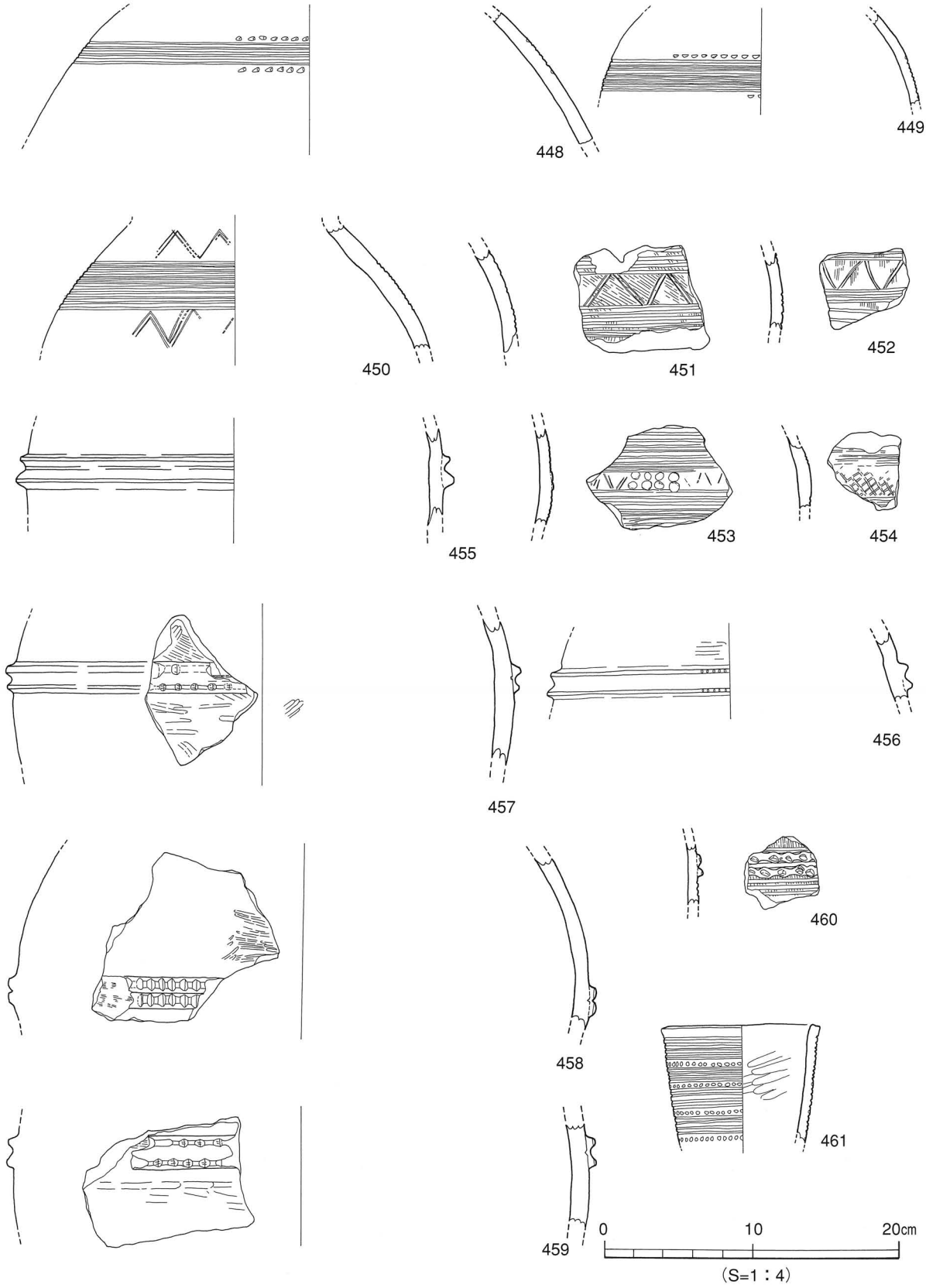
第35図　SD1⑤層出土遺物実測図(５)



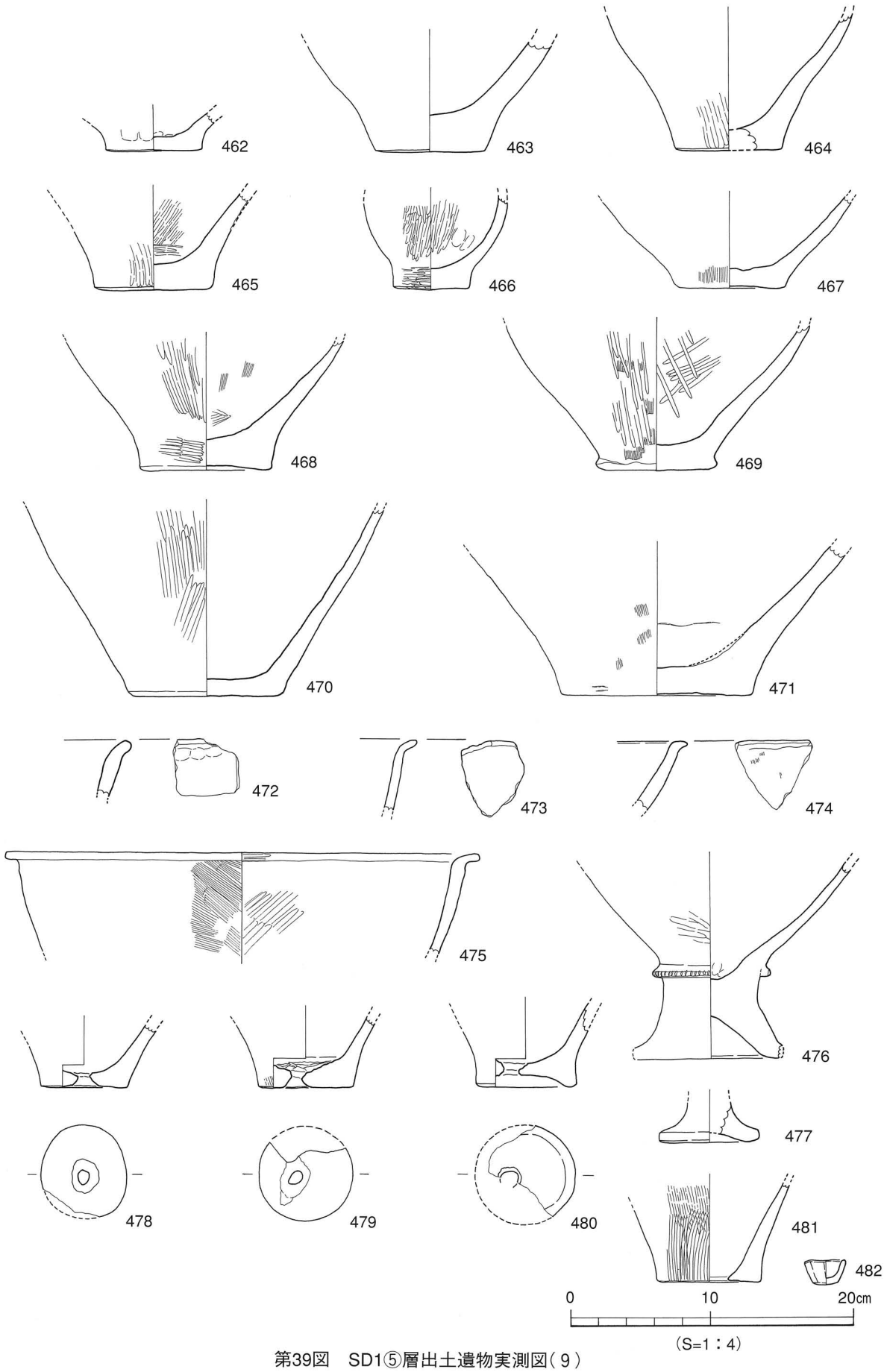
第36図　SD1⑤層出土遺物実測図（６）



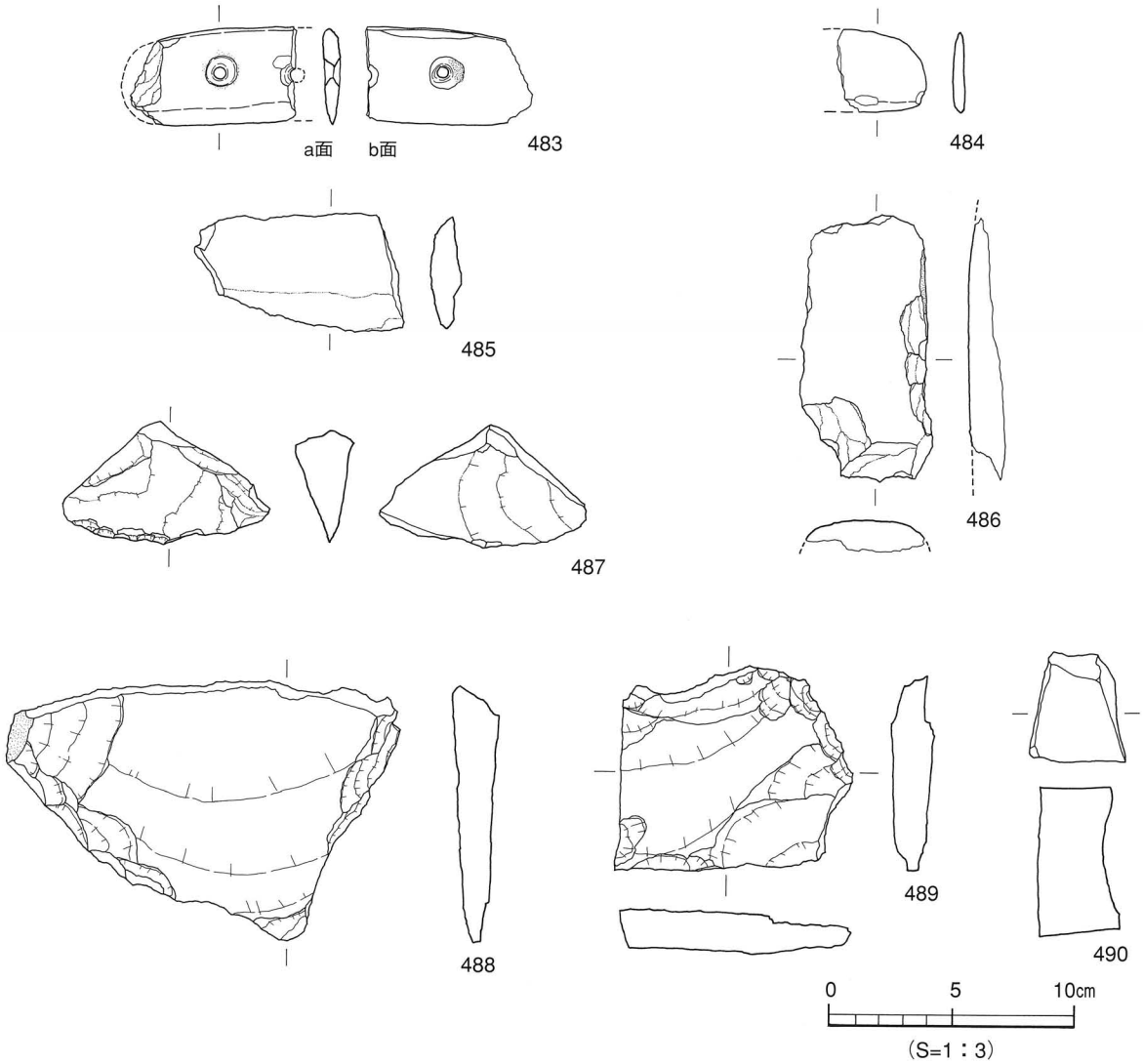
第37図　SD1⑤層出土遺物実測図(７)



第38図　SD1⑤層出土遺物実測図(８)



第39図　SD1⑤層出土遺物実測図(９)



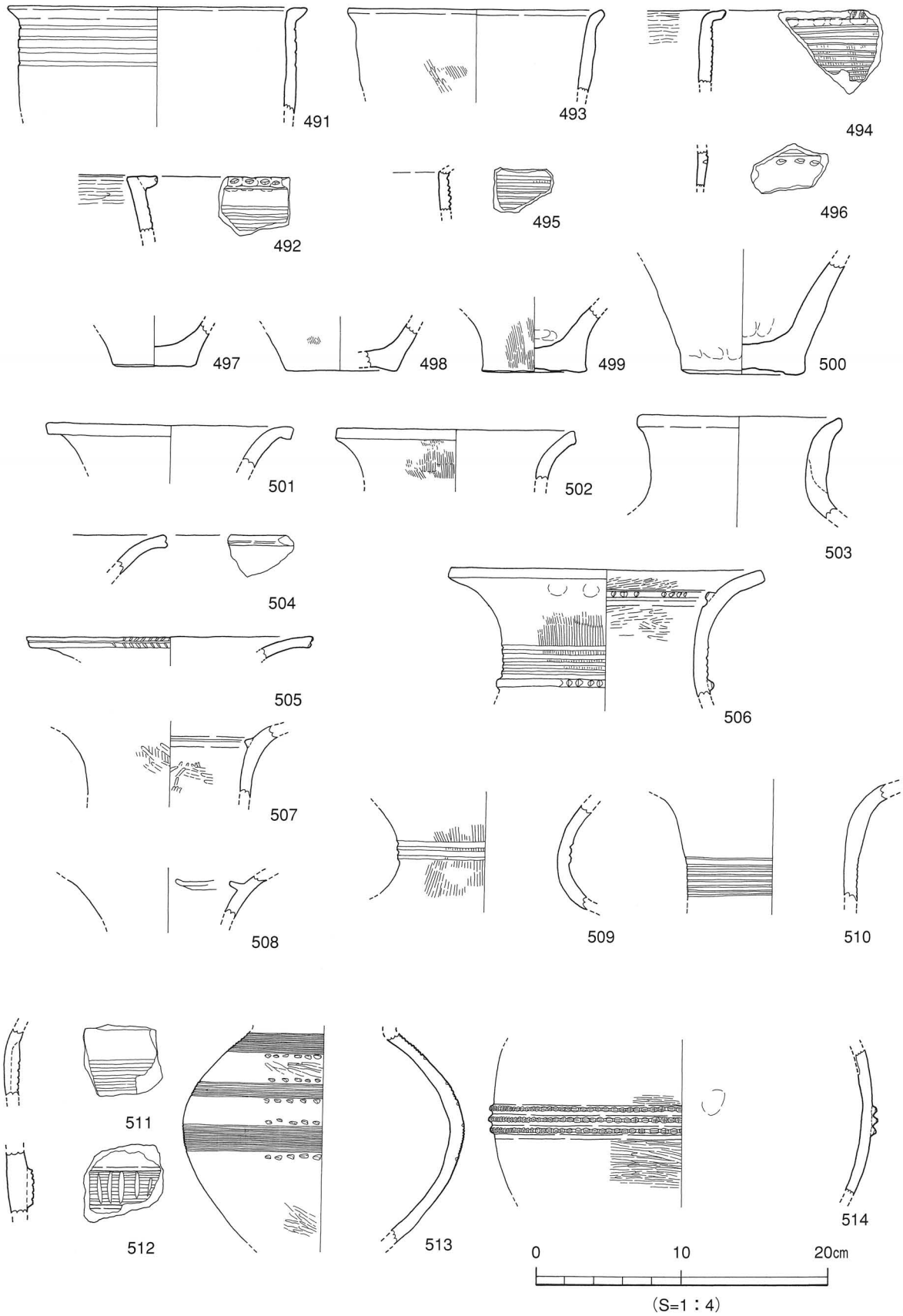
第40図　SD1⑤層出土遺物実測図(10)

地点不明出土遺物（第44図、541・542）

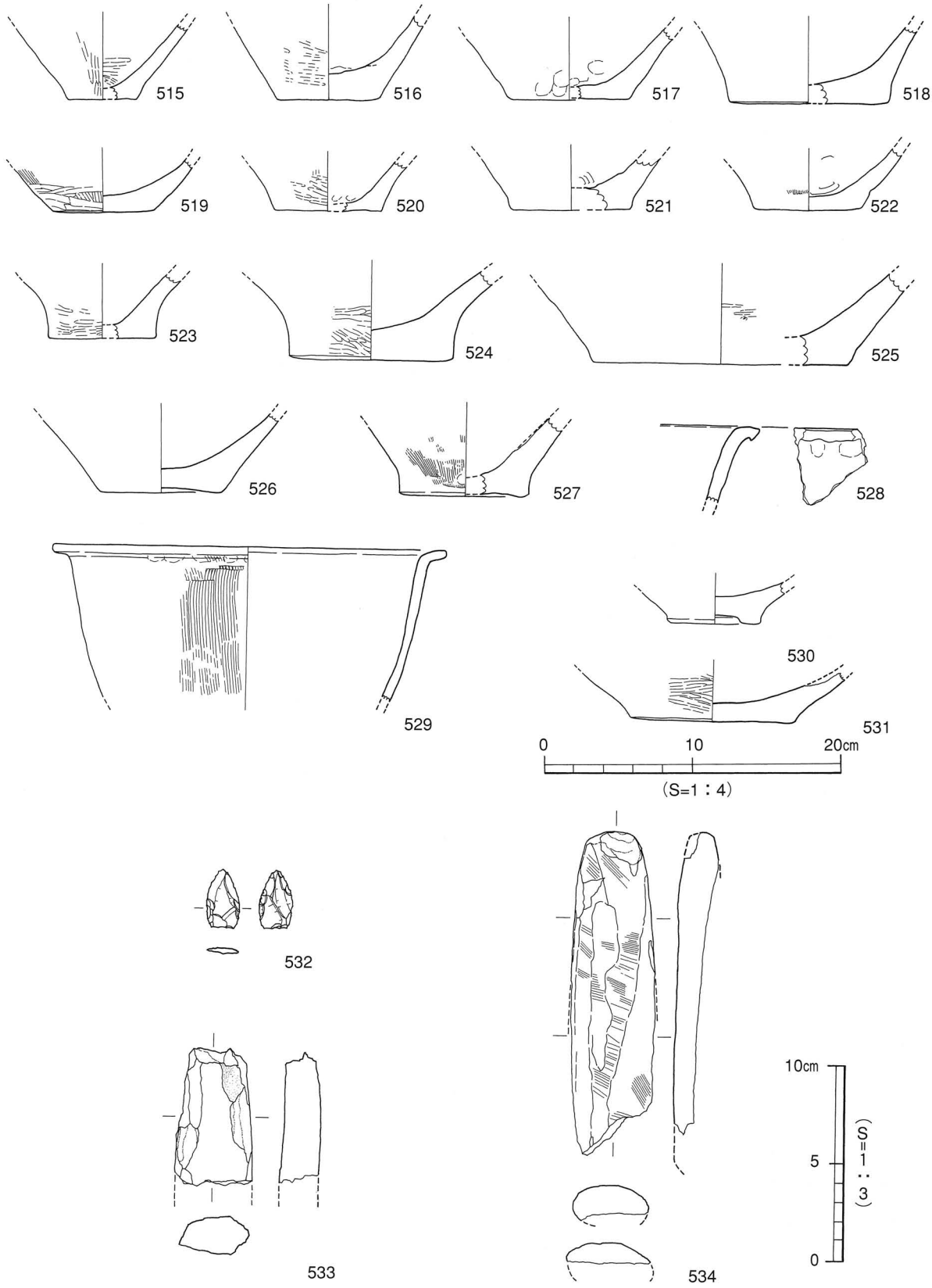
調査では、ＳＤ1出土遺物のうち出土地点や層位の不明なものが数点ある。ここでは、地点不明出土遺物として掲載する。

石　器(541･542)　541は伐採斧の欠損品とみられ、研磨痕が認められる。542は大陸系磨製石器。器種は不明である。

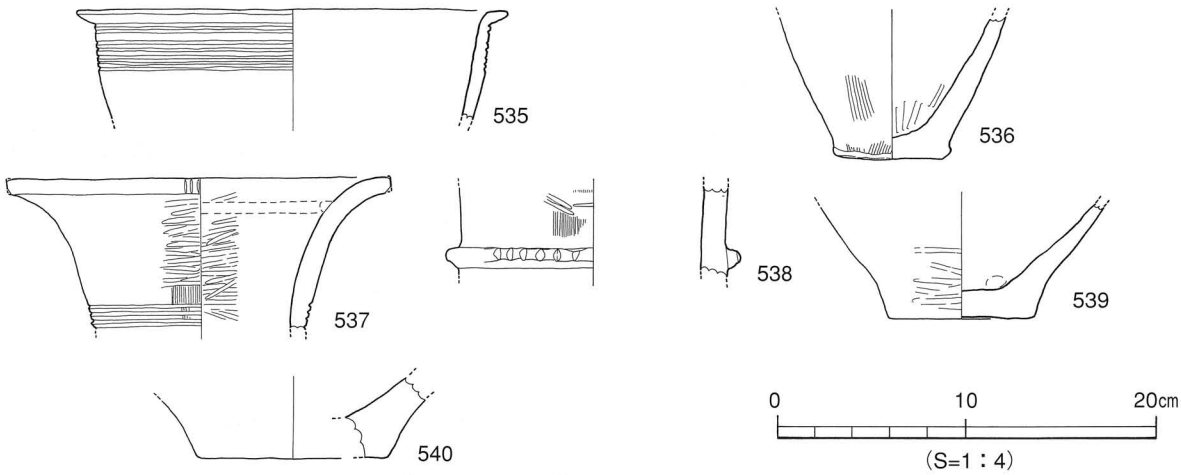
時期：出土した甕形土器、壺形土器は弥生時代前期末～中期初頭の形態を示している。よって、ＳＤ1は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第41図　SD1⑦層出土遺物実測図(１)



第42図　SD1⑦層出土遺物実測図(２)



第43図　SD1⑧層出土遺物実測図

第44図　SD1層位不明出土遺物実測図

ＳＤ2（第45～47図、図版８）

ＳＤ2は調査区東側、Ａ11～Ｄ11区に位置する。第Ｖ層上面での検出であり、第Ⅳ層が覆う。ここでは、発掘調査時の工程をふまえて、溝の構造と溝内から出土した遺物の説明を行う。

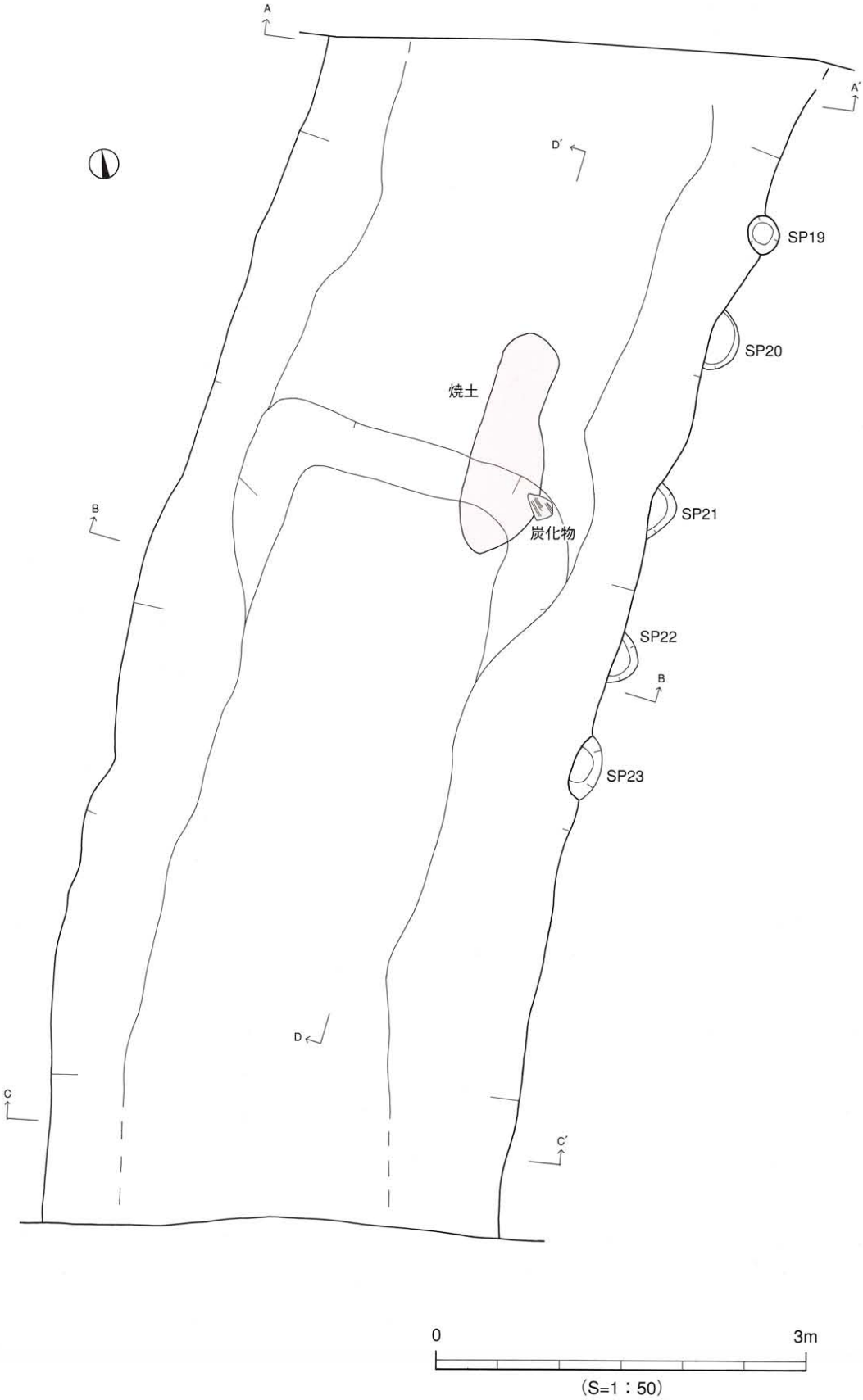
1）調査工程

まず、調査区北壁沿い(Ａ－Ａ′地点)と溝中央部(Ｂ－Ｂ′地点)、及び溝南側(Ｃ－Ｃ′地点)に幅50cmのトレンチを設定した（第45図)。トレンチの土層観察により、溝の埋土を7層(①～⑦層)に分層した。その後、①層から順に掘り下げをし、遺物の取り上げを行った。掘り下げでは、Ｂ－Ｂ′地点とＣ－Ｃ′地点に幅50cmのベルトを設定し、土層を確認しながら調査を進めた。

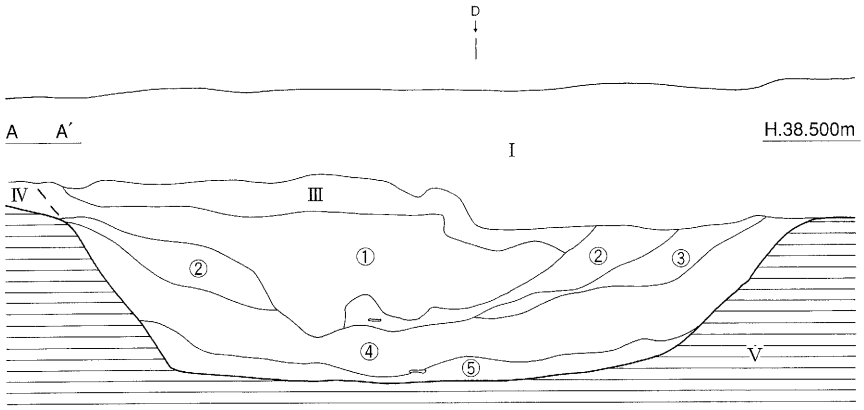
2）概　略

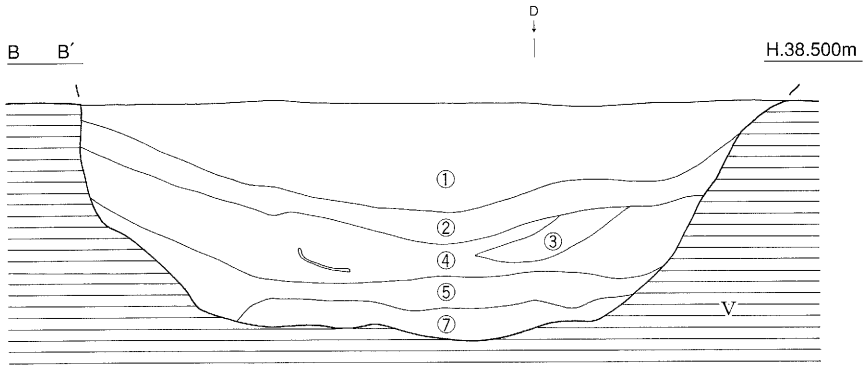
ＳＤ2の平面形状は、北東から南東方向に緩やかなカーブを描く。溝の規模は、幅3.95m、検出長9.70m、深さは検出面下1.1～1.5mを測る。溝東壁は2基のピット(ＳＰ19･23)に切られ、３基のピット(ＳＰ20～22)を切っている。ＳＤ1東側壁体とＳＤ2西側壁体との間隔は20mを測る。

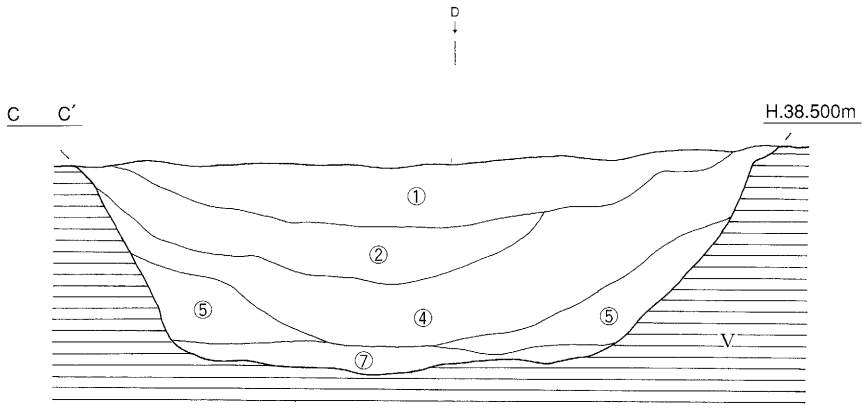
溝の断面形態は逆台形状を呈する。壁面の傾斜は、西側壁体に比べ東側壁体が緩やかになる。東壁では傾斜角50～50°、西壁では60～60°となる。溝基底面は北側が高く、中央部から南側は段状に低くなっている。(比高差30cm)。なお、溝基底面と壁体は第Ｖ層である。



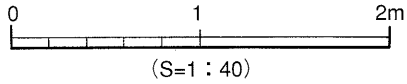
第45図　SD2測量図



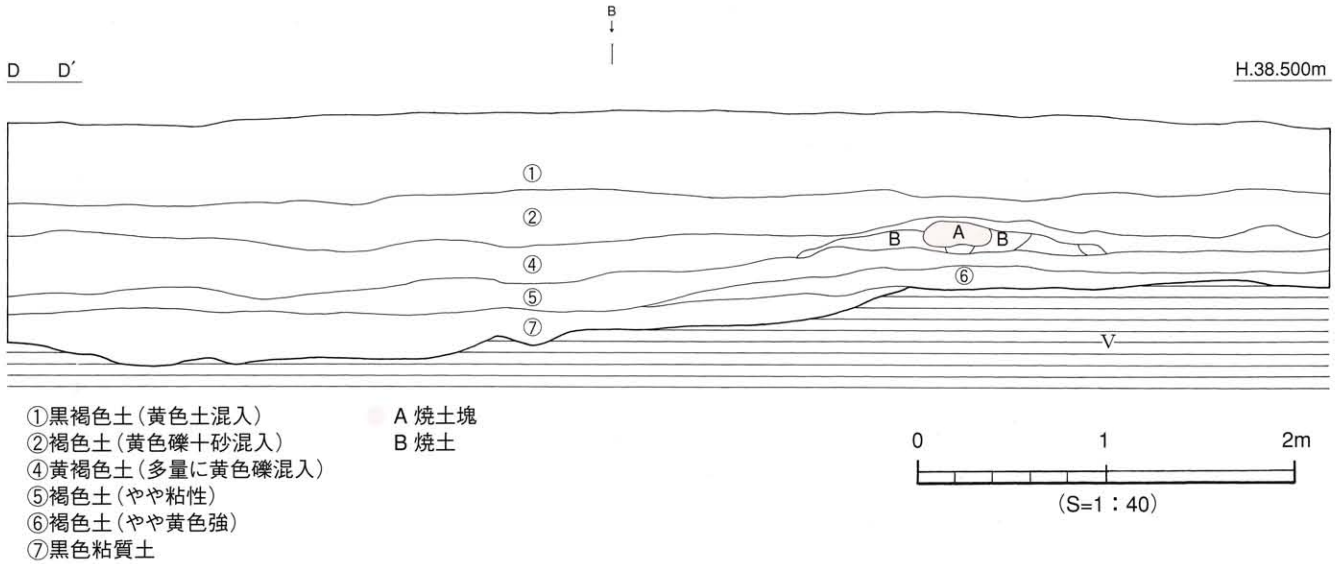




①黒褐色土（黄色土混入）
②褐色土（黄色礫十砂混入）
③黄褐色土（多量に黄色礫混入）
④黄褐色土（③より多く黄色礫混入）
⑤褐色土（やや粘性）
⑦黒色粘質土



第46図　SD2土層図（1）



第47図　SD2土層図（２）

遺物は土器と石器が出土した。土器は大半が弥生時代前期末から中期前葉に時期比定されるものであるが、中期後半の土器も数点出土している。埋土上位からは、須恵器片、鉄器片のほか、完形の管玉が１点出土した。

溝の埋土は、前述したとおり7層に細分される。①層は黒褐色土に黄色土がブロック状に混入するもので、溝北側では検出幅2.7m、層厚60cm、溝南側では検出幅3.3m、層厚30cmを測る。発掘調査時は、①層をＳＤ2埋土として掘り下げたが、整理作業の段階で、①層から時期の異なる土器(弥生中期後半)が比較的数多く出土した。調査壁及びベルトの土層観察より、ＳＤ1と同様、①層は本来、ＳＤ1とは異なる遺構の埋土と考えられる。このほか、①層中からは須恵器片と鉄器片、管玉が出土したが、これらの遺物もＳＤ1とは異なる別の遺構に伴うものであろう。

②層は褐色土に黄色土と砂礫を含む。層厚10～30cmを測る。③層は黄褐色土に礫が混入するもので、溝北東部のみに堆積し、層厚10～20cmを測る。③層中からの遺物の出土はない。④層は黄褐色土に、礫が多量に混入する。溝の中位付近に堆積し、層厚20～50cmを測る。④層掘り下げ時に、溝中央部付近から60×180cmの範囲に、厚さ10cmの焼土を検出した。⑤層は褐色土で粘性が強く、層厚15～25cmを測る。溝北半部では⑤層下に溝基底面を検出した。⑥層は褐色土に黄色土が混入するもので、溝北東部のみに堆積し、層厚5～10cmを測る。⑥層中からの遺物の出土はない。⑦層は黒色粘質土で、粘性が非常に強い。溝中央部から南側の溝基底面付近に堆積し、層厚10～15cmを測る。

各土層からの遺物の出土状況をみることにする。埋土上位の①・②層からは比較的多くの遺物が出土したが、埋土中位から下位の④・⑤・⑦層からは少量の出土量であった。

ここで、各層ごとに出土した遺物の説明を行う。

3）ＳＤ2出土遺物（第48～54図、図版17）

①層出土遺物（第48・49図、543～584）

①層中からは、弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器のほか、石器が出土した。土器は甕形土器、壺形土器があり、石器は扁平片刃石斧、砥石がある。このほか、須恵器片１点と鉄器片１点、完形の管玉１点が出土した。

甕形土器(543～564)　543・544は貼付口縁。543は無文、544は胴部に断面三角形状の凸帯文を1条貼り付ける。545・546は折り曲げ口縁。胴部に沈線文と刺突文を施す。546の沈線文は、2条1組の工具により施される。547は「く」の字状口縁。頸部に刻目凸帯文1条を貼り付ける。弥生中期後半。548～550は胴部片。548は無文、549・550は沈線文と刺突文を施す。

551～564は底部片。551～553・559～561はわずかに上げ底、554～558・562は平底となる。563・564はくびれをもつ上げ底となる（弥生中期後半）。

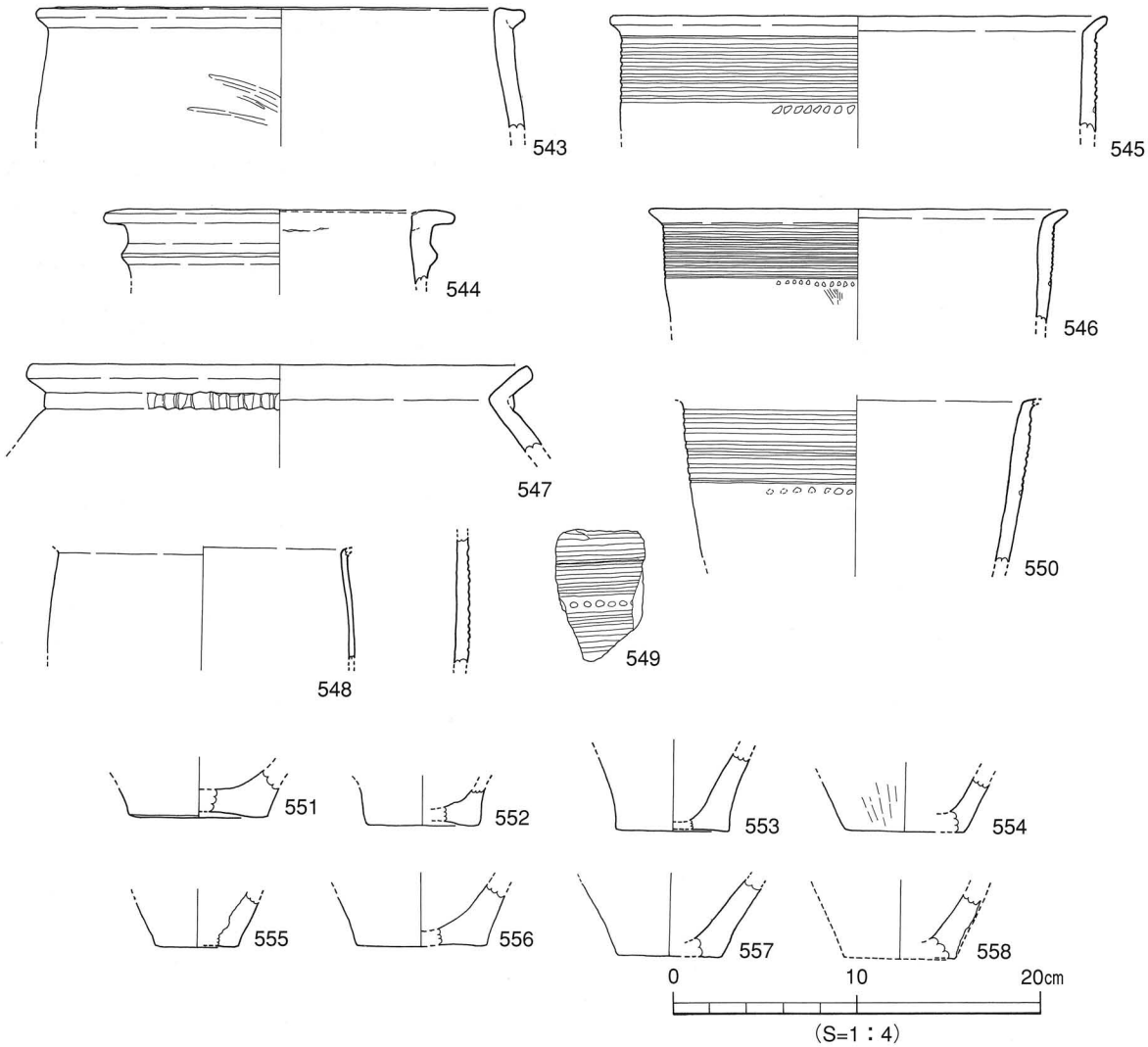
壺形土器(565～578)　565は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。566は口縁端部を上下方に拡張し、口縁端面に凹線文4条を施す(弥生中期後半)。567は頸肩部片。頸部に刻目凸帯文1条をもつ。

568～578は底部片。568は上げ底、その他は平底となる。

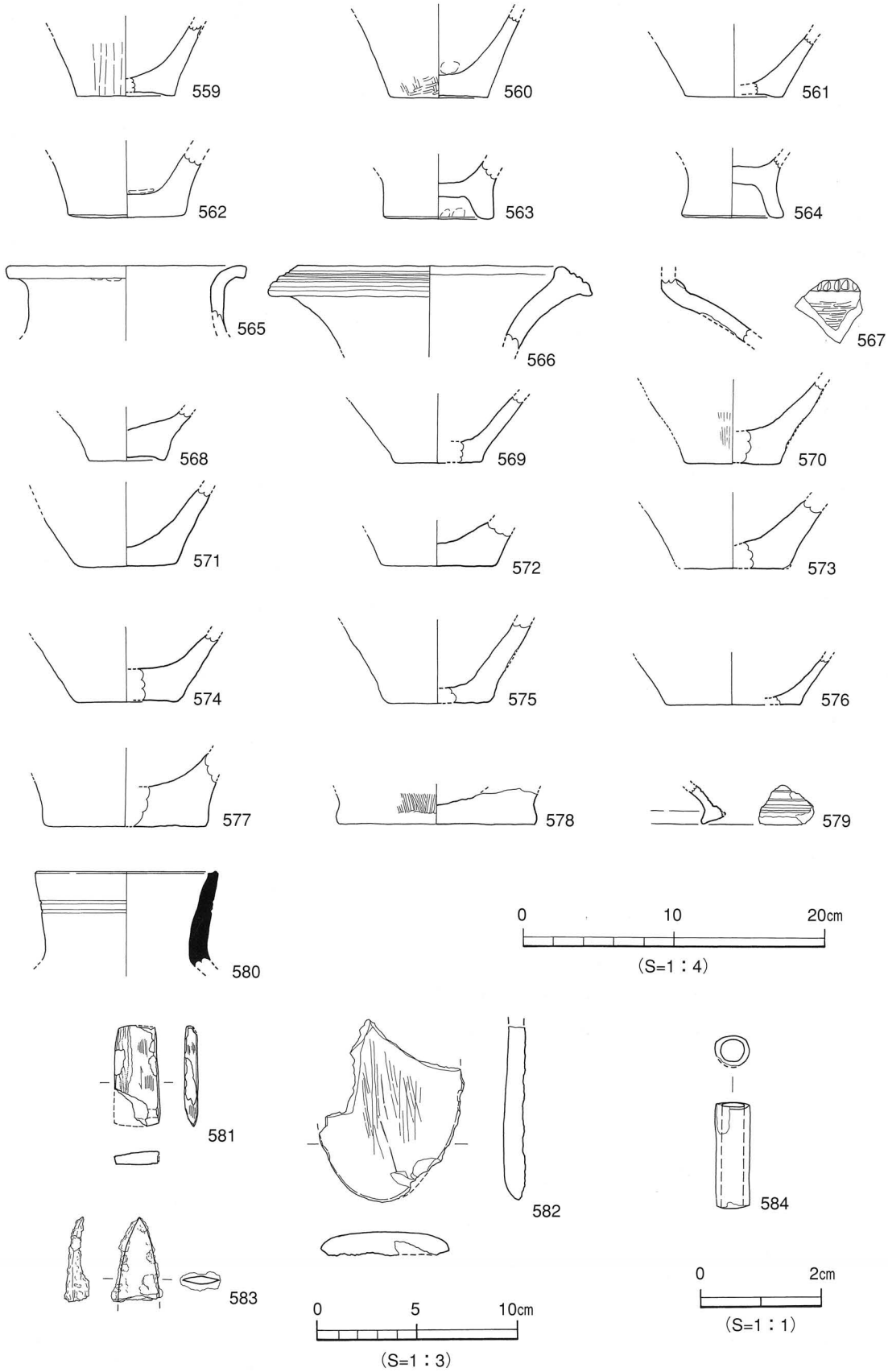
高坏形土器(579)　579は高坏形土器の脚部片。脚裾部に凹線文4条以上を施す（弥生中期後半）。

須恵器(580)　580は須恵器の壺。頸部に沈線文2条を施す（古墳時代後期）。

石　器(581・582)　581は扁平片刃石斧である。刃部の一部が欠損している。刃部に研ぎ直した痕跡が認められる。結晶片岩製。582は手持ちの砥石である。片面に線状の使用痕が認められる。



第48図　SD2①層出土遺物実測図(1)



第49図　SD2①層出土遺物実測図(２)

鉄　器(583)　583は鉈もしくは剣の先端部と思われる。

装身具(584)　584は碧玉製の管玉である。色調は濃緑色を呈し、重さ7.2ｇを測る。

②層出土遺物（第50図、585～604）

②層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器と須恵器が出土した。土器の中には、外来的要素の強いものが1点(587)出土している。このほか、石器素材が１点出土した。

甕形土器(585～594)　585は貼付口縁。胴部に沈線文６条を施す。586･587は折り曲げ口縁。586は口縁端面に刻目を施す。587は口縁端面にヘラ描き沈線文１条と刻目、胴部に２条１組の工具による沈線文と山形文を施す。外来系。588は胴部片で、２条１組の工具による沈線文と刺突文を施す。口縁部内面はヨコ方向のヘラミガキ調整、胴部内面はナデ調整を施す。589は口縁端部より下がる位置に粘土紐を貼り付けて成形する。口縁端面は「コ」字状に仕上げる。

590～594は底部片。590･593･594は平底、591･592はわずかに上げ底となる。

壺形土器(595～600)　595は口縁部が外反し、口縁端面はナデによりくぼむ。外面は刷毛目調整後、ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整を施す。596は外傾する頸部片で、断面三角形状の凸帯文を1条施す。597は胴部片で、「M」字状の凸帯文(上段のみ押圧)１条と凸帯文(押圧)１条及び沈線文を施す。598～600は底部片で、598はわずかに上げ底、599･600は平底となる。

蓋形土器(601･602)　601はつまみ上面は大きくくぼみ、602は緩やかにくぼむ。調整方法は摩滅が著しく不明である。

須恵器(603)　603は須恵器の壺である。口縁部外面は肥厚する（古墳後期)。

石　器(604)　604は石器素材と思われる。結晶片岩製。

④層出土遺物（第51・52図、605～631）

④層中からは、弥生時代前期末から中期前葉と中期後半に時期比定される土器が出土した。石器は、サヌカイト製のスクレイパーが1点出土した。

甕形土器(605～619)　605～607は貼付口縁。胴部にヘラ描き沈線文を施す。607は口縁端面に連鎖状刻目文２列を施す。608～611は折り曲げ口縁。608･609は胴部にヘラ描き沈線文、口縁端面に刻目を施す。611は２条１組による沈線文と刺突文を施す。調整方法は606･608の内面がヘラミガキ調整、その他はナデ調整である。612は胴部片で、ヘラ描き沈線文を施す。613は「く」の字状口縁を呈し無文（弥生中期後半)。

614～619は底部片。614･616･619はわずかに上げ底、615･618･619は平底となる。

壺形土器(620～629)　620･621は内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。620は頸部にヘラ描き沈線文7条、肩部にヘラ描きの弧文3条を施す。口頸部外面は刷毛目調整、胴部外面はヘラミガキ調整を施す。621は頸部にヘラ描き沈線文1条を施す。622･623は頸部片。622は沈線文と刻目凸帯文、623は凸帯文を施す。623の内面には注口状の凸帯文を施す。622は内外面共に、丁寧なヘラミガキ調整を施す。

624～629は底部片。624はわずかに上げ底、その他は平底となる。

鉢形土器(630)　630は貼付口縁。無文。内外面共に、ナデ調整を施す。

石　器(631)　631は完形のスクレイパーである。サヌカイト製。

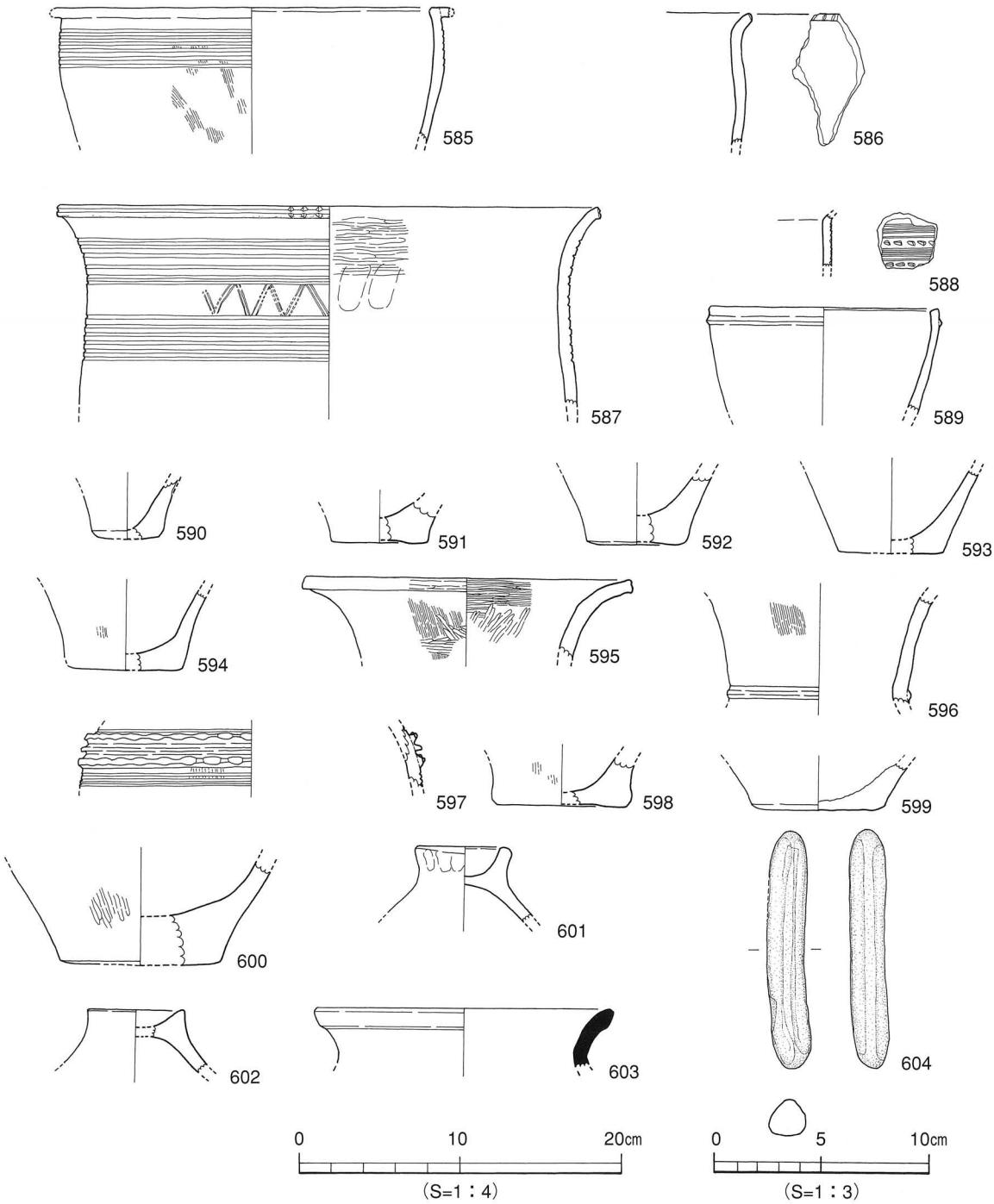
⑤層出土遺物（第53図、632～643）

⑤層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器のほか、石器素材が１点出土した。

甕形土器(632～634)　632は折り曲げ口縁。無文。633・634は底部片で、平底となる。

壺形土器(635～642)　635・636は直立する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。635は頸部にヘラ描き沈線文１条を施す。637は口頸部片で、内面に凸帯文１条を施す。638・639は頸部片。ヘラ描き沈線文と凸帯文を施す。640～642は底部片。640は平底、641・642はわずかに上げ底となる。

石　器(643)　643は石器素材と思われる。結晶片岩製。

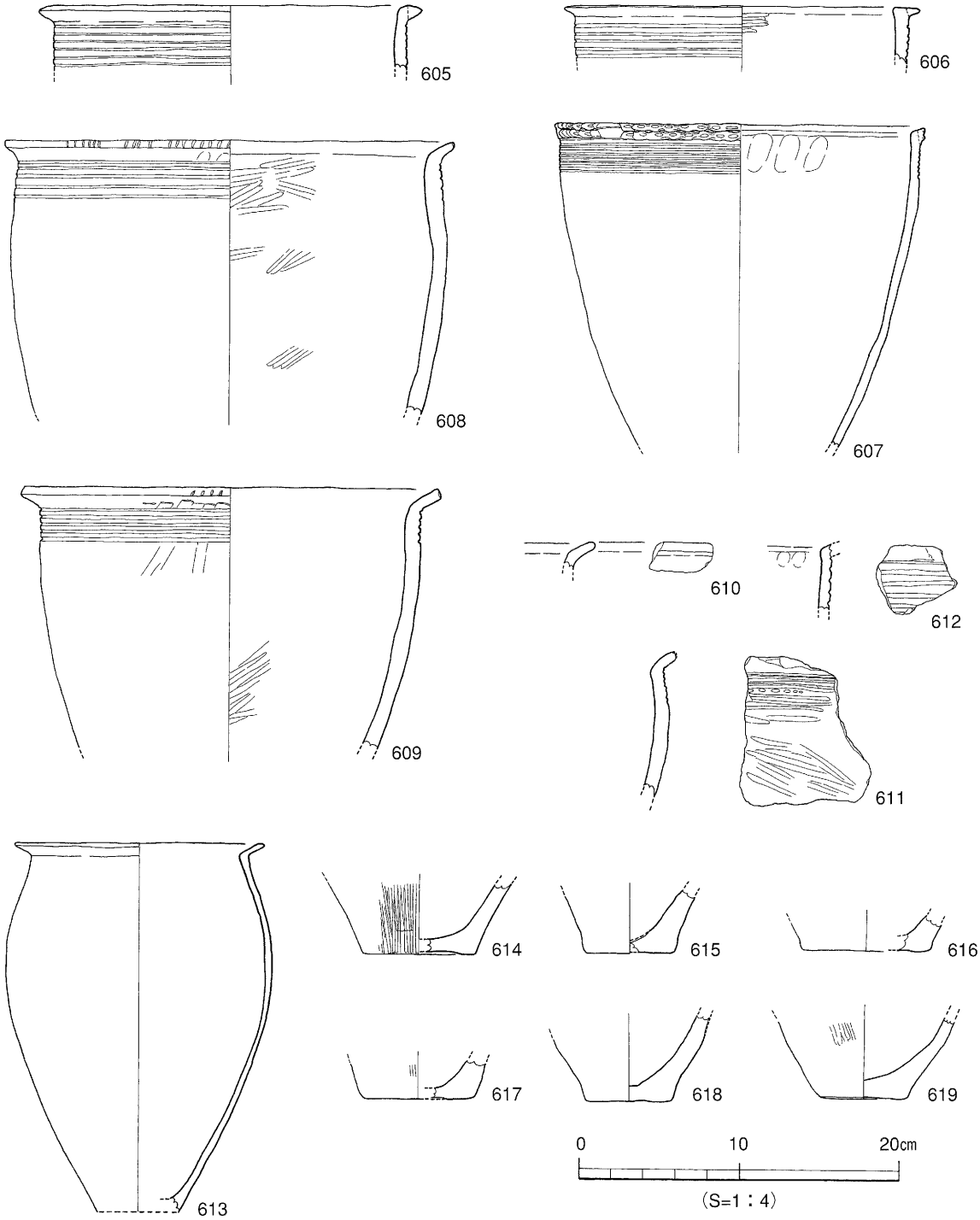


第50図　SD2②層出土遺物実測図

⑦層出土遺物（第54図、644～652）

⑦層中からは、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器と、柱状片刃石斧が１点出土した。

壺形土器(644～650)　644･645は直立する頸部に、短く外反する口縁部をもつ。644は頸部にヘラ描き沈線文、645は凸帯文１条を施し、凸帯上に連鎖状刻目文2列を加える。645の内面には凸帯文1条を施す。646･647は肩～胴部片。647は格子目文を施す。648～650は底部片。648･649はわずかに上げ底、650は平底となる。



第51図　SD2④層出土遺物実測図(１)

鉢形土器(651)　651は貼付口縁。無文。内面にヨコ方向のヘラミガキ調整を施す。

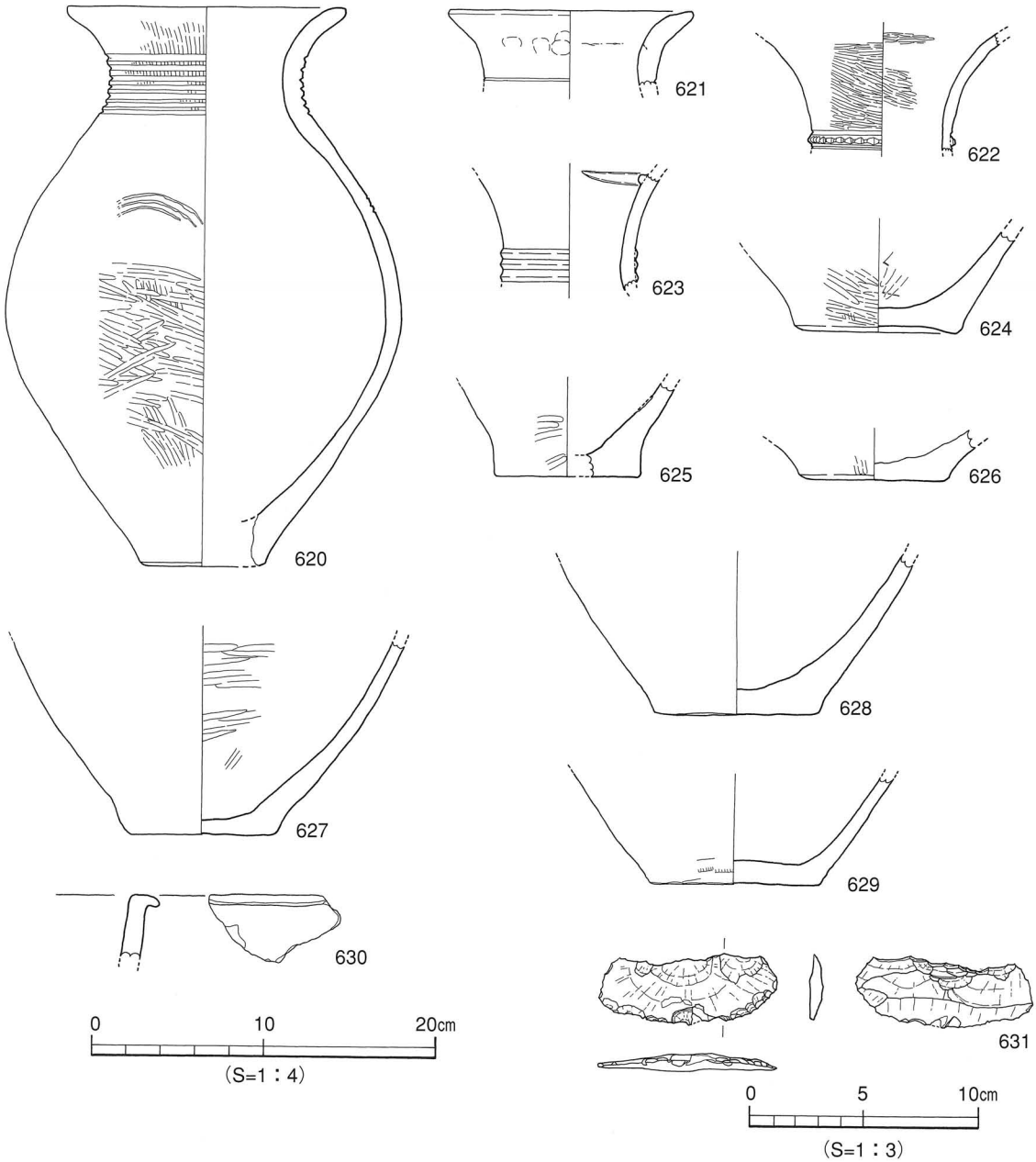
石　器(652)　652は柱状片刃石斧である。刃部は欠損している。石材は不明。

地点不明出土遺物（第54図、653）

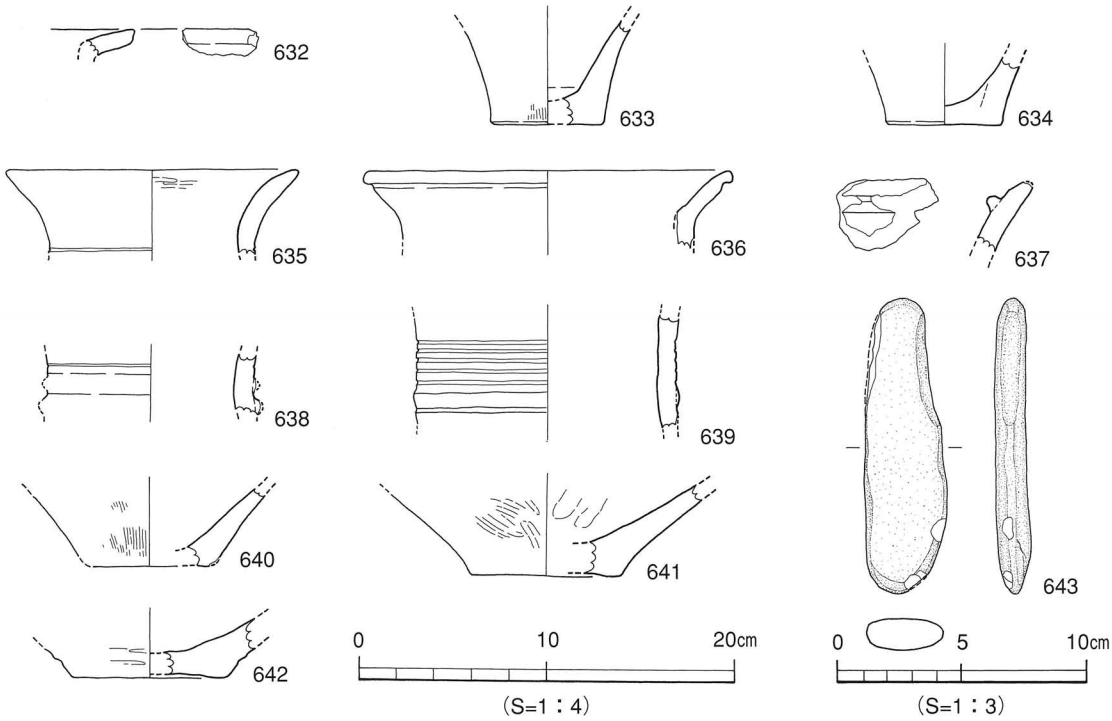
ＳＤ2からは、出土層位や出土地点の不明な遺物が少量ある。ここでは、地点不明出土遺物として掲載する。

石　器(653)　653はほぼ完形の石庖丁の未製品である。結晶片岩製。

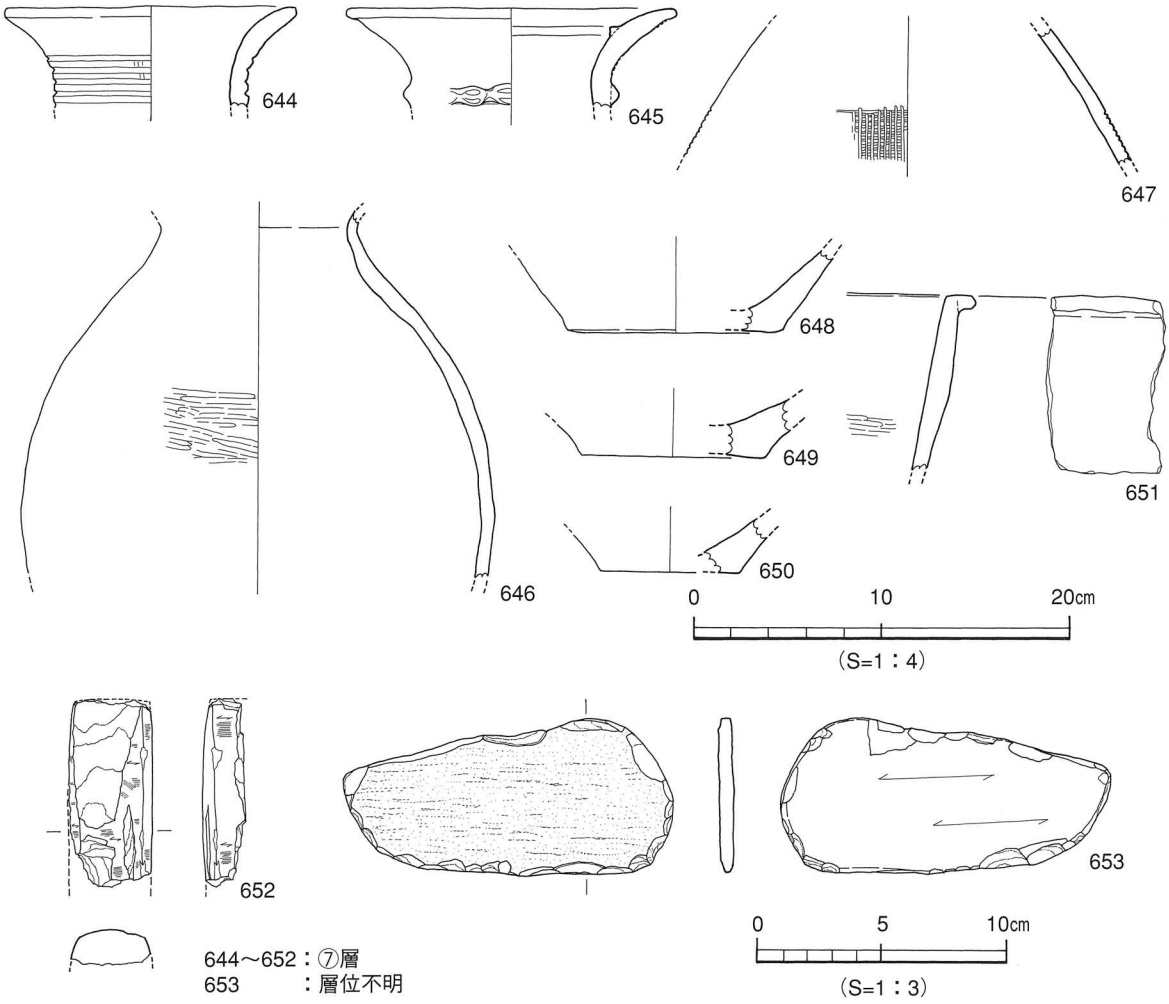
時期：出土した甕形土器、壺形土器は弥生時代前期末～中期初頭の形態を示している。よって、ＳＤ2は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第52図　SD2④層出土遺物実測図（２）



第53図　SD2⑤層出土遺物実測図



第54図　SD2⑦層・層位不明出土遺物実測図

(2) 土　坑 (SK)

弥生時代の土坑は16基を検出した。時期別にみると、前期末～中期初頭の土坑は11基、中期後半の土坑は５基となる。前者は平面形態で３種類に分類でき、長方形土坑４基、楕円形土坑４基、方形土坑３基となる。ここでは、時期と平面形態別に各土坑の説明をする。

1) 弥生時代前期末～中期初頭

①長方形土坑

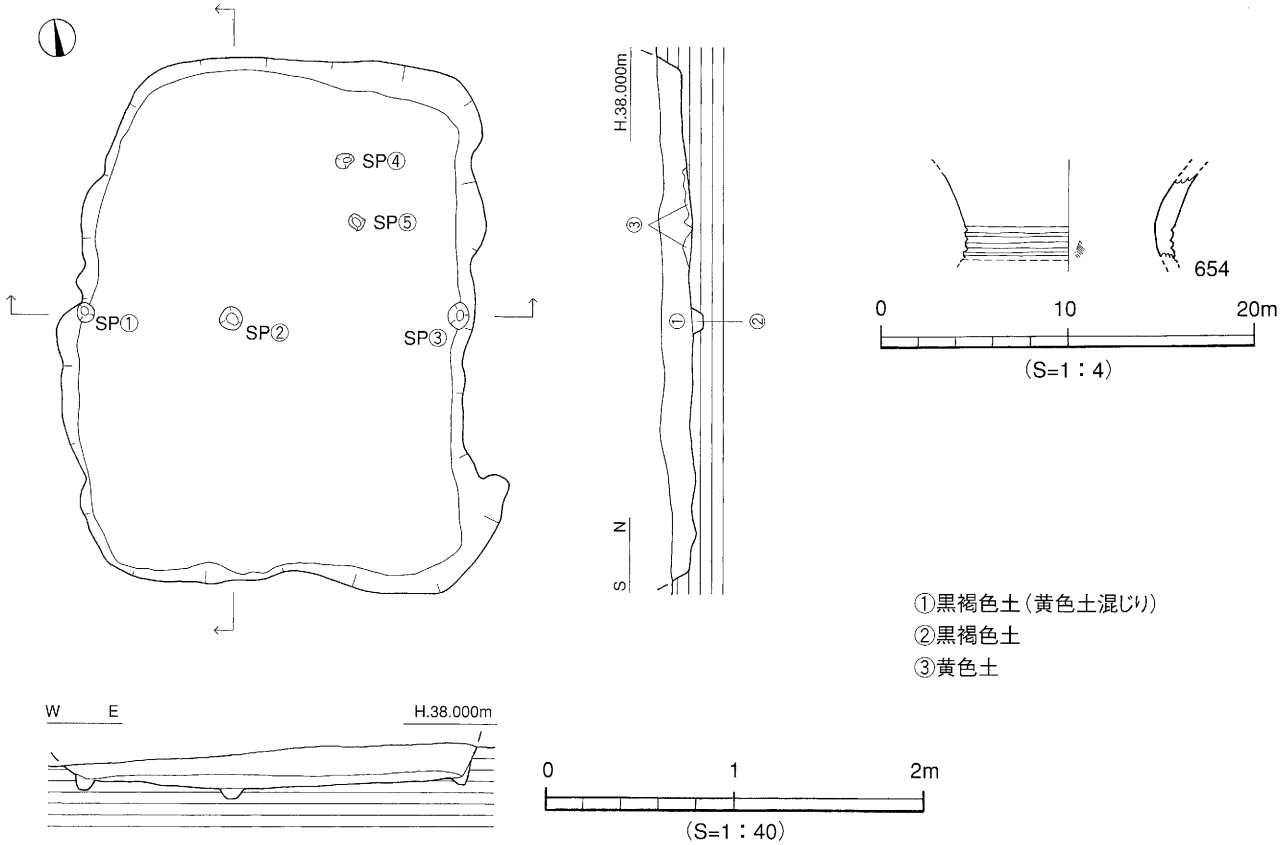
ＳＫ2（第55図・図版９）

調査区中央部、Ｂ6～Ｃ7区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ2.80m、幅2.22m、深さ16cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土に黄色土が混入する。基底面には凹凸があり、遺構北側がやや高くなっている。基底面北半部からは径10～15cmの小ピット5基(ＳＰ①～⑤)を検出した。そのうちの３基(ＳＰ①～③)は、東西主軸上の東西壁際と中央部に直線上に並んでいる。ピット埋土はすべて黒褐色土単層である。遺物は埋土中より、弥生土器片が少量出土した。

出土遺物

壺形土器(654)　654は緩やかに外反する頸部片で、ヘラ描き沈線文４条以上を施す。

時期：出土した遺物の特徴と土坑埋土がＳＤ1･2と酷似することから、ＳＫ2は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第55図　SK2測量図・出土遺物実測図

ＳＫ3（第56図）

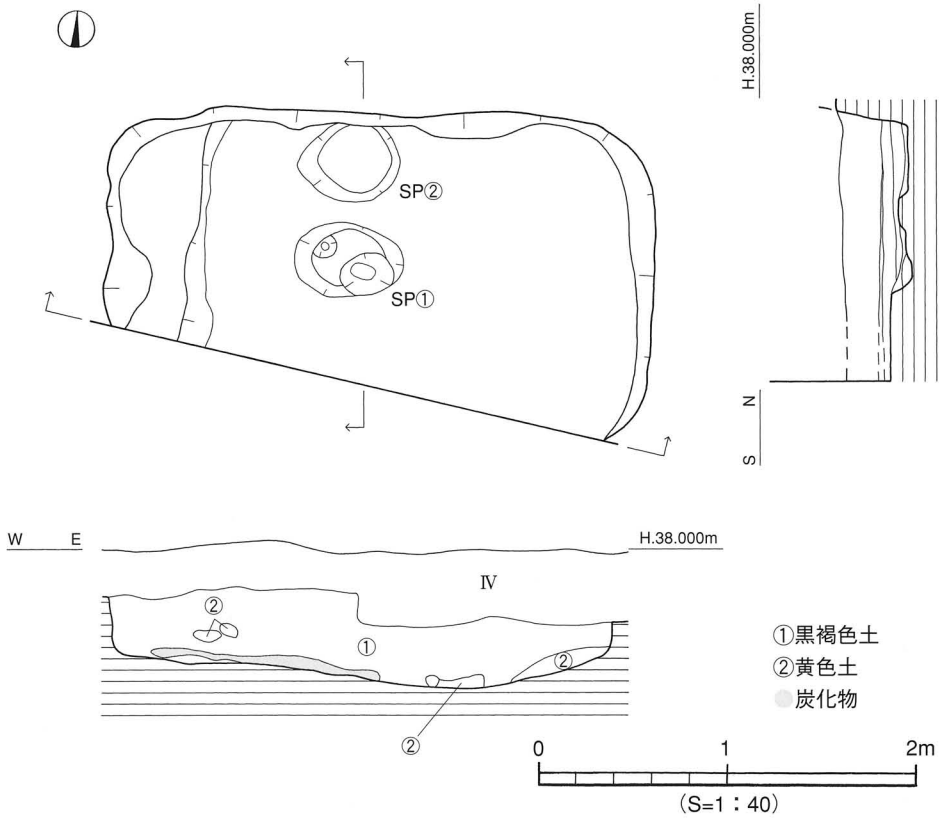
調査区中央部南側、Ｄ6･7区に位置する。遺構の南部分は調査外に続く。平面形態は長方形を呈するものとみられ、規模は東西長2.94m、南北検出長1.60m、深さ45cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土単層であるが、黄色土がブロック状に混入する。基底面は西側に幅20～30cmの浅いテラスをもち、中央部北側には径50cm、深さ10cmのピット2基(ＳＰ①・②)を検出した。ピット埋土は黒褐色土単層である。基底面南西部にて炭化物を検出したが、平面プランは図化していない。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく時期判断はしかねるが、土坑埋土がＳＫ2と酷似することから、ＳＫ3は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。

ＳＫ11（第57図）

調査区中央部北西寄り、Ｂ６区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ0.80m、幅0.54m、深さ21cmを測る。今回検出した土坑の内では、最も規模の小さな土坑である。断面形態は皿状で、土は黒褐色土単層であるが、土坑西壁付近に焼土と褐色土がブロック状に混入する。また、基底面にて炭化物を検出したが、これらの平面プランは図化していない。基底面中央部やや北寄りにて、小ピット１基(ＳＰ①)を検出した。規模は径10cm、深さ10cmを測り、埋土は黒褐色土単層である。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時期：出土した遺物と埋土より、ＳＫ11は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



第56図　SK3測量図

ＳＫ10（第58図・図版９）

調査区中央部、Ｂ６区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ1.30m、幅0.80m、深さ20cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土単層である。基底面南側より小ピット１基(ＳＰ①)を検出した。規模は径10cm、深さ５cmを測り、埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土単層である。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：出土遺物がなく、時期特定はしかねるが、埋土がＳＫ14に酷似することから、ＳＫ10は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

ＳＫ14（第59図）

調査区中央部北東寄り、Ａ・Ｂ９区で検出した。遺構南西部は遺存状況が悪く、壁体は消失している。平面形態は長方形を呈するものとみられ、規模は長さ3.20m、幅2.10m、深さ10cmを測る。断面形態は皿状であり、埋土は黒褐色土単層である。基底面は中央部がわずかに凹むが、ほぼ平坦である。基底面にて大小４基のピット(ＳＰ①～④)を検出した。ピット埋土はすべて黒褐色土単層である。遺物は埋土中より弥生土器片が少量出土したが、図化しうるものはない。

時期：出土した遺物と埋土より、ＳＫ14は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。

②楕円形土坑

ＳＫ1（第60図・図版９）

調査区中央部、Ｃ6～Ｄ7区に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径2.83m、短径1.94m、深さ35cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色土単層であるが、北壁中央部にのみ黒色粘質土が堆積する。基底面には貼り床が施されている。貼り床は黒褐色土(黄色土混じり)で構築され、厚さ10cmを測る。基底面の東西壁際からは円形ピット２基(ＳＰ①・②)を検出した。規模は径20cm、深さ15cmを測る。ピット埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土単層である。遺物は埋土中より、弥生土器片が数点と石器１点が出土した。

出土遺物

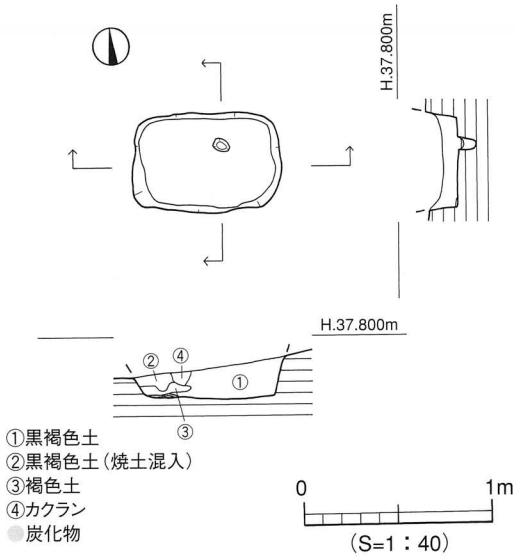
石器(655)　655はスクレイパーである。片刃で片面より刃部が作られる。

時期：出土遺物が僅少で時期特定はしかねる。土坑埋土がＳＤ1･2と類似することから、ＳＫ1は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。

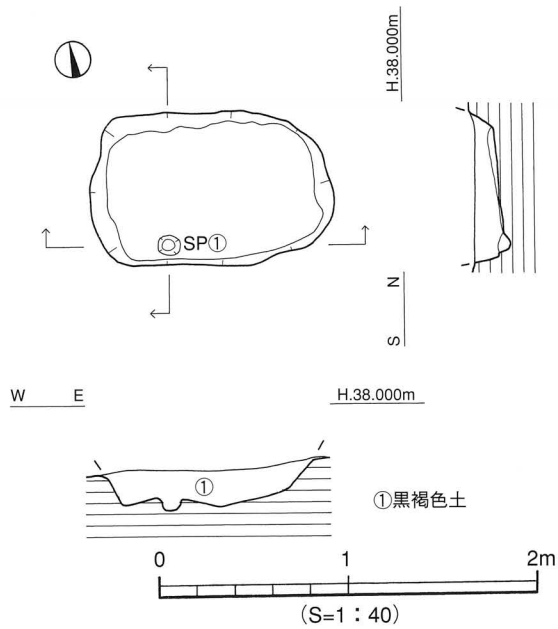
ＳＫ12（第61図）

調査区中央部北東寄り、Ｂ8区に位置し、調査区北壁に接するように検出した。平面形態は不整の楕円形を呈し、規模は長径2.22m、短径1.80m、深さ19cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は黒褐色土を基調とし、黄色土がブロック状に混入する。基底面は西側がわずかに高く、テラス状の平坦面をもち、東側は土坑中央部に向かって緩やかに傾斜している。テラスと土坑基底面との境に小ピット１基(ＳＰ①)を検出した。規模は径20cm、深さ10cmを測り、埋土は黒褐色土単層である。土坑内からの遺物の出土はない。

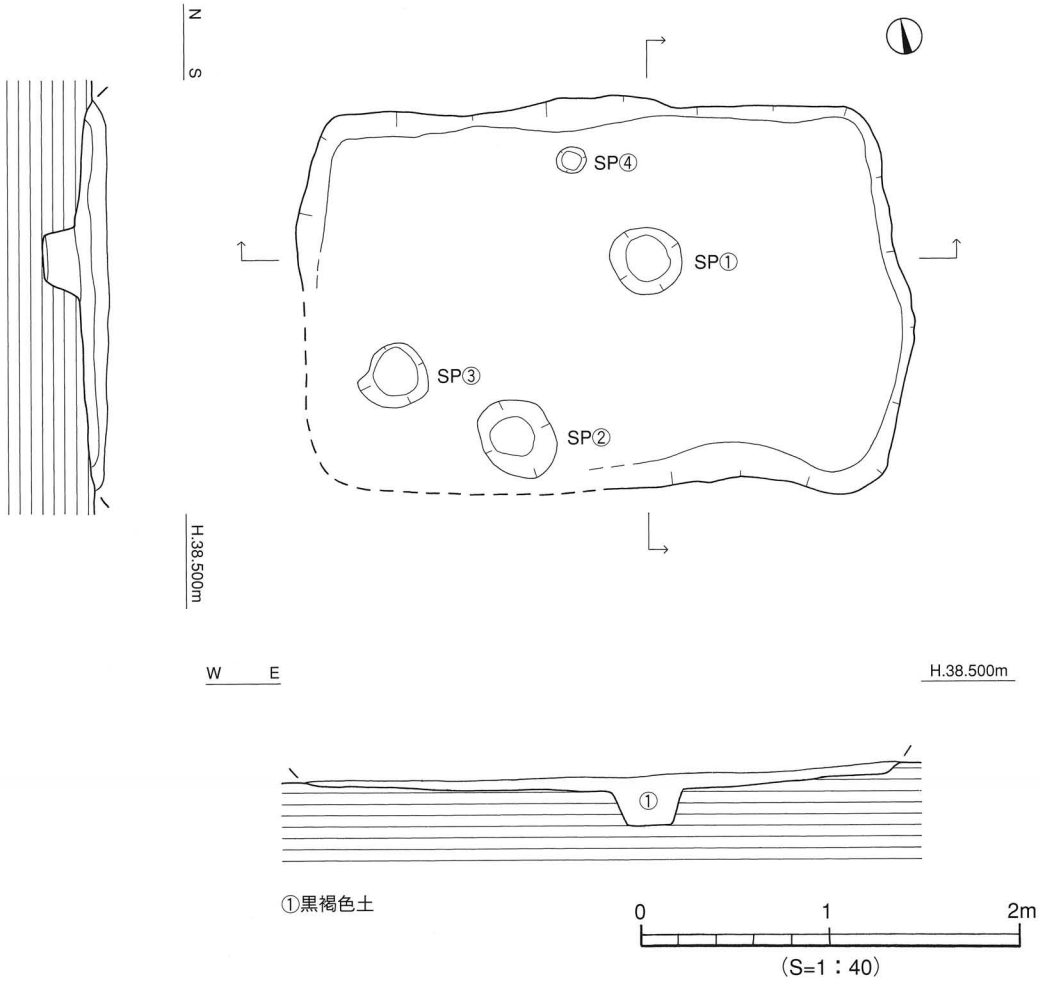
時期：埋土がＳＫ2･3に酷似することから、ＳＫ12は弥生時代前期末～中期初頭の遺構としておく。



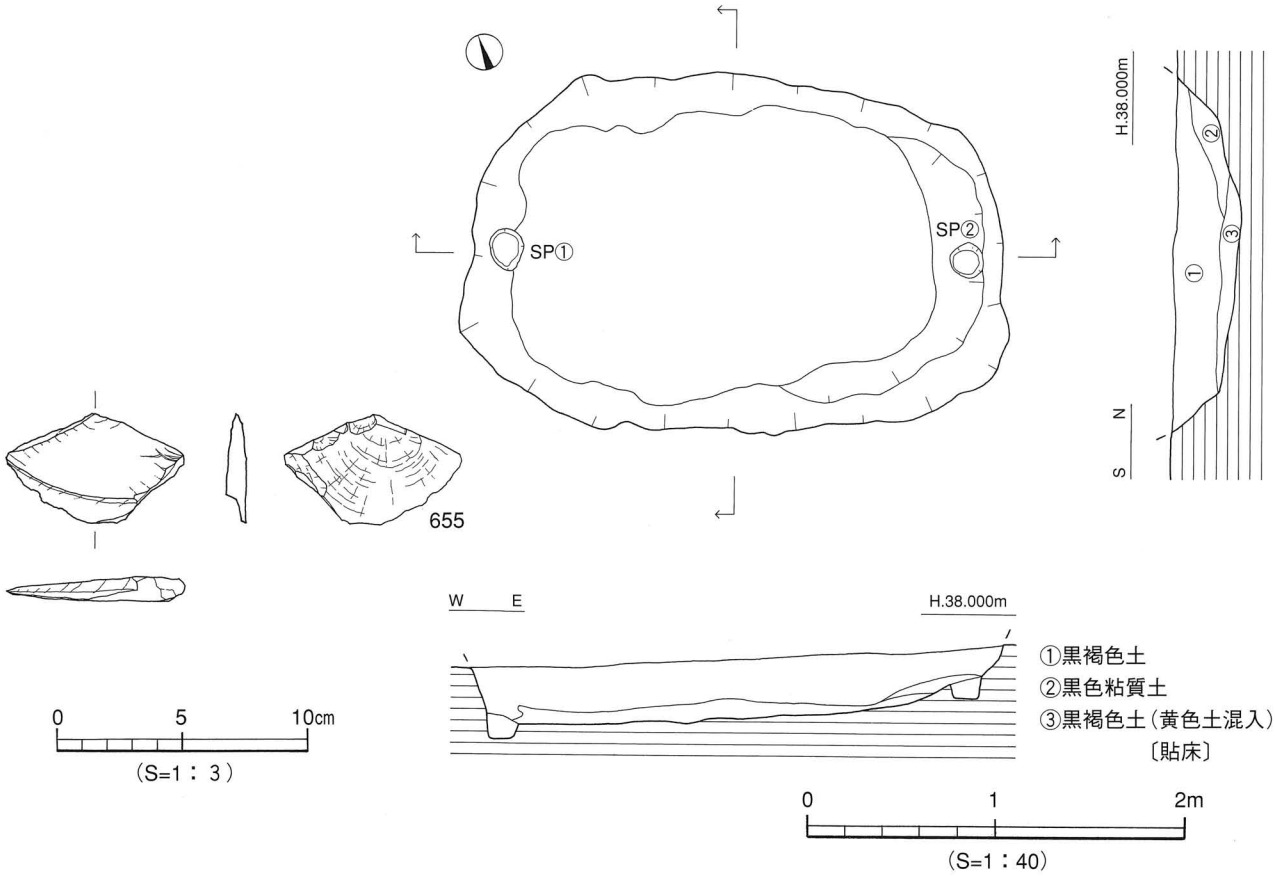
第57図　SK11測量図



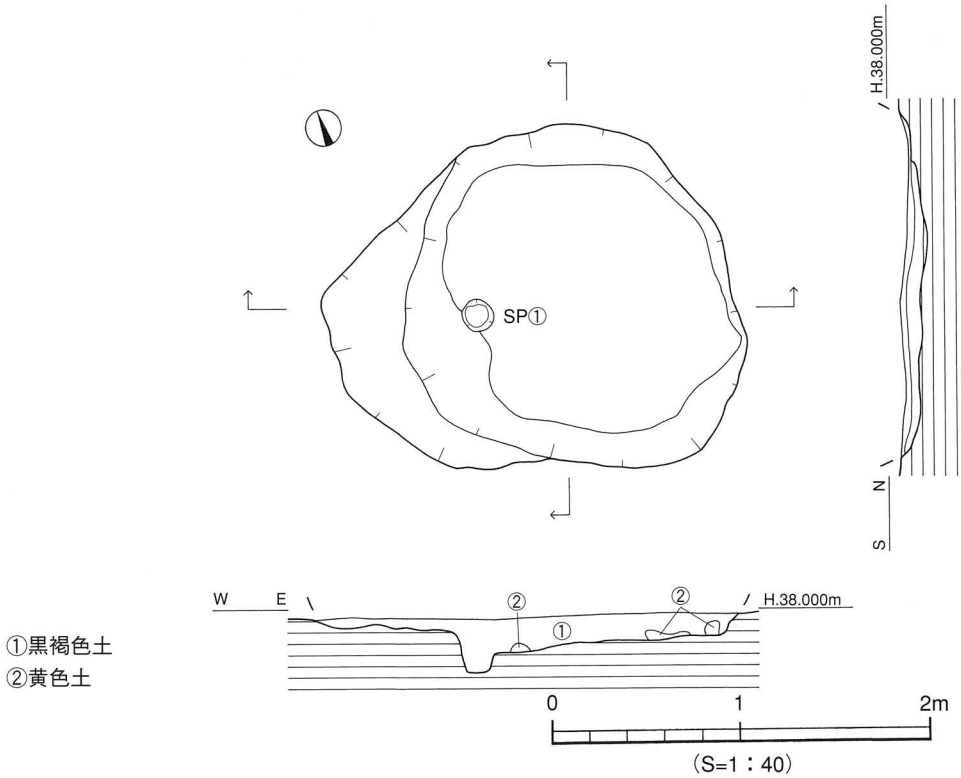
第58図　SK10測量図



第59図　SK14測量図



第60図　SK1測量図・出土遺物実測図



第61図　SK12測量図

ＳＫ13（第62図）

調査区中央部北東寄り、Ａ9区に位置し、北側は調査区外に続く。平面形態は、丸味をもつ２ヶ所のコーナー部を検出したため、楕円形もしくは円形と思われる。規模は東西長2.00m、南北検出長1.24m、深さ28cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土単層である。基底面は平坦で、南側中央部からピット１基(ＳＰ①)を検出した。規模は径45cm、深さ20cmを測り、埋土は黒褐色土に黄色土が混入する。遺物は埋土中より、弥生土器片が数点と砥石1点が出土した。

出土遺物

甕形土器(656･657)　656は折り曲げ口縁、657はやや丸味のある薄い平底となる。

石器(658)　658は砥石である。側面に細かい金属器で削った痕跡が認められる。両面及び側面に断面「Ｖ」字状の線状使用痕が認められる。

時期：出土した遺物の特徴より、ＳＫ13は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

③方形土坑

ＳＫ7（第63図）

調査区南壁中央部、Ｄ4･5区に位置し、南側は調査区外に続く。平面形態は方形を呈するものとみられ、規模は東西長3.00m、南北検出長1.15m、深さ40cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は2層に分層され、①層黒褐色土、②層黒色土である。基底面は西側がわずかに高くなっている。基底面中央部東寄りに、小ピット２基(ＳＰ①・②)を検出した。径８～12cm、深さ５cmを測り、埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土単層である。土坑内からは、遺物の出土はない。

時期：埋土がＳＫ11･14と酷似することから、ＳＫ7は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

ＳＫ9（第64図）

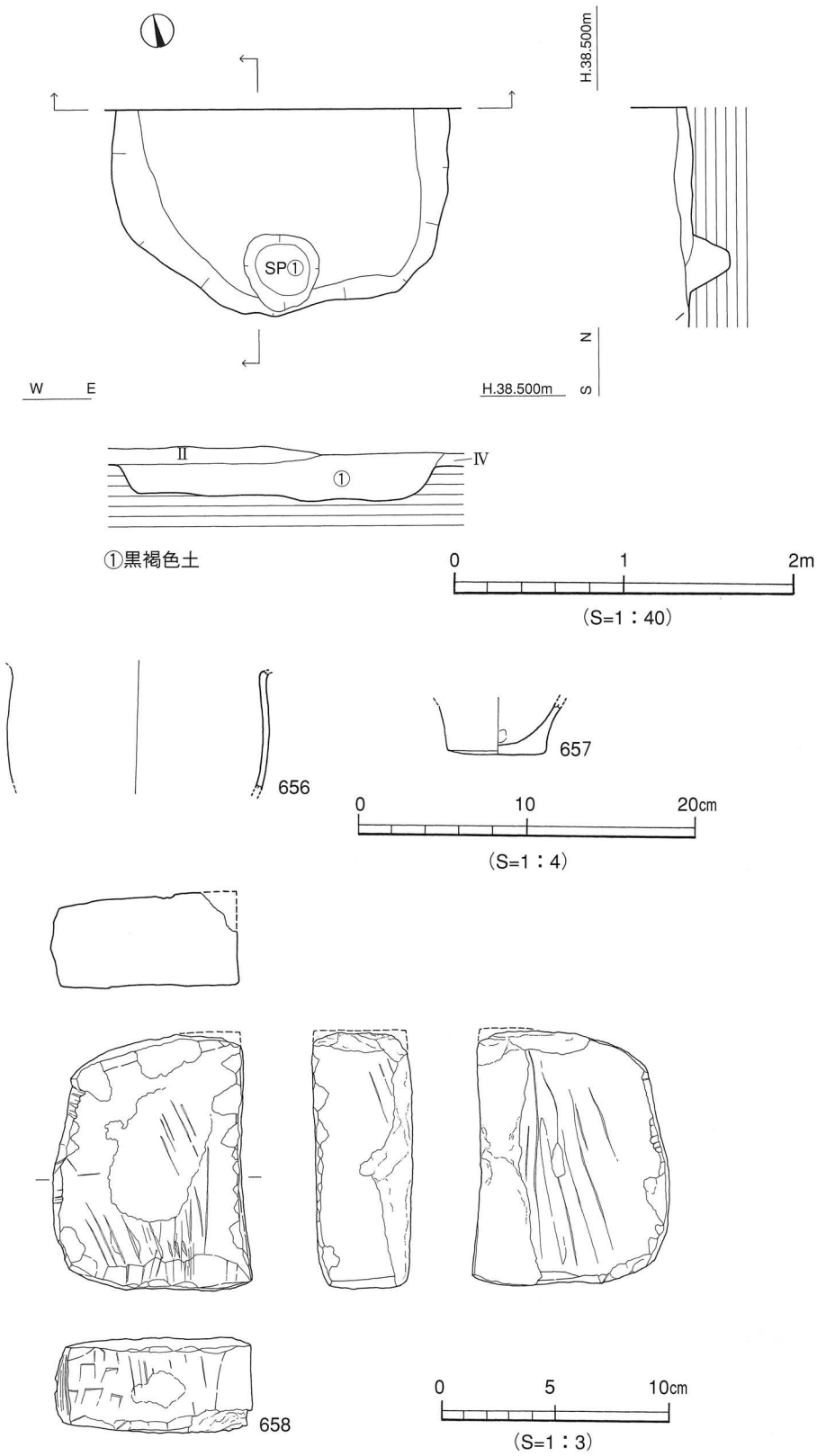
調査区北壁中央部、Ａ6区に位置する。北側部分は調査区外に続くために、遺構の全容は明らかではないが、残存する２ヶ所のコーナー部を検出したことより、平面形態は方形を呈するものとみられ、規模は東西長1.70m、南北検出長1.35m、深さ18cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土単層である。基底面より小ピット1基(ＳＰ①)を検出した。規模は径10cm、深さ５cmを測り、埋土は土坑埋土と同様の黒褐色土である。基底面はほぼ平坦である。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時期：出土した遺物の特徴と埋土より、ＳＫ9は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。

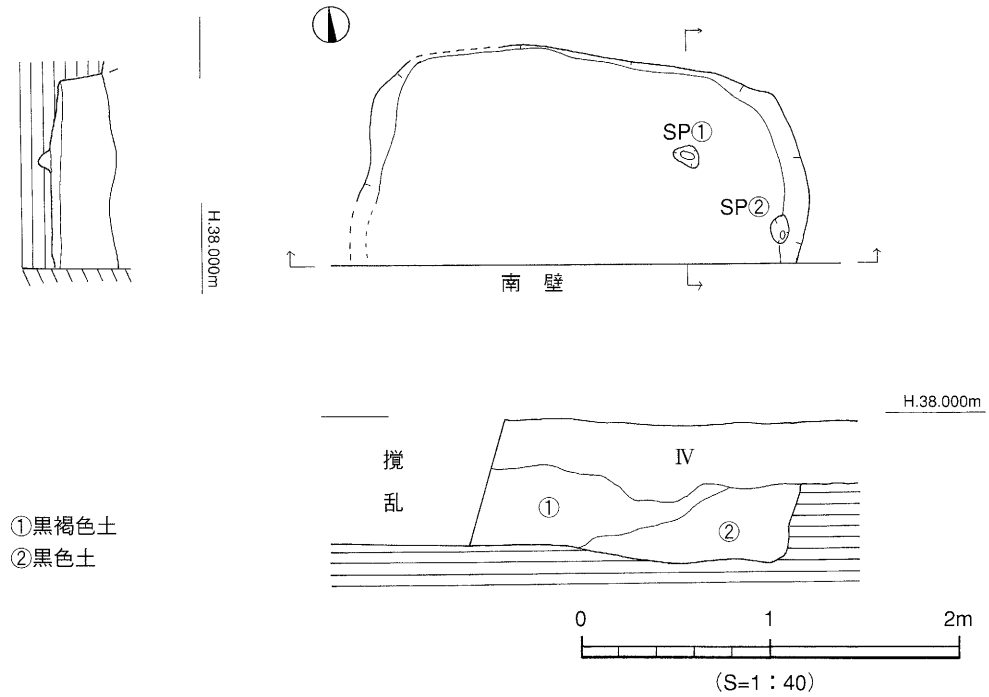
ＳＫ15（第65図）

ＳＤ1の東側、Ｃ5区で検出した。遺構北西部はＳＤ1と重複するが、切り合い関係は判断できなかった。平面形態は不整方形で、規模は長さ2.03m、幅1.70m、深さ18cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色土を基調とし、黄色土がブロック状に混入する。基底面はほぼ平坦である。土坑内からの遺物の出土はない。

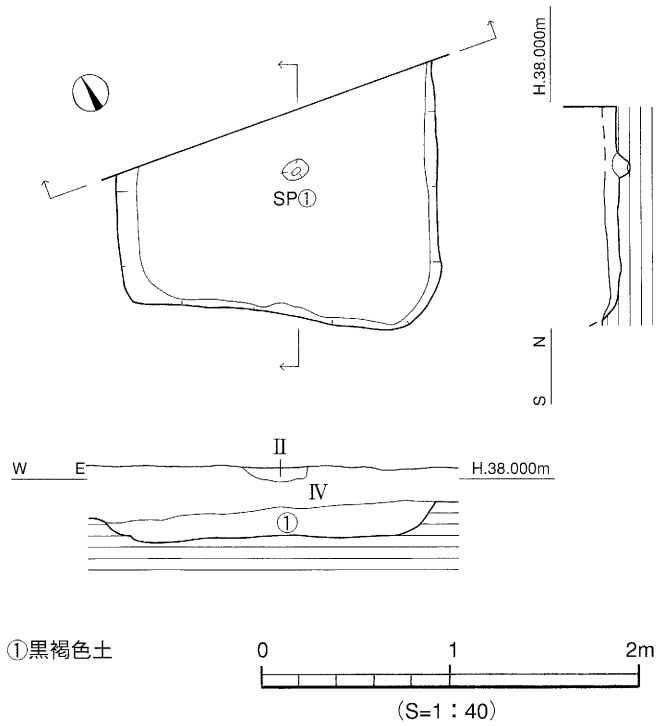
時期：埋土がＳＫ10･13･14と酷似することから、ＳＫ15は弥生時代前期末～中期初頭の遺構とする。



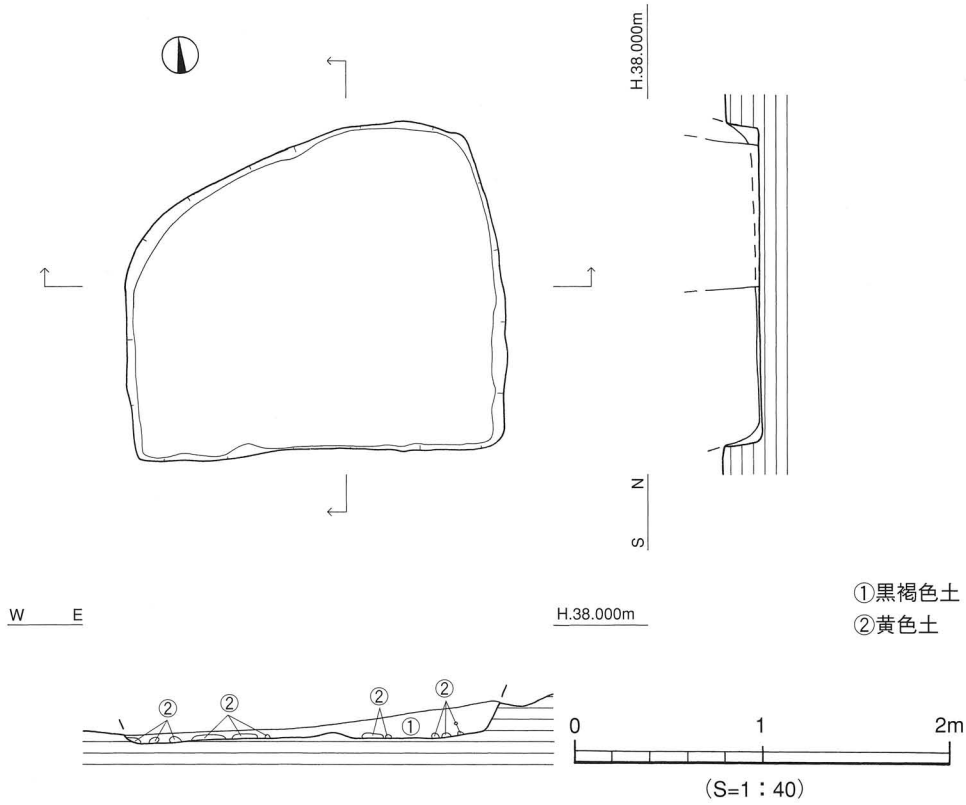
第62図　SK13測量図・出土遺物実測図



第63図　SK7測量図



第64図　SK9測量図



第65図　SK15測量図

2）弥生時代中期後半

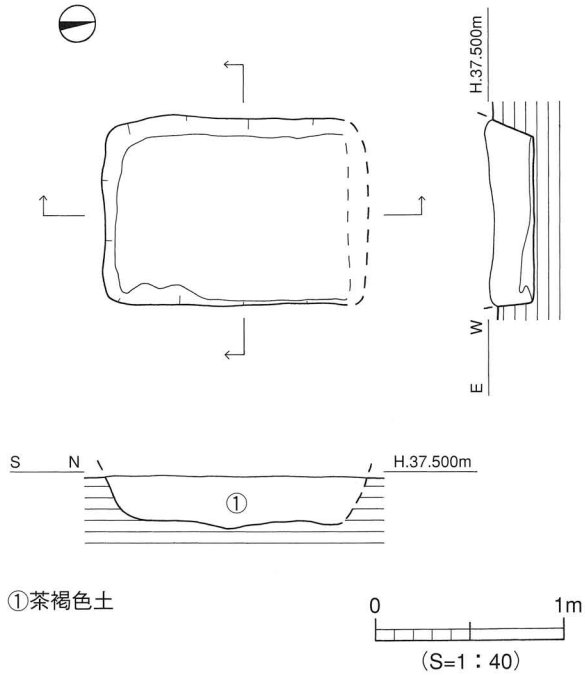
ＳＫ5（第66図）

調査区中央部南西寄り、Ｄ4区に位置し、ＳＤ1を切る。遺構北側は遺存状況が悪く、壁体は消失している。平面形態は長方形を呈するものとみられ、規模は南北検出長1.42m、東西長1.00m、深さ25cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土単層である。基底面はわずかに土坑中央部がくぼむ。遺物は埋土中より、弥生土器片と石器が出土した。

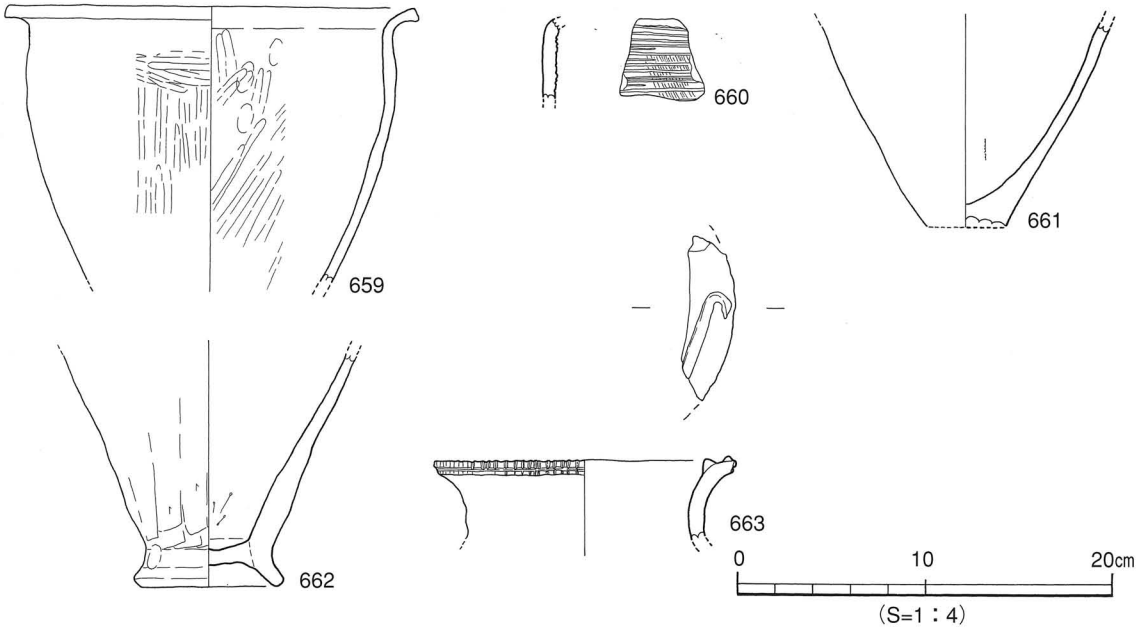
出土遺物（第67図）　**甕形土器**(659～662)　659は無文の折り曲げ口縁。660は折り曲げ口縁で、胴部にヘラ描き沈線文を施す。661・662は底部。661は小さな底部、662はくびれをもつ上げ底となる。

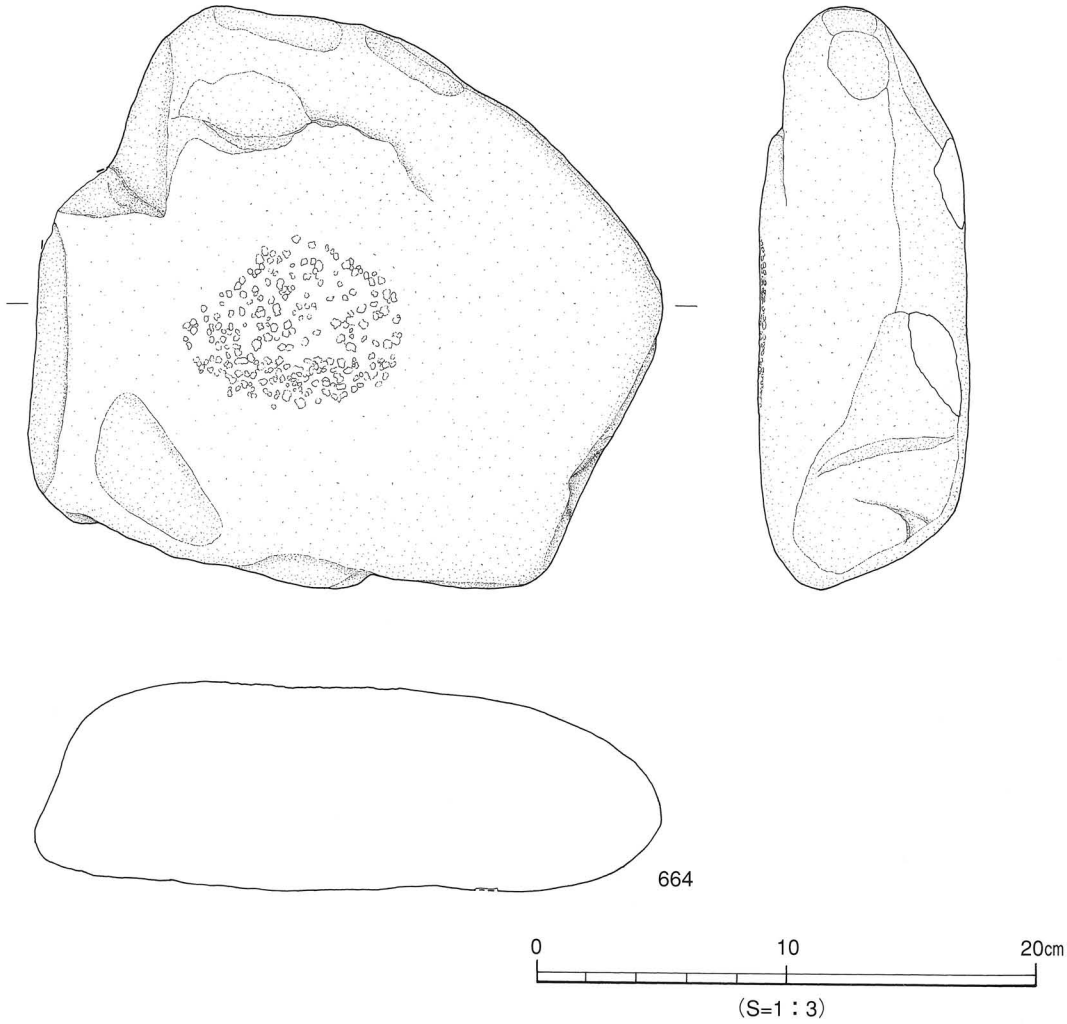
壺形土器(663)　短く外反する口頸部。口縁端面にヘラ描き沈線文と刻目、口縁部内面に注口状の凸帯文を施す。**石器**(664)　664は台石である。片面の中央部が凹み、細かく押打した使用痕が認められる。

時期：ＳＤ1を切ることと甕形土器（659）の特徴より、ＳＫ5は弥生時代中期後半の遺構とする。



第66図　SK5測量図





第67図　SK5出土遺物実測図

ＳＫ4（第68図）

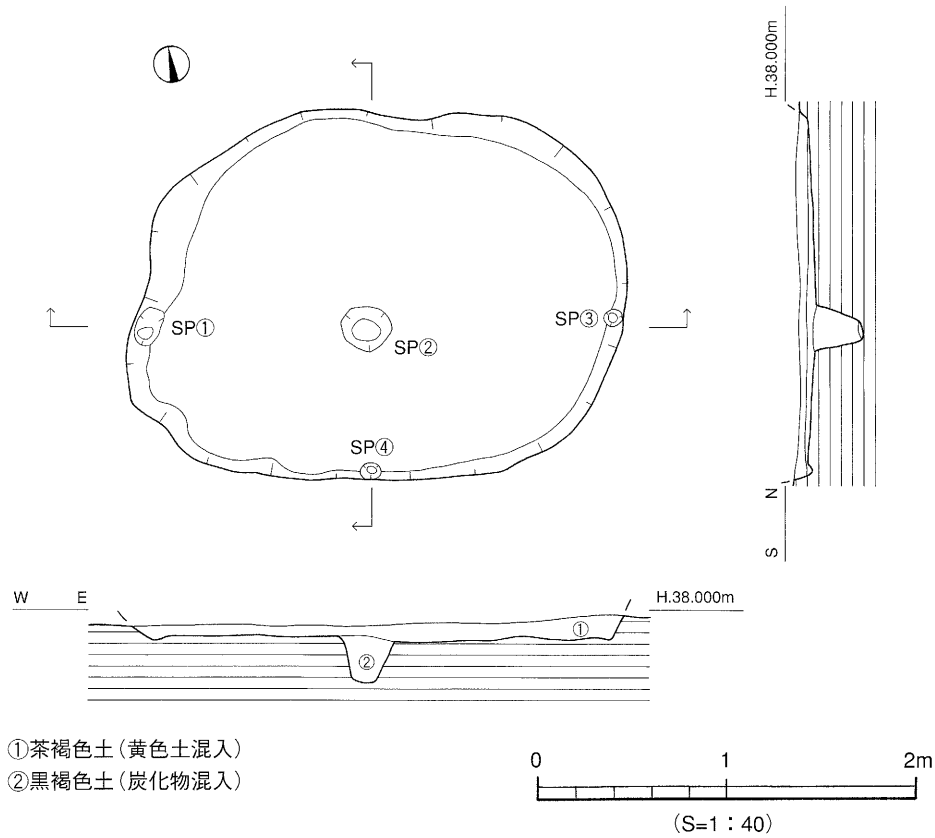
調査区中央部、Ｂ・Ｃ８区に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径2.63m、短径1.95m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土と黄色土の混合土である。基底面は中央部がわずかにくぼむ。基底面からは4基のピット(ＳＰ①～④)を検出した。北壁を除く壁際には、径10～20cm、深さ５cmの浅いピットが3基(ＳＰ①・③・④)ある。ピット埋土は黒褐色土単層である。また、中央部に径30cm、深さ25cmのピット１基(ＳＰ②)があり、埋土中に炭化物が混入している。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時期：埋土がＳＫ5に酷似することから、ＳＫ4は弥生時代中期後半の遺構としておく。

ＳＫ16（第69図）

ＳＤ2の東側、Ｄ12区で検出した。西側をＳＰ32に切られ、南側は調査区外に続く。平面形態は、楕円形を呈するものとみられ、規模は南北検出長1.75m、東西長1.30m、深さ15cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土に黄色土が混入する。基底面はほぼ平坦である。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：埋土がＳＫ4と類似することから、ＳＫ16は弥生時代中期後半の遺構としておく。



第68図　SK4測量図

ＳＫ6（第70図）

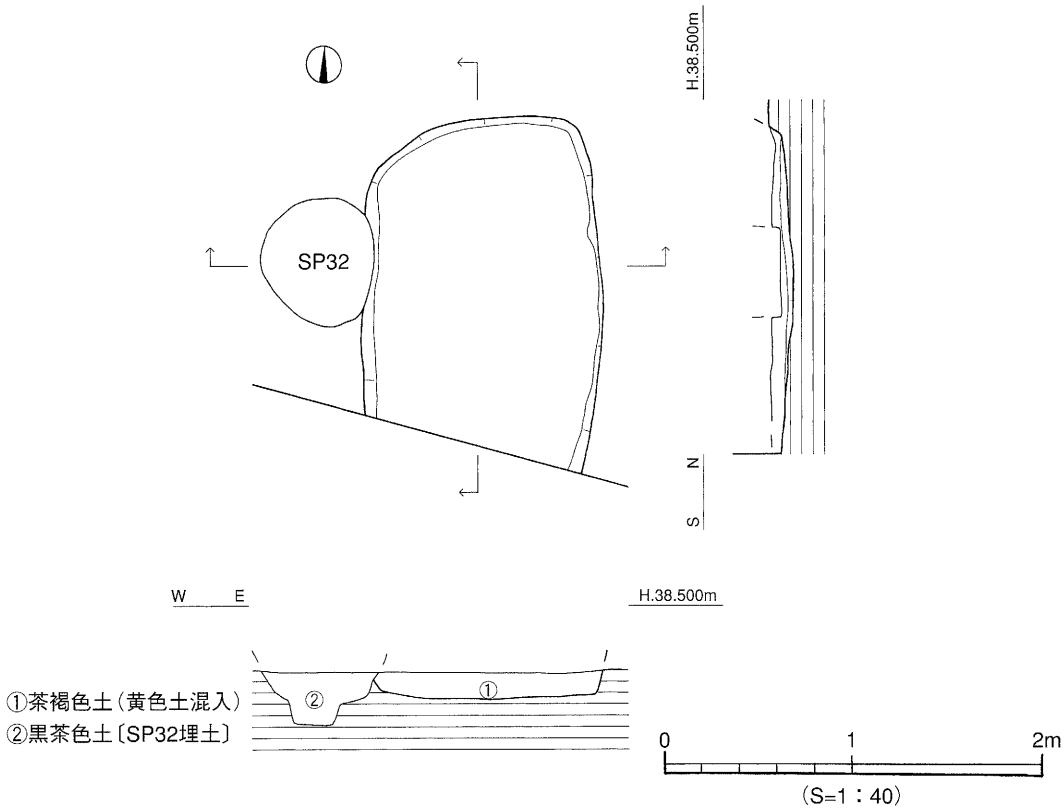
調査区中央部北西寄り、Ｂ5区に位置し、ＳＤ1のテラス部基底面で検出した。基底部をわずかに残すものであり、平面形態も不定形と明確でない。規模は長軸2.16m、短軸1.75m、深さ５cmを測る。断面形態は皿状で、埋土は茶褐色土単層である。基底面にはやや凹凸がみられる。土坑内からの遺物の出土はない。

時期：ＳＤ1を切ることと埋土がＳＫ5と酷似することから、ＳＫ6は弥生時代中期後半の遺構としておく。

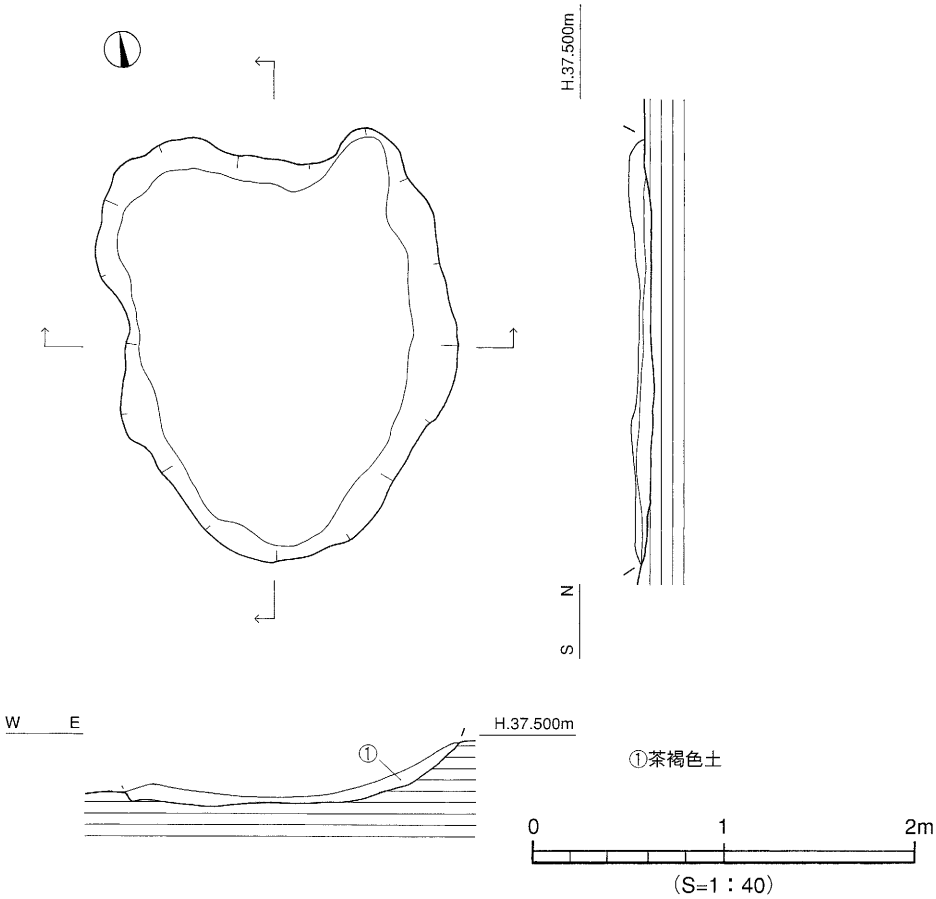
ＳＫ8（第71図）

調査区中央部西寄り、Ｂ・Ｃ5区に位置し、ＳＤ1のテラス部基底面で検出した。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ1.52m、幅1.30m、深さ30cmを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は上下２層(①・②層)に分層でき、①層は茶褐色土、②層は茶褐色土に黄色土が混入する。基底面は遺構南側がややくぼむ。遺物は埋土中より弥生土器片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時期：ＳＤ1を切ることと埋土がＳＫ5に酷似することから、ＳＫ8は弥生時代中期後半の遺構とする。



第69図　SK16測量図



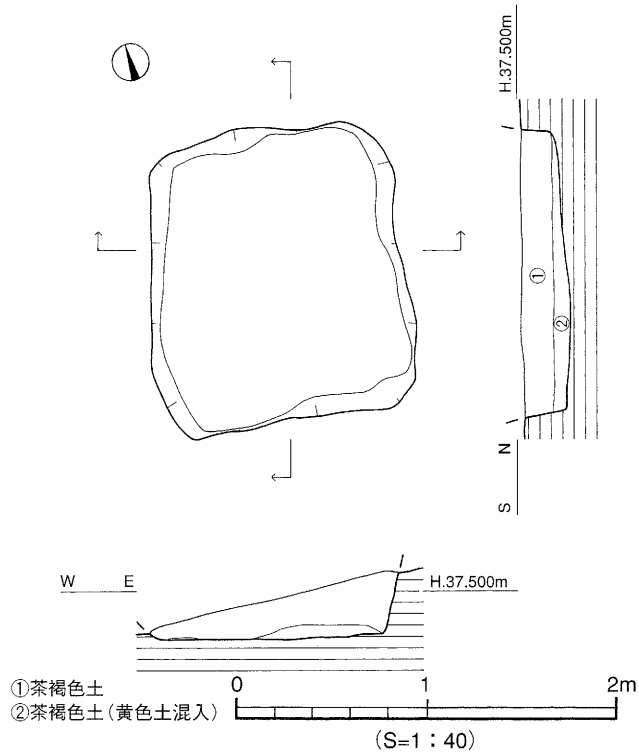
第70図　SK6測量図

(3) 柱穴 (SP) 出土遺物 (第72図)

本調査では、柱穴内から弥生時代の遺物が出土している。ここでは、実測図のみを掲載した。

甕形土器(665～672)　665はSP83出土品で、口縁端面に刻目を施す。666はSP29出土品で、「く」の字状口縁である。667はSP3出土の胴部片で、ヘラ描き沈線文と刺突文を施す。668～672は底部。668・669はＳＰ53出土品。668はくびれの上げ底で、胴部の張りが弱い。669は脚台風の底部である。670はSP92出土品で、くびれの上げ底となる。671はSP38、672はSP82出土品で平底となる。

壺形土器(673)　ＳＰ24出土品で、平底となる。



第71図　SK8測量図

高坏形土器(674・675)　674・675はＳＰ56出土品。675は脚裾部に凹線文３条が巡る。

石器(676)　ＳＰ90出土の柱状片刃石斧である。断面形態はわずかに丸味をもつ四角形となる。

(4) 第Ⅳ層出土遺物 (第73図)

本調査では、第Ⅳ層中より弥生時代に時期比定される遺物が出土した。ここでは、第Ⅳ層中から出土した遺物のうち28点の実測図を掲載した。

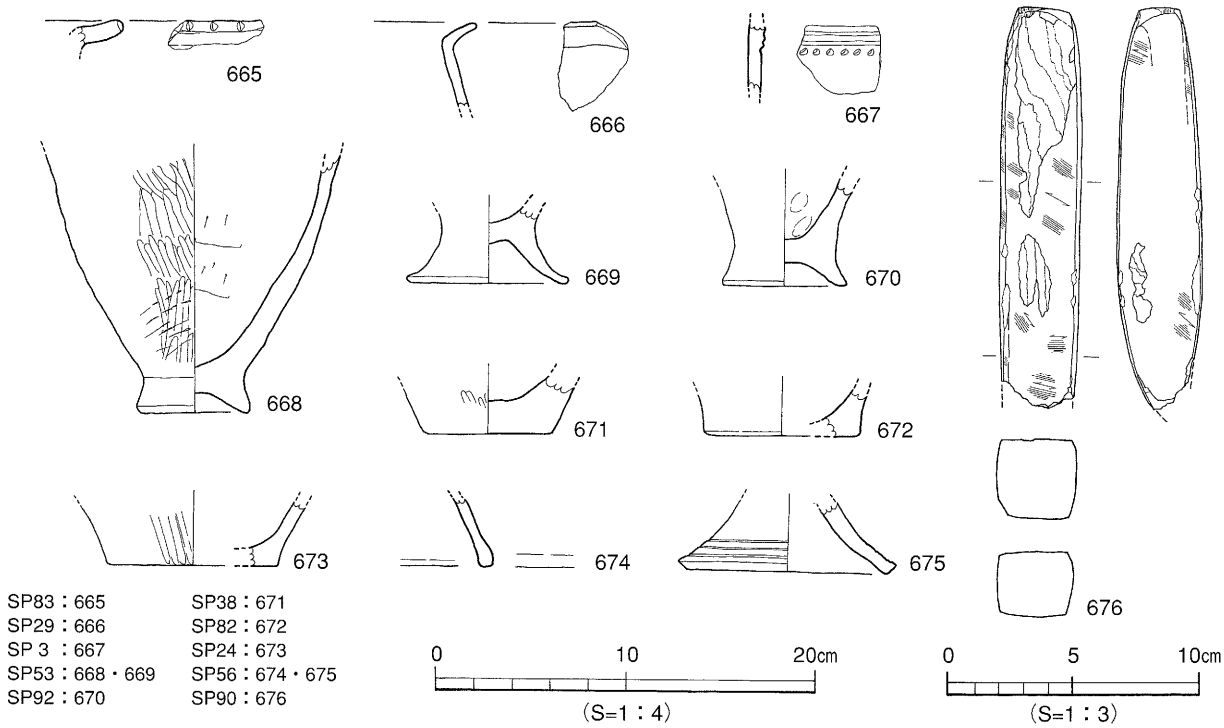
甕形土器(677～687)　677～680は口縁部片。677は逆「L」字状に強く外反し、口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。678は水平近くに強く外反した口縁部で、頸部に刻目凸帯文を1条施す。679・680は「く」の字状口縁で、679は内外面共にヘラミガキ調整を施す。679は口縁端部が丸味のある面をもち、680は「コ」字状となる。681～687は底部片。681・685・686・687は平底、682・684はわずかに上げ底、683はくびれの上げ底となる。

壺形土器(688～700)　688は口縁端部は丸味のある面をもつ。外面は刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施す。689は細長い筒状の頸部上位に、穿孔を2ヶ所施す。頸部外面に沈線文と凸帯文(連鎖状刻目文1列)、内面に凸帯文を施す。690～700は平底の底部片である。

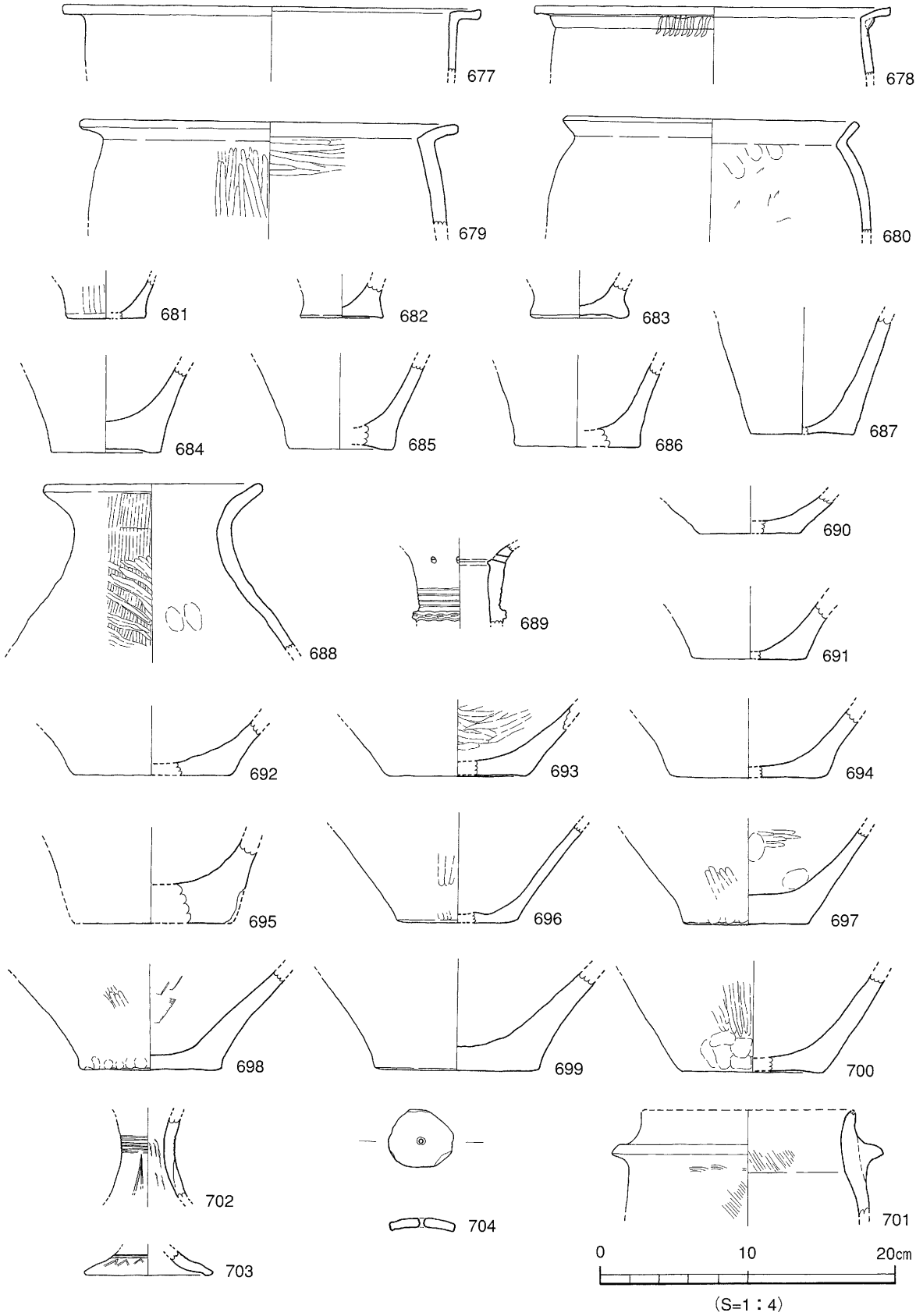
鉢形土器(701)　直立気味の口縁部。口縁下に断面三角形状の凸帯が巡る。

高坏形土器(702・703)　702は柱部で、上位で若干すぼまり、その後緩やかに広がる。外面に極めて細いヘラ描き沈線文6条と、貫通しない矢羽根透かしを4ヶ所に施す。703は大きく外反する脚裾部。外面にヘラ描き沈線文と山形文を施す。

紡錘車(704)　土器胴部片の再利用品のため、湾曲がみられる。中央部に両面から径0.3cm大の孔を穿つ。



第72図　柱穴出土遺物実測図



第73図　第Ⅳ層出土遺物実測図

4．古墳時代～古代の遺構と遺物

本調査では、古墳時代の遺構は未検出であるが、古代の遺構は性格不明遺構1基がある。第Ⅲ層中からは、古墳時代から古代の遺物が出土している。

(1) 性格不明遺構

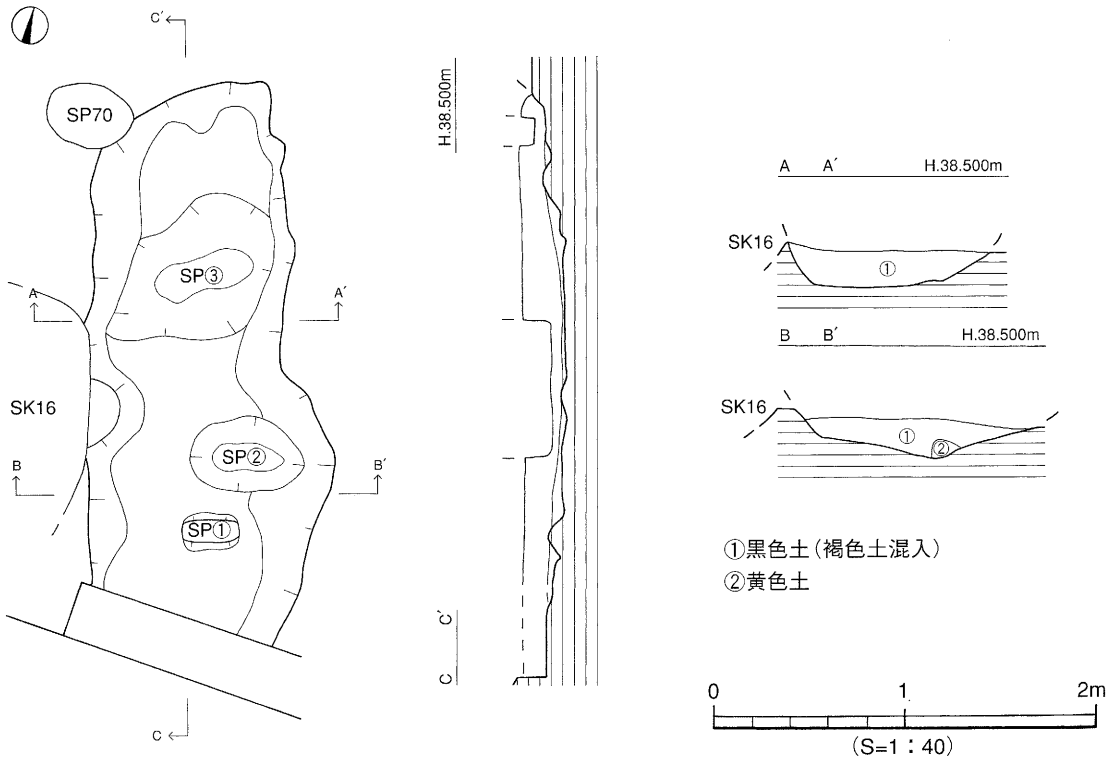
ＳＸ1（第74図）

調査区東側、Ｄ12区に位置する。ＳＫ16と重複し、南側は調査区外に続く。平面形態は不整形な長方形である。規模は検出長3.80m、幅1.30m、深さ22cmを測る。断面形態は舟底状を呈し、埋土は黒色土に褐色土が混入する。壁体は緩やかに立ち上がる。基底面にて大小3基のピット(ＳＰ①～③)を検出した。ピット埋土は土坑埋土と同様の黒色土である。遺物は埋土中より弥生土器片、土師器片、須恵器片が少量出土している。

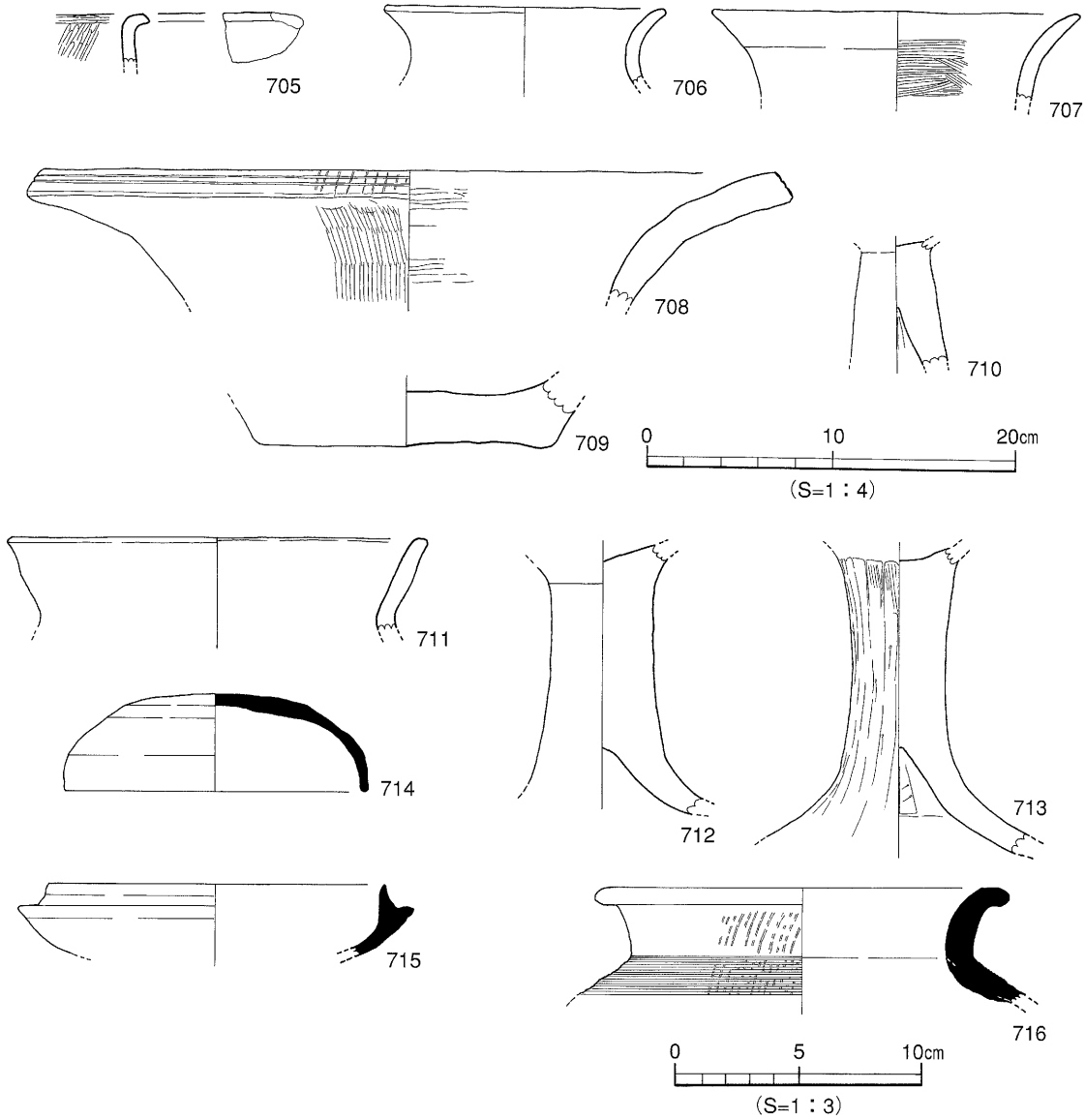
出土遺物（第75図）

705は甕形土器の口縁部。折り曲げ口縁で、内面にヘラミガキ調整を施す。706～709は壺形土器。706～708は口縁部。708の口縁端面にはヘラ描き沈線文2条と刻目を施す。709は大きく厚い平底である。710は高坏形土器の脚部である。711～713は土師器。711は甕形土器で、口縁端部は内傾する。712･713は高坏形土器の柱部である。713は柱部外面に縦方向のヘラケズリを施す。714～716は須恵器。714は坏蓋で、天井部は丸味をもち、口縁部は垂下する。715は坏身で、受部はほぼ水平に伸び、端部は尖る。たちあがりは低く内傾する。716は甕で、口縁部は短く外反し、口縁端部は水平に突き出し玉縁状となる。

時期：出土した遺物の特徴より、ＳＸ1は古代､7世紀代の遺構とする。



第74図　SX1測量図



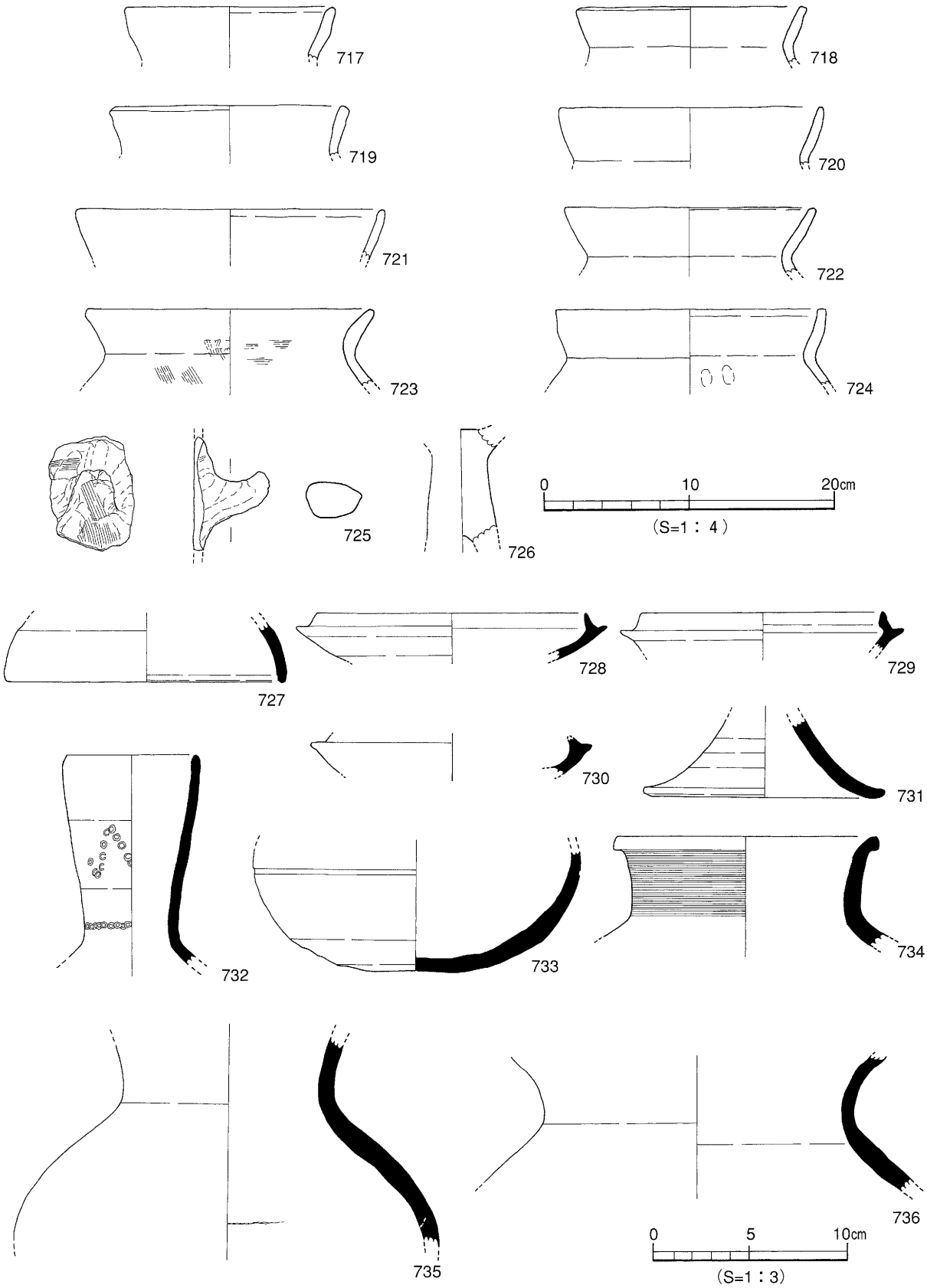
第75図　SX1出土遺物実測図

(2) 第Ⅲ層出土遺物（第76・77図、図版18）

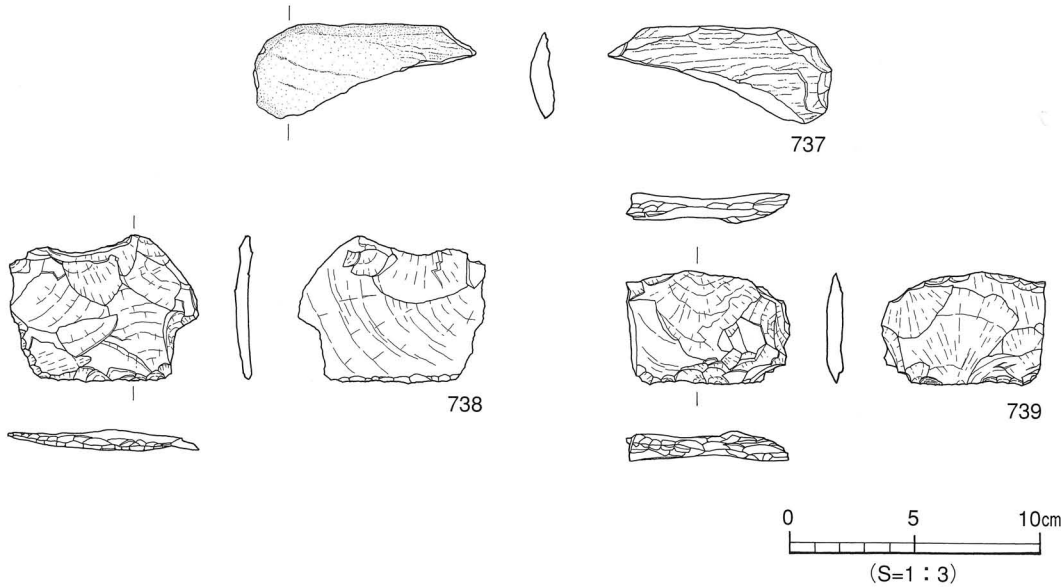
本調査では、第Ⅲ層中より古墳時代～古代の遺物が出土した。ここでは、第Ⅲ層中から出土した遺物のうち23点の実測図を掲載している。

土師器(717～726)

甕形土器(717～724)　717は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は内傾し内側に稜をもつ。718は口縁部中位で肥厚し、口縁端部は「コ」字状となる。719は口縁部中位から端部にかけてやや肥厚し、口縁端部は「コ」字状となる。720は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は先細りする。721は口縁部が内湾し、口縁端部はやや内傾する。722は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は丸味をもつ。723は口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は丸味をもつ。724は口縁部がわずかに内湾し、口縁端部は「コ」字状となる。



第76図　第Ⅲ層出土遺物実測図(1)



第77図　第Ⅲ層出土遺物実測図(２)

甑形土器(725)　725は把手部の破片で、上方に緩やかに湾曲する。

高坏形土器(726)　726は中実の細長い柱部。

須恵器(727～736)

727は坏蓋。天井部と口縁部の境に甘い稜をもつ。口縁端部に細い凹線が１条巡る。728～730は坏身。728のたちあがりは短く内傾し、中位付近で稜をもち直立する。たちあがり端部は先細りする。729のたちあがりは短く内傾し、端部は先細りする。730のたちあがりはやや内湾する。受部は短く水平である。731は高坏の脚部片で、大きく外反する。732は長頸壺。外傾ぎみに立ち上がる細長い口頸部をもち、口縁部付近で内湾する。頸部外面に竹管文を施す。733･734は壺。733は丸底の底部で、肩胴部境に沈線文が1条巡る。734は外傾ぎみに立ち上がる口頸部をもつ。外面に回転カキメ調整を施す。735･736は甕。735は口頸部は外傾ぎみに立ち上がり、736は口縁部が短く外反する。

石　器(737～739)　737はサヌカイト製の剥片、738･739はサヌカイト製のスクレイパーである。

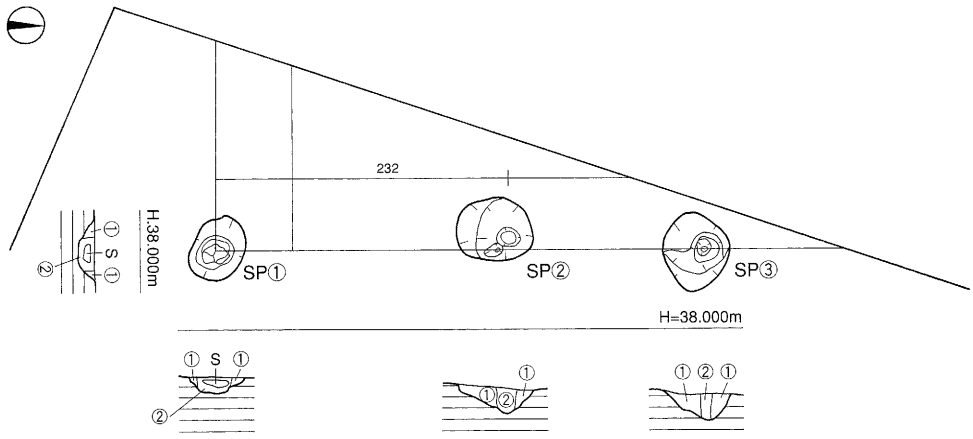
５．時期不明の遺構と遺物

本調査では、時期特定が困難な遺構に掘立柱建物址がある。３棟の建物址を検出したが、柱穴内からの遺物の出土がなく、ここでは、時期不明の遺構として取り扱っている。

(1) 掘立柱建物址

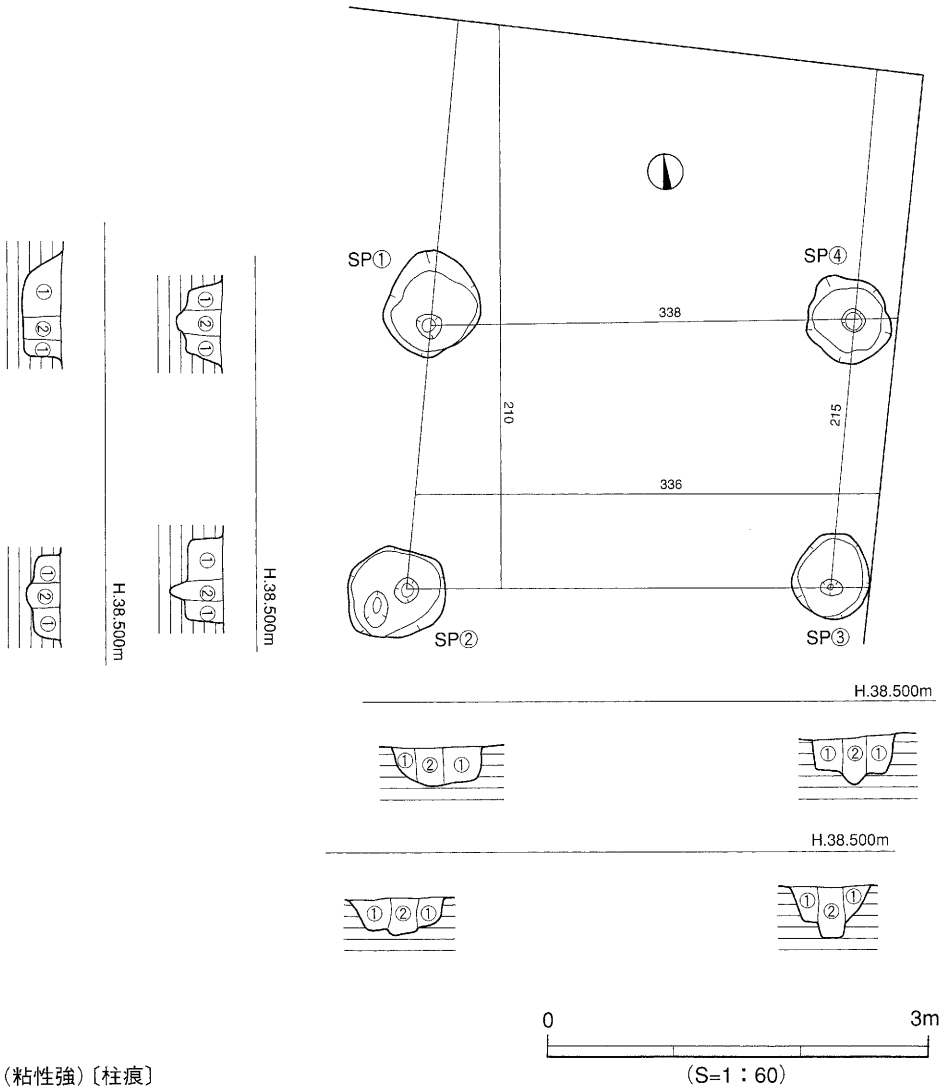
掘立1（第78図）

調査区西側、Ｂ・Ｃ2区に位置し、３基の柱穴(ＳＰ①・②・③)を検出した。建物北側と西側は調査区外に続くものと思われる。柱穴の平面形態は円～楕円形を呈し、規模は径45～65cm、深さ13～20cm、柱穴間隔は2.32mを測る。建物の方向は特定できない。柱穴埋土は黒色土単層である。検出した3基には柱痕が見られ、径15～30cm、深さ25cmを測り、柱痕埋土は粘性の強い黒色土である。遺物はＳＰ①の基底面よりやや浮いた状況で、径14×20cm、厚さ5cm大の扁平な石を検出した。また、柱穴内からは弥生土器片が少量出土したが、図化しうるものはない。



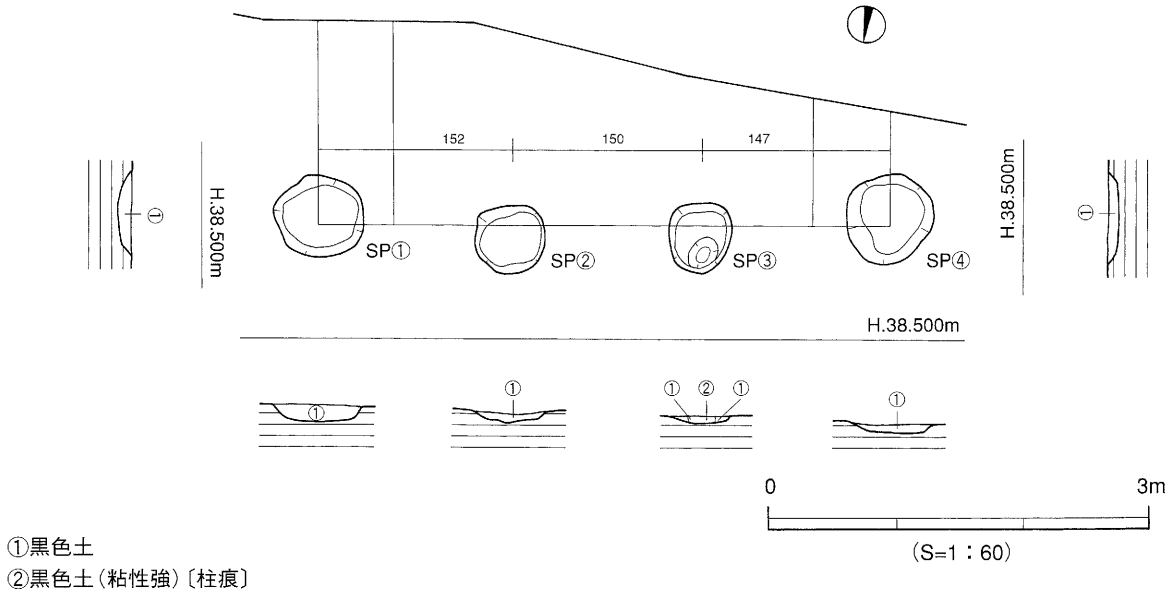
①黒色土
②黒色土（粘性強）〔柱痕〕

第78図　掘立１測量図



①黒茶色土
②黒茶色土（粘性強）〔柱痕〕

第79図　掘立２測量図



第80図　掘立３測量図

掘立2（第79図、図版９）

調査区東側、Ｂ12･13区に位置し、１間×１間以上の建物址と考えられる。４基の柱穴(ＳＰ①～④)を検出した。柱穴の平面形態は円～楕円形を呈し、規模は径64～85cm、深さ27～43cm、柱穴間隔は東西長3.38m、南北長2.10～2.15mを測る。柱穴埋土は黒茶色土単層である。柱痕はすべての柱穴で検出され、径15～25cm、深さ25～33cm、柱痕埋土は粘性の強い黒茶色土である。柱穴内からは弥生土器片が少量出土したが、図化しうるものはない。

掘立3（第80図）

調査区南壁Ｃ8･9区、ＳＤ2の西側に位置し、東西方向に４基の柱穴(ＳＰ①～④)を検出した。柱穴の平面形態は円形を呈し、規模は径50～72cm、深さ8～14cm、柱穴間隔は1.47～1.52mを測る。柱痕埋土は黒色土単層である。柱痕はＳＰ③で検出され、径22～25cm、深さ8cmを測る。柱痕埋土は粘性の強い黒色土である。柱穴内からの遺物の出土はない。

6．まとめ

本調査では、弥生時代から古代にかけての遺構と遺物を検出した。遺構は掘立柱建物址、土坑、溝、ピットがあり、遺物は、弥生時代前期末から中期後葉と古墳時代から古代の土器と石器が多数出土している。ここでは特に、弥生時代の資料を取り上げ、遺構と遺物とに分けてまとめを行う。

(1) 弥生時代の遺構：溝２条と土坑16基を検出した。

1) ＳＤ1・ＳＤ2は検出幅4m前後、深さ1～1.2mを測る大型の溝である。埋土中に砂を含まないことから、空掘りの「壕」と考えられる。両者は規模、断面形態、埋土が類似すること、溝内から出土した遺物が弥生時代前期末～中期初頭に時期比定されることから、ほぼ同時期に併存していたものと推測される。ＳＤ1は、調査地に隣接する久米高畑遺跡23次調査地検出の溝ＳＤ001と同一のものであり、ＳＤ1はその形状から環壕の可能性がある。

2）土坑は16基を検出した。時期別にみると、弥生時代前期末～中期初頭の土坑は11基、中期後半の土坑は５基である。このうち、ＳＤ1とＳＤ2とで挟まれた地域内には、ＳＫ16を除く15基の土坑が存在する。特にＳＤ1･2と同時期に存在したものと考えられる土坑は、前述の11基がある。これらの土坑は平面形態で３種類に分類でき、長方形土坑４基、楕円形土坑４基、方形土坑3基となる。規模でみると、長方形と楕円形を呈するものでは、大型・小型の2者がみられる。大型土坑は長軸2.5～3.0m、短軸1.5～2.0mを測り、小型土坑は長軸0.8～1.2m、短軸0.5～0.8mを測る。断面形態は遺存状況が良好でなく、明確な判断はしかねるが、ＳＫ7とＳＫ15は壁体の一部がほぼ垂直に立ち上がることから、貯蔵穴の可能性がある。ただし、いずれの土坑内からも遺物の出土は僅少であり、土坑の性格は断定しえない。

(2) ＳＤ1･2出土遺物

本調査では、ＳＤ1とＳＤ2より、弥生時代前期末から中期前葉に時期比定される土器と石器が多量に出土した。土器は甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、蓋形土器、ミニチュア品と円盤状土製品がある。土器の中には、外来的要素の強いものが２点出土している。また、貝殻文を施した土器が３点出土している。このほか、ＳＤ1より縄文時代晩期の浅鉢片が１点出土している。

石器は石鏃、石庖丁、加工斧、伐採斧、砥石、敲石、台石、スクレイパー、石核、剥片が出土した。ここでは、土器と石器とに分けて、若干の分析を行う。

1）土製品

① 器種と器形

弥生時代前期末から中期前葉の土器は、299点が数えられた。各器種の出土量は、甕形土器173点、壺形土器87点、鉢形土器32点、蓋形土器４点、高坏形土器２点、ミニチュア品1点である。また、各器種の構成比は甕形土器57.8％、壺形土器29.1％、鉢形土器10.7％、蓋形土器1.3％、高坏形土器0.7％、その他0.4％となる。甕形土器は出土量の半数を占め、壺形土器は約30％となり、この二器種が主要のものとなっていることがわかる。鉢形土器は、個体識別の問題もあるが、若干の増加を考えても、15％程度にとどまるものと考えられる。

次に、各器種の器形態について整理する。

甕形土器　口縁部の成形手法により、３つに分類される。折り曲げによるもの(ａ類)、口縁端部に粘土紐を貼り付けるもの(ｂ類)、口縁部よりやや下がる位置に粘土紐を貼り付けるもの(ｃ類)とがある。甕形土器は148点あり、これらの比率はａ類が64点(43.2％)、ｂ類が83点(56.1％)、ｃ類が１点(0.7％)である。ａ類とｂ類が量的に主体をなし、ｃ類は極少量であることがわかる。

法量でみると、口径35cmを越える大型品と、それ以下の中・小型品がある。大型品は５点出土しており、口縁部形態はａ類が２点、ｂ類が３点となる。中・小型品は143点出土しており、ａ類が62点、ｂ類が80点、ｃ類が１点となる。

器形態は、胴部にやや膨らみをもち、胴上半部は直立気味に立ち上がる。さらに、胴部最大径は口径を凌ぐことはなく、口径に近い値を示す。底部形態はやや厚い平底が多く、わずかに上げ底を呈するものもある。

壺形土器：出土品は、口径が30cmを越える大型品と、それ以下の中・小型品があり、口縁部の形態には幾つかのものがみられる。

大型品は２点出土している。頸部径は広く、短い口縁部をもつ。中・小型品は82点出土している。筒状の長い口頸部をもつもの(Ⅰ類)、短頸のもの(Ⅱ類)、頸部が内傾した後、短く外反するもの(Ⅲ類)、頸部が直立ないし外傾するもの(Ⅳ類)に分類される。これらの比率は、Ⅰ類が37点(45.1％)、Ⅱ類が２点(2.4％)、Ⅲ類が30点(36.6％)、Ⅳ類が13点(15.9％)となる。Ⅰ類とⅢ類の出土量が多く、Ⅱ類は極少量であることがわかる。

胴部形態は球形化を呈し、特にⅠ類が胴部中位に最大径をもつようになる。底部形態はやや厚い平底が多く、わずかに上げ底を呈するものも1/3程度みられる。

鉢形土器：口径が30cmを越える大型品と、それ以下の中・小型品がある。口縁部の成形方法により、折り曲げるもの(A類)、口縁端部に粘土紐を貼り付けるもの(B類)、直口口縁のもの(C類)に分類される。大型品は５点出土しており、A類が２点、B類が３点となる。中・小型品は27点出土しており、A類が17点、B類が８点、C類が２点となる。

蓋形土器と高坏形土器、ミニチュア品については、出土事例と遺存状況が良好でないため、論考をひかえる。

② 施　文

本資料では、甕形土器と壺形土器は加飾性が強く、鉢形土器は無文である傾向が強い。以下、各器種の施文について整理する。

甕形土器：口縁端面と胴上半部に加飾されるものが多く、全く加飾のないものも少量ある(表1)。

口縁端面には刻目を施すものが多く、148点中70点(47.3％)ある。小数例では、端面に沈線文を施した後、刻目を入れるもの(１点)や、押圧文を施すもの(１点)、連鎖状刻目文を施すもの(２点)がある。

表１　甕形土器の施文一覧

			口縁端面						胴部							
			点数	無文	刻目文	沈線文＋刻目	押圧文	連鎖状刻目文	点数	無文	沈線文	沈線文＋刺突文	沈線文＋山形文	沈線文＋竹管文	沈線文＋刺突文＋山形文	凸帯文
SD1	中型	a類	53	21	32	0	0	0	53	11	14	26	0	0	2	0
		b類	73	37	34	0	1	1	73	19	26	26	1	0	1	0
		小片	0	0	0	0	0	0	22	0	0	7	3	2	10	0
	大型	a類	2	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
		b類	3	1	2	0	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0
		小片	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1	0	0	0
	小型	a類	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	計		132	62	68	0	1	1	157	31	41	65	5	2	13	0
SD2	中型	a類	9	6	2	1	0	0	8	3	2	2	1	0	0	0
		b類	6	5	0	0	0	1	6	1	4	0	0	0	0	1
		c類	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
		小片	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	計		16	12	2	1	0	1	16	4	6	3	1	0	0	1
合計			148	74	70	1	1	2	173	35	47	68	6	2	13	1

ま と め

胴部には、173点中138点(79.8％)の土器に加飾が行われる。文様は、多重沈線文が主要で、刺突文や山形文が組み合うものも多い。これらの比率は、沈線文のみを施すもの47点(27.1％)、沈線文と刺突文が組み合うもの69点(39.3％)、沈線文と山形文が組み合うもの6点(3.5％)、沈線文と刺突文、山形文が組み合うもの13点(7.5％)となる。小数例として、沈線文と竹管文が組み合うものが２点、凸帯文を施すものが１点ある。

胴部に加飾される沈線文は、様々な工具により施文されている。沈線文の技法には、以下の４種類がある。

技法ａ：ヘラ状工具により、単独の線で描かれる沈線文。

技法ｂ：２条１組の工具による沈線文。

技法ｃ：ヘラ状工具を束ねて施したと思われ、３条以上を１組とした工具による沈線文。

技法ｄ：いわゆるクシ状工具による沈線文。

表２　壺形土器の口縁部施文一覧

			口縁端面							口縁部内面				
			点数	無文	刻目文	沈線文	沈線文＋刻目文	斜格子目文	羽状文	点数	無文	凸帯文	凸帯文(刻目)	凸帯文(押圧)
SD1	中型	Ⅰ類	36	10	9	1	8	5	3	36	11	12	12	1
		Ⅱ類	2	1	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0
		Ⅲ類	28	13	9	0	4	2	0	28	28	0	0	0
		Ⅳ類	8	4	4	0	0	0	0	8	8	0	0	0
	大型		2	0	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0
	計		76	28	23	1	13	8	3	76	49	14	12	1
SD2	中型	Ⅰ類	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		Ⅱ類	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		Ⅲ類	2	1	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0
		Ⅳ類	5	5	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0
		小片	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	計		8	7	0	1	0	0	0	9	8	1	0	0
	合計		84	35	23	2	13	8	3	85	57	15	12	1

表３　壺形土器の頸・肩・胴部施文一覧

			頸部									肩・胴部													
			点数	無文	沈線文	凸帯文	沈線文＋刺突文	沈線文＋凸帯文	沈線文＋刻目凸帯	沈線文＋押圧凸帯	沈線文＋連鎖凸帯	点数	無文	沈線文	沈線文＋刺突文	沈線文＋山形文	沈線文＋格子目文	沈線文＋刺突＋山形	沈線文＋刻目凸帯	沈線文＋押圧凸帯	沈線文＋連鎖凸帯	波状文	竹管文	浮文	弧文
SD1	中型	Ⅰ類	36	5	8	6	2	2	8	3	2	22	0	1	9	2	0	2	8	0	0	0	0	0	0
		Ⅱ類	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		Ⅲ類	28	25	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		Ⅳ類	8	5	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小片	5	0	0	0	0	0	0	1	4	26	0	5	4	6	1	3	2	0	1	1	1	2	0
	大型		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		81	34	11	7	2	2	8	4	8	50	2	6	13	8	1	5	10	0	1	1	1	2	0
SD2	中型	Ⅲ類	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		Ⅳ類	5	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計		6	1	4	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計			87	35	15	7	2	2	8	4	9	52	3	6	13	8	1	5	10	0	1	1	1	2	1

沈線文を施した土器136点のうち、技法の不明なものが40点ある。不明なものを除く96点では、a技法が38点(39.6%)、b技法が42点(43.8%)、c技法が2点(2.0%)、d技法が14点(14.6%)となる。

壺形土器：口縁端面、頸部、胴部、口縁部内面に加飾される（表2・3）。

大型品は、口縁端面に刻目と沈線文、口縁部内面には凸帯文を施す。

中・小型品は、Ⅱ類は無文、Ⅲ・Ⅳ類は頸部に沈線文が施されるものが多い。なお、Ⅳ類のうち、凸帯文を施すものが小数例ある。口縁端面には、沈線文や刻目を施すものが40%ある。小数例としては、斜格子目文を施すものが2点ある。胴部への加飾は、無文であることが多いが、弧文を施すものが1点ある。

頸部が筒状を呈するⅠ類には、口縁部内面、頸部、胴部への加飾が著しい。口縁部内面には、凸帯文をもつ傾向があり、凸帯上に刻目を施すものが36点中25点(70%)ある。頸部には、多重の沈線文のほか、沈線文と刺突文が組み合うもの、凸帯文を施すものが多い。口縁端面は、刻目や沈線文を施すものが多く、斜格子目文、羽状文を施すものも小数例みられる。胴部は、肩部から胴部中位まで、多重沈線文と刻目凸帯文で加飾するものが多く、凸帯上に連鎖状刻目文を施すものが小数例みられる。そのほか、文様のモチーフとしては、刺突文、山形文、斜格子目文、孤文がある。孤文のうち貝殻を使用するものが3点ある。このほか、胴部に凸帯文を施すもののうち、凸帯を貼り付ける前に、胴部に沈線文を1条施すことが確かめられた。

頸部や胴部に沈線文を施した土器95点のうち、沈線文技法の不明なものが7点ある。不明なものを除く88点では、a技法が58点(65.9%)、b技法が28点(31.8%)、d技法が2点(2.3%)となる（表4・5）。

鉢形土器：無文であることを基調とする。

表4　SD1出土土器の沈線文技法一覧

	甕形土器						壺形土器					
	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計
① 層	0	2	0	2	6	10	3	2	0	1	0	6
② 層	5	4	0	2	2	13	5	4	0	1	2	12
③ 層	2	8	0	2	5	17	1	4	0	0	1	6
④ 層	7	12	1	7	9	36	14	5	0	0	3	22
⑤ 層	14	12	1	1	11	39	24	11	0	0	0	35
⑦ 層	5	0	0	0	0	5	5	1	0	0	0	6
⑧ 層	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
計	33	38	2	14	34	121	52	27	0	2	7	88

表5　SD2出土土器の沈線文技法一覧

	甕形土器						壺形土器					
	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計	a技法	b技法	c技法	d技法	不明	計
① 層	0	1	0	0	4	5	0	0	0	0	0	0
② 層	0	2	0	0	1	3	0	1	0	0	0	1
③ 層	5	1	0	0	1	7	2	0	0	0	0	2
⑤ 層	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
⑦ 層	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	5	4	0	0	6	15	6	1	0	0	0	7

③調　整

甕形土器：外面は刷毛目調整と刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すものが多い。内面はヘラミガキ調整ないし、ナデ調整を施す。

壺形土器：外面は刷毛目調整後、ヘラミガキ調整を施すものが多い。内面は、口縁部はナデまたはヘラミガキ調整、胴部はナデ調整が多い。

鉢形土器：外面は刷毛目調整を施すものが多いが、内面はナデまたはヘラミガキ調整を施す。

2）石　器（表６・７）

本調査では、ＳＤ1とＳＤ2から56点の石器が出土した。器種構成は石鏃２点、石庖丁９点、扁平片刃石斧５点、柱状片刃石斧２点、伐採斧４点、砥石６点、台石６点、敲石２点、スクレイパー６点、石核２点、剥片８点、石器素材２点、その他２点である。

①石　鏃：石鏃は２点ある。両者共に、ＳＤ1から出土した打製のものである。形態は凹基無茎鏃と平基無茎鏃とがあり、石材はサヌカイトと赤色チャートを使用する。

②石庖丁：石庖丁は９点ある。ＳＤ1から８点、ＳＤ2から１点が出土した。このうち、未製品が４点含まれている。平面形態は４種類に分類され、外湾刃半月形態１点、直線刃半月形態１点、長方形態１点、楕円形態１点となり、形態の不明なものが４点ある。石材は結晶片岩を使用するものが７点、不明なもの２点がある。

③扁平片刃石斧：扁平片刃石斧は５点ある。ＳＤ1から４点、ＳＤ2から１点が出土した。このうち、未製品が１点ある。平面形態は基部に比べ、刃部の幅が広く、側面はやや丸味をおびる。石材は結晶片岩を使用するものが３点あり、他の２点は不明である。

表６　SD1出土石器一覧

（　）:未製品

	石鏃	石庖丁	扁平片刃石斧	柱状片刃石斧	伐採斧	砥石	台石	敲石	スクレイパー	石核	剥片	その他	計
① 層	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
② 層	0	0	1	0	0	1	1	0	3	0	0	0	6
③ 層	0	0	1(1)	0	0	0	4	0	0	0	3	1	9
④ 層	0	3(2)	1	0	1	2	1	2	1	1	5	0	17
⑤ 層	0	3(1)	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	7
⑧ 層	1	0	0	1(1)	1	0	0	0	0	0	0	0	3
層不明	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
計	2	8(3)	4(1)	1(1)	4	5	6	2	5	2	8	2	49

表７　SD2出土石器一覧

（　）:未製品

	石鏃	石庖丁	扁平片刃石斧	柱状片刃石斧	伐採斧	砥石	台石	敲石	スクレイパー	石核	剥片	その他	計
① 層	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
② 層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
④ 層	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
⑤ 層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
⑦ 層	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
層不明	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	0	1(1)	1	1	0	1	0	0	1	0	0	2	7

④柱状片刃石斧：柱状片刃石斧はＳＤ1とＳＤ2よりそれぞれ１点ずつ出土している。ＳＤ1出土品は未製品である。石材や平面形態は不明である。

⑤伐採斧：伐採斧はＳＤ1より４点出土している。すべて破損品で、断面形態は楕円形を呈する。石材はすべて結晶片岩を使用する。

⑥砥　石：砥石はＳＤ1より5点、ＳＤ2より１点が出土した。石材は不明である。

⑦台　石：台石はＳＤ1より６点が出土した。石材は不明である。

⑧敲　石：敲石はＳＤ1より２点が出土した。石材は不明である。

⑨その他：このほか、スクレイパーがＳＤ1より５点、ＳＤ2より１点出土した。石材はサヌカイトを使用するもの２点、安山岩を使用するもの３点、泥岩を使用するもの１点である。また、ＳＤ1より安山岩製の石核２点、ＳＤ2より結晶片岩製の石器素材２点が出土した。

以上、簡単ではあるがまとめを行った。

本調査では、弥生時代前期末から中期前葉の溝(ＳＤ1･2)を検出した。ＳＤ1は調査区南側に隣接する久米高畑遺跡23次調査地で検出したＳＤ001に続くものである。土坑は16基を検出した。これらの土坑と同時期の土坑は、調査地東側に隣接する久米高畑遺跡24次調査地からも多数出土しており、来住台地での弥生時代の大規模な集落の可能性を示す重要な資料となるものである。今後、調査地周辺での調査は細心の注意を払う必要がある。

遺物は、弥生時代前期末から中期前葉の甕形土器と壺形土器が多数出土した。出土した甕形土器と壺形土器の施文について、若干の分類を行うことができたことは調査での一つの成果である。また、石器は、石庖丁の未製品が多数出土し、台石、砥石などの製作にかかわる製品が出土しており、来住台地の集落内での石製品の製作が行われたことが確認できた。また、これらの石製品が弥生時代前期末から中期初頭の土器と共伴して出土したことは、松山平野の石器研究を考える上で好資料となる。

遺構・遺物－凡例－

（1）以下の表は遺物の計測値及び観察一覧である。

（2）各記載について

法　量　欄　　（　）：復元推定値。

形態・施文欄　　土器の各部位名称を略記。

例）口→口縁部、胴上→胴部上半、天→天井部。

胎土・焼成欄　　胎土欄では混和剤を略記した。

例）砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土、金→金雲母。

（　）の内の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表8　溝一覧

溝(SD)	地　区	断面形	規　模 (m) 長さ×幅×深さ	方向	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	A3～D4	逆台形	10.55×10.55×1.00	南北	黒褐色土	弥生 石	弥生前期末 ～中期初頭	
2	A11～D11	逆台形	10.00×3.95×1.20	南北	黒褐色土	弥生・須恵 石・鉄 管玉・植物遺体	弥生前期末 ～中期初頭	

表9　掘立柱建物址一覧

掘立	規　模 (間)	方　向	桁　行		梁　行		方　位	床面積 (㎡)	時　期	備　考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)				
1	2×?	不明	3.88	2.32	1.70	1.70		6.6	不明	
2	1×1	不明	4.52	2.10	3.66	3.36		16.5	不明	
3	3×?	不明	4.49	1.50	1.52	1.52		6.8	不明	

表10　土坑一覧

土坑(SK)	地　区	平面形	断面形	規　模 (m) 長さ×幅×深さ	床面積 (㎡)	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	C6～D7	楕円形	逆台形状	2.83×1.94×0.35	5.49	黒褐色土 ＋黄色土	弥生 石	弥生前期末 ～中期初頭	小ピット 貼床
2	B6～C7	長方形	皿状	2.80×2.22×0.16	6.21	黒褐色土 ＋黄色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
3	D6・7	長方形	逆台形状	2.94×(1.60)×0.45	(4.70)	黒褐色土	炭化物	弥生前期末 ～中期初頭	テラス 小ピット
4	B・C8	楕円形	皿状	2.63×1.95×0.12	5.12	茶褐色土 ＋黄色土	弥生	弥生中期後半	小ピット
5	D4	長方形	皿状	1.42×1.00×0.25	1.42	茶褐色土	弥生 石	弥生中期後半	
6	B5	不定形	皿状	2.16×1.75×0.05	3.78	茶褐色土		弥生中期後半	
7	D4・5	方　形	逆台形状	3.00×(1.15)×0.40	(3.45)	黒褐色土		弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
8	B・C5	長方形	逆台形状	1.52×1.30×0.30	1.97	茶褐色土 ＋黄色土	弥生	弥生中期後半	
9	A6	方　形	皿状	1.70×(1.35)×0.18	(2.29)	黒褐色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
10	B6	長方形	皿状	1.30×0.80×0.20	1.04	黒褐色土		弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
11	B6	長方形	皿状	0.80×0.54×0.21	0.43	黒褐色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
12	B8	不整楕円形	逆台形状	2.22×1.80×0.19	3.99	黒褐色土 ＋黄色土		弥生前期末 ～中期初頭	テラス 小ピット
13	A9	円形か 楕円形	皿状	2.00×(1.24)×0.28	(2.48)	黒褐色土	弥生 石	弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
14	A・B9	長方形	皿状	3.20×2.10×0.10	6.72	黒褐色土	弥生	弥生前期末 ～中期初頭	小ピット
15	C5	不整方形	皿状	2.03×1.70×0.18	3.45	黒褐色土 ＋黄色土		弥生前期末 ～中期初頭	
16	D12	楕円形	皿状	(1.75)×1.30×0.15	(2.27)	茶褐色土 ＋黄色土		弥生中期後半	

表11　性格不明遺構一覧

性格不明遺構(SX)	地　区	平面形	断面形	規　模 (m) 長さ×幅×深さ	床面積 (㎡)	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	D12	不整長方形	舟底状	3.80×1.30×0.22	4.94	黒色土 (褐色土混入)	弥生・土師 須恵	古墳後期	

表12　SD1　①層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
1	甕	口径(20.0) 残高 6.9	貼付口縁。無文。	マメツ、ハクリ	マメツ、ハクリ	乳桃色 乳桃色	石・長(1~4)多 ○		
2	甕	残高 3.3	貼付口縁。無文。	㊤ミガキ ㊦ヨコナデ ㊥ハケ(5*/cm)	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
3	甕	残高 3.3	貼付口縁。クシ沈線文(4条1組) 8条以上。	㊤ミガキ ㊦ヨコナデ ㊥ハケ(4*/cm)	ミガキ	暗赤茶色 (一部黒色) 暗赤茶色	石・長(1~2) ◎		11
4	甕	残高 3.8	貼付口縁。沈線文9条以上。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○		
5	甕	残高 4.0	貼付口縁。沈線文(ヘラ・2条1組) 7条＋刺突文2列。	マメツ	マメツ、ハクリ	乳茶色 乳赤橙色	石・長(1~2)多 ○		
6	甕	残高 4.9	貼付口縁。沈線文4条＋刺突文＋沈線文1条以上。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3)多 ○		
7	甕	残高 4.2	貼付口縁。沈線文＋刺突文2列。	ナデ	マメツ	暗灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
8	甕	残高 1.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		11
9	甕	残高 1.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文4条以上。	マメツ	ナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~3)多 ○		
10	甕	残高 3.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文8条＋刺突文1列以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		11
11	甕	口径(38.0) 残高 10.3	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組) 14条＋刺突文。大型品。	㊤ヨコナデ ㊥ハケ(8*/cm)	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) ◎		11
12	甕	残高 4.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	㊤ヨコナデ ㊥ハケ(6*/cm)	ミガキ	灰色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
13	甕	残高 5.6	折り曲げ口縁。口縁端面下端部に 刻目。	㊤ヨコナデ ㊥マメツ	㊤ナデ ㊥ミガキ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
14	甕	残高 3.3	折り曲げ口縁。口縁端面下端部に 刻目。	㊤ヨコナデ ㊥マメツ	マメツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1) ◎		11
15	甕	残高 3.3	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文4条以上。	ヨコナデ	㊤ミガキ ㊥マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~4) ○		
16	甕	口径(26.0) 残高 5.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文(単位不明)9条＋刺突文 2列。	㊤ヨコナデ ㊥マメツ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
17	甕	口径(23.6) 残高 7.1	「く」字状口縁。口縁端部は上方につ まみ上げる。頸部に刻目凸帯文1条。 弥生中期後半	㊤ヨコナデ ㊥マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		11
18	甕	口径(26.0) 残高 5.6	「く」字状口縁。口縁端部は上方につ まみ上げる。頸部に刻目凸帯文1条。 弥生中期後半。	㊤ヨコナデ ㊥ハケ(8*/cm)	㊤ヨコナデ ㊥ハケ(8*/cm)	灰茶色 乳灰茶色	長(1) ◎		11
19	甕	口径(23.4) 残高 2.3	「く」字状口縁。口縁端面に凹線文1条。 弥生中期後半。	マメツ	㊤ヨコナデ ㊥マメツ	乳赤茶色 乳黄灰色	石・長(1)少 ◎		11
20	甕	口径 24.4 残高 24.1	「く」字状口縁。口縁端面はナデにより凹む。	㊤ヨコナデ ㊥ミガキ	㊤ヨコナデ ㊥ミガキ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		11
21	甕	残高 4.6	ヘラ沈線文3条以上＋刺突文＋沈線 文3条＋刺突文＋沈線文3条＋刺突 文＋沈線文2条以上。	ハケ(9*/cm)	マメツ	乳茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		11
22	甕	残高 3.9	刺突文＋ヘラ沈線文1条＋山形文(2 条1組)＋沈線文1条＋刺突文＋沈 線文1条以上。	ハケ(3*/cm)	ナデ→ミガキ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2)少 ◎		11

SD1　①層出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
23	甕	底径 (5.8) 残高 4.3	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ	灰黄白色 黒灰色	石・長(1~8) ○	煤付着	
24	甕	底径 (6.2) 残高 2.4	上げ底。	ナデ	ミガキ	灰桃色 灰桃色	石・長(1~3) ◎		
25	甕	底径 (6.0) 残高 6.1	わずかに上げ底。	胴マメツ 底ナデ	マメツ	灰茶色 灰黄色	石・長(1~5) ○		
26	甕	底径 (6.6) 残高 7.5	わずかに上げ底。	胴ミガキ 底ナデ	ミガキ	乳茶色 灰色	石・長(1~3) ○		
27	甕	底径 5.2 残高 8.4	平底。	頸上ミガキ 頸下ナデ→ミガキ 底ミガキ	ナデ	灰赤茶色 灰色	石・長(1~4) ◎	煤付着	
28	壺	口径(14.0) 残高 10.5	内傾する頸部に短く外反する口縁部。無文。	ハケ(5~6‰)→ミガキ (小口痕)	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ○		
29	壺	残高 3.9	口縁端面にヘラ沈線文1条＋刻目。	口縁マメツ 口ミガキ	板ナデ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~4) ◎		11
30	壺	口径 (9.4) 残高 4.3	外傾するやや太い口頸部。口縁端面下端部に刻目。頸部にヘラ沈線文1条以上。	口ヨコナデ 頸ハケ(9~10‰)→ナデ	ハケ(9~10‰) →ヨコナデ →ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~4) 金 ◎		
31	壺	口径(18.0) 残高 7.5	外傾する口頸部。口縁端面に斜格子目文。頸部に沈線文(2条1組)3条以上。	口ヨコナデ 頸ハケ(6‰)→ナデ	ナデ→ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~7) ◎		
32	壺	口径(15.6) 残高 3.6	口縁端部を上下方に拡張し、口縁端面に凹線文4条を施す。弥生中期後半。	口ヨコナデ 頸ハケ(4‰)→ヨコナデ	口ヨコナデ 頸ナデ	乳赤茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
33	壺	口径 (8.1) 残高 3.9	直立する太い口頸部。口縁端面に山形文(2条1組)。口頸部外面にヘラ沈線文6条＋波状文＋沈線文4条以上。	ハケ(8‰)	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
34	壺	残高 4.7	ヘラ沈線文2条以上＋刻目凸帯文＋沈線文5条＋刻目凸帯文＋沈線文2条以上。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~3) ○		11
35	壺	残高 4.6	刻目凸帯文1条。	頸マメツ 凸帯ヨコナデ 胴ミガキ	マメツ・ハクリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
36	壺	残高 4.4	刺突文＋沈線文8条＋刺突文。	マメツ	マメツ	茶色 茶色	石・長(1~3)少 ◎		11
37	壺	残高 6.9	沈線文7条＋山形文(2条1組)＋沈線文5条以上。	ハケ(7‰)→ナデ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~5)多 ○		11
38	壺	残高 7.0	刺突文＋クシ沈線文(4条1組)7条以上。	ハケ(10‰)→ミガキ	ナデ (指頭痕)	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~3) ◎		11
39	壺	底径 6.4 残高 12.9	突出した厚みのある底部。わずかに上げ底。	ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
40	鉢	残高 3.3	直口口縁。沈線文(2条1組)8条以上。	口ヨコナデ 胴ミガキ	ナデ→ミガキ	茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		
41	鉢	残高 3.2	貼付口縁。無文。	(指頭痕)	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
42	鉢	口径(10.4) 残高 3.9	小型品。貼付口縁。無文。	口上ミガキ 口下ヨコナデ 胴ミガキ	口ハケ(6‰)→ナデ 胴ナデ→ミガキ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
43	鉢	口径(14.0) 残高 5.0	貼付口縁。無文。	口上ハケ(4‰)→ミガキ 口下ヨコナデ 胴ハケ→ミガキ	ナデ→ミガキ	黒灰色 暗赤茶色	石・長(1~5) ◎		
44	鉢	口径(26.0) 残高 8.0	貼付口縁。無文。	口ヨコナデ (指頭痕) 胴ハケ(6~7‰)→ミガキ	ミガキ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ○		

SD1　①層出土遺物観察表　土製品　（3）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
45	鉢	口径(18.6) 残高　7.7	貼付口縁。沈線文6条＋山形文（2条1組）＋沈線文（2条1組）。器壁厚い。甕の可能性あり。	マメツ	マメツ	茶　色 茶　色	石・長(1~4) ◎		
46	鉢	残高　5.7	貼付口縁。口縁端面に刺突文。	㊐ヨコナデ(工具痕) ㊥ハケ(6本/cm)→ミガキ	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
47	鉢	残高　7.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(6本/cm)→ミガキ	㊐ナデ(指頭痕) ㊥ミガキ	黒灰色 灰茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
48	鉢	残高　3.5	器壁薄い。	ミガキ	ミガキ	黒灰色 黒灰色	石・長(1)少 ◎	縄文土器	

表13　SD1　①層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
49	石鏃	完形	サヌカイト	2.50	1.85	0.30	1.17		
50	扁平片刃石斧	ほぼ完形	不明	4.20	2.50	0.60	13.75		
51	石庖丁	1／3	不明	5.70	3.00	0.50	11.28		
52	石庖丁	1／2	不明	7.20	4.70	0.60	26.37		
53	砥石		不明	14.20	4.10	4.00	313.00		

表14　SD1　②層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
54	甕	口径(22.6) 残高　4.4	貼付口縁。無文。	㊐ヨコナデ ㊥マメツ	ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
55	甕	残高　6.6	貼付口縁。無文。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(5~6本/cm)	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○		12
56	甕	口径 21.8 残高 12.5	貼付口縁。口縁端面下端に刻目。胴部は無文。	㊐ナデ ㊥ハケ(5本/cm)→ミガキ	ハケ(5本/cm)→ミガキ	乳茶色 乳赤茶色	石・長(1~3) 金 ◎	黒斑	12
57	甕	残高　3.1	貼付口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文3条以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		12
58	甕	口径(23.4) 残高　4.5	貼付口縁。沈線文（2条1組）8条以上。	ヨコナデ	ミガキ	茶　色 茶　色	石・長(1~2) 金 ◎		12
59	甕	口径(25.6) 残高　5.3	貼付口縁。沈線文8条＋刺突文1列。	㊐ヨコナデ ㊥マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~4) ○		12
60	甕	口径(22.2) 残高　4.5	貼付口縁。沈線文（2条1組）8条以上。＋刺突文1列以上。	ヨコナデ	ミガキ	灰黄茶色 茶　色	石・長(1~4) ○		
61	甕	口径(23.0) 残高　4.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。沈線文（2条1組）6条＋山形文2条。	㊐ヨコナデ ㊥マメツ	ミガキ	乳灰茶色 黄茶色	石・長(1~3) ◎		12
62	甕	口径(24.2) 残高　6.4	折り曲げ口縁。無文。	㊐ナデ ㊥ハケ(6本/cm)	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
63	甕	口径(26.0) 残高　7.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文4条。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(4~5本/cm)	ハケ(4~5本/cm)→ミガキ	乳灰茶色 茶　色	石・長(1~3) ◎		12

SD1　②層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
64	甕	口径(23.6) 残高 5.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文(4条1組)8条+刺突文2列	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(7~8*/cm)	マメツ	黒灰色 桃橙色	石・長(1~2) ◎		12
65	甕	口径(22.7) 残高 6.9	折り曲げ口縁。沈線文7条+刺突文+沈線文8条+刺突文。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(10*/cm)	㊐ヨコナデ ㊥ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
66	甕	口径(22.8) 残高 11.2	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(2条1組)6条+刺突文+沈線文7条+刺突文2列。	ナデ	ナデ	灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		12
67	甕	口径(22.4) 残高 7.9	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文5条+山形文+沈線文5条+刺突文。	一部ハケ(7*/cm)	ナデ上げ？	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
68	甕	残高 3.3	ヘラ沈線文1条以上+半截竹管文。	ハケ(12*/cm)→ミガキ	ナデ？	乳灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		12
69	甕	残高 5.8	ヘラ沈線文3条以上+刺突文。	一部ハケ(7*/cm)	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~3) ◎		12
70	甕	底径(6.0) 残高 4.3	くびれの上げ底。弥生中期後半。	㊥ハクリ ㊞ナデ	ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
71	甕	底径(7.2) 残高 3.9	上げ底。	㊥ミガキ ㊞ナデ	ナデ	黒灰色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
72	甕	底径(7.2) 残高 4.7	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
73	甕	底径 6.2 残高 5.6	わずかに上げ底。	㊥ミガキ ㊞ナデ	ナデ	黄茶色 黒色	石・長(1~2) ◎	内面に煤付着	
74	甕	底径 5.2 残高 5.8	厚みのある平底。	㊥ナデ→ミガキ ㊞ナデ	ナデ	灰茶色 灰黄茶色	石・長(1~2) ◎	外面に煤付着	
75	甕	底径(7.2) 残高 4.2	平底。	㊥ミガキ ㊞ナデ	ナデ	灰茶色 黒灰色	長(1) ◎		
76	壺	口径(21.2) 残高 6.8	短く外反する口縁部。口縁端面に刻目。	㊐ハケ(9~10*/cm)→ナデ ㊦ハケ→ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
77	壺	口径(14.8) 残高 7.0	短く外反する口縁部。口縁端面は凹む。	マメツ	工具痕	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
78	壺	口径(17.0) 残高 7.0	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	㊐ヨコナデ ㊦ハケ(4*/cm) (一部ミガキ？)	ヨコナデ→ミガキ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		12
79	壺	口径(12.8) 残高 5.1	直立する頸部に、ゆるやかに外反する口縁部。頸部に扁平な凸帯文2条。口縁端部内面はやや肥厚する。	㊐ナデ ㊦ミガキ？	㊐ナデ ㊦ミガキ？	乳黄色 乳黄色	石・長(1~3) ◎		12
80	壺	口径(21.2) 残高 4.4	外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。	㊐ヨコナデ ㊦指頭痕	ミガキ？	乳灰桃色 灰色	石・長(1~5) ○		
81	壺	口径(22.0) 残高 2.5	外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。	㊐マメツ ㊦一部ハケ(3*/cm)	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~4)多 ○		
82	壺	口径(23.0) 残高 2.3	外反する口縁部。口縁端面上下端に刻目。	㊐マメツ ㊐ナデ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		12
83	壺	口径(20.0) 残高 8.7	筒状の頸部に外反する口縁部。口縁端面に刻目。口縁内面に凸帯文1条。	㊐ヨコナデ ㊦ハケ(7*/cm)	マメツ	黄桃白色 乳桃白色	石・長(1~3) ◎		
84	壺	残高 3.0	外反する口縁部。口縁端面に山形文2条、口縁内面に凸帯文1条。	㊐マメツ ㊦ハケ(8*/cm)	ヨコナデ	灰黄色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		12
85	壺	残高 4.8	ヘラ沈線文5条以上。小片。	ミガキ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		

SD1　②層出土遺物観察表　土製品　（3）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
86	壺	残高 8.7	ヘラ沈線文４条＋押圧凸帯文１条。内面に凸帯文１条。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~4) ◎		12
87	壺	残高 4.1	刻目凸帯文２条＋刺突文。	ナデ	マメツ	黄白色 黄白色	長(1) ◎		12
88	壺	残高 5.4	ヘラ沈線文４条以上＋刺突文。粘土接合痕あり。	㊤ハケ(6~7*/cm) ㊦ミガキ	板ナデ	乳茶色 赤茶色	石・長(1~2) ◎		
89	壺	残高 4.6	刺突列点文１列。	㊤ハケ(6~7*/cm) ㊥ハケ→ヨコナデ ㊦ハケ	ハケ(6~7*/cm)→ナデ (指頭痕)	灰茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
90	壺	残高 3.0	ヘラ沈線文３条以上＋竹管文。	㊤ハケ(7~8*/cm) ㊦ハケ(14~15*/cm)	ハケ(14~15*/cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		12
91	壺	残高 4.6	クシ描き波状文７条以上。	ミガキ	ミガキ (一部ハケ)	茶色 茶色	石・長(1~7) ◎		12
92	壺	残高 5.5	沈線文(２条１組)６条以上。	ミガキ	ハクリ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~2) ◎		
93	壺	残高 5.8	刺突文＋沈線文８条＋刺突文。	ミガキ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ○		12
94	壺	残高 8.0	刺突文＋沈線文(２条１組)５条＋刺突文２列＋沈線文５条＋刺突文。	マメツ	ミガキ	乳茶色 茶色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
95	壺	残高 7.1	ヘラ沈線文２条＋斜格子目文(２条)沈線文２条＋刺突文。	マメツ	ミガキ	乳灰黄色 灰茶色 (一部黒色)	石・長(1~3) ◎		
96	壺	残高 10.2	沈線文２条＋山形文(２条１組)＋沈線文７条＋山形文＋沈線文10条＋刺突文２列.	マメツ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
97	壺	残高 7.4	沈線文３条＋刻目凸帯文３条＋沈線文３条。	ミガキ ㊥ヨコナデ	マメツ	乳灰茶色 灰白色	石・長(1~4) ◎		12
98	壺	底径 7.4 残高 7.1	わずかに上げ底。	㊥ミガキ ㊦ナデ	㊥ミガキ ㊦ナデ	茶橙色 茶橙色	石・長(1~3) ◎		
99	壺	底径 (8.4) 残高 3.7	平底。	㊥ミガキ ㊦ナデ	ミガキ	灰桃色 茶橙色	石・長(1) ◎		
100	壺	底径 (6.6) 残高 4.0	厚みのある平底。	㊥上ハケ(6*/cm) ㊥下ハケ→ヨコナデ ㊦ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	長(1~2) ◎		
101	壺	底径(10.0) 残高 3.3	平底。	㊥上ハケ(6*/cm)→ミガキ ㊥下強いナデ(ケズリ風) ㊦強いナデ(ケズリ風)	ナデ (指頭痕、工具痕)	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
102	壺	底径 7.8 残高 2.8	平底。	㊥ハケ(5*/cm)→ミガキ ㊦強いナデ(ケズリ風)	ナデ	乳黄茶色 黒灰色	石・長(1~3) ◎		
103	壺	底径 7.8 残高 2.8	厚みのある平底。粘土接合痕あり。	マメツ	ナデ	乳桃茶色 乳灰黄色	石・長(1~3) ◎		
104	壺	底径(11.9) 残高 2.5	平底。内面はハクリ。	マメツ	ハクリ	灰黄白色 黒灰色	石・長(1~5) ◎		
105	壺	底径 (8.5) 残高 5.4	平底。	マメツ	ミガキ	灰黄白色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
106	壺	底径(10.0) 残高 5.9	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 灰黄色	石・長(1~6) ○		
107	壺	底径 9.0 残高 3.5	丸みのある平底。	㊥ナデ ㊦マメツ	ナデ	乳灰茶色 灰色	石・長(1~4) ◎		

SD1　②層出土遺物観察表　土製品　（4）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
108	壺	底径(11.6) 残高 5.7	平底。	胴上ハケ(7本/cm) 胴下ハケ→ナデ 底ナデ	ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~2) ○		
109	壺	底径(11.8) 残高 5.2	平底。内面はハクリ。	胴ハケ(7本/cm)→ミガキ 底ナデ	ハクリ	茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		
110	鉢	残高 3.9	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(6本/cm)	口ミガキ 胴マメツ	黒色 茶色(一部黒色)	石・長(1~2) ◎		
111	コシキ	底径(6.6) 残高 4.0	甕形土器の転用品。わずかに上げ底。底部中央に孔あり(φ2cm)。	胴マメツ 底ナデ	マメツ	乳灰茶色 灰茶色	石・長(1~3)多 ◎		

表15　SD1　②層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
112	扁平片刃石斧	ほぼ完形	結晶片岩	4.56	2.00	0.85	12.25		
113	スクレイパー	完形	安山岩	8.50	6.60	1.37	72.16		
114	スクレイパー	完形	安山岩	8.10	5.70	1.10	82.36		
115	スクレイパー		泥岩	(9.00)	4.90	0.78	45.04		
116	砥石	完形	不明	11.60	2.55	2.45	118.16		
117	台石	2／3	不明	17.30	9.40	10.70	2,300.00		

表16　SD1　③層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
118	甕	口径(23.0) 残高 7.3	貼付口縁。無文。	マメツ	マメツ	黄茶色 乳赤茶色	石・長(1~4) ○		
119	甕	口径(20.8) 残高 4.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。胴部は無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(7本/cm)	ミガキ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○		
120	甕	口径(21.4) 残高 4.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。胴部は無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(10本/cm)→ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○		
121	甕	口径(22.6) 残高 6.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。胴部は無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(7本/cm)→ミガキ	ミガキ	乳灰茶色 茶色	石・長(1~5) ◎	(内面に)黒斑	
122	甕	残高 6.9	貼付口縁。口縁端面に刺突文。器壁厚い。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4)多 ○		
123	甕	残高 3.3	貼付口縁。口縁端面に刺突文。	口縁ミガキ 胴ヨコナデ	ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ○		
124	甕	残高 5.0	貼付口縁。沈線文7条以上。	口ヨコナデ 胴ハケ(7本/cm)	ナデ	黒灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
125	甕	残高 5.0	貼付口縁。クシ沈線文12条以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
126	甕	口径(24.2) 残高 16.1	貼付口縁。口縁端面に刻目。沈線文9条。	口マメツ 胴ミガキ	ミガキ？	乳灰黄色 茶色	石・長(1~4) ○		
127	甕	口径(19.8) 残高 16.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。沈線文8条。	口ヨコナデ 胴上ハケ(4本/cm) 胴下ハケ→ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	

SD1　③層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
128	甕	口径(22.4) 残高 15.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文（2条1組）10条。	㊀ヨコナデ ㊁上ハケ(4~5*/cm) ㊁下ハケ→ミガキ	ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	(内外面に) 黒斑	13
129	甕	口径(29.8) 残高 4.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文4条＋刺突文＋沈線文2条以上。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
130	甕	口径(21.2) 残高 8.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文（2条1組）8条。＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	ミガキ	黒色 乳茶色	石(1~5)長(1)多 ◎		
131	甕	口径(21.4) 残高 6.1	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(4*/cm)→ミガキ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
132	甕	口径(28.2) 残高 14.2	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	一部にナデ	㊀マメツ ㊁ナデ	赤茶色・乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~4)多 ○		
133	甕	口径(25.2) 残高 13.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文4条。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(8*/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	灰茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		13
134	甕	残高 4.7	折り曲げ口縁。沈線文（2条1組）12条＋刺突文。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~3) ◎		
135	甕	残高 4.9	折り曲げ口縁。沈線文5条＋刺突文。	ナデ	ナデ	灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) ○		
136	甕	口径(18.2) 底径 (7.1) 残高 21.3	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 クシ沈線文（4条1組）12条＋刺突文。 わずかに上げ底。	㊀ヨコナデ ㊁上ハケ(5*/cm) ㊁下ミガキ ㊂ナデ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	灰茶色・黒色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		13
137	甕	口径(24.0) 残高 5.9	折り曲げ口縁。沈線文6条＋刺突文＋沈線文6条以上（2条1組）。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(9*/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	黒色 乳灰黄色	石・長(1~2) ◎		
138	甕	口径(26.4) 残高 6.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文12条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	㊀マメツ ㊁ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ○		
139	甕	口径(29.4) 残高 11.2	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 沈線文6条＋山形文（2条1組）＋沈線文4条＋刺突文2列。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(6*/cm)	マメツ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~3) 金 ◎		13
140	甕	残高 11.6	ヘラ沈線文6条＋刺突文＋沈線文8条＋刺突文。	㊤ハケ(10*/cm) ㊦ミガキ	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ○		13
141	甕	残高 4.4	沈線文＋刺突文＋沈線文3条＋刺突文。	一部ハケ(6*/cm)	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○		
142	甕	残高 1.7	沈線文＋山形文（1条と2条）。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~2) ○		
143	甕	口径(16.8) 残高 5.1	「L」字状に折れ曲がる口縁部。口縁端面に不明瞭な凹線文1条。	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
144	甕	底径 6.4 残高 11.5	わずかに上げ底。	㊁ミガキ ㊂ナデ	ナデ	灰橙色 灰色	石・長(1~4) ◎		
145	甕	底径 6.0 残高 4.4	上げ底。	㊁一部ナデ ㊂ナデ(指頭痕)	マメツ	乳茶色 乳灰黄色	石・長(1~4)多 ○		
146	甕	底径 (5.5) 残高 4.9	厚みのある上げ底。	㊁ハケ(4*/cm)→ミガキ ㊂ナデ	ナデ	灰茶色 灰色	石(1~4) ◎		
147	甕	底径 6.9 残高 3.1	上げ底。	ナデ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3)多 ○		
148	甕	底径 6.8 残高 4.0	上げ底。	㊁ミガキ (指頭痕) ㊂ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
149	甕	底径 6.6 残高 6.9	厚みのある平底。	㊁ハケ(7~8*/cm)→ミガキ ㊂ミガキ	ナデ	乳灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎		

SD1　③層出土遺物観察表　土製品

（3）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
150	甕	底径 6.7 残高 6.4	平底。	胴ミガキ 底ナデ	ナデ	暗赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
151	壺	残高 3.0	大型品。口縁端面にヘラ沈線文1条＋刻目。内面に凸帯文1条。	マメツ	口マメツ 凸帯ヨコナデ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~3)多 ○		
152	壺	口径(14.8) 残高 4.9	短く外反する口縁部。無文。	口ヨコナデ 頸ハケ(5~6‰)→ヨコナデ 胴ミガキ	口縁ミガキ 胴ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
153	壺	口径(13.3) 残高 5.6	直立する口頸部。	口ヨコナデ 頸ハケ(8‰) 胴ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
154	壺	口径(18.2) 残高 8.3	外反する口縁部。口縁端面に刻目。頸部に刻目凸帯文1条。	口縁マメツ 口縁ミガキ 凸帯ヨコナデ	ナデ→ミガキ	乳茶色 黒色	石・長(1~3) ◎		
155	壺	口径(13.4) 残高 7.9	筒状の頸部から外反する口縁部。沈線文8条。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~4)多 ○		
156	壺	口径(18.6) 残高 7.2	筒状の頸部から外反する口縁部。無文。	口ヨコナデ 頸マメツ	マメツ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~4)多 ○		
157	壺	残高 2.7	外反する口縁部。凸帯文5条以上。	マメツ	マメツ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~4) ○		
158	壺	口径(21.6) 残高 9.9	大きく外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。	口ナデ 口頸胴ハケ(7‰)	口縁ミガキ 胴ナデ	乳黄桃色 灰茶色	石・長(1~4) ○		
159	壺	口径(23.1) 残高 4.7	大きく外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。	口ヨコナデ 頸マメツ	ミガキ	乳桃色(端部黒色) 灰茶色	石・長(1~3) ○		
160	壺	口径(22.4) 残高 2.2	大きく外反する口縁部。口縁端面下端に刻目。内面に刻目凸帯文1条。	口縁ヨコナデ 口マメツ	口ミガキ 凸帯ヨコナデ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		13
161	壺	残高 1.4	口縁端面に刻目。内面に刻目凸帯文。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~4) ○		13
162	壺	残高 13.2	外傾する長い口頸部。外面に刺突文＋沈線文(2条1組)10条＋刺突文。内面に刻目凸帯文3条(2条は全周しない。)	ミガキ	ミガキ 凸帯ヨコナデ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~4) ◎		13
163	壺	残高 5.1	刻目凸帯文2条。	ミガキ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~2) ○		13
164	壺	残高 8.2	沈線文5条＋押圧凸帯文＋沈線文(2条1組)4条＋凸帯文＋沈線文4条。	ハケ(6‰)	ハケ(6‰)→ミガキ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~3) ◎		13
165	壺	残高 5.0	沈線文6条＋竹管文＋沈線文(2条1組)8条以上。	ハケ(4~5‰)	マメツ	乳黄茶色 赤茶色	石・長(1~5) ◎		
166	壺	残高 6.9	M字状凸帯(刻目)＋刺突文。	頸マメツ 凸帯ヨコナデ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~2) ◎		13
167	壺	残高 16.4	頸部外面、口縁部内面に凸帯文。	頸ハケ(7‰) 凸帯ヨコナデ 胴マメツ	凸帯ヨコナデ 頸胴ミガキ	乳灰黄色 乳茶色	石・長(1~4) ○		
168	壺	底径 8.0 残高 18.2	わずかに上げ底。球形の胴部。	胴マツメ 底ナデ	マメツ	乳茶色 灰茶色	石・長(1~4) ○		
169	壺	底径 15.0 残高 9.2	大きな平底で、中央部がやや凹む。	ミガキ	ナデ	乳茶色・黒色 赤茶色	石・長(1~5)多 ○		
170	壺	底径 (8.6) 残高 7.7	わずかに上げ底。	胴マツメ 底ナデ	マメツ	乳茶色 灰黄白色	石・長(1) ○		
171	壺	底径 (8.5) 残高 5.6	わずかに上げ底。	胴ハケ(5‰)→ミガキ 底ミガキ	ナデ	暗灰茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		

SD1　③層出土遺物観察表　土製品　（4）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
172	壺	底径 6.7 残高 7.0	わずかに上げ底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ	乳茶色 茶白色	石・長(1~4) ◎		
173	壺	底径 (8.5) 残高 4.4	わずかに上げ底。	(胴上)ミガキ (胴下)ハケ(13本/cm)→ナデ (底)ミガキ	ナデ	暗茶色 茶白色	石・長(1~3) ◎		
174	壺	底径 (7.0) 残高 5.5	わずかに上げ底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ	乳茶色 茶白色	石・長(1)多 ○		
175	壺	底径(11.8) 残高 4.5	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ	灰桃色 黄桃色	石・長(1~2) ○		
176	壺	底径 8.0 残高 6.1	平底。	マメツ	ナデ	白桃色 黄白色	石・長(1~3) ○		
177	鉢	口径(33.4) 残高 17.0	大型品。折り曲げ口縁。無文。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(6本/cm)	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
178	鉢	残高 7.4	折り曲げ口縁。無文。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
179	鉢	残高 4.7	直口口縁。口縁端部は「コ」字状。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~4) ◎		
180	コシキ	底径 6.3 残高 6.0	甕形土器の転用品。平底。 底部中央に孔(φ1.3cm)。	(胴)ミガキ (底)ナデ	ミガキ	灰赤茶色 赤茶色	石・長(1~4) ◎		
181	コシキ	底径 (6.8) 残高 5.8	甕形土器の転用品。平底。 底部中央に孔(φ1.7cm)。	マメツ	ナデ	乳赤茶色 黒灰茶色	石・長(1~3)多 ◎		
182	蓋	つまみ径 7.1 残高 9.4	つまみ中央部は凹む。	一部ハケ(10本/cm)・(6~7本/cm)	マメツ	乳桃橙色 桃橙色	石・長(1~4)多 ○		
183	蓋	つまみ径 5.8 残高 4.2	つまみ上面は平坦。	(天)ナデ (体)ハケ(6本/cm)→ナデ	ハケ(8~9本/cm)→ナデ	灰色 黒色	石・長(1~3)		
184	浅鉢	残高 2.0	縄文晩期。	ヨコナデ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ	灰茶色 灰茶色	長(1)密 ○		

表17　SD1　③層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
185	扁平片刃石斧	完形	結晶片岩	9.70	4.50	1.53	97.36	未製品	
186	剥片		サヌカイト	4.50	2.80	0.50	5.54		
187	剥片		サヌカイト	3.20	2.60	0.35	2.98		
188	剥片		サヌカイト	3.90	2.00	0.55	3.95		
189	台石		不明	19.20	12.60	3.60	1,360.00		
190	台石		不明	(9.80)	(8.60)	2.50	284.64		
191	台石		不明	15.60	11.10	7.40	1,800.00		
192	台石		不明	(14.20)	(9.70)	(9.00)	1,900.00		
193	母岩		安山岩	12.70	10.50	6.60	1,340.00		

表18　SD1　④層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
194	甕	口径(25.2) 残高 6.4	貼付口縁。無文。	(口下)押圧痕	マメツ	黄茶色 茶桃色	石・長(1~5) ○		
195	甕	残高 1.6	貼付口縁。	ヨコナデ	ハクリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
196	甕	残高 5.8	貼付口縁。沈線文10条。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
197	甕	口径(26.2) 残高 8.6	貼付口縁。沈線文８条。	(口)ハケ(5%)→ヨコナデ (頸上)ハケ (頸下)ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
198	甕	口径(22.0) 残高 4.1	貼付口縁。ヘラ沈線文６条以上。	ヨコナデ	ミガキ	灰黄茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
199	甕	口径(25.8) 残高 5.0	貼付口縁。クシ沈線文16条以上（単位不明）。	(口上)ヨコナデ→ミガキ (口下)ナデ (頸下)ハケ（9*/cm）	ナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ◎		14
200	甕	口径(17.0) 残高 3.8	貼付口縁。沈線文４条以上。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ（7*/cm）	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
201	甕	口径(17.2) 残高 4.1	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文８条以上。	(口)ナデ (工具による押圧痕) (胴)マメツ	ミガキ	乳灰黄茶色 乳赤茶色	石・長(1~3) ◎		
202	甕	口径(25.4) 残高 16.2	貼付口縁。沈線文（２条１組）９条。	(口)ナデ (胴)ミガキ	ナデ	灰赤茶色 赤茶色	石・長(1~4) ○		
203	甕	口径(19.8) 残高 3.9	貼付口縁。口縁端面に刺突文。 沈線文（２条１組）８条以上。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(10*/cm)	ミガキ	灰赤茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
204	甕	口径(20.4) 残高 13.1	貼付口縁。沈線文４条＋刺突文。	(口下)ヨコナデ (頸上)ハケ（6*/cm）	ミガキ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~3) ◎		
205	甕	口径(24.1) 残高 9.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文（２条１組）12条＋刺突文。 胴部の張りが強い。	(口)ヨコナデ (頸上)ハケ(10%)・(5%) (頸下)ハケ→ミガキ	ミガキ？	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
206	甕	口径(23.0) 残高 8.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文８条＋刺突文。	(口)ヨコナデ (頸上)ナデ (頸下)ミガキ	ミガキ？	黒色・茶色 黄茶色	石・長(1~3) ◎		
207	甕	口径(23.0) 残高 5.0	貼付口縁。沈線文12条＋刺突文。	(口下)ヨコナデ (胴)一部ハケ(6*/cm)	ミガキ？	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ○		
208	甕	口径(20.2) 残高 3.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文（４条１組）８条＋刺突文。	(口上)ミガキ (口下)ヨコナデ (胴)ハケ（9*/cm）	マメツ	黒色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		14
209	甕	残高 3.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文９条以上。	(口上)ミガキ (口下)(胴)ヨコナデ	ミガキ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~4) 金 ◎		
210	甕	残高 4.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文４条＋刺突文＋沈線文（２条１組）５条以上。	マメツ	マメツ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~3) ◎		
211	甕	口径(16.2) 残高 6.1	貼付口縁。クシ沈線文（４条１組） 12条＋列点文（３個１単位）	一部ハケ(5~6%)	マメツ	乳茶色 乳黄色	石・長(1~2) ◎		14
212	甕	口径(14.4) 残高 5.1	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文４条＋山形文（２条１組）＋沈線文６条＋刺突文。	(口上)ミガキ (口下)ヨコナデ (胴)ナデ	ミガキ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~2) ◎		
213	甕	口径 21.0 残高 12.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	(口)ナデ (頸上)ハケ(9%)→ミガキ (頸下)ミガキ	(口)ナデ (頸上)ミガキ (頸下)マメツ	暗灰茶色 茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
214	甕	口径(16.6) 残高 6.1	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文４条。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ（6*/cm）	一部ハケ（6*/cm）	灰茶色 茶色	長(1) ◎		
215	甕	口径(23.6) 残高 4.8	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文７条以上。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ（6*/cm）	(口)板ヨコナデ→ミガキ (胴)ミガキ？	乳灰色 乳桃色	石(2~5) △		

SD1　④層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
216	甕	口径(20.2) 残高 7.1	折り曲げ口縁。ヨコ方向のヘラ沈線文12条を施した後、タテ方向のヘラ沈線文4条を施す。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(8*/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		14
217	甕	口径(21.6) 残高 13.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文8条。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(7*/cm)→ミガキ	㊀ヨコナデ→ミガキ ㊁ミガキ	灰茶色 灰茶色	長(1~2) 金 ◎		
218	甕	口径(26.8) 残高 3.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。沈線文5条以上。	ヨコナデ	㊀ナデ ㊁ミガキ？	黒灰色 乳灰茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
219	甕	口径(18.0) 残高 5.3	折り曲げ口縁。クシ沈線文(4条1組)8条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ→ミガキ	灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
220	甕	口径(20.6) 残高 5.3	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)6条＋刺突文。	マメツ	㊀マメツ ㊁ナデ	乳茶色 灰橙色	石・長(1~2) ○		
221	甕	口径(21.4) 残高 12.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。クシ沈線文(4条1組)12条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁上ハケ(7*/cm) ㊁下ハケ→ミガキ	ミガキ	黒色 乳灰黄色・黒色	長(1~2) ◎		14
222	甕	口径(24.0) 残高 5.2	折り曲げ口縁。沈線文5条(ヘラ＋2条1組)。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(7*/cm)	㊀ミガキ ㊁ナデ	灰茶色 茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
223	甕	口径(19.6) 残高 2.9	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。沈線文(2条1組)6条以上。	㊀ナデ(指頭痕) ㊁ハケ(9*/cm)	ナデ→ミガキ	暗灰茶色 灰茶色	石(1~2) ◎		
224	甕	口径(23.8) 残高 4.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。沈線文(2条1組)10条以上。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(8*/cm)	ミガキ	暗灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) 石(5) ◎		
225	甕	口径(28.8) 残高 4.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。クシ沈線文(3条1組)11条＋刺突文2列。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	黒色・暗茶色 黒色・茶色	長(1) ◎		
226	甕	口径(26.0) 残高 12.7	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。沈線文6条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁上ハケ(6*/cm) ㊁下ミガキ	㊀ナデ ㊁ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) 金 ◎		
227	甕	口径(22.2) 残高 10.4	折り曲げ口縁。沈線文8条＋刺突文。	㊀上ミガキ ㊀下ヨコナデ ㊁上ハケ(6*/cm) ㊁下ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1) ○		
228	甕	口径(24.8) 残高 7.1	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)13条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(6*/cm)	ミガキ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ◎		
229	甕	残高 7.0	ヘラ沈線文2条＋刺突文＋ヘラ沈線文4条＋刺突文。	㊀上ハケ(5*/cm) ㊀下ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) 金 ◎		
230	甕	残高 2.2	ヘラ沈線文5条以上＋刺突文。	一部ハケ(7*/cm)	ハクリ	乳赤茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
231	甕	残高 7.3	沈線文(2条1組)12条＋刺突文。	㊀上ハケ(5~6*/cm) ㊀下ミガキ	ミガキ	乳黄茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
232	甕	残高 5.7	クシ沈線文(5条1組)13条以上＋刺突文。	ミガキ	ミガキ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		14
233	甕	残高 4.4	沈線文5条以上＋山形文(2条1組)。	ハケ(7*/cm)	ミガキ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~2) ◎		
234	甕	残高 9.2	沈線文2条以上＋山形文(2条1組)＋沈線文(2条1組)6条＋刺突文。	マメツ	ミガキ	乳灰茶色・乳茶色 乳灰茶色・乳茶色	石・長(1~4) ○		14
235	甕	底径(6.4) 残高 6.0	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ	乳灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ○		
236	甕	底径(6.6) 残高 4.8	わずかに上げ底。	ミガキ	ミガキ	乳灰茶色 灰色	石・長(1~3) ○		
237	甕	底径(6.2) 残高 7.0	わずかに上げ底。	㊁ミガキ ㊂ナデ	マメツ	乳橙色 乳灰黄色	石・長(1~3) ◎		

SD1　④層出土遺物観察表　土製品　（3）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
238	甕	底径 (6.5) 残高 7.7	わずかに上げ底。	マメツ	ナデ	乳茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎		
239	甕	底径 (7.1) 残高 7.7	わずかに上げ底。	胴ハケ(6~6‰)→ミガキ 底ナデ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰黄色	石・長(1~3) ○		
240	甕	底径 (6.2) 残高 4.8	わずかに上げ底。	胴ミガキ 底ナデ	マメツ	暗灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○		
241	甕	底径 8.2 残高 5.3	わずかに上げ底。厚みをもつ。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ○	黒斑	
242	甕	底径 (6.6) 残高 7.0	わずかに上げ底。	マメツ	胴ミガキ 底ナデ	灰茶橙色 灰黄茶色	石・長(1~6) ○		
243	甕	底径 (7.1) 残高 5.3	わずかに上げ底。	胴ハケ(7‰)→ナデ 底ヘラナデ(ミガキ風)	一部ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎		
244	甕	底径 6.0 残高 3.8	上げ底。	胴ハケ(5‰)→ミガキ 底ナデ	マメツ	暗灰茶色 茶色	石・長(1~2) ○		
245	甕	底径 6.0 残高 5.2	平底。	ナデ	マメツ	乳茶橙色 灰色	石・長(1~4) ○		
246	甕	底径 (6.4) 残高 3.8	平底。	胴ハケ(6‰) 底ナデ	ナデ	乳桃色・黒色 乳桃色	石(3) ◎		
247	甕	底径 6.6 残高 8.2	平底。	ミガキ	一部ミガキ	乳灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~3) ○		
248	甕	底径 6.3 残高 4.8	平底。	胴ミガキ 底ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	長(1~4) 石(5) ◎		
249	壺	口径(13.4) 残高 4.8	短く外反する口縁部。無文。	口ナデ 頸ハケ(5‰)→ナデ	ハケ(5‰)→ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
250	壺	口径(12.8) 残高 4.3	短く外反する口縁部。口縁端面下端に刻目。	口ヨコナデ 頸ハケ(10‰)	ナデ	暗茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
251	壺	口径(16.2) 残高 4.7	短く外反する口縁部。無文。	口ヨコナデ 頸ハケ(6‰)→ヨコナデ→ミガキ	口ヨコナデ→ミガキ 頸マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
252	壺	口径(14.0) 残高 8.1	短く外反する口縁部。無文。	口ナデ 頸ハケ(5‰)→ナデ 胴ハケ→ミガキ	口頸ミガキ 胴マメツ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
253	壺	口径(12.8) 残高 9.2	短く外反する口縁部。無文。	ミガキ？	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
254	壺	口径(16.0) 残高 6.2	短く外反する口縁部。口縁端面上・下端に刻目。	口ヨコナデ 頸ハケ(6‰)→ミガキ	口ナデ 頸マメツ	白桃色 白桃色	長(1~2) ◎		
255	壺	口径(17.2) 残高 15.4	短く外反する口縁部。口縁端面上端に刻目。器壁は厚い。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
256	壺	口径(18.4) 残高 5.7	短く外反する口縁部。口縁端面に刻目。	口ヨコナデ 頸ハケ(8‰)→ミガキ	ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~2) ◎		
257	壺	口径(16.8) 残高 4.9	内傾する頸部に、短く外反する口縁部。無文。	マメツ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
258	壺	口径(12.2) 残高 3.2	内傾する頸部に、短く外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	口上マメツ 口下ヨコナデ 頸ハケ(8‰)	ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1~3) ◎		
259	壺	口径 (9.6) 残高 7.5	短く外反する口頸部。無文。	口頸ヨコナデ 胴ナデ？	口ヨコナデ 頸胴指頭痕	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		

SD1　④層出土遺物観察表　土製品

（4）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
260	壺	口径(13.4) 残高 4.8	直立する頸部に、外反する口縁部。無文。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
261	壺	口径(16.6) 残高 5.0	直立する頸部に、外反する口縁部。口縁端面に刻目。	㊐ナデ ㊤ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~3) ◎		
262	壺	口径(12.8) 残高 4.6	直立する頸部に、外反する口縁部。口縁端面内外に刻目。頸部に刻目凸帯文。	マメツ	ミガキ？	茶白色 茶白色	石・長(1~2) ◎		
263	壺	口径(18.6) 残高 9.3	外傾する長い口頸部。頸部に凸帯文1条。	㊐ヨコナデ ㊤ハケ(17~18*/cm) ㊥ヨコナデ	㊐ミガキ ㊤板ナデ ㊥ミガキ	灰色・灰茶色 灰色・灰茶色	長(1) ◎		
264	壺	口径(18.2) 残高 6.8	外傾する頸部に、外反する口縁部。口縁端面下端に刻目、頸部に凸帯文(連鎖状刻目文2列)。	㊐ヨコナデ ㊐ハケ(6*/cm)→ヨコナデ ㊤ハケ ㊥ヨコナデ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎		14
265	壺	口径(21.0) 残高 4.1	大きく外反する口縁部。無文。	㊐マメツ ㊐ハケ(8*/cm)→ミガキ	一部ミガキ？	灰黄茶色 灰黄茶色	石・長(1~4) ◎		
266	壺	残高 2.5	外反する口縁部。口縁端面に沈線文2条。	㊐マメツ ㊐ハケ(8*/cm)→ヨコナデ	㊐ナデ ㊐ミガキ	灰白色 黒灰色	長(1~2) ◎		
267	壺	口径(24.0) 残高 2.3	大きく外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	ハケ(7*/cm)→ナデ	㊐ナデ ㊐ナデ→ミガキ	灰色 灰茶色	長(1~2) ◎		
268	壺	口径(26.5) 残高 8.2	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文1条＋刻目。頸部にヘラ沈線文＋刺突文。	㊐ヨコナデ ㊐㊤ハケ(8*/cm)→ヨコナデ	ミガキ	乳灰黄茶色 乳灰黄茶色	石・長(1~4) ◎		14
269	壺	口径(32.8) 残高 7.1	大きく外反する口縁部。口縁端面に羽状文。内面に凸帯文2条。	マメツ	ミガキ ㊥ヨコナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ◎		
270	壺	口径(27.4) 残高 4.1	大きく外反する口縁部。口縁端面に羽状文。内面に刻目凸帯文2条。	㊐ヨコナデ ㊤ヨコナデ→ミガキ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
271	壺	口径(24.2) 残高 6.7	外傾する頸部に、外反する口縁部。内面に全周しない凸帯文3条。	㊐ヨコナデ ㊤ミガキ	ヨコナデ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
272	壺	口径(22.4) 残高 2.7	大きく外反する口縁部。口縁端面下端に刻目。内面に注口状の刻目凸帯文。	㊐ヨコナデ ㊐ハケ(8*/cm)→ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
273	壺	口径(17.8) 残高 11.6	筒状の頸部に、外反する口縁部。口縁端面に沈線文1条＋刻目。頸部に押圧凸帯文＋沈線文＋棒状浮文。内面に注口状の刻目凸帯文。	㊐ヨコナデ ㊤ハケ(5*/cm)	㊐ハケ(5*/cm) ㊤マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色・黒灰色	石・長(1~3) ◎		14
274	壺	口径(13.5) 残高 5.4	筒状の頸部に短く外反する口縁部。沈線文3条＋刻目凸帯文＋沈線文5条＋刻目凸帯文。	マメツ	マメツ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ○		
275	壺	口径(16.2) 残高 5.3	筒状の頸部に短く外反する口縁部。頸部に刻目凸帯文、口縁内面に刻目凸帯文2条。	㊥ヨコナデ	㊐ヨコナデ ㊤ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
276	壺	残高 12.3	外傾する長い口頸部。内面に凸帯文2条。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) ○		
277	壺	残高 4.9	内面に凸帯文1条。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色・灰色	石・長(1~2) ○		
278	壺	残高 6.1	外傾する頸部。ヘラ沈線文4条以上。内面に注口状の刻目凸帯文。	㊐ヨコナデ ㊤ハケ(6~7*/cm)	ナデ ㊥ヨコナデ	乳灰黄色 乳灰茶色	石・長(1) ◎		
279	壺	残高 8.0	ヘラ沈線文9条以上。	㊤ナデ ㊤ハケ(10*/cm)	ミガキ	乳灰色 乳灰色	石(1~4) ◎		
280	壺	残高 7.2	刺突文＋ヘラ沈線文1条以上。内面に凸帯文1条。	ミガキ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ○		
281	壺	残高 10.4	内外面に凸帯文1条。	ハケ(7~8*/cm) ㊥ヨコナデ	㊥ヨコナデ	黄茶白色 乳赤茶色	石・長(1~3) ○		

SD1　④層出土遺物観察表　土製品

（5）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
282	壺	残高 5.8	頸部に刻目凸帯文、内面に凸帯文１条。	ハケ（9*/cm） (凸帯)ヨコナデ	マメツ	灰茶色 灰色	長(1～2) ○		
283	壺	残高 4.6	筒状の頸部。沈線文５条以上＋凸帯文＋沈線文６条。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 灰色	石・長(1～4) ○		
284	壺	残高 4.1	押圧凸帯文１条。	マメツ (凸帯)ナデ	マメツ	茶白色 灰茶白色	石・長(1～3) ○		
285	壺	残高 3.6	凸帯文(連鎖状刻目文２列)１条。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石(1) ◎		
286	壺	残高 2.6	ヘラ沈線文１条＋凸帯文(連鎖状刻目文１列)＋沈線文２条。	(頸)ハケ（8*/cm） (凸帯)ヨコナデ	ナデ	灰色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎		
287	壺	残高 17.0	ヘラ沈線文６条＋刺突文。	(頸)ハケ(6～7*/cm)→ナデ (胴)ミガキ	ミガキ	乳黄茶色 乳黄灰色	石・長(1～5) ○		
288	壺	残高 5.3	凸帯文(連鎖状刻目文２列)。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳灰黄色	石・長(1～3) ◎		
289	壺	残高 4.4	ヘラ沈線文３条以上＋凸帯文(連鎖状刻目文２列)。	マメツ	マメツ	乳黄橙色 灰白色	石・長(1～2) ◎		
290	壺	残高 3.8	ヘラ沈線文６条以上＋凸帯文(連鎖状刻目文１列)。	(頸)ハケ(7～8*/cm) (凸帯)ヨコナデ	マメツ	灰色 灰色	石・長(1～2) ◎		
291	壺	残高 7.8	刺突文＋沈線文５条(ヘラ２条１組)＋刺突文。	ミガキ	マメツ	茶橙色 乳灰茶色	石・長(1～3) ◎		
292	壺	残高 6.5	刺突文＋ヘラ沈線文８条＋刺突文。	マメツ	マメツ	灰黄白色 黄白色	石・長(1～2) ○		
293	壺	残高 15.0	刺突文＋ヘラ沈線文５条＋刺突文＋ヘラ沈線文５条＋刺突文。	一部ハケ（6*/cm）	ミガキ	茶色 茶色	石・長(1～3) ○	黒斑	14
294	壺	残高 8.7	貝殻腹縁による弧文３条。	ミガキ？	マメツ	灰桃色 桃色	石・長(1～4) ○		14
295	壺	残高 5.5	貝殻腹縁による弧文３条。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1～3) ○		14
296	壺	残高 3.7	乳頭状の浮文１個。	ミガキ	ミガキ	灰茶色 茶色	石・長(1) ◎		
297	壺	残高 6.4	ヘラ沈線文６条。ヘラ沈線文２条以上。	ハケ(6*/cm)→ミガキ	ナデ	灰黄茶色 茶色	石・長(1～5) ◎		
298	壺	残高 5.1	沈線文６条＋山形文(２条１組)＋沈線文１条以上。	(上)ハケ(6～7*/cm)→ミガキ (下)ハケ	ナデ→ミガキ	灰黄茶色 灰黄茶色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
299	壺	残高 6.5	沈線文２条＋山形文(２条１組)＋沈線文８条＋山形文。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1～2) ○	黒斑	14
300	壺	残高 9.2	沈線文５条以上＋山形文(２条１組)＋沈線文５条(ヘラ・２条１組)。	(上)ハケ(7*/cm)→ナデ (下)ハケ→ナデ→ミガキ	ミガキ		石・長(1～3) ◎		14
301	壺	残高 8.0	沈線文６条＋山形文(２条１組)＋沈線文５条＋山形文＋沈線文１条以上。	ハケ（6*/cm） 上部にわずかにミガキ	ナデ	灰茶色 暗茶色	石・長(1～4) ◎		
302	壺	残高 7.8	断面台形状の扁平な凸帯文１条。	ナデ→ミガキ (凸帯)ヨコナデ	マメツ	乳灰茶色 灰色	石・長(1～5) ○		
303	壺	残高 13.0	刻目凸帯文３条。	ミガキ	ミガキ	茶白色 茶白色	石・長(1～3) ○		

SD1　④層出土遺物観察表　土製品

（6）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
304	壺	残高 7.5	ヘラ沈線文３条＋刻目凸帯文４条＋ヘラ沈線文３条以上。	ミガキ 凸帯ヨコナデ	ミガキ	灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		14
305	壺	底径 (6.6) 残高 5.6	わずかに上げ底。	胴ミガキ 底ナデ	胴ナデ→ミガキ 底ナデ	乳灰黄色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
306	壺	底径 7.6 残高 6.1	平底。	胴ハケ(7*/cm)→ミガキ 底マメツ	ナデ	灰色 灰黄茶色	石・長(1~4) ◎		
307	壺	底径 (8.1) 残高 3.6	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
308	壺	底径 (9.0) 残高 5.5	平底。	胴ミガキ 底マメツ	ナデ	灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
309	壺	底径(10.8) 残高 3.8	上げ底。	胴ハケ(5*/cm)→ナデ→ミガキ 底ナデ	マメツ	黒色・乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
310	壺	底径 (9.6) 残高 7.3	わずかに上げ底。	胴ハケ(5*/cm)→ミガキ 底ナデ	胴ナデ→ミガキ 底ナデ	乳灰黄茶色 灰茶色	長(1~3) ◎		
311	壺	底径(10.0) 残高 10.2	平底。	マメツ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
312	壺	底径 10.4 残高 10.4	平底。	胴ハケ(6*/cm)→ミガキ 底マメツ	胴ミガキ 底ナデ	乳茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		
313	鉢	口径(21.2) 残高 5.3	貼付口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ミガキ	口ナデ 胴ミガキ	暗赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
314	鉢	口径(27.0) 残高 7.3	貼付口縁。無文。	口マメツ 胴ハケ(5~6*/cm)	マメツ・ハクリ	乳茶色 黄白色	石・長(1~4) ○		
315	鉢	口径(21.9) 残高 8.7	貼付口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ミガキ	ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
316	鉢	口径(27.0) 残高 7.7	貼付口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(5*/cm)→ミガキ (小口痕多数)	ミガキ	暗茶色 茶色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
317	鉢	残高 4.5	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(6*/cm)	口ヨコナデ 胴ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
318	鉢	残高 9.4	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ミガキ	ハクリ	黄桃色 黄桃色	石・長(1~3) ○		
319	鉢	口径(21.0) 残高 7.6	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(5*/cm)	口ヨコナデ 胴ミガキ？	黄赤茶色 黄赤茶色	石・長(1~4) ○		
320	鉢	口径(24.0) 残高 4.7	折り曲げ口縁。無文。	口ハケ(6~7*/cm)→ヨコナデ 胴ハケ(6~7*/cm)	マメツ	暗灰色 暗灰色	石・長(1~6) ○		
321	鉢	口径(19.0) 残高 5.4	折り曲げ口縁。無文。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~5) ○		
322	鉢	口径(25.0) 残高 4.2	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 屋上ハケ(9*/cm)→ヨコナデ 屋下ハケ→ミガキ	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~5) ◎		
323	鉢	口径(20.7) 残高 7.0	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ミガキ	口ヨコナデ→ミガキ 胴ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
324	鉢	口径(27.0) 残高 4.5	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(5*/cm)	口ハケ(5*/cm)→ヨコナデ 胴ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎		
325	鉢	底径 6.0 残高 8.7	突出する平底。	胴一部ハケ(6*/cm) 底ナデ(指頭痕)	ミガキ	暗灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ○	黒斑	

SD1　④層出土遺物観察表　土製品　（7）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
326	コシキ	底径 8.1 残高 7.2	壺形土器の転用品。上げ底。 底部中央に孔(φ0.9cm)あり。	(胴)マメツ (底)ナデ	マメツ	乳赤茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ○		
327	高坏	残高 2.5	裾部に凹線文3条。 弥生中期後半。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ○		
328	円盤状土製品	径 4.0 厚さ 0.6	土器片の再加工品。ヘラ沈線文5条	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		

表19　SD1　④層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
329	石庖丁	1／2	結晶片岩	(7.00)	5.80	0.50	33.20		
330	石庖丁	小片	結晶片岩	(5.70)	(5.60)	0.60	24.04	未製品	
331	石庖丁	1／3	結晶片岩	(10.00)	(5.60)	0.72	58.81	未製品	
332	伐採斧	刃部欠損	結晶片岩	(10.50)	6.20	4.10	448.00		
333	扁平片刃石斧	完形	結晶片岩	10.40	5.50	0.85	87.05		
334	スクレイパー	完形	サヌカイト	4.90	1.90	0.59	5.20		
335	剥片		サヌカイト	5.00	3.70	1.19	13.92		
336	剥片		サヌカイト	6.00	4.10	0.63	16.79		
337	剥片		安山岩	6.60	6.00	1.09	41.39		
338	剥片		安山岩	8.70	5.70	0.97	53.81		
339	剥片	完形	安山岩	10.40	9.70	1.90	202.89		
340	石核	完形	サヌカイト	11.20	8.10	2.10	205.15		
341	敲石	2／3	不明	9.50	6.10	6.00	519.00		
342	敲石	ほぼ完形	不明	9.90	8.40	4.90	641.00		
343	砥石	完形	不明	13.00	11.50	3.90	845.00		
344	砥石		不明	(16.00)	(10.90)	5.60	1,120.00		
345	台石	3／4	安山岩	(19.60)	(12.20)	5.50	1,040.00		

表20　SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
346	甕	口径(43.0) 残高 6.1	大型品。貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文11条以上。	(口)ハケ(8*/cm) (胴)マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~5) ○		
347	甕	口径(38.0) 残高 19.5	大型品。貼付口縁。ヘラ沈線文8条＋刺突文2列＋沈線文5条＋刺突文2列。	(口上)ヨコナデ (口下)ハケ(11*/cm) (胴上)ハケ(5*/cm) (胴下)ハケ→ミガキ(マメツ)	(口)ハケ(5*/cm)→ヨコナデ (胴)ナデ→ミガキ	黄白色 黄白色	石・長(1~5) ○		15

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
348	甕	口径(19.4) 残高 7.0	貼付口縁。無文。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(10本/cm)	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
349	甕	口径(20.0) 残高 7.2	貼付口縁。無文。	㊐ヨコナデ ㊥ミガキ？	ナデ (指頭痕)	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
350	甕	口径(28.0) 残高 6.0	貼付口縁。無文。	指頭痕	ミガキ	乳灰茶色 灰色	石・長(1~5)粗い ◎		
351	甕	口径(18.8) 残高 8.3	貼付口縁。沈線文８条。	ヨコナデ	マメツ	暗桃色 乳黄茶色	石・長(1~3) 金 ○		
352	甕	口径(23.6) 残高 7.4	貼付口縁。ヘラ沈線文７条。	マメツ	ミガキ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		
353	甕	口径(24.0) 残高 4.3	貼付口縁。沈線文10条。	㊐上ヨコナデ→ミガキ ㊐下ヨコナデ ㊥ハケ(5~6本/cm)	ミガキ？	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
354	甕	口径(26.4) 残高 4.2	貼付口縁。沈線文11条以上。	ヨコナデ	ナデ	灰黄茶色 灰黄茶色	石・長(1~3) ◎		
355	甕	口径(23.0) 残高 17.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(２条１組)６条。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(11本/cm)→ナデ	ナデ	黒灰色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		15
356	甕	残高 5.6	貼付口縁。沈線文13条以上。	マメツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ○		
357	甕	口径(22.6) 残高 3.6	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文７条。	ヨコナデ	ミガキ	乳茶色 茶白色	石(1～2) ◎		
358	甕	口径(28.2) 残高 4.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(２条１組)８条以上。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(6本/cm)	ミガキ	黄白色 黄白色	石(1～4) ◎		
359	甕	口径(24.8) 残高 6.8	貼付口縁。口縁端面下端部に刻目。 沈線文９条(２条１組)＋刺突文。	㊐マメツ ㊥上ハケ(7本/cm) ㊥下ハケ→ミガキ	マメツ	黒色 茶白色	石・長(1~2) ◎		
360	甕	口径(27.0) 残高 21.5	貼付口縁。口縁端面下端部に刻目。 ヘラ沈線文８条＋刺突文。	㊐ヨコナデ ㊥上ハケ(7本/cm) ㊥下ハケ(7本/cm)→ミガキ	ナデ→ミガキ	乳茶色 (一部黒色) 乳茶色	石・長(1~5) ◎		15
361	甕	残高 3.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文４条＋刺突文＋沈線文１条以上。	ヨコナデ	ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
362	甕	残高 5.3	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文９条＋刺突文。	㊐マメツ ㊥ハケ(6~7本/cm)	ナデ	黄白色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		
363	甕	残高 5.9	貼付口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文７条＋刺突文。	㊐ヨコナデ ㊥上ナデ ㊥下ナデ→ミガキ	マメツ	灰茶色・黒色 乳赤茶色	石・長(1~2) ◎		
364	甕	口径(23.4) 残高 9.7	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(３条１組)11条＋刺突文。	㊐上ハケ(6~7本/cm)→ミガキ ㊐下ヨコナデ ㊥上ハケ ㊥下ハケ→ミガキ	ナデ	黒色 乳灰黄色	石・長(1~5) ◎		
365	甕	口径(23.6) 残高 8.8	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文12条＋刺突文２列。	㊐ヨコナデ ㊥上ハケ(5本/cm) ㊥下ハケ(5本/cm)→ミガキ	㊐ヨコナデ ㊥ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~3) ◎		
366	甕	口径(22.0) 残高 6.1	貼付口縁。沈線文５条＋刺突文＋沈線文３条＋刺突文＋沈線文３条＋刺突文。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(6本/cm)	ミガキ	乳灰茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		
367	甕	残高 7.4	貼付口縁。沈線文４条＋刺突文２列＋沈線文４条＋刺突文２列＋沈線文３条＋刺突文。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~5) ◎		
368	甕	口径(19.4) 残高 5.5	貼付口縁。口縁端面に刻目。 沈線文(２条１組)８条＋刺突文。	㊐ヨコナデ ㊥マメツ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(2) ◎		
369	甕	口径(14.2) 残高 7.1	小型品。貼付口縁。無文。	㊐ナデ ㊥ミガキ	㊐ナデ ㊥ミガキ	暗灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎	外面に煤付着	

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品　（3）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
370	甕	口径(40.0) 残高 12.4	大型品。折り曲げ口縁。ヘラ沈線文12条＋刺突文２列。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(5~6*/cm) ㊂マメツ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	黄茶白色 黄茶白色	石・長(1~4) ◎		
371	甕	残高 3.3	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	ミガキ	茶色 茶色	長(1) ◎		
372	甕	残高 4.4	折り曲げ口縁。無文。鉢の可能性あり。	指頭痕	マメツ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ○		
373	甕	残高 9.9	折り曲げ口縁。沈線文７条＋刺突文。	マメツ	マメツ	乳黄色 乳黄色	石・長(1~3) ◎		
374	甕	残高 4.1	折り曲げ口縁。ヘラ沈線文６条以上。	ナデ (工具による押圧痕)	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
375	甕	口径(22.0) 残高 5.1	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。沈線文５条＋刺突文＋沈線文４条以上。	㊀ナデ ㊁ハケ(7*/cm)	㊀ナデ ㊁ミガキ	灰黄茶色 灰黄茶色	石(5)長(1) ◎		
376	甕	口径(31.4) 残高 4.8	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文10条＋刺突文。	㊀ナデ ㊁ハケ(7*/cm)	マメツ	黒色 黒色	石・長(1~3) ◎		
377	甕	口径(21.6) 残高 8.1	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。クシ沈線文(３条１組)15条＋竹管文・半截竹管文。	㊀ナデ ㊁ハケ(9*/cm) ㊂ハケ→ミガキ	ミガキ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~2) ◎		15
378	甕	口径(20.4) 残高 10.6	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	㊀ナデ ㊁ミガキ？	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
379	甕	口径(18.4) 残高 5.7	折り曲げ口縁。無文。	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	㊀ヨコナデ→ミガキ ㊁ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
380	甕	残高 5.3	折り曲げ口縁。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。胴部にヘラ沈線文10条以上。	ナデ	㊀ナデ ㊁マメツ	灰色 灰色	石・長(1~4) ◎		
381	甕	残高 6.1	折り曲げ口縁。ヨコ方向の沈線文11条＋タテ方向の沈線文２条(２条１組)＋刺突文。	㊀ナデ ㊁マメツ	マメツ	乳茶色 乳桃色	石・長(1~2) ◎		
382	甕	口径(27.2) 残高 7.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文７条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁板ナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	灰黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎		
383	甕	口径(30.4) 残高 9.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。沈線文(２条１組)12条＋刺突文。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(7*/cm)	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	長(1~3) ◎		
384	甕	口径(23.6) 残高 5.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刺突文。刺突文＋沈線文３条＋刺突文＋沈線文４条＋刺突文。	ヨコナデ	㊀ナデ ㊁マメツ	黄茶白色 乳黄茶色	長(1~2) ○		
385	甕	口径(29.2) 残高 9.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文３条＋刺突文＋沈線文４条＋刺突文２列。	㊀ナデ ㊁マメツ	マメツ	乳灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
386	甕	残高 6.0	ヘラ沈線文８条＋刺突文。	ハケ(8*/cm)	一部ミガキ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~2) ◎		
387	甕	残高 4.0	ヘラ沈線文７条以上＋刺突文。	マメツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2)		
388	甕	残高 5.5	沈線文(２条１組)８条＋刺突文＋沈線文６条以上。	ハケ(8*/cm)	マメツ	乳赤茶色 黄白色	石・長(1~4) ○		
389	甕	残高 8.4	ヘラ沈線文２条以上＋刺突文＋沈線文５条＋刺突文２列。	ミガキ	ナデ	暗灰褐色 乳灰褐色	石・長(1~3) ○		
390	甕	残高 6.9	沈線文(２条１組)６条＋山形文(２条１組)＋沈線文４条以上。	マメツ	ミガキ？	乳茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
391	甕	残高 3.7	沈線文(２条１組)５条以上＋山形文(２条１組)	ハケ(7*/cm)	ナデ	乳黄茶色 暗茶色	石・長(1~2) ◎		

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品

（4）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
392	甕	残高 6.0	沈線文（２条１組）５条以上＋山形文（２条１組）＋沈線文３条＋刺突文。	ハケ(6~7*/cm)	ミガキ	茶 色 茶 色	石・長(1~5) ◎		
393	甕	残高 4.3	沈線文（２条１組）４条以上＋＋刺突文＋山形文（２条１組）。	マメツ	ミガキ？	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~4) ○		
394	甕	残高 5.8	山形文（２条１組）＋＋沈線文３条＋刺突文。	㊤ナデ ㊦ミガキ	マメツ	黒 色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎		
395	甕	底径 (6.8) 残高 8.7	上げ底。	胴ハケ(5*/cm)→ミガキ 底ナデ	胴ミガキ 底ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○		
396	甕	底径 (6.6) 残高 7.5	上げ底。	胴ミガキ 底ナデ	ミガキ	灰 茶 色 暗灰茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
397	甕	底径 (5.6) 残高 5.4	平底。	マメツ	ミガキ	灰 茶 色 黒 灰 色	石・長(1~2) ○	内面に煤付着	
398	甕	底径 (5.8) 残高 6.6	丸味のある平底。	マメツ	マメツ	灰赤茶色 乳黄茶色	石・長(1~7)粗い ○		
399	甕	底径 7.5 残高 6.6	平底。	胴ハケ(5*/cm)→ミガキ 底ナデ	マメツ	乳赤茶色 暗灰黄色	石・長(1~5) ○		
400	甕	底径 (7.2) 残高 5.6	平底。	ナデ	ナデ	赤 褐 色 黒 茶 色	石・長(1~3) 金 ◎	内面に煤付着	
401	壺	口径(31.6) 残高 11.7	大型品。口縁端面下端に刻目。内面に凸帯文。	口ナデ 頸ハケ（5*/cm） 胴ミガキ？	口ナデ 頸凸帯ヨコナデ	黄 茶 色 黄 茶 色	石・長(1~3) ◎		15
402	壺	口径(10.6) 残高 2.9	短く外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。	ナデ	マメツ	灰 白 色 灰 白 色	長（1） ◎		
403	壺	口径(14.0) 残高 5.5	短く外反する口縁部。無文。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~4) ○		
404	壺	口径(19.2) 残高 7.0	外反する口縁部。口縁端面に刻目。	口マメツ 頸上ハケ(10*/cm)→ミガキ 頸下ヨコナデ	口マメツ 胴ミガキ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ◎		
405	壺	口径(14.9) 残高 4.4	直立する頸部に外反する口縁部。口縁端面に刻目。	マメツ	マメツ	茶 白 色 灰黄白色	石・長(1~4) ○		
406	壺	口径(18.0) 残高 3.2	外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ○		
407	壺	口径(18.2) 残高 4.3	外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文＋刻目。頸部にヘラ沈線文６条以上。	口端ヨコナデ 口頸ハケ（6*/cm）	ハケ（6*/cm）	茶 白 色 茶 白 色	石・長(1~3) 金 ◎		
408	壺	口径(18.4) 残高 5.0	短く外反する口縁部。口縁端部は「コ」字状。	口ナデ 頸ハケ（5*/cm）	ミガキ	乳 茶 色 黄 茶 色	石・長(1~3) ◎		
409	壺	口径(16.5) 残高 4.4	短く外反する口縁部。無文。	口端ナデ 口ハケ（6*/cm） 頸ハケ→ミガキ	ミガキ	灰 茶 色 乳灰黄茶色	長(1~3) ◎		
410	壺	口径(17.7) 底径 9.8 残高 19.6	外傾する頸部に短く外反する口縁部。底部は平底。	口ヨコナデ 頸胴ミガキ 底マメツ	ミガキ	暗 茶 色 （一部黒色） 暗 茶 色	石・長(1~5) ◎		
411	壺	口径(14.4) 残高 3.2	外反する口頸部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。	ナデ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~4) ○		
412	壺	口径(17.2) 残高 10.0	外傾する頸部に外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。頸部と肩部に沈線文＋刺突文。内面に注口状の凸帯文。	マメツ	胴ナデ上げ	暗 茶 色 灰色（一部乳茶色）	石・長(1~5) ○		16
413	壺	口径(17.5) 残高 5.2	筒状の頸部に外反する口縁部。ヘラ沈線文５条以上。内面に凸帯文。	口ナデ	頸ナデ 凸帯ヨコナデ	灰 色 灰 色	石・長(1~3) ○		

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品

（5）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
414	壺	口径(18.0) 残高 6.3	筒状の頸部に外反する口縁部。 口縁端面に斜格子目文。頸部に凸帯文４条以上。内面に凸帯文３条。	凸帯ヨコナデ	凸帯ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ○		
415	壺	口径(18.0) 残高 7.3	筒状の頸部に外反する口縁部。 頸部にヘラ沈線文＋刻目凸帯文。内面に刻目凸帯文。	口ミガキ 頸上ハケ(6*/cm)→ミガキ 凸帯ヨコナデ	ナデ 凸帯ヨコナデ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~7) ○		
416	壺	口径(20.6) 残高 11.0	筒状の頸部に外反する口縁部。 ヘラ沈線文５条＋刺突文＋沈線文５条＋刺突文＋沈線文４条。	口ナデ 頸マメツ	口ナデ 頸ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~4) ○		
417	壺	口径(20.5) 残高 9.2	外反する口頸部。凸帯文１条。	口縁ヨコナデ 口頸ハケ(5~10*/cm)→ミガキ 凸帯ヨコナデ	口縁ヨコナデ 口頸ミガキ	乳茶色・灰色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
418	壺	口径(20.4) 残高 2.7	大きく外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文。	口縁マメツ 口ハケ(4~5*/cm)→ミガキ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~2) ◎		
419	壺	口径(21.2) 残高 2.9	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
420	壺	口径(22.6) 残高 2.2	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。	口縁マメツ 口ハケ(8*/cm)	マメツ	黒色 黒色	長(1~2) ○		
421	壺	口径(29.2) 残高 6.0	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	長(1~2)石(3~4) ◎		
422	壺	口径(23.0) 残高 3.5	大きく外反する口縁部。内面に凸帯文２条。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~3) ○		
423	壺	残高 5.7	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。内面に凸帯文１条。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ○		
424	壺	口径(23.0) 残高 3.4	大きく外反する口縁部。口縁端面に刻目。内面に刻目凸帯文１条。	口縁ヨコナデ	口ミガキ 凸帯ヨコナデ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~4) ◎		
425	壺	口径(28.0) 残高 2.5	大きく外反する口縁部。口縁端面上・下端に刻目。内面に刻目凸帯文１条。	口縁ヨコナデ 口ミガキ	ヨコナデ→ミガキ 凸帯ヨコナデ	茶白色 灰黄白色	石・長(1~3) ○		
426	壺	口径(34.0) 残高 5.1	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文３条。内面に刻目凸帯文１条。	上ハケ→ヨコナデ 下ハケ(7*/cm)→ミガキ	ミガキ 凸帯ヨコナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		
427	壺	口径(26.0) 残高 12.7	外傾する長い口縁部。頸部にヘラ沈線文12条以上。内面に刻目凸帯文１条。	口縁マメツ 口ハケ(4~5*/cm)	上マメツ 下ミガキ	黄白色 黄白色	石・長(1~3) ○		
428	壺	口径(23.6) 残高 10.1	外傾する長い口頸部。口縁端面にヘラ沈線文＋刻目。頸部に刺突文＋沈線文＋刻目凸帯文。内面に注口状の刻目凸帯文３条。	頸ハケ(6*/cm)	頸ミガキ 凸帯ヨコナデ	灰色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		16
429	壺	口径(33.0) 残高 11.2	外傾する長い口頸部。口縁端面に羽状文。頸部に刺突文＋ヘラ沈線文４条以上。内面に刻目凸帯文２条。	口ヨコナデ 頸上ハケ(8*/cm)→ミガキ	口ミガキ 頸ハケ(6*/cm)→ミガキ 凸帯ヨコナデ	黄白色 黄白色	石・長(1~4) ◎		
430	壺	口径(36.8) 残高 10.4	外傾・外反する口頸部。内面に「U」字状の刻目凸帯文２条＋凸帯文１条(全周しない。)	口縁ヨコナデ 口ハケ(6~10*/cm)→ミガキ	ミガキ 部分的にハケ(6*/cm) 凸帯ヨコナデ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
431	壺	残高 10.5	外傾する長い頸部。ヘラ沈線文15条以上。内面に注口状の刻目凸帯文１条。	上ハケ(9*/cm)→ミガキ 下ハケ	一部ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
432	壺	残高 8.1	ヘラ沈線文12条以上。内面に全周しない凸帯文１条。	ハケ(4~5*/cm)	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~5) ○		
433	壺	残高 10.5	ヘラ沈線文19条＋刺突文。内面に凸帯文１条。	マメツ	マメツ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~3) ◎		
434	壺	残高 8.0	内面に凸帯文３条。	ミガキ	頸下ミガキ 凸帯ヨコナデ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~4) ◎		
435	壺	残高 4.2	刻目凸帯文１条。	ハケ(5*/cm)	ミガキ 凸帯ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品

（6）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
436	壺	残高 5.3	刻目凸帯文１条。	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ 凸帯ヨコナデ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~2) ◎		
437	壺	残高 5.9	沈線文５条以上＋刻目凸帯文＋沈線文（２条１組）６条以上。	一部ハケ（6*/cm）	ナデ	黄茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
438	壺	残高 6.1	ヘラ沈線文７条以上＋凸帯文（連鎖状刻目文１列）。	ハケ(9~10*/cm) 凸帯ヨコナデ	頸ナデ 胴ヨコナデ	乳橙色 茶白色	石・長(1~3) ◎		
439	壺	残高 9.9	ヘラ沈線文４条。	頸ハケ（5*/cm） 胴マメツ	マメツ	淡黄色(一部黒色) 淡黄灰色(一部朱色)	石・長(1~5) ○		
440	壺	残高 9.1	刻目凸帯文１条。	凸帯ヨコナデ	マメツ・ハクリ	黄白色 黄白色	石・長(1~5) ○		
441	壺	残高 10.0	刻目凸帯文１条。	頸ミガキ 凸帯ヨコナデ	ミガキ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~8) ◎		
442	壺	残高 3.9	凸帯文１条。貝殻腹縁による弧文１条。	ハケ(5*/cm)→ミガキ 凸帯ヨコナデ	ミガキ	乳灰茶色 黒灰色	石・長(1~3) ○		16
443	壺	残高 3.6	刻目凸帯文１条＋竹管文１列。	胴ミガキ 凸帯ヨコナデ	ミガキ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		
444	壺	残高 5.7	沈線文（２条１組）９条以上。	マメツ	マメツ	乳茶橙色 乳茶橙色	石・長(1~3) ◎		
445	壺	残高 5.4	刺突文１列。	マメツ	マメツ	桃橙色 灰色	石・長(1~4) ◎		
446	壺	残高 8.2	ヘラ沈線文１条以上＋棒状浮文４個＋沈線文６条以上。	ハケ(7*/cm)→ミガキ	ナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~4) ◎		
447	壺	残高 8.2	沈線文（ヘラ・２条１組）５条＋沈線文５条＋沈線文５条。	ハケ(8~9*/cm)→ミガキ	ナデ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~4) ◎		
448	壺	残高 9.0	刺突文＋ヘラ沈線文５条＋刺突文。	一部ミガキ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~5) ◎		
449	壺	残高 6.2	刺突文＋沈線文（２条１組）８条＋刺突文。	一部ミガキ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~3) ◎		
450	壺	残高 8.4	山形文（２条１組）＋沈線文11条＋山形文。	マメツ	マメツ・ハクリ	乳灰茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
451	壺	残高 7.0	沈線文４条以上＋山形文（２条１組）＋沈線文（２条１組）６条。	ハケ（6*/cm）	ナデ	乳黄茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
452	壺	残高 5.2	沈線文２条以上＋山形文（２条１組）＋沈線文（２条１組）５条以上。	ハケ（10*/cm）	マメツ	乳灰黄色 黄白色	石・長(1~4) ◎		
453	壺	残高 6.5	沈線文（２条１組）＋山形文（２条１組）＋４個の円形浮文２列＋沈線文８条以上。	マメツ	ナデ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ◎		16
454	壺	残高 5.0	ヘラ沈線文４条以上＋斜格子目文＋沈線文２条以上。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石粒(1~5) ○		16
455	壺	残高 6.6	M字状凸帯文。	凸帯ヨコナデ	マメツ	乳灰茶色 黒灰色	石・長(1~5) ○		
456	壺	残高 4.7	M字状凸帯文（刻目）。	胴ミガキ 凸帯ヨコナデ	マメツ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~3) ◎		
457	壺	残高 10.0	M字状凸帯文（刻目）。凸帯文貼付面にヘラ沈線文１条あり。	胴ハケ(5*/cm)→ミガキ 凸帯ヨコナデ	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品

（7）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
458	壺	残高 11.6	M字状凸帯文(刻目)。凸帯文貼付面にヘラ沈線文1条あり。	ミガキ 凸帯ヨコナデ 貼付面にハケ(8*/cm)	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~3) ◎		
459	壺	残高 7.2	M字状凸帯文(刻目)。凸帯文貼付面にヘラ沈線文1条あり。	ミガキ 凸帯ヨコナデ 貼付面にハケ(6*/cm)	ミガキ	乳灰色 灰色	石・長(1~4) ◎		
460	壺	残高 4.9	ヘラ沈線文1条＋凸帯文2条(連鎖状刻目文1列)＋沈線文3条。	ハケ(8*/cm) 破片の上下端にミガキ 凸帯ヨコナデ	ナデ	乳灰茶色 灰茶白色	石・長(1) ◎		
461	壺	口径 (9.6) 残高 8.0	細長頸壺。沈線文5条＋刺突文＋沈線文4条＋刺突文＋沈線文4条＋刺突文＋沈線文4条＋刺突文。	ヨコナデ	ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石(1~3) ◎		16
462	壺	底径 6.8 残高 2.7	平底。	胴ヨコナデ 底ミガキ	ナデ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
463	壺	底径 7.6 残高 7.9	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
464	壺	底径 (7.4) 残高 9.7	平底。	胴ミガキ 底ナデ	ナデ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
465	壺	底径 8.2 残高 6.8	平底。	胴ミガキ 底ナデ	ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
466	壺	底径 5.2 残高 6.7	突出する平底。	ミガキ	ミガキ	黒色 黒色	石・長(1~3) ◎		
467	壺	底径 7.4 残高 6.4	わずかに上げ底。	胴ハケ(6~8*/cm)→ミガキ 底マメツ	ナデ	灰黄茶色 灰茶色	石・長(1~2) ○		
468	壺	底径 8.8 残高 9.2	わずかに上げ底。	ミガキ	胴ハケ(10*/cm)→ミガキ 底ナデ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~2) ◎		
469	壺	底径 8.6 残高 10.3	突出部をもつ平底。	胴ハケ(11~18*/cm)→ミガキ 底ナデ	板ナデ→ミガキ	暗灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
470	壺	底径 10.0 残高 13.2	平底。	胴ミガキ 底マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~8) ◎		
471	壺	底径(13.5) 残高 10.5	平底。	ハケ(8*/cm)→ミガキ	マメツ・ハクリ	茶白色 灰白色	石・長(1~3) ○		
472	鉢	残高 4.1	折り曲げ口縁。無文。	口ナデ (指頭痕)	口ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○		
473	鉢	残高 5.5	折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ミガキ	口ヨコナデ 胴ミガキ	暗灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
474	鉢	残高 4.9	折り曲げ口縁。無文。	口ナデ 胴ハケ(12*/cm)	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	長(1~2) ◎		
475	鉢	口径(33.0) 残高 7.1	大型品。折り曲げ口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ハケ(5*/cm)	口ヨコナデ→ミガキ 胴ナデ→ミガキ	黄茶色 黄茶色	長(1~2) ◎		
476	高坏	底径(10.8) 残高 13.8	坏脚部接合部に刻目凸帯文1条。	坏ミガキ 凸帯ヨコナデ 脚マメツ	坏ナデ (内底に押圧痕) 脚ナデ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~4) 安山岩多い ◎		16
477	高坏	底径 (7.8) 残高 2.8	脚部は外反し、端部は「コ」字状。	マメツ	マメツ	乳灰桃色 乳灰桃色	石・長(1~3) ○		
478	コシキ	底径 6.7 残高 4.5	甕形土器の転用品。平底。楕円形状の孔(φ0.7~1.0cm)	マメツ	マメツ	乳灰桃色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
479	コシキ	底径 6.7 残高 5.2	甕形土器の転用品。平底。楕円形状の孔(φ0.8~1.1cm)	胴ハケ(6~6*/cm)→ミガキ 底マメツ	ナデ	乳茶色 黒灰色	石・長(1~4) ◎	内面に煤	

SD1　⑤層出土遺物観察表　土製品　（8）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
480	コシキ	底径 (7.0) 残高 6.0	甕形土器の転用品。上げ底。 円孔(φ1.2cm)。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳灰黄色	石・長(1~3) ○		
481	コシキ	底径 7.2 残高 7.0	甕形土器の転用品。平底。 孔あり(φ2.0cm)。	(胴)ハケ(4~5*/cm) (底)ナデ	マメツ	乳赤茶色 黄茶色	石・長(1~2) ◎		
482	ミニチュア	口径 2.5 底径 1.7 器高 1.8	直口口縁。	マメツ	マメツ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1~3) ◎		

表21　SD1　⑤層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
483	石庖丁	2／3	結晶片岩	(6.70)	4.00	0.64	28.75		
484	石庖丁	小片	結晶片岩	(3.60)	3.30	0.52	9.70		
485	石庖丁		結晶片岩	8.40	4.70	1.24	63.31	未製品	
486	伐採斧	刃部欠損	結晶片岩	(10.80)	(5.30)	(1.32)	93.60		
487	スクレイパー	完形	安山岩	8.30	5.00	2.00	62.07		
488	石核	完形	安山岩	15.50	10.40	1.80	383.00		
489	石核	完形	安山岩	9.50	8.30	1.60	173.53		
490	砥石		不明	4.50	3.90	6.10	150.17		

表22　SD1　⑦層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
491	甕	口径(20.4) 残高 7.3	貼付口縁。ヘラ沈線文4条。	マメツ	ナデ	乳茶色 灰茶色	石・長(1~5) ◎		
492	甕	残高 3.9	貼付口縁。口縁端面に連鎖状刻目文1列。	ヨコナデ	ヨコナデ→ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ◎		
493	甕	口径(17.2) 残高 5.7	折り曲げ口縁。無文。	(口)ナデ (胴)ハケ(8*/cm)→ミガキ	ナデ→ミガキ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~4) ◎		
494	甕	残高 4.9	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。ヘラ沈線文11条以上。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(7*/cm)	ミガキ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~3) ◎		
495	甕	残高 2.8	ヘラ沈線文6条以上。	ハケ(5*/cm)→ヨコナデ	ナデ	乳灰茶色 乳赤茶色	石・長(1~2) ◎		
496	甕	残高 2.6	ヘラ沈線文1条以上＋刺突文。	マメツ	マメツ	灰色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
497	甕	底径 5.6 残高 3.1	平底。	ナデ	マメツ	暗赤色 暗茶色	石・長(1~5) ◎		
498	甕	底径 (7.6) 残高 3.3	わずかに上げ底。	(胴)ハケ(12*/cm)→ナデ (底)ナデ	マメツ	乳赤茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
499	甕	底径 7.2 残高 4.6	わずかに上げ底。	(胴)ハケ(10*/cm) (底)板ナデ	ナデ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		

SD1　⑦層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
500	甕	底径 8.2 残高 7.7	わずかに上げ底。	ナデ	ナデ	赤茶色 黒灰色	石・長(1~8)多 ○		
501	壺	口径(16.4) 残高 2.8	外反する口縁部。無文。	マメツ	マメツ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~3) ○		
502	壺	口径(15.8) 残高 3.4	短く外反する口縁部。無文。	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(8*/cm)→ヨコナデ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ	乳灰桃色 乳灰桃色	石・長(1~3) ◎		
503	壺	口径(13.3) 残高 6.9	直立する頸部に短く外反する口縁部。無文。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
504	壺	残高 2.7	大きく外反する口縁部。口縁端面に沈線文か？	(口端)ヨコナデ (口)ミガキ	ミガキ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~5)		
505	壺	口径(19.4) 残高 1.5	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文1条＋刻目。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	長(1) ◎		
506	壺	口径(21.2) 残高 8.7	大きく外反する口縁部。頸部にヘラ沈線文5条＋刻目凸帯文1条。内面に刻目凸帯文1条。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ(6~7*/cm)→ヨコナデ	ミガキ (凸帯)ヨコナデ	茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
507	壺	残高 4.9	凸帯文1条。	(口)ハケ(5*/cm)→ヨコナデ→ミガキ (頸)ハケ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ (凸帯)ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
508	壺	残高 3.0	注口状の凸帯文1条。	マメツ	マメツ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		
509	壺	残高 7.2	沈線文2条。	(頸)ハケ(5~6*/cm)→ミガキ (胴)ハケ	ミガキ	黄白色 黄白色	石・長(1~5) ◎		
510	壺	残高 8.0	沈線文(2条1組)8条以上。	マメツ	ミガキ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~4) ○		
511	壺	残高 4.9	ヘラ沈線文5条以上。	ハケ(8*/cm)→ナデ	マメツ	桃橙色 桃橙色	石・長(1~3) ○		
512	壺	残高 4.3	断面方形状の凸帯文1条。凸帯上に格子目文。	ヨコナデ	ミガキ？	黒灰色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		
513	壺	残高 14.2	クシ沈線文9条＋刺突文＋沈線文5条＋刺突文＋沈線文10条＋刺突文。	ミガキ	ナデ	乳赤茶色 赤茶色	石・長(1~3) ◎		16
514	壺	残高 10.1	刻目凸帯文3条。	ミガキ (凸帯)ヨコナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
515	壺	底径 (4.4) 残高 5.0	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
516	壺	底径 6.7 残高 5.7	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
517	壺	底径 (7.8) 残高 4.8	平底。	ナデ (指頭痕)	ナデ (指頭痕)	乳茶色 乳黄茶色	石・長(1~5) ○		
518	壺	底径(10.6) 残高 5.2	平底。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		
519	壺	底径 6.7 残高 3.6	平底。	(胴)ハケ(6*/cm)→ヘラナデ(ミガキ風) (底)ヘラナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
520	壺	底径 (7.0) 残高 3.1	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	ナデ	黒灰色 茶桃色	石・長(1~5) ◎		
521	壺	底径 (7.8) 残高 3.5	平底。	マメツ	ナデ？ (工具痕)	乳灰茶色 乳灰色	石・長(1~3) ○		

SD1　⑦層出土遺物観察表　土製品　（3）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
522	壺	底径 6.6 残高 3.7	たちあがりをもつ平底。	(胴下)ハケ(7*/cm)	ミガキ	茶色 茶色	石・長(1~7) ○		
523	壺	底径 (7.2) 残高 4.3	たちあがりをもつ平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ	灰黄色 黄白色	石・長(1~4) ○		
524	壺	底径 10.8 残高 6.2	たちあがりをもつ平底。 器壁厚い。	ミガキ	マメツ	乳灰茶色 灰黄白色	石・長(1~4) ◎		
525	壺	底径(17.0) 残高 6.2	平底。	(胴)マメツ (底)ナデ	ミガキ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~5) ◎		
526	壺	底径 8.1 残高 5.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 灰黄白色	石・長(1~4) ◎		
527	壺	底径 (8.6) 残高 5.4	わずかに上げ底。	(胴)ハケ(9*/cm)→ミガキ (底)ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
528	鉢	残高 5.2	折り曲げ口縁。無文。	ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
529	鉢	底径(26.0) 残高 10.3	折り曲げ口縁。無文。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(7*/cm)	(口)ヨコナデ (胴)マメツ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~4) ◎		
530	鉢	底径 5.8 残高 2.9	たちあがりをもつ上げ底。	(胴)ミガキ？ (底)ナデ	マメツ	乳茶色 乳黄灰色	石・長(1~6) ○		
531	鉢	底径(11.0) 残高 3.0	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		

表23　SD1　⑦層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
532	石鏃	完形	赤色チャート	2.90	1.70	0.28	1.38		
533	扁平片刃石斧	刃部欠損	結晶片岩	(7.00)	3.90	1.90	82.62	未製品	
534	伐採斧	刃部欠損	結晶片岩	(16.40)	(4.30)	(1.80)	173.08		

表24　SD1　⑧層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
535	甕	口径(22.4) 残高 5.9	折り曲げ口縁。沈線文７条。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~3) ○		
536	甕	底径 5.9 残高 7.6	平底。	(胴)ハケ(7*/cm)→ナデ (底)ナデ	ナデ (工具痕)	乳灰茶色 乳灰黄色	石・長(1~4) ◎		
537	壺	口径(19.6) 残高 8.0	大きく外反する口縁部。口縁端面に刻目。頸部に沈線文４条以上。内面に凸帯文の貼付痕あり。	(口)ハケ(5*/cm)→ミガキ (頸)ハケ	ミガキ	灰黄色 灰黄色	石(1～3) ◎		
538	壺	残高 4.6	刻目凸帯文１条。	ハケ(10~11*/cm)→ミガキ (凸帯)ヨコナデ	ミガキ	乳灰黄色 黄白色	石・長(1~6) ◎		
539	壺	底径 (7.7) 残高 6.1	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	マメツ (指頭痕)	乳橙色 乳灰色	石・長(1~4) ◎		
540	壺	底径(10.0) 残高 4.3	平底。	ミガキ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~2) ◎		

表25　SD1　地点不明出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
541	伐採斧	刃部欠損	不明	(9.10)	4.60	2.10	101.02		
542	器種不明品		不明	6.30	2.30	0.50	10.37		

表26　SD2　①層出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
543	甕	口径(23.2) 残高 6.6	貼付口縁。無文。	㊐ヨコナデ ㊥ヨコナデ→ミガキ	ナデ	灰赤茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
544	甕	口径(14.2) 残高 3.9	貼付口縁。胴部に断面三角形状の凸帯文1条。	㊐ヨコナデ ㊥マメツ	マメツ	乳黄茶色 灰色	石・長(1~3) ○		
545	甕	口径(26.8) 残高 6.2	折り曲げ口縁。沈線文9条＋刺突文。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ○		
546	甕	口径(20.2) 残高 6.1	折り曲げ口縁。沈線文11条(2条1組)＋刺突文。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(8‰)	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ○		17
547	甕	口径(26.8) 残高 4.7	「く」の字状口縁。頸部に刻目凸帯文1条。弥生後期初頭。	㊐ヨコナデ ㊥ナデ	㊐ヨコナデ ㊥ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ○		
548	甕	残高 6.0	無文。	㊐ヨコナデ ㊥マメツ	マメツ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~4) ○		
549	甕	残高 6.7	沈線文8条以上＋刺突文＋沈線文5条以上。	マメツ	マメツ	灰色 灰茶色	石・長(1~2) ○		
550	甕	残高 8.7	沈線文9条＋刺突文。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳赤茶色	石・長(1~4) ○		
551	甕	底径(7.4) 残高 2.6	やや上げ底。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		
552	甕	底径(6.0) 残高 2.1	やや上げ底。	マメツ	マメツ	茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
553	甕	底径(7.0) 残高 4.2	やや上げ底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰黄色	石・長(1~4) ◎		
554	甕	底径(6.4) 残高 3.0	平底。	ミガキ？	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
555	甕	底径(4.4) 残高 3.0	平底。内面ハクリ。	マメツ	ハクリ	乳灰茶色 黄白色	石・長(1~4) ○		
556	甕	底径(7.0) 残高 3.4	平底。	マメツ	ハクリ	茶色 灰色	石・長(1~4)多 ◎		
557	甕	底径(5.6) 残高 4.2	平底。	㊥ミガキ ㊦ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
558	甕	底径(6.0) 残高 3.6	平底。	ハクリ	マメツ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~4) 金 ◎		
559	甕	底径(6.4) 残高 4.6	わずかに上げ底。	ミガキ	マメツ	乳茶色 乳灰黄色	石・長(1~5) ◎		
560	甕	底径 6.4 残高 5.5	わずかに上げ底。	㊥ハケ(6‰)→ミガキ ㊦ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		

SD2　①層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
561	甕	底径 (6.4) 残高 4.2	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~6)多 ◎		
562	甕	底径 7.6 残高 4.2	平底。	(胴)一部ミガキ (底)ナデ	ナデ	乳茶色(一部灰色) 茶色	石・長(1~3) ◎		
563	甕	底径 (7.2) 残高 3.8	くびれの上げ底。弥生中期後半。	ナデ	マメツ	茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
564	甕	底径 (6.6) 残高 4.0	くびれの上げ底。弥生中期後半。	ナデ	マメツ	乳赤茶色 灰色	石・長(1~2) ◎		
565	壺	口径(15.2) 残高 4.4	内傾する頸部に短く外反する口縁部。無文。	(口)ヨコナデ(指頭痕) (頸)ナデ	(口)ヨコナデ (頸)マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○		
566	壺	口径(17.4) 残高 5.3	口縁端部は上下方に拡張し、口縁端面に凹線文４条。 弥生中期後半。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	長(1～2) ◎		
567	壺	残高 4.2	頸部に刻目凸帯文１条。	ミガキ (凸帯)ヨコナデ	マメツ	茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
568	壺	底径 (5.0) 残高 3.2	厚みのある上げ底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
569	壺	底径 (5.6) 残高 4.3	平底。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~2) ○		
570	壺	底径 (6.4) 残高 5.4	立ち上がりをもつ平底。	(胴)ハケ(5*/cm) (底)ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
571	壺	底径 7.2 残高 4.7	丸みのある平底。	マメツ	マメツ	黄白色(一部灰色) 黄白色	石・長(1~4) ◎		
572	壺	底径 (7.6) 残高 2.9	平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
573	壺	底径 (7.4) 残高 4.5	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
574	壺	底径 (6.8) 残高 4.4	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 灰色	石・長(1~2) ◎		
575	壺	底径 (6.6) 残高 5.3	やや丸みのある平底。	マメツ	マメツ	灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ◎		
576	壺	底径 (8.8) 残高 3.0	平底。器壁薄い。	マメツ	マメツ	灰色 灰桃色	石(1～4) ○		
577	壺	底径(10.4) 残高 4.9	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 黒灰色	石・長(1~5) ◎		
578	壺	底径(12.8) 残高 2.0	平底。	(胴)ハケ(6*/cm) (底)マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳赤茶色	石・長(1~5.5) ◎		
579	高坏	残高 2.5	脚端部は内方に拡張し、裾部に凹線文４条以上。 弥生中期後半。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 灰色	石・長(1~2) ◎		
580	壺	口径(10.8) 残高 6.2	須恵器。外傾する口頸部。口縁端面は凹む。ヘラ沈線文２条。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ→ナデ	灰色 灰色	長(1)密 ◎	須恵器	

表27　SD2　①層出土遺物観察表　石製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
581	扁平片刃石斧	3／4	結晶片岩	4.90	2.10	0.60	10.50		
582	砥　　石		不　明	8.90	7.10	1.20	65.35		

表28　SD2　①層出土遺物観察表　金属製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
583	鑣か剣先	ほぼ完形	鉄	4.10	2.40	1.10	8.69		

表29　SD2　①層出土遺物観察表　装身具

番号	器　種	残　存	材　質	色　調	法　量				備考	図版
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
584	管　　玉	ほぼ完形	碧　玉	濃緑色	1.70	0.55	0.10	7.20		

表30　SD2　②層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
				外面	内面				
585	甕	口径(22.0) 残高　8.2	貼付口縁。沈線文6条。	㊀マメツ ㊁ハケ(8~9*/cm)	ナデ	灰　茶　色 茶　　色	石・長(1~5) ○		
586	甕	残高　8.0	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 胴部は無文。	マメツ	マメツ	灰　黄　色 黄　白　色	石・長(1~4) ○		
587	甕	口径(33.0) 残高 12.2	折り曲げ口縁。口縁端面にヘラ沈線文1条＋刻目。沈線文6条(2条1組)＋山形文＋沈線文6条。外来糸。	マメツ	㊀ミガキ ㊁ナデ	黄　白　色 黄　白　色	石・長(1~4)多 ○		17
588	甕	残高　3.2	沈線文(2条1組)4条＋刺突文＋沈線文4条＋刺突文。	マメツ	マメツ	黒　　色 乳　茶　色	石・長(1~2) ◎		
589	甕	口径(13.8) 残高　6.5	直口口縁。口縁端面は「コ」字状。 口縁下に断面三角形状の凸帯文1条。	マメツ	マメツ	灰　茶　色 灰　　色	石・長(1~3) ○		
590	甕	底径 (4.4) 残高　3.6	丸みのある小さな平底。	マメツ	マメツ	乳　茶　色 乳　茶　色	石・長(1~4) ○		
591	甕	底径 (6.0) 残高　2.6	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳　茶　色 灰　　色	石・長(1~3) ◎		
592	甕	底径 (6.0) 残高　4.2	わずかに上げ底。	マメツ	ナデ	黄白色(一部橙色) 黒　灰　色	石・長(1~4) ◎		
593	甕	底径 (6.4) 残高　5.1	平底。	マメツ	マメツ	乳　茶　色 乳　茶　色	石・長(1~5) ○		
594	甕	底径　7.0 残高　5.1	平底。	一部ハケ(7~8*/cm)	マメツ	黄　茶　色 黄　茶　色	石・長(1~3) ○		
595	壺	口径(20.0) 残高　5.0	大きく外反する口縁部。無文。	㊀ヨコナデ→ミガキ ㊁ハケ(16~19*/cm)→ナデ ㊂ハケ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ	暗　茶　色 暗　茶　色	石・長(1~2)少 ◎		
596	壺	残高　6.5	筒状の口頸部。頸部に断面三角形状の凸帯文1条。	ハケ(8*/cm) ㊀ヨコナデ	マメツ	茶　　色 茶　　色	石・長(1~3) ◎		
597	壺	残高　3.7	ヘラ沈線文1条以上＋M字状凸帯文(押圧)1条＋凸帯文(押圧)1条＋沈線文3条以上。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ(6*/cm)	マメツ	灰　茶　色 乳　茶　色	石・長(1~3) ◎		
598	壺	底径 (8.0) 残高　3.1	わずかに上げ底。	一部ハケ(6*/cm)	マメツ	乳　橙　色 黄　白　色	石・長(1~3) ◎		

SD2　②層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
599	壺	底径 (8.2) 残高 2.6	平底。内面はハクリ。	ナデ	ハクリ	乳黄茶色 黄白色	石・長(1~3) ◎		
600	壺	底径 (9.8) 残高 6.4	厚みのある平底。	一部ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
601	蓋	つまみ径 5.6 残高 4.6	つまみ中央部が大きく凹む。	ナデ (指頭痕)	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~5)多 ○		
602	蓋	つまみ径 (5.8) 残高 3.8	つまみ中央部がやや凹む。	ナデ	ナデ	茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎		
603	壺	口径(18.0) 残高 3.5	須恵器。小さく外反する口縁部。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰白色 灰白色	長(1) ○	須恵器	

表31　SD2　②層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
604	石器素材	完形	結晶片岩	10.80	1.80	1.65	62.05		

表32　SD2　③層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
605	甕	口径(23.8) 残高 3.9	貼付口縁。沈線文6条以上。	マメツ	マメツ	乳桃色 乳桃色	石・長(1~4) ○		
606	甕	口径(20.2) 残高 3.4	貼付口縁。ヘラ沈線文5条以上。	ナデ	ミガキ	乳茶色 茶色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
607	甕	口径 23.0 残高 20.0	貼付口縁。口縁端面に連鎖状刻目文2列。胴部にヘラ沈線文7条。	マメツ	マメツ (口縁下に指頭痕)	暗茶色 暗茶色	石・長(1~6) ◎		17
608	甕	口径(27.6) 残高 16.8	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文5条。	㊐ナデ ㊐ミガキ	㊐ナデ ㊐ミガキ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
609	甕	口径(25.4) 残高 16.4	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。 ヘラ沈線文5条。	㊐ヨコナデ ㊐板ナデ	㊐ヨコナデ ㊐ミガキ	暗茶色 乳茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
610	甕	残高 1.8	折り曲げ口縁。小片。	ナデ	ナデ	茶色 茶色	長(1~2) ◎		
611	甕	残高 9.1	折り曲げ口縁。沈線文(2条1組)4条+刺突文+沈線文3条。	ミガキ	㊐ナデ ㊐ミガキ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
612	甕	残高 4.3	ヘラ沈線文5条以上。	ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
613	甕	口径(15.3) 残高 22.8	「く」字状口縁。口縁端面は面をもつ。 弥生中期後半。	ハクリ	ハクリ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~2) ◎		17
614	甕	底径 (7.0) 残高 4.4	わずかに上げ底。	㊐ハケ(6*/cm) ㊐ナデ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
615	甕	底径 (5.4) 残高 4.0	平底。	マメツ	マメツ	黒灰色 灰茶色	石・長(1~4) ○		
616	甕	底径 (8.0) 残高 2.3	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	赤茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
617	甕	底径 (6.9) 残高 2.4	わずかに上げ底。	ハケ(8*/cm)	ハクリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		

SD2　③層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
618	甕	底径 5.6 残高 5.3	平底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 灰茶色	石・長(1~4) ○		
619	甕	底径 5.4 残高 5.1	平底。	ミガキ	ミガキ？	灰白色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
620	壺	口径(15.8) 底径 (6.0) 残高 32.3	内傾する頸部に短く外反する口縁部。頸部にヘラ沈線文７条。肩部に弧文３条。	口ハケ(4~5*/cm)→ヨコナデ 頸ハケ 胴ミガキ	マメツ	黄茶色 灰色	石・長(1~5) ◎	黒斑	17
621	壺	口径(13.8) 残高 4.3	短く外反する口縁部。頸部にヘラ沈線文１条以上。	ヨコナデ (指頭痕)	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
622	壺	残高 6.8	ヘラ沈線文１条＋刻目凸帯文１条＋沈線文２条以上。	ミガキ	ミガキ	茶色 茶色	石・長(1~4) ◎		17
623	壺	残高 6.9	外面に凸帯文３条。内面に注口状の凸帯文１条。	マメツ	マメツ	黄白色 黄白色	石・長(1~4) ○		
624	壺	底径 9.0 残高 5.8	わずかに上げ底。	胴ハケ(5*/cm)→ミガキ 底ナデ	板ナデ→ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
625	壺	底径 (8.2) 残高 5.4	立ち上がりをもつ平底。	ミガキ	ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
626	壺	底径 7.9 残高 3.0	平底。	胴ミガキ 底ナデ	ハクリ	灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ○	黒斑	
627	壺	底径 8.4 残高 11.2	平底。	マメツ	一部ミガキ	灰桃色 乳茶色	石・長(1~4) ○		
628	壺	底径 9.5 残高 9.3	平底。	マメツ	ナデ	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~5) ◎		
629	壺	底径 9.7 残高 6.3	平底。	胴ハケ(6*/cm)→ナデ 底ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
630	鉢	残高 3.7	貼付口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ナデ	板ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2.5) ◎		

表33　SD2　③層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
631	スクレイパー	完形	サヌカイト	7.60	3.00	0.80	16.86		18

表34　SD2　④層出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
632	甕	残高 1.4	折り曲げ口縁。無文。	ナデ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~6) ◎		
633	甕	底径 (5.6) 残高 5.4	平底。	胴ハケ(7*/cm) 底ナデ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~5) ○		
634	甕	底径 6.0 残高 3.7	平底。	マメツ	マメツ	灰白色 黄白色	石・長(1) ○		
635	壺	口径(15.2) 残高 4.4	外反する口縁部。ヘラ沈線文１条以上。	ナデ	口頸ヨコナデ 口ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
636	壺	口径(19.0) 残高 3.6	外反する口縁部。無文。	口頸ヨコナデ 口ミガキ	ナデ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~2) ○		

SD2　④層出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
637	壺	残高 3.7	内面に凸帯文１条。	マメツ	ヨコナデ	乳灰黄色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
638	壺	残高 3.1	ヘラ沈線文１条＋凸帯文２条以上。	マメツ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~5) ○		
639	壺	残高 6.0	ヘラ沈線文５条＋凸帯文１条以上。	マメツ	マメツ	灰黄白色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
640	壺	底径 (6.4) 残高 4.1	平底。	胴ハケ(7*/₀₀) 底マメツ	マメツ	灰茶色 茶色	石・長(1~3) ○		
641	壺	底径 (7.8) 残高 4.9	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ上げ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
642	壺	底径 (8.0) 残高 3.1	わずかに上げ底。	胴ミガキ (工具痕) 底ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		

表35　SD2　④層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
643	石器素材	ほぼ完形	結晶片岩	11.60	3.20	1.30	84.41		

表36　SD2　⑤層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
644	壺	口径(15.2) 残高 5.3	直立する頸部に短く外反する口縁部。ヘラ沈線文５条以上。	ハケ(4*/₀₀)→ヨコナデ	マメツ	暗茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) 砂 ◎		
645	壺	口径(17.3) 残高 5.2	外反する口縁部。頸部に凸帯文(連鎖状刻目文２列)１条。内面に凸帯文１条。	ミガキ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎		
646	壺	残高 19.3	球形の胴部。	ナデ→ミガキ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
647	壺	残高 7.1	格子目文。	ナデ	ナデ	暗茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
648	壺	底径(11.4) 残高 5.3	わずかに上げ底。	ナデ	マメツ	灰色 乳灰茶色	石・長(1~3) ○		
649	壺	底径 (9.6) 残高 3.2	わずかに上げ底。	マメツ	ナデ	乳黄茶色 茶色	石・長(1~3) ○		
650	壺	底径 (7.4) 残高 2.9	平底。	ナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
651	鉢	残高 9.2	貼付口縁。無文。	口ヨコナデ 胴ナデ	口ヨコナデ 胴ミガキ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	

表37　SD2　⑤層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
652	柱状片刃石斧	刃部欠損	不明	7.40	3.30	1.40	55.18		

表38　SD2　地点不明出土遺物観察表　石製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
653	石　庖　丁	ほぼ完形	結晶片岩	13.10	6.10	0.50	93.54	未製品	

表39　SK2　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調　整		色調 (外面) (内面)	胎　土 焼　成	備考	図版
				外面	内面				
654	壺	残高　4.5	ヘラ沈線文４条以上。	ヨコナデ	ハケ(13~14‰)→ヨコナデ	乳　茶　色 乳　茶　色	石・長(1~3) ◎		

表40　SK1　出土遺物観察表　石製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
655	スクレイパー	完　形	不　明	4.30	7.00	0.90	24.80	片刃	

表41　SK13　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調　整		色調 (外面) (内面)	胎　土 焼　成	備考	図版
				外面	内面				
656	甕	残高　7.0	折り曲げ口縁。無文。	マメツ	マツメ	乳　茶　色 乳　茶　色	石・長(1) ◎		
657	甕	底径　5.9 残高　3.1	丸みのある平底。器壁薄い。	マメツ	マツメ	乳灰茶色 乳灰黄色	石・長(1~2) ◎		

表42　SK13　出土遺物観察表　石製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
658	砥　石	ほぼ完形	不　明	11.20	8.70	4.30	680.00		

表43　SK5　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調　整		色調 (外面) (内面)	胎　土 焼　成	備考	図版
				外面	内面				
659	甕	口径(21.6) 残高 14.4	折り曲げ口縁。口縁端部は下方に肥厚。無文。	㊐ヨコナデ ㊒ヘラミガキ	㊐ヨコナデ ㊒ナデ→ミガキ	暗　茶　色 暗　茶　色	石・長(1~3) ◎		
660	甕	残高　4.2	折り曲げ口縁。沈線文(２条１組)８条以上。弥生前期末～中期初頭。	ハケ(9*/cm)	マメツ	乳　茶　色 乳　茶　色	石・長(1~2) ◎		
661	甕	底径　4.2 残高 10.8	底部外面はハクリ。	ハクリ	ナデ	灰赤茶色 灰赤茶色	石・長(1~2) ◎		
662	甕	底径 (7.9) 残高 12.2	くびれの上げ底。	㊒板ナデ ㊓ナデ	㊒板ナデ ㊓ナデ	暗　茶　色 黒　灰　色	石・長(1~3) ◎		
663	壺	口径(16.0) 残高　4.0	短く外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文１条＋刻目。内面に注口状の凸帯文。	マメツ	ナデ	黄　白　色 黄　白　色	石・長(1~2) ◎		

表44　SK5　出土遺物観察表　石製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
664	台　石	完　形	不　明	24.80	22.40	8.30	6,950.00		

表45　柱穴　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
665	甕	残高 1.5	折り曲げ口縁。口縁端面に刻目。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎	SP83	
666	甕	残高 4.7	「く」字状口縁。口縁端部は面をもつ。	ミガキ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎	SP29	
667	甕	残高 3.6	ヘラ沈線文２条以上＋刺突文。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳茶色	石・長(1~5) ◎	SP3	
668	甕	底径 6.0 残高 13.7	くびれの上げ底。 弥生後期末。	胴タタキ→ミガキ 底ナデ	胴板ナデ 底ナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎	SP53 黒斑	
669	甕	底径 (8.5) 残高 4.1	脚台風の底部。台付鉢の可能性あり。	ナデ	ナデ	乳赤茶色 黒色	石・長(1~4) ◎	SP53	
670	甕	底径 6.6 残高 5.7	くびれの上げ底。 弥生中期後半。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 灰黄色	石・長(1~2) ◎	SP92	
671	甕	底径 6.6 残高 3.1	厚みのある平底。	ミガキ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~5) ◎	SP38	
672	甕	底径 (8.2) 残高 2.5	平底。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰茶色	石・長(1~5) ◎	SP82	
673	壺	底径 (9.2) 残高 3.4	平底。	ミガキ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎	SP24	
674	高坏	残高 3.7	「ハ」の字状に開く脚部。	ヨコナデ	マメツ	乳茶色 乳灰黄色	石・長(1~2) ◎	SP56	
675	高坏	底径(10.0) 残高 3.6	脚部は外反し、裾部外面に凹線文３条。 弥生中期後半。	マメツ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎	SP56	

表46　柱穴　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
676	柱状片刃石斧	刃部一部欠損	不明	15.90	3.20	3.20	350.00	SP90	

表47　第Ⅳ層　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
677	甕	口径(28.0) 残高 4.2	逆「L」字状口縁。口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。	口ヨコナデ 胴マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
678	甕	口径(24.0) 残高 4.4	「く」字状口縁。口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。頸部に刻目凸帯文１条。	口ヨコナデ 胴マメツ	口マメツ 胴ミガキ	乳茶色 乳茶色	石(1~3) ◎		
679	甕	口径(24.8) 残高 6.6	「く」字状口縁。口縁端部は丸みのある面をもつ。	口ヨコナデ 胴ミガキ	口ヨコナデ 胴ミガキ	暗茶色 暗茶色	石・長(1) ◎		
680	甕	口径(16.4) 残高 7.5	「く」字状口縁。口縁端部は「コ」字状。	口ヨコナデ 胴マメツ	口マメツ 胴ケズリ→ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
681	甕	底径 (5.4) 残高 2.7	平底。	胴ミガキ 底ナデ	マメツ	乳茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
682	甕	底径 (5.9) 残高 2.5	わずかに上げ底。弱いくびれをもつ。	ナデ	マメツ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
683	甕	底径 (6.4) 残高 2.5	くびれの上げ底。	マメツ	マメツ	暗赤茶色 乳茶色	石・長(1~7) ◎		

第Ⅳ層　出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土焼成	備考	図版
684	甕	底径 (7.3) 残高 5.3	わずかに上げ底。	ナデ	ナデ	灰茶色 茶色	石・長(1~5) ◎		
685	甕	底径 (8.2) 残高 5.5	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		
686	甕	底径 (7.0) 残高 5.8	平底。	マメツ	マメツ	灰色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
687	甕	底径 (7.1) 残高 8.0	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
688	壺	口径 14.5 残高 11.3	内傾する頸部に短く外反する口縁部。無文。	㊀ナデ ㊁ハケ(5本/cm) ㊂ハケ→ミガキ	ナデ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~5) ◎		
689	壺	残高 5.5	ヘラ沈線文4条＋凸帯文(連鎖状刻目文1列)。頸部上位に穿孔2個。内面に凸帯文1条。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) ◎		18
690	壺	底径 (7.0) 残高 2.8	平底。	マメツ	ナデ	灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~5) ◎		
691	壺	底径 (7.8) 残高 3.9	平底。	マメツ	マメツ	乳橙色 灰黄白色	石・長(1~4) ◎		
692	壺	底径(10.4) 残高 3.8	平底。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		
693	壺	底径(10.0) 残高 4.8	平底。	板ナデ	ナデ→ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(2~5) 金 ◎		
694	壺	底径(10.6) 残高 4.6	平底。	マメツ	マメツ	乳橙色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
695	壺	底径 10.2 残高 5.7	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	乳赤茶色 乳灰黄色	石・長(1~4) ◎		
696	壺	底径 (8.2) 残高 6.7	平底。	ミガキ	マメツ	黒色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
697	壺	底径 8.5 残高 6.4	厚みのある平底。	ミガキ	ナデ	茶色 茶色	石・長(1~5) ◎	黒斑	
698	壺	底径 9.4 残高 6.7	平底。	ミガキ	ナデ	乳黄茶色 灰茶色	石・長(1~5) ◎	黒斑	
699	壺	底径(11.0) 残高 6.8	平底。	マメツ	マメツ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
700	壺	底径 9.5 残高 6.8	平底。	㊂ミガキ ㊃ナデ	マメツ	黒灰色 茶色	石・長(2~5) ◎		
701	鉢	口径 14.0 残高 7.3	口縁下に断面三角形の鍔状の凸帯が巡る。	㊀ヨコナデ ㊂ハケ(6本/cm)	㊀ハケ(6本/cm)→ヨコナデ ㊂ケズリ	暗茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ◎		
702	高坏	残高 5.4	ヘラ沈線文6条。貫通しない矢羽根状透かし4箇所。	マメツ	シボリ痕	灰黄白色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
703	高坏	底径 (9.0) 残高 1.6	ヘラ沈線文2条以上＋山形文(2条1組)。	マメツ	マメツ	灰黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎		18
704	紡錘車	径 4.3 厚さ 0.6	土器胴部片の再利用品のため湾曲が見られる。中央部に両面から径0.3cm大の孔を穿つ。	ミガキ	ナデ	灰黄灰色 黄灰色	石・長(1~2) ◎		18

表48　SX1　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
705	甕	残高 2.8	折り曲げ口縁。無文。	ヨコナデ	ミガキ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~6) ◎	黒斑	
706	壺	口径(15.0) 残高 4.2	短く外反する口縁部。	マメツ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~5) ◎		
707	壺	口径(20.0) 残高 4.7	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は先細り。口縁中位に不明瞭な稜をもつ。	ヨコナデ	㊐ヨコナデ ㊝ハケ(7*/cm)	暗茶色 暗茶色	石・長(1~5) ◎		
708	壺	口径(39.6) 残高 7.2	大きく外反する口縁部。口縁端面にヘラ沈線文2条＋刻目。	ハケ(4*/cm)	ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~5) ◎		
709	壺	底径(16.0) 残高 3.2	平底。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~7) ◎		
710	高坏	残高 6.7	筒状の柱部。	マメツ	ケズリ	茶色 茶色	石・長(1~4) ◎		
711	甕	口径(16.8) 残高 3.7	内湾する口縁部。口縁端部は内傾する。	マメツ	マメツ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
712	高坏	残高 11.0	中実で長い脚柱部。裾部は外反する。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		18
713	高坏	残高 12.3	中実で長い脚柱部。裾部は外反する。外面にヘラケズリあり。	ヘラケズリ	ケズリ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~4) ◎		18
714	坏蓋	口径(12.2) 残高 4.0	丸みのある天井部。口縁部は垂下し、口縁端部は丸い。	㊤回転ヘラケズリ1/2 ㊐回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
715	坏身	たちあがり径(13.6) 残高 2.9	たちあがりは短く内傾した後、直立し端部は尖る。受部は水平にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
716	甕	口径(16.6) 残高 4.6	口縁部は外反し、口縁端部は玉縁状に仕上げる。	㊐タタキ→回転ナデ ㊥タタキ→カキメ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		18

表49　第Ⅲ層　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
717	甕	口径(14.0) 残高 3.8	内湾する口縁部。口縁端部は内傾する。	マメツ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
718	甕	口径(15.0) 残高 4.0	内湾する口縁部。中位でやや肥厚する。口縁端部は「コ」字状。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~5) ◎		
719	甕	口径(15.6) 残高 3.5	わずかに内湾する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		
720	甕	口径(17.8) 残高 4.0	内湾する口縁部。口縁端部は先細りする。	マメツ	マメツ	暗灰黄色 暗灰黄色	石・長(1~4) ◎		
721	甕	口径(21.0) 残高 3.5	内湾する口縁部。口縁端部は内傾し、内面に不明瞭な稜をもつ。	マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~4) ◎		
722	甕	口径(18.3) 残高 4.1	内湾する口縁部。口縁端部は内傾し、内面に不明瞭な稜をもつ。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		
723	甕	口径(19.6) 残高 5.2	外傾する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(8*/cm)	ハケ(8*/cm)→ナデ	茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		
724	甕	口径(18.4) 残高 5.2	内湾する口縁部。口縁端部は「コ」字状。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		18

第Ⅲ層　出土遺物観察表　土製品　（2）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
725	甑	残高 7.5	把手部。舌状に下方に湾曲する。	ハケ(7*‰)→ナデ		茶 色 茶 色	石・長(1~3) ◎		18
726	高坏	残高 7.7	中実の細長い脚柱部。	マメツ	マメツ	赤茶色 赤茶色	石・長(1~4) ◎		
727	坏蓋	口径(14.2) 残高 3.1	天井部と口縁部の境界に不明瞭な稜をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 灰 色	長(1) ◎		
728	坏身	たちあがり部径(13.8) 残高 2.4	たちあがりは低く内傾し、端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1) ◎		
729	坏身	たちあがり部径(12.4) 残高 2.0	たちあがりは低く内傾した後、直立する。端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰 色 灰 色	石・長(1~3) ◎		
730	坏身	残高 2.0	たちあがりは欠損。受部は水平にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1~3) ◎		
731	高坏	底径(12.4) 残高 4.0	大きく外反する脚部。脚端部はわずかにはね上がる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~3) ◎		
732	壺	口径 (6.6) 残高 10.8	長頸壺。頸部に竹管文あり。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		18
733	壺	残高 6.3	扁球形の胴部。沈線文1条あり。	胴回転ナデ 底回転ヘラナズリ1/3	回転ナデ	灰茶色 灰 色	石・長(1~5) ◎		
734	壺	口径(13.2) 残高 5.7	頸部は外傾し口縁部は外反する。口縁端部は玉縁状。	口回転ナデ 頸カキメ 胴回転ナデ	回転ナデ	灰 色 灰 色	石・長(1~5) ◎		
735	甕	残高 10.8	張りの強い胴部から、外傾ぎみに立ち上がる頸部。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
736	甕	残高 7.0	大きく外反する口頸部。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	石・長(1) ◎		

表50　第Ⅲ層　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
737	剥片		サヌカイト	8.80	3.70	0.80	29.30		18
738	スクレイパー	完形	サヌカイト	5.80	7.40	0.70	32.34		18
739	スクレイパー	完形	サヌカイト	6.40	4.40	0.90	36.90		18

写　真　図　版

写真図版例言

1．遺構は、主な検出状況、遺物出土状況、完掘状況については、４×５判や６×７判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35㎜判で補足している。撮影には高所作業車や脚立を使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45Ａ	レンズ	スーパーアンギョロン90㎜他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67　55㎜他
	ニコンニューＦＭ２		ズームニッコール28～85㎜他
フィルム	白黒　プラスＸパン・ネオパンＳＳ		
	カラー　エクタクロームＥＰＰ		

2．白黒写真は、等倍で印刷原稿に使用できるように焼き付けている。

使用機材：

引伸器	ラッキー450ＭＤ・90ＭＳ
レンズ	エル・ニッコール135㎜Ｆ5.6Ａ・50㎜Ｆ2.8Ｎ
印画紙	インフォードマルチグレードⅣＲＣ

【参考】　『埋文写真研究』　VO1．１～12

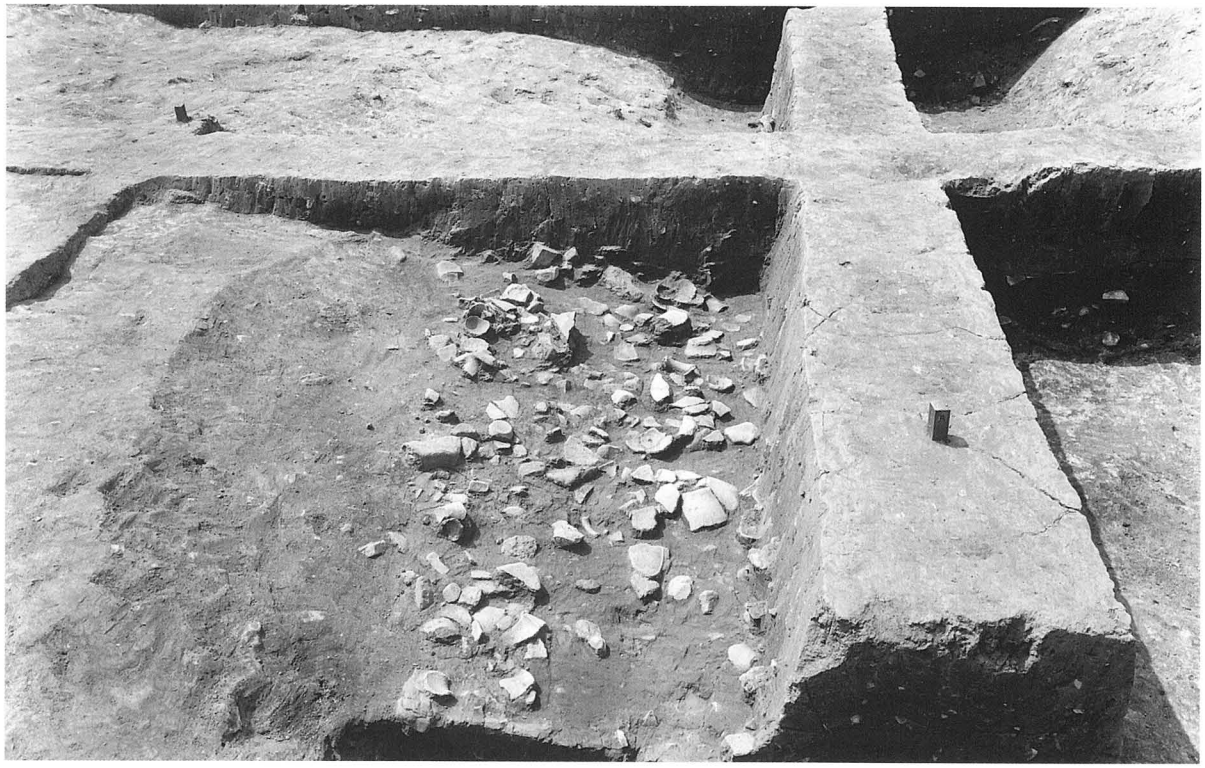
〔大西朋子〕

1．遺構検出状況（東より）

1．SD1検出状況（東より）

2．SD1遺物出土状況（1）（南東より）

1．SD1遺物出土状況（２）（北より）



2．SD1遺物出土状況（３）（北より）

1．SD1ベルト土層（1）（北西より）

2．SD1ベルト土層（2）（北より）

1．SD1ベルト土層（3）（北東より）

2．SD1完掘状況（北より）

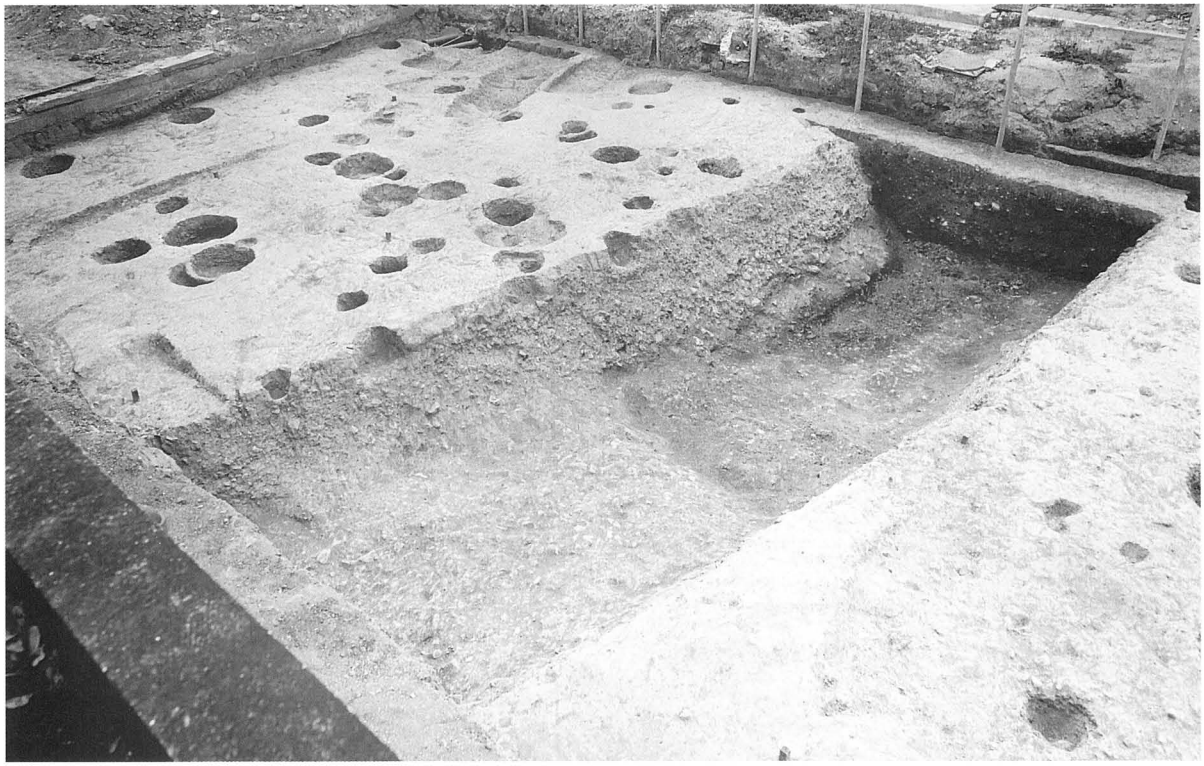
1．SD2検出状況（東より）

2．SD2遺物出土状況（西より）

1．SD2ベルト土層（1）（南西より）

2．SD2ベルト土層（2）（南東より）

1．SD2ベルト土層（3）（北より）

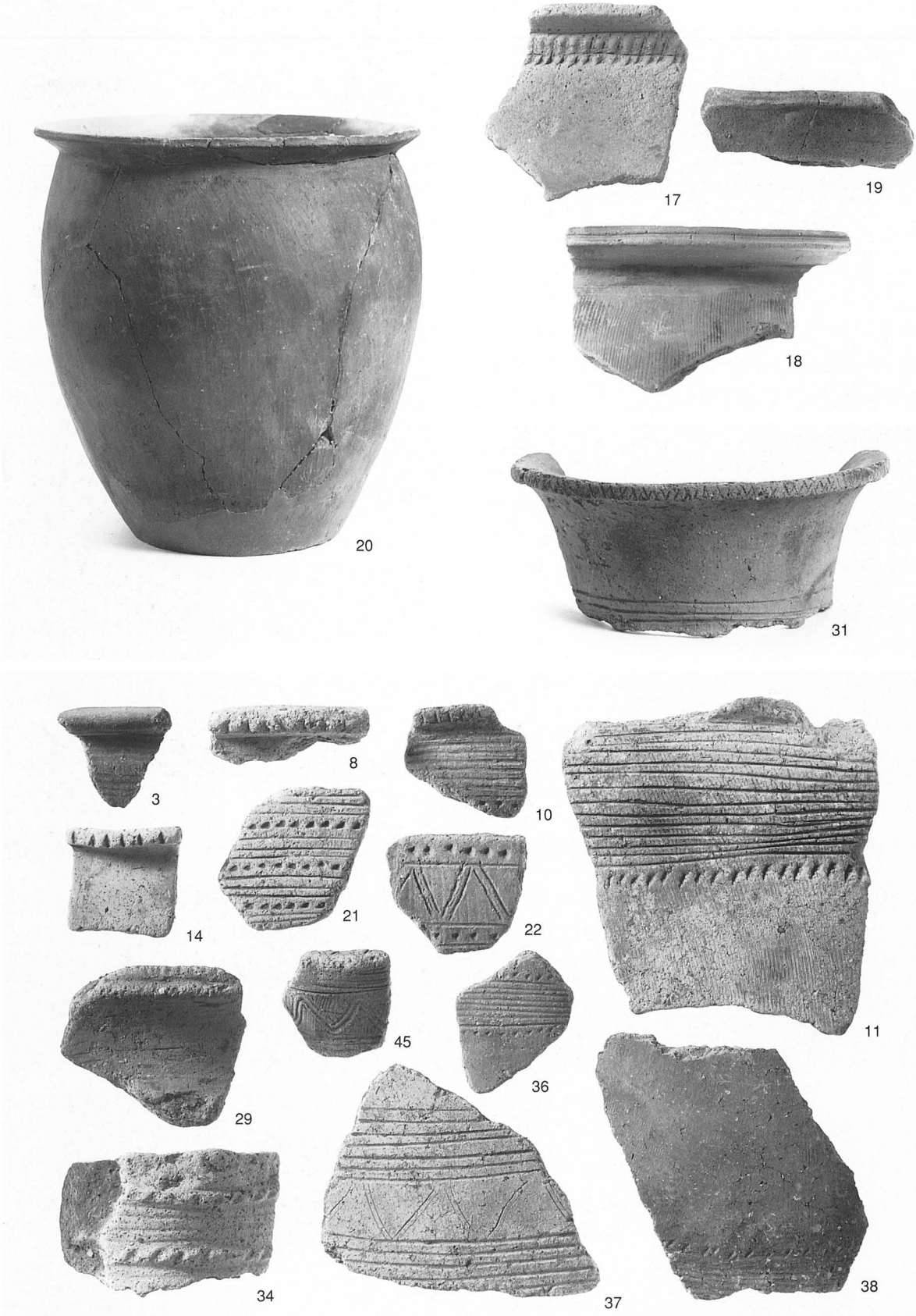


2．SD2完掘状況（北西より）

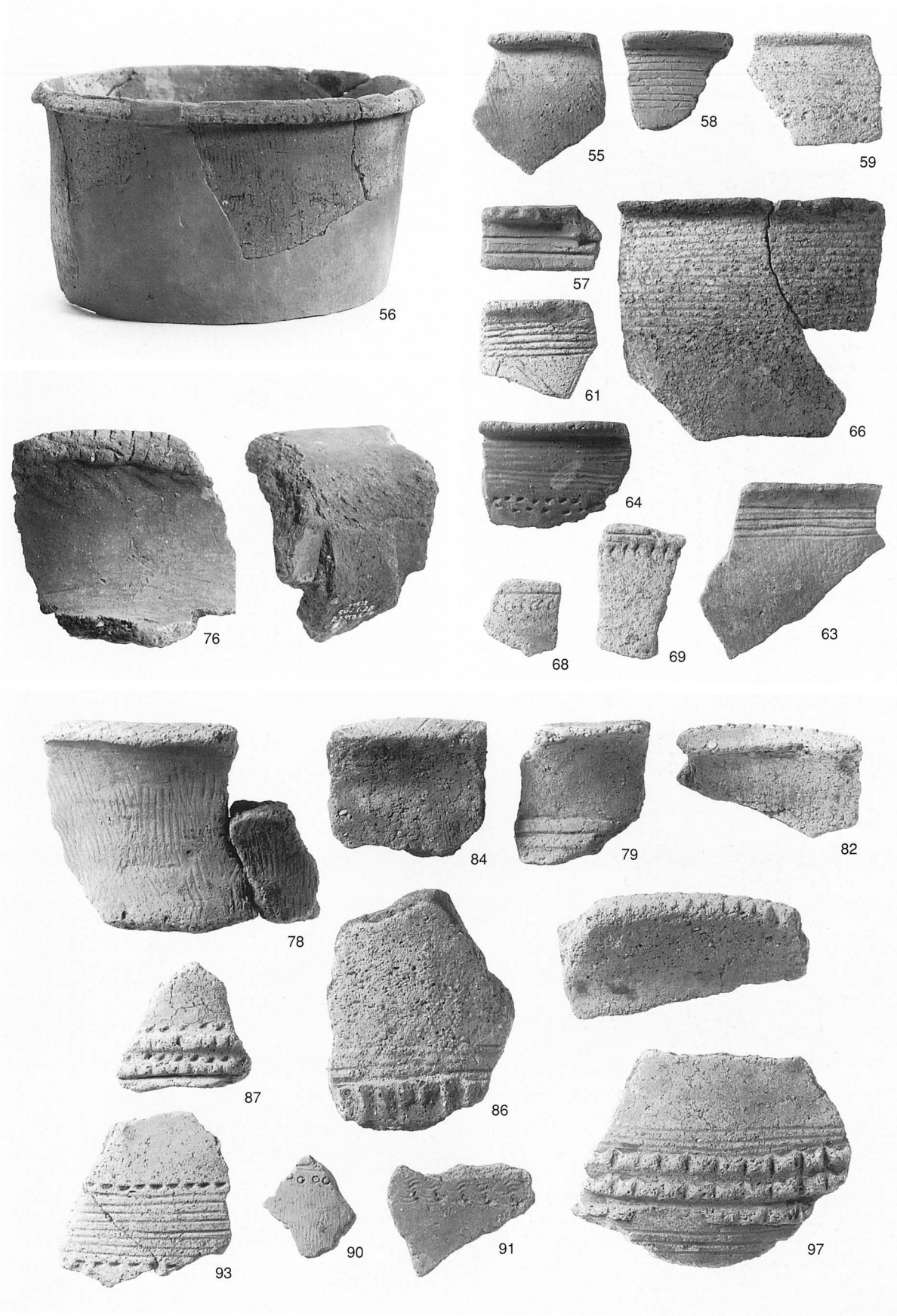
1．SK完掘状況（３）（北より）

2．掘立２完掘状況（西より）

1．遺構完掘状況（東より）

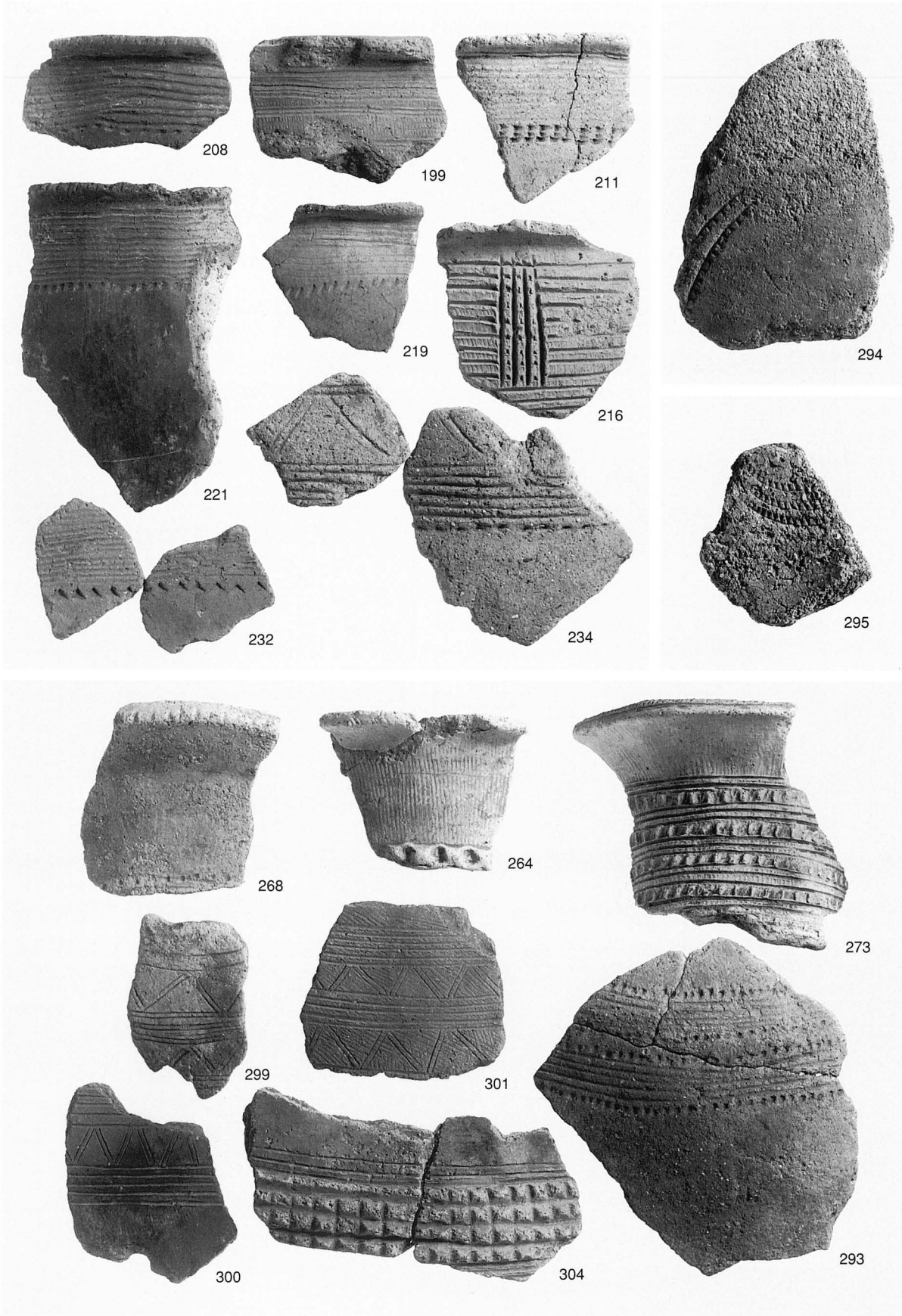


1．SD1①層出土遺物

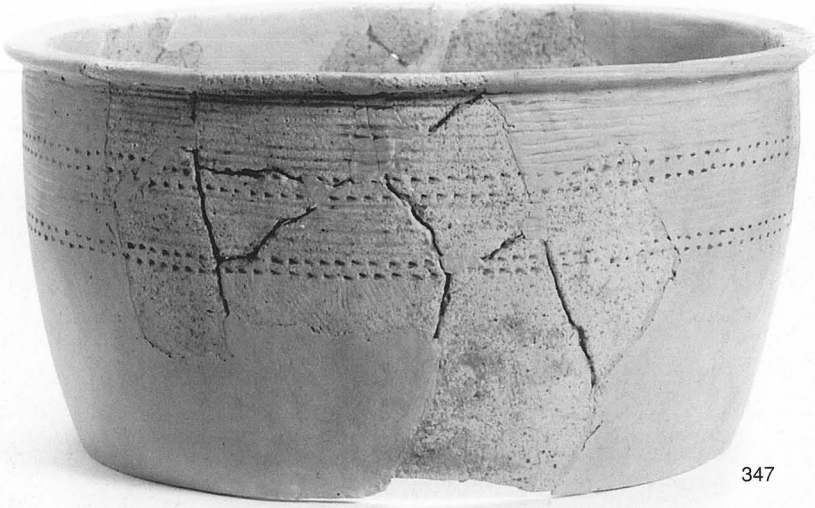


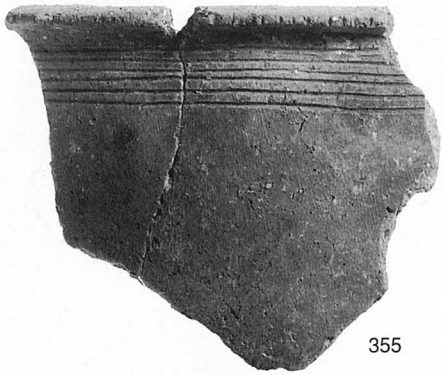
1．SD1②層出土遺物

1．SD1③層出土遺物


208
199
211
294
219
216
221
295
232
234
268
264
273
299
301
293
300
304

1．SD1④層出土遺物


347

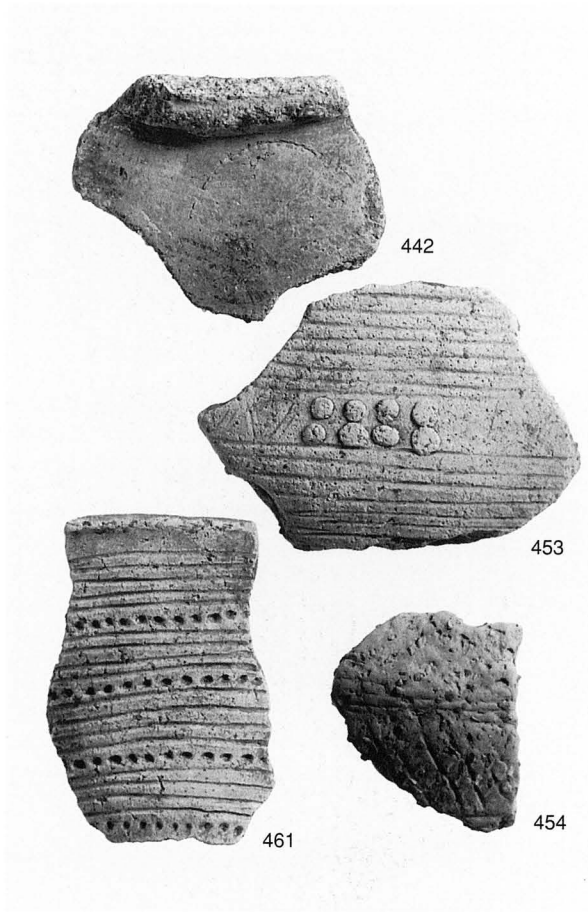

355

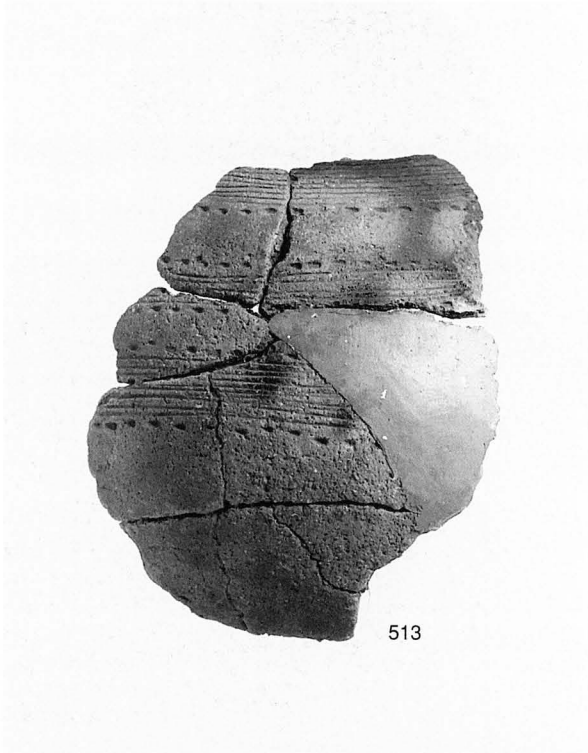
360

377

401

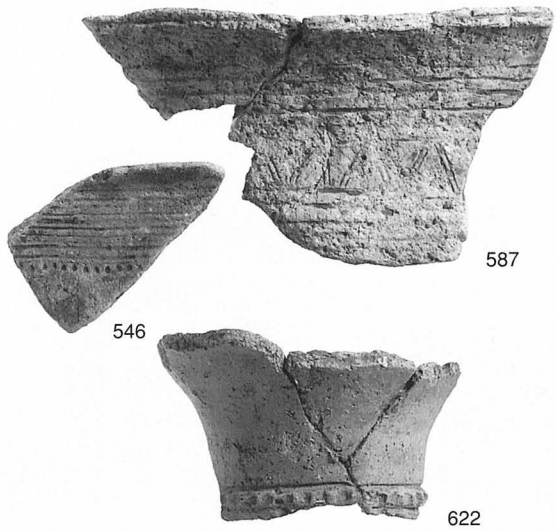
1．SD1⑤層出土遺物

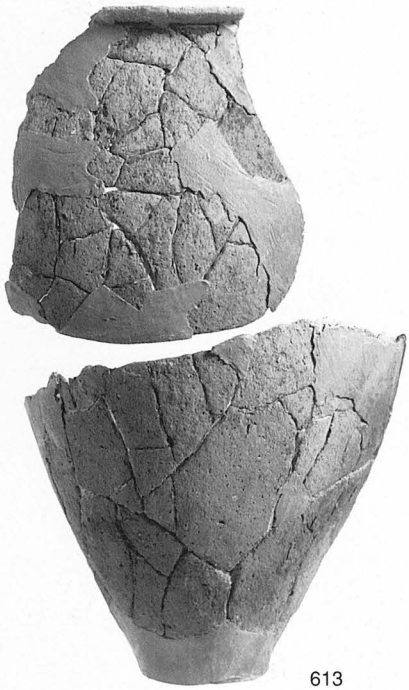




1．SD1⑤・⑦層出土遺物

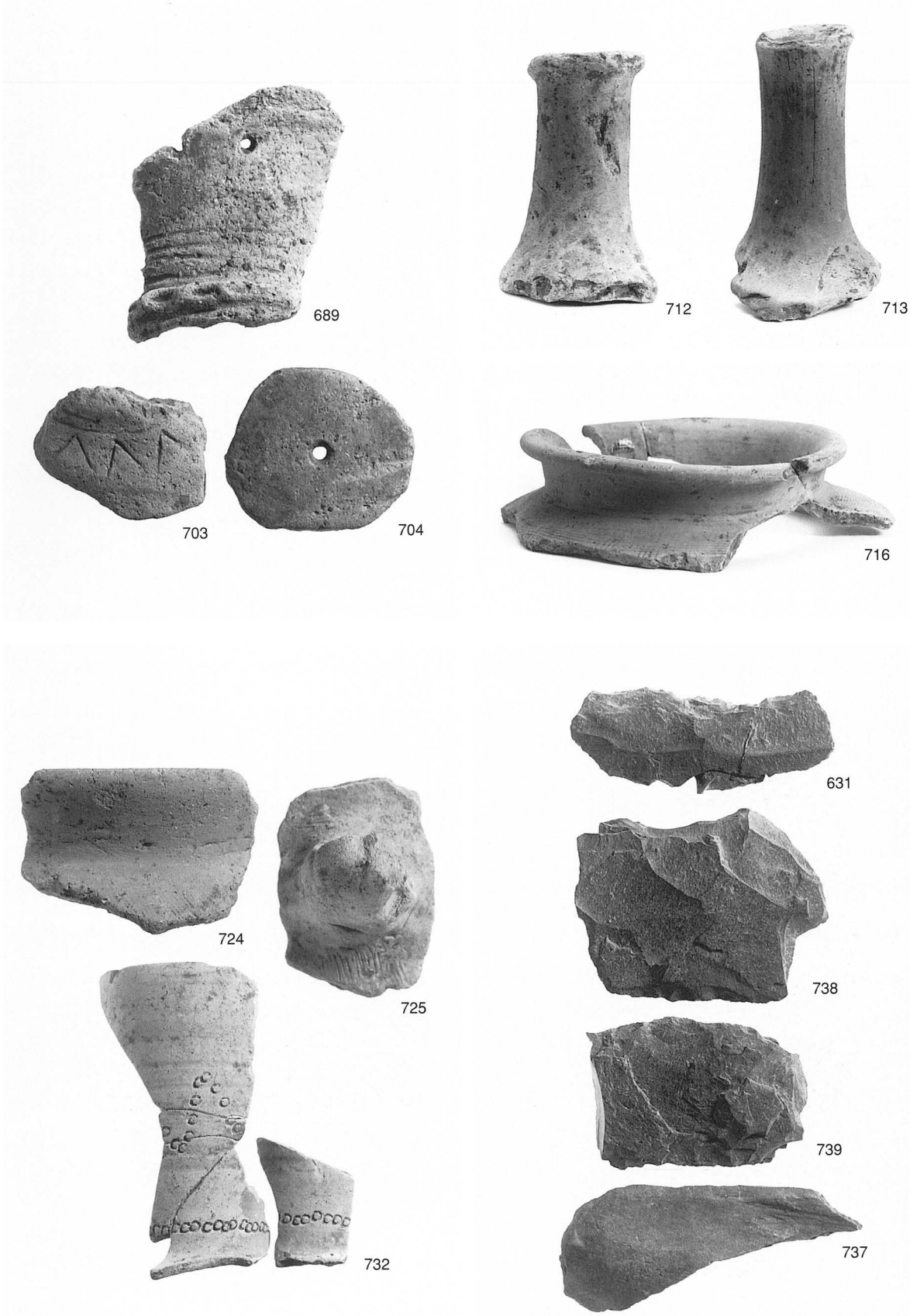
607


587
546
622


613

620

1．SD2①・②・④層出土遺物（①層：546、②層：587、607、613、④層：620）



1．第Ⅳ層（689、703、704）SX1（712、713、716）第Ⅲ層（724、725、732、737、738、739）SD2（631）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	くめ たかばたけ いせき
書名	久米 高畑 遺跡
副書名	25次調査
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第93集
編著者名	髙尾和長・宮内慎一・大西朋子
編集機関	松山市教育委員会・財団法人 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委：〒790-0003 松山市三番町6丁目6－1 TEL（089）948-6605 埋 文：〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6 TEL（089）923-6363
発行年月日	西暦2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
くめたかばたけ 久米高畑	まつやましみなみくめまち 松山市南久米町	38201		33° 48′ 30″	132° 48′ 15″	19950717 ～ 19950831	843.28	官衙関連 遺構確認 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久米高畑 25次	集落	弥生	溝・土杭	弥生土器・石器	弥生時代前期末から中期初頭の環壕2本。壺に貝殻による弧文。
		古墳 ～ 古代	性格不明遺構	土師器・須恵器・ 管玉・鉄器	

松山市文化財調査報告書　　第93集

久米高畑遺跡 －25次調査－

平成15年３月31日　　発行

編・集　松山市教育委員会
発　行　〒790-0003　松山市三番町６丁目６－１
TEL（089）948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　松山市南斎院町乙６７番地６
TEL（089）923-6363

印　刷　不二印刷株式会社
〒790-0054　松山市空港通２丁目１３番３号
TEL（089）973-1266